悉く平癒し災厄消除がこの本尊の誓願にてまた庶人の祈願に應じ開運利生の故を以て深き信仰を集めてゐる。なほ本坊には災厄降伏の不動尊があり、又山内安置の軍善坊大權現は戰勝彈丸除の靈驗あらたかにして、其他厄除觀世音、弘法大師等が廣く東西信仰の的となつてゐる。本堂及び三重塔は約八百年前、建久年間源頼朝公の發願建立されたるもの、また山内は掛川城大手門を當山に移したもので、共に古代の俤を今に傳へてゐる。

上淺羽村諸井

豫備歩兵少尉、正八位

荒井孝

新進氣鋭、中堅に伍して一歩も遲れを取らざるは、わが荒井孝氏である。嚴父嘉榮氏は農業に從事しつゝ、村會議員その他の公名譽職に推されて村政に貢献せる聲望家で、氏はその長男、明治三十九年九月九日を以て呱々の聲をあげ、鄕黨を出て中央大學法科に學び、卒業後志願兵として豊橋第十八聯隊に入營、曩任して歩兵少尉となり正八位に叙された。現時農林省米穀局經理部に勤務し、新鋭官吏としてその將來を囑望されてゐる。因に登美子令夫人は高崎市の出身、内助の譽れ高く近代的良妻タイプの人である。

袋井町

袋井報德

信用販賣購買利用 組合

電話袋井二二〇番

當組合は大正十五年有限責任笠西報德信販購組合として創立、昭和三年袋井町と合併により笠西を袋井と改め、同八年保證責任に變更、現時四種事業を經營する。區域は袋井町一圓、組合員六百五十餘名を算し、近來組合員一般の自覺的更生策により各種事業とも頗る成績よく、信用部に於ては資金の運用と内容の整備充實を圖り、其礎の堅實と業績の向上に意々注ぎ、預ケ金十萬圓餘、貸付金九萬八千圓、貯金十九萬六千圓を算し、販賣は製茶の六萬三千餘圓、玄米の四萬圓を主に麥、菜種、木炭を取扱ひ、購買品の賣却高は六萬餘圓をかぞへる。作業所一棟を有し、精米、精麥、製粉、その他の機械を設備する。初代組合長戸倉實太郎氏は主唱發起人にて組合第一の功勞者、現組合長德村喜作氏は二代目にして組合員の信任絶大なるものがある。

久努村國本

久努村信用

販賣購買利用 組合

當組合は大正十年有限責任久努村信用組合として創立され、事務所は久努村村

松に置いた。當時組合員僅かに十名であつた。大正十五年事務所を現在地に移し昭和八年保證責任に變更すると共に四種事業を經營することになつた。區域は久努村一圓、組合員三百五十名にて、預ケ金二萬二千圓、貸付金四萬七千五百圓、貯金六万六千八百圓を算し、販賣は米と菜種を主に二萬六千餘圓、購買は肥料が大部分を占めて一萬五千圓に上る。大正九年には作業所一棟を建設、精米、精麥製粉の機械を設備する。歴代組合長は象子藤平氏、足立隆氏、石川庄治郎(現任)にて、現專務理事高橋一郎氏は明治二十年一月十日高橋庄作氏の長男に生れ、掛川中學校出身の英才、村會議員に當選村政にも効績顯著である。よし子夫人との間には二男三女あり、長男庄一郎氏は中泉農學校卒業の新鋭である。

岩田村

岩田信用

販賣購買利用 組合

當組合は保證責任組織にて信販購利の四種事業を營み、組合員三百二十名、出資千九十餘口(一口十圓)にして、準備積立金二萬五千七百餘圓、餘裕金八萬二千五百圓である。貸付金七萬六千餘圓、貯金十七萬六千餘圓を算し、組合員貯蓄心の向上は近來大い見るべきものあり、昭和十年九月に開始せる勤儉貯金の如き翌十一年末には一萬六百七十圓餘を現出せる狀態にあり、販賣に於ては小麥が異彩を放つてをり、また籾摺機、脱穀機の利用數量年五千九百俵に達してゐる。最近共同作業場を建設され、組合の基礎愈々固きを加へると共に事業量の増大を示してゐる。現組合長は力量ある匂坂磯太郎氏、專務理事は堀内市太郎氏にして、その他理事五名、監事三名あり、共に協力組合の發展に竭すところが多い。

浦川町浦川

神道修成派

靜岡第四教務分局

當教會は浦川驛より徒歩二十二町の地にあり、本派主祭神のほかに彦火々出見命及び大日不動尊を移祭し、陰暦正月十五日、陽暦九月二十八日を祭典日とする大正四年二月の設立許可に係り、當時靜岡教務第十支局たりしも、昭和十二年四月第四教務分局となつた。教會長片木金治郎氏は本派の最長老の一人で、本派に於ても監察、大教正、教師檢定副長等最高要職にあり、當教會設立の功勞者である。その圓滿なる人格と信望とから信徒の増加も非常なるもので、當縣下に於ても教職會々長として數百の教師世話掛に任じて衆望をあつめてをり、神道修成派に於ける文字通りの至寶である。

悉く平癒し災厄消除がこの本尊の誓願にてまた庶人の祈願に應じ開運利生の故を以て深き信仰を集めてゐる。なほ本坊には災厄降伏の不動尊があり、又山内安置の軍善坊大權現は戰勝彈丸除の靈驗あらたかにして、其他厄除觀世音、弘法大師等が廣く東西信仰の的となつてゐる。本堂及び三重塔は約八百年前、建久年間源頼朝公の發願建立されたるもの、また山内は掛川城大手門を當山に移したもので、共に古代の佛を今に傳へてゐる。

上淺羽村 諸井

豫備歩兵少尉、正八位 **荒井孝**

新進氣鋭、中堅に伍して一歩も遲れを取らざるは、わが荒井孝氏である。嚴父嘉榮氏は農業に從事しつゝ、村會議員その他の公名譽職に推されて村政に貢献せる聲望家で、氏はその長男、明治三十九年九月九日を以て呱々の聲をあげ、鄉黨を用て中央大學法科に學び、卒業後志願兵として豊橋第十八聯隊に入營、曹任して歩兵少尉となり正八位に叙された。現時農林省米穀局經理部に勤務し、新鋭官吏としてその將來を囑望されてゐる。因に登美子令夫人は高崎市の出身、内助の譽れ高く近代的良妻タイプの人である。

袋井町

袋井報德 信用販賣購買利用 **組合** 電話袋井二二〇番

當組合は大正十五年有限責任笠西報德信販購組合として創立、昭和三年袋井町と合併により笠西を袋井と改め、同八年保證責任に變更、現時四種事業を經營する。區域は袋井町一圓、組合員六百五十餘名を算し、近來組合員一般の自覺的更生策により各種事業とも頗る成績よく、信用部に於ては資金の運用と内容の整備充實を圖り、其礎の堅實と業績の向上に意を注ぎ、預ケ金十萬圓餘、貸付金九萬八千圓、貯金十九萬六千圓を算し、販賣は製茶の六萬三千餘圓、玄米の四萬圓を主に麥、菜種、木炭を取扱ひ、購買品の賣却高は六萬餘圓をかぞへる。作業所一棟を有し、精米、精麥、製粉、その他の機械を設備する。初代組合長戸倉實太郎氏は主唱發起人にて組合第一の功勞者、現組合長德村喜作氏は二代目にして組合員の信任絶大なるものがある。

久努村國本

久努村信用 販賣購買利用 **組合**

當組合は大正十年有限責任久努村信用組合として創立され、事務所は久努村村

松に置いた。當時組合員僅かに十名であつた。大正十五年事務所を現在地に移し昭和八年保證責任に變更すると共に四種事業を經營することになつた。區域は久努村一圓、組合員三百五十名にて、預ケ金二萬二千圓、貸付金四萬七千五百圓、貯金六万六千八百圓を算し、販賣は米と菜種を主に二萬六千餘圓、購買は肥料が大部分を占めて一萬五千圓に上る。大正九年には作業所一棟を建設、精米、精麥製粉の機械を設備する。歴代組合長は象子藤平氏、足立隆氏、石川庄治郎(現任)にて、現專務理事高橋一郎氏は明治二十年一月十日高橋庄作氏の長男に生れ、掛川中學校出身の英才、村會議員に當選村政にも効績顯著である。よし子夫人との間には二男三女あり、長男庄一郎氏は中泉農學校卒業の新鋭である。

岩田村

岩田信用 販賣購買利用 **組合**

當組合は保證責任組織にて信販購利の四種事業を營み、組合員三百二十名、出資千九十餘口(一口十圓)にして、準備積立金二萬五千七百餘圓、餘裕金八萬二千五百圓である。貸付金七萬六千餘圓、貯金十七萬六千餘圓を算し、組合員貯蓄心の向上は近來大い見るべきものあり、昭和十年九月に開始せる勤儉貯金の如き翌十一年末には一萬六百七十圓餘を現出せる狀態にあり、販賣に於ては小麥が異彩を放つてをり、また籾摺機、脱穀機の利用數量年五千九百俵に達してゐる。最近共同作業場を建設され、組合の基礎愈々固きを加へると共に事業量の増大を示してゐる。現組合長は力量ある匂坂磯太郎氏、專務理事は堀内市太郎氏にして、その他理事五名、監事三名あり、共に協力組合の發展に竭すところが多い。

浦川町浦川

神道修成派 静岡第四教務分局

當教會は浦川驛より徒歩二十二町の地にあり、本派主祭神のほかに彦火々出見命及び大日不動尊を移祭し、陰暦正月十五日、陽暦九月二十八日を祭典日とする大正四年二月の設立許可に係り、當時静岡教務第十支局たりしも、昭和十二年四月第四教務分局となつた。教會長片木金治郎氏は本派の最長老の一人で、本派に於ても監察、大教正、教師檢定副長等最高要職にあり、當教會設立の功勞者である。その圓滿なる人格と信望とから信徒の増加も非常なるもので、當縣下に於ても教職會々長として數百の教師世話掛に任じて衆望をあつめてをり、神道修成派に於ける文字通りの至寶である。

上淺羽村　登住

村長、產業組合理事

村松泰治

當家は村松次郎左衛門義貞の後裔にして十三代を經る舊家、先代覺彌氏は村會議員及び學務委員に選ばれて村治に盡せし人、氏はその長男にて、明治二十一年三月五日の誕生である。靜岡縣師範學校卒業後富士郡廣岡尋常小學校訓導を振出しに、豐濱、袋井(現西校)、幸浦の各校に教鞭を執り、次で田原小學校長に榮轉して昭和三年六月その去るをおしまれつゝ教壇を降りた。その後は專ら自治產業の事に力を致し、產業組合專務理事に任じ、現時村長たるほか消防組頭、村農會長、產業組合理事等村內重要機關の首班にあげられる。趣味は大弓、令閨いちさんとの間には二男四女あり、長男英氏は中和銀行高尾支店勤務、次男智氏は國土館中學在學中である。

幸浦村大野

元村農會長
元村長

永田源三郎

燦爛たる光明の如く、本村自治界に永遠の生命を附與せる氏は、明治六年十二月二十五日の出生である。農を本業として自治關係事業に多年盡力せられ村長としては

事事產業の擴充に力を致し、村農會長としては農業の改善に意を用ひ、その他消防組頭、產業組合長、村會議員、磐田郡自治組合會議員、郡農會評議員等を歷任

更續一々枚擧の遑なく、大正三年には自治功勞者として木杯を下賜せられた。現在は幸浦耕地組合長に任じ、また日本赤十字社特別社員である。令閨すゑさんは上淺羽村諸井元村長荒井丈平氏の義妹にして、氏との間に二男二女を有す。母堂は八十五歲にて健在、家內益々繁榮してゐる。

四淺羽村中

自治功勞者

荻原才吉

金剛不壞、確固たる信念に生きる氏は本村元老中の第一人者といはれる。明治三年八月一日豐濱村鈴木平吉氏二男として呱聲をあげ、十二歲の時、本村の舊家にして且つ素封家たる荻原久四郎氏の養子となつた。明治二十五年名古屋輜重隊に入營せるも、近衛輜重隊新設により各師團より五名宛の選拔にその選に入つて近衛兵に編入され、模範兵にて、日清、日露の兩役に出征、輜重兵曹に任ぜられた。その後は家業に精勵しつゝ、自治に

袋井町

法多山尊永寺

當山は古義眞言宗に屬し、神龜二年、行基大士が勅命によつて開創したもの、厄除正觀世音菩薩を本尊となしてゐる。弘法大師密教開宗に先立つて登山し、山姿谿谷ことゴ〳〵く弘傳相應の聖地とされ紫雲ヶ嶽に靈跡をとゞめて以來本尊大悲の偉德は京都にまで及び、白河天皇並に後白河天皇の叡信殊に厚く、勅使の參向數回に亘り、佛畫法器の御寄進、伽藍の造營の洪澤を被り、勅願寺として大悲の靈德字內に傳はり、今に兩帝御寄進、數

場し、村會議員たること二十有四年、學務委員に就任三期、常設委員二期、その他在鄕軍人分會及び消防組の顧問、東部用水議員、耕地整理組合評議員、村助役產業組合長等を歷任し、それぞれの方面に於て特筆すべき功績を殘してゐる。令閨キヨさんとの間には一女いくさんあり令孫一男二女を有す。

東淺羽村松原

村會議員
元助役

原愛三郎

當家四代前の祖孫三郎氏の代に、同村原門太郎氏の家から分家獨立したもので既に四代目になつてゐる。先々代長右衛門氏は村役人、戶長等を勤めその功績著なるものがあり、橫須賀城主西隱岐守より青錢五貫目を褒美として賜はつた家柄である。當主は明治二十一年七月五日、長次郎氏の長男に生れた篤農家、父君の早世によつて早くより自治に活躍、十七歲頃には常設委員として衆望に迎へられてゐた。縣立中泉農學校の出身者で、多年村政に盡した功績は、その祖父にも劣らないものがある。現在は村會議員の外々を寶藏してゐる。戰國の世、永祿年間戰火に罹つたとはいへ、武門武將相繼いで篤信淺からず、朱印高二百五石、東西五十町、南北十町の境內の寄進あり、僧坊十二ケ院併存せしも、明治維新以來末寺を廢し、今は本坊のみを殘してゐるが老杉古松の間に山門伽藍の整備を見るはその昔を偲ぶに足りる。

村會議員
元助役

原愛三郎

當家四代前の祖孫三郎氏の代に、同村原門太郎氏の家から分家獨立したもので既に四代目になつてゐる。先々代長右衛門氏は村役人、戶長等を勤めその功績著なるものがあり、橫須賀城主西隱岐守より青錢五貫目を褒美として賜はつた家柄である。當主は明治二十一年七月五日、長次郎氏の長男に生れた篤農家、父君の早世によつて早くより自治に活躍、十七歲頃には常設委員として衆望に迎へられてゐた。縣立中泉農學校の出身者で、多年村政に盡した功績は、その祖父にも劣らないものがある。現在は村會議員の外に縣米穀統制販賣委員、磐田用水組合會委員、東淺羽村西部養蠶實行副組合長などを兼ねてゐる。曾ては村役場助役、產業組合理事、常設委員、農會技手などゝして盡瘁してゐる。

井通村

村長

高塚佐苗

氏の家は古くから農を本業となして今日に至つたもので、その中から精農者などを出して村內のために貢獻してゐる。さうした農家に生れた氏は、疾くから家業に熱心し、漸次に人望をあつめ、今は村長の要職に就任して銳意村政に盡瘁貢獻してゐる。

四貝村

販賣購買利用

西貝村信用組合

當組合は明治三十四年三月十一日主務省の認可を得て創立したもので、以來組織を改め、名稱をかへるなどして現在は信用、販賣、購買、利用の四事業を兼營して今日に至つてゐる。組合の區域は本村一圓で、その成績に至つては郡內第一と稱されてゐる。現組合長理事は大杉初太郎氏である。

安倍郡

大川村坂ノ上
元村長　勝見藤太郎

氏は慶應三年五月八日生れの高齢者、爲すべきことを果し終つて、今は光風霽月、閑日月を侶伴となして徐ろに世を眺めてはゐるが、往年の村長として鳴らした手腕の人、その他檀徒總代、村會議員區長、氏子總代等あらゆる公職に與つて、村治功勞者の名を今でも稱へられてゐる。いやその名は永遠に失せぬであらう。家は農を本業となし、相當の舊家であるが、家系の傳はるものがないのでその幾代目なるかを明かにしてゐない。父君傳右衛門氏は副區長、區長、村會議員、學務委員、氏子總代、檀徒總代に擧げられ、また會祖父米吉氏は幕政當時名主を命ぜられて村民のために盡してゐた。當家三代相繼いで一村の民利民福を計つたといふことは、洵に世の範鑑となすべきであらう。

大川村日向
村會議員　佐藤孝作

氏の家はあまりにも舊きが故に、祖先の由來や家系を知るに苦しむ、一說には同村素封家佐藤敬俊氏家から分れたものだとも傳へられてゐる。氏は明治十三年三月二十一日、精農家として生れ、朝鮮に健在せる久一氏の男として終始し、既にあること十ケ年、この間絶えず植林事業に從事し、大成して大正五年に歸國、今は植林方面の權威を以て任じてゐる。現在は村會議員として村政に與りつゝあるの外、區長、區協議員、學務委員、檀徒總代を兼ねて盡力してゐる。溫厚にして君子の風あり、思想穩健中正。盆栽に趣味を有つてゐる。しかも造詣深く、一歩氏が庭園に至れば、年中花の絶えたることなく、全く樂園に在るの思ひをなさしめる。

大川村日向
前村會議員　出雲辰次郎

當家先代亡角次郎氏は材木及雜貨商であつた。氏はその次男で明治十七年十二月十五日の出生、夙に山葵の研究と栽培とに一心を委ね、今日では村內隨一の定評あり、他の追隨を許さない。曾て農會副會長當時、これが百種の改良と試作とをなして一般に奬勵したが、當村山葵栽培が今日の隆昌を見たのは、一に氏が功績に歸すべきである。近年山葵栽培先進地を全國にわたつて親しく視察し、また各縣主催の山葵研究會講師として講演してゐる。更に公職方面にあつては村會議員たること二期、家屋稅調査員、村農會副會長、郡農會委員として盡力してゐるし、現在は村農會顧問の名の下に貢献しつゝある。

村農會顧問
出雲辰次郎
大川村

大川村湯島
村會議員　佐藤良一

氏は故利助氏の長男、明治二十八年十一月二日の出生、性溫厚にして眞面目、しかも公共心に富み、村內の尊崇をあつめてゐる。元湯島防備隊長、帝國在鄉軍人會大川村分會評議員を勤むること九ケ年、また大川村青年團支部長等に擧げられて盡瘁した。現在は二期目の村會議員であり、區協議員であり、熱心その負ふところの職に向つて努力しつつある。當家は三代目、農を營んで來たが、父君は專ら農事に思念し、且つ人情に厚かつたところから、極めて信望のあつた人だつた。家には母堂みと子さん健在、悠々老後を樂しんでゐるし、貞淑なる夫人があり、その間一女あるのみはやゝ淋しみを感ずるであらうか。しかし家庭はいつも和かさである。

大川村崩野
東谷山寶光寺

當山は同村日向陽明寺の末寺で巨海惠才大和尙を開山の祖となし、曹同宗派に屬してゐる。

本尊は虛空藏菩薩。本堂、庫裡、開山堂、觀音堂があつて、境內安置の千手觀音の參詣者が極めて多く、また既に數百年を經たる白檀の老木も有名である。年中行事としては彼岸會式、盆施餓鬼、花祭が執行されてゐる。現住職は上村禪雄和尙で當山第六世目。師は士族亡鎌治氏の二男、明治十九年九月二日、名古市に生れ、九歲にして當山の本寺陽明寺に入門、日夕看經に精進、時に邪心、青春の前途をそこなはんとしたけれど、圓頂黑衣、世俗を絶つた我なるに、飄然悟つて更に修業、終に今日を得た人である。目下思想善導の布敎に專念し、早くも名僧と讃へられてゐる。

大川村崩野
方面委員　大川井亀次郎

氏は明治二十六年七月十九日、故組之亟氏の長男に生れ、大正十二年兵として輜重隊に入營、輜重伍長に昇進、除隊後は家業に就き、他方村治に關係して區長代理、在鄉軍人分會副會長、同分會長、國勢調査員、農業調査員、賃貸價格調査員、家屋稅調査員、崩野防備隊長に推されて努力したばかりか、昭和三年、發起者となつて御大典記念崩野共濟會を起し同七年にまた互助會を創立し、分會長時代には忠魂碑を建設してゐる。現在は方面委員、軍人後援會通常會員、氏子總代檀徒總代、消防組第三部の顧問、崩野共濟會長、崩野互助會々長等を兼ねてゐる氏の生家は土地切つての素封家、氏は十

七代目。十四代目角兵衛氏は寶光寺の開基であり、父君は產業の功勞者として、昭和二年に頌德碑を建てられたほどの人物である。

大川村湯島
前助役 小澤登代

當家の由來するところ遠しと傳へられてゐるが、確と判明せず、氏を以て六代目となしてゐる。先代營太郎氏は祖業たる農に精進し、傍ら氏子總代、學務委員村會議員、村役場助役等に推されて自治方面に大なる功績を樹てゝゐる。氏は長男、明治十八年七月十七日に生れ、村會議員たること二期、村役場助役に擧げられて村長を輔け、昭和十一年二月、その職責を果して退職、今は森林組合幹事として努力してゐる。洵に溫厚なる紳士。長男菊太郎氏は今、東京に在つて手廣く椎茸、茶商を營んでゐるし、次男氏は靜岡步兵第三十四聯隊に步兵軍曹として勤務してゐる。しかも氏は旭七、瑞七の有動者で、同僚間でも頗る好評判を博してゐる。

大川村湯島
消防副組頭 湯本房慶

氏の家は五百年、十六代に相當する舊家、先代力太郎氏は今も健在、戸長當時より永年區長として盡力した功勞者、氏はその第二子、明治三十二年二月二十二日の出生、現在は消防組副組頭、村農會總代を兼ねて努力、その將來を嘱望されてゐるが、曾ては區長、防備隊長、消防組第二部長に擧げられて盡力した。因に五百年前當家宅地內に靈泉湧出、專ら湯治客を扱つたが、後ち山崩れのために中絕した。併し靈泉は今も多量に湧出で內科並に外科的疾患に顯著なる効驗があり、特に神經痛、レウマチス、皮膚病、胃腹病、婦人病、梅毒、淋病などによく專門家の分析實驗の結果、豐富なラヂウムを含有してゐることだといふ。病者の浴湯申込みあれば、歡んで應じつゝある當家が今、一に溫泉の稱あるのもこれがためである。

大川村湯島
區長 小澤一郎

氏は安一氏の長男、明治四十三年十月一日の生れ、資性快濶にして明朗、これからの人物として村內の信望が厚い。前に大川村青年團幹事として活動し、現在は區長に擧げられて更に盡瘁貢獻しつゝある。氏の家は正に十代目、以てその舊家なることが知られよう。代々農を家業として來たもので、祖父の亡太吉氏は報德社を起して社長となり、大に活躍するところがあつたが、昭和十一年卒去してからは休社の狀態になつてゐる。また父君は家業に熱注した人、夙に精農家を以て聞え、今なほ健在、靜かに老ひの身を養つてゐる。氏はこの父祖の志を繼いで村治方面にも進出、その擡頭の念願は必ずや達せらるゝであらうと、一般から期待されてゐる。

大川村諸子澤
村會議員 前川亀之助

當家先代松次郎氏は祖業たる農業に勵み、且つ町村制實施前の人民總代、戸長等に選ばれ、實施後には區長として土地のために盡力した人だ。氏は十代目、明治三十二年一月三十日、その長男に生れて家を繼ぎ、父祖の業に精進しつゝ今日に至つた當村一の素封家である。曾ては帝國在鄕軍人會大川村分會長に推され、二期間努力、同分會今日の土臺を固めた現在は村會議員に乘り出して村治に與ると同時に、大川村森林組合長、區長、檀徒總代、氏子總代を兼ね、大に力を致しつゝある。氏はまた日本赤十字社特別社員でもあり、帝國軍人後援會特別會員でもあり、しかも前途春秋に富むの士、村民一般からは、今後活躍すべき有爲有材の士よと期待の眼を以て目せられてゐる氏また、この切なる要望に副ふにちがひない。

大川村坂ノ上
消防組頭 中村儀作

氏は故赤石藤松氏の男、明治三十年四月十日の出生、後ち中村家に入つて五代目を相續した當家は農耕を以て相繼ぎ、養祖父富藏氏は區長、學務委員として盡力した人。氏は前に青年團支部長を勤め、現在は消防組頭に區協議員を兼ねてゐるが統制力に優れた名組頭として聲望が高い勤務勉勵、技術熟達眞に他の模範とするに足るの故を以て縣警察部長より功勞證書を、また駿豆地方大震災に當つて卒先勞役奉仕に從事せるの故で本郡町村長會長より感謝狀を、何れも昭和五年に授與された。なほ當村消防組は大正十年六月の創設、總員百八十九名、機械、腕用ポンプ四臺、金馬廳二條を有し、山林消防隊を兼務して活動してゐる。

大川村日向
日向山陽明寺

當山は雲叟深耕大和尙を開山とし、永正七年の創建と傳へられる古刹、現住職伊藤悟雄師は第二十九世目、曹洞宗派。藥師如來を本尊となしてゐるが、これは大佛彫刻師として有名な京都の法橋光入傳之亟が聖德三年の作、二百二十有五年を經てゐる。境內面積一反六畝步餘、本堂あり庫裡あり、開山堂、山門、納屋と昔時の俤を殘してゐる。寶物には第十六世大林大和尙の着用せる座具及び袈裟一着がある。村內の吉祥寺、寶光寺を末寺となし、盆施餓鬼、四月十八日の花祭、陰曆六月十六日大磐若を行事としてゐるなほ現住職は明治三十三年、本山永平寺で轉衣し、同三十八年より五ヶ年間、伊豆修善寺丘宗潭師に隨身修業した。管內

病教師たる四期、少年同志會を創立して現在に至つてゐる。村救護委員現は任中である。

大川村坂ノ上
村會議員
元村長
赤石積三

氏は八代目の當主、明治十八年四月二十三日亡藤松氏の男に生れた。祖父淺吉氏、曾祖父作兵衛氏は共に漢法醫だつたが、父君の代に今の農に轉じて、村會議員を二十四年、その他區長等に選ばれた村自治の功勞者であつた。氏は前に村長、村會議員を三期、安倍郡茶業組合委員、安倍郡蠶絲同業組合委員を兼ねて奔走するところがあり、現在は引續いて村會議員に當選、その他氏子總代、大川村南部養蠶實行組合長、安倍郡養蠶業組合評議員、大川村森林組合總代等に推されて華々しく活躍してゐる。資性溫厚にして着實、言の人であると共にまた行の人、働きざかりの今を、一村を背負つて立つの氣魄を以て村民に臨んでゐる。氏の今後の證淵たる活動こそを、特に刮目すべきである。

大川村日向
村會議員
小長井鎌平

小長井家は當主まで實に二十有五代、連綿として續いて來た古い家柄で、先代庄平氏は始祖以來の農業に親むと共に公共方面に關與、人民總代を振り出しに區長、村會議員に擧げられ、また一村の輿望を負ふて村長となり、村治を視ること三ケ年、現に今も健在で氏子總代、檀徒總代として老境を顧みず努力してゐる。氏はその長子、明治三十五年十月、今の家に生れ、縣立靜岡農學校を卒業、後ち家業の人として現在に及んでゐる。元消防組小頭、目下は二十四歳時代よりの、消防組部長を勤續するの外、昭和十二年五月村會議員に當選して村内のために活動してゐる。明朗快濶な、そしてしかも衆望あり、信賴滿點の人物、將來の飛躍が期待される。

大川村坂ノ上
村會議員
動八等
勝見公義

氏は明治二十三年一月、先代亡伊之助の二男に生れ、疾くから農業に從事してゐた。後ち靜岡歩兵第三十四聯隊に入營し、日獨戰爭の起るや從軍參加、功を樹てるところがあつた。和平後、その功に依つて勳八等に叙せられ、白色桐葉章を下賜された。曩に村會議員に推され、昭和十二年五月の改選に際して再び當選、村政參與の一人として努力してゐるのである。氏は又、大川村消防組が初めて私設消防として創設された當時、氏はその贊助員となつて、これが實現に多大の貢献を敢てなしてゐる。父君伊之助氏は、生前家業に精進努力するの傍ら、他面村治に與り、衆望を得て村會議員に選ばるること四期に及んでゐるし、且つ區長その他の名公職にも推されて相當業績を擧げ、その功勞は今もなほ稱へられて居るのである。

大川村坂ノ上
村會議員
宗野松藏

氏の家は舊家だと傳へられてゐるが、併し的確なる記錄がないために、祖先の由來や代數を知る事が出來ない。先代善吉氏は傳統的農耕の業に就いて精進しつゝあつたが、他面また村治に關係して乘り出し村會議員、區長、衛生組合委員等に選ばれ、永年努力、貢献してゐる。氏はその男、曾て區長として力を致し、また當村消防組の私設として創設された際贊助員に加盟、相當盡力斡旋してゐる。現在は村會議員をはじめ、衛生組合委員、氏子總代坂ノ上養蠶組合理事、大川村森林組合總代等を兼務してゐる。この負はされたる名譽に對し、いかにしてこれを果すべきかを、いつも氏は考へさせられつゝあるに違ひない。

美和村遠藤新田八ノ二
美和信用販賣購買利用組合

去る昭和八年十月十日、美和信用購買販賣利用組合と興農信用購買販賣利用組合との二組合を併合して保證組織に改め美和信用販賣購買利用組合と稱して今日に及んでゐる。組合區域は美和村一圓、出資一口の金額は三十圓で、組合員數は三百九十九名である。この出資總額は一萬四千一百圓で、合併以來の當組合の成績は頗る順調に運んでゐる。現在貸付金の總額は五萬六百七十餘圓、貯金高十三萬五千五百三十餘圓に上つて居る。そして販賣部にあつては、一萬七百四十八圓餘購買部にあつては八萬七千九百六十二圓餘利用部にあつては一千八百七十一圓餘を收めて居る。現組合長理事は鈴木藤一郎氏、專務理事は松永五一郎氏である鈴木氏は一村の信望を負ふこと極めて大なるものがあり、現に村長として村治の要衝に立つて民利民福の增進へと鋭意邁進して居る。また松永氏は在鄉輜重兵中尉で從七位、曾ては帝國在鄉軍人會美和村分會長、郡聯合分會長として盡力し、多大の功を擧げてゐる。現在は村會議員であり、美和郵便取扱所長であり、美和電信電話取扱所長であり、すべてを双肩に担つて旺んに活動しつゝある人格者である。

美和村内牧四九七

内牧信用購買販賣利用組合

本組合は初め有限責任内牧信用購買販賣生産組合の名の下に、明治四十四年四月二十九日に創立の認可を得たのである。後ち生産を利用に改め、また昭和八年七月二十八日、有限責任を保證責任に組織がへをした。内牧及び幸庵新田を組合區域となし、出資一口の金額は五十圓組合員數は百二十五名、その出資總額は一萬八千百圓である。現在の貸付金總額は四萬五千餘圓、貯金高は七萬餘圓で、貯金高は組合員各自の貯蓄心向上によつて年々增大し行くばかりである。そして前年度購買部の收め得た利益金は三萬餘圓で、販賣部が得たものは八千六百餘圓である。創立以來相當な歴史を有する本組合のことであるから、組合員の組合に對する認識理解は殆んど徹底しつゝあることゝ思ふ、組合員の對個人商人との取引關係の薄らぎつゝあるといふのも、要するにこれが爲で。當組合のために慶すべきことである。現組合長理事は坂本與作氏、常務理事は朝日原千代吉氏理事に平田平作、龜谷弘岳、秋本太作、安本惣太郎、海野嘉太郎氏があり、監事に海野忠作、海野金一、海野角藏、海野宇十氏等がある。ほ坂本組合長は内牧區長であり、朝日原氏は元村會議員、元區長として活動した人達である。

美和村松野二七二

松野信用販賣購買利用組合

當組合の生れたのは明治四十三年六月二十五日、當時は信用と販賣と購買との三事業を扱つて居たが、後ち保證責任に改組、利用事業をも加へ現在に至つて居る。組合區域を松野、油山、津渡野、郷島、野田平となし、現組合員數は百四十名である。出資一口の金額は二十圓、出資總額九千四百六十圓で、貸付總額一萬五千百餘圓、貯金總額は一萬五千三百餘圓を示して居る。そして前年度購買、販賣、利用事業等の收益高はと見るに、購買部にあつては一萬九千八百六十圓餘、販賣部にあつては一萬九百七十六圓、利用部にあつては三百六十五圓を計上して居るが、これらの收益は要するに組合員が組合に對する理解を得て、旺んに組合を利用したゝめで、從つて組合の收益は年々增大の趨勢を示して居るものである。當組合創立以來の組合長理事を擧ぐれば小田卷利兵衛、松永長八、望月源左衛門、小田鐵次郎氏等で現在は松本作太郎氏であるが、氏は元區長、元村會議員等に推されて村治に功のあつた人。また專務理事の小田卷久作氏は元區長、元村會議員で、現在學務委員に就いて居る。元組合長で今は故人となつた松永長八氏は、當組合のために多大な功績のあつた人だ。

美和村油山

村會議員 海野東一

氏は武田家の家臣海野某氏を祖とすな

由緒ある家柄である主家の滅亡するや、某氏は逃れて油山の地に來り、土着して終に農に歸した。この地、海野姓を名乘るものすべてはこの海野某氏から出たものであると傳へられてゐる。當家先代平左衛門氏は村會議員等に推されて村自治の上に相當な功勞を殘して居る。氏は明治二十七年八月十三日の生れ、大正三年兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、滿期除隊後は父祖の業に就いて精進、ます〳〵家礎を固めつゝある。昭和十二年五月、村會議員に推されて當選、現に村政に盡力してゐる。夫人との間に七男二女の子福者、家庭は人も羨むほどの圓滿さ。長男氏は今、靜岡縣廳に奉職中であるが、精勵の人としての聞えが高い。

有度村馬走二〇二

有度信用購買販賣利用組合

電話 清水三五二 有度二四番

當組合は大正五年に有限責任有度信用購買販賣組合として生れたものである。後ち昭和六年、利用事業を加へ、同九年二月有限責任を保證責任に改めて今日に及んだもので、そして大正十二年四月二十五日、中央會々長より、同十三年二月二十三日、縣支會長より何れも優良組合として表彰された模範組合である。また

有度村 村長 堀場隆

氏は明治二十三年の生れ、元區長をはじめ村會議員、學務委員等に擧げられて村政方面に功勞のあつた人、昭和十年の二月、村民一致の推薦に依つて村長に就任、現に任期中であり、また郡町村長會副會長を兼ねて活躍を見せて居る。

當組合は草薙に支所を、元川に出張所を開設して、ます〳〵發展の軌道に乘つてゐる。組合區域は全村、出資一口の金額二十圓、現組合員數は八百四十七名で、出資總額は三萬三千百圓である。そして前年度の貸付金總額は三十二萬三千百八十六圓貯金高は六十二萬二千二百八十七圓の尨大なる數字を示して居る。また購買價額は十萬一千五百八十餘圓で、販賣價額は二萬三千七百七十餘圓とある。即ち購買部は經濟用品たる米穀や雜貨の取扱ひに

進出し、また販賣部にあつては近來養鷄業が不振なため、鷄卵は努めて犧牲的の取扱をなして組合員の福利增進に努め、その他一切は系統機關の統制販賣によつて前年と大差なき取扱ひをなすことが出來た。現組合長理事は大石芳朗氏、專務理事は漆畑彌太郎氏である。

有度村草薙一九二八
小林醫院長
郡醫師會長
小林吉國
電話有度二九番

氏は明治九年四月十五日の出生、夙に刀圭界進出を思ひ立ち、東京市本郷濟生學舍に入り、專心醫學を修めて卒業、內務省醫術開業試驗を受けて醫師に登第、次で順天堂醫院に實地を研究し、更に京都帝國大學醫科大學講習科に學んで終了、後ち有度村に開業、爾來三十七年、仁術を施して今日をなして居る。本村尋常高等小學校醫、公民實務學校醫、公民實務女學校醫、青年訓練所醫、村醫たるの外、郡醫師會長、縣醫師會議員、縣醫師會健康保險部理事、縣學校衛生會代議員、縣醫師會健康保險部醫務指導員、同事務指導員第二十六回關西醫師大會庶務副部長等を兼任、いかにその重きをなして居るかを窺知することが出來よう。なほ衛生に關して郡長より、救濟事業及び公共に關して知事よりそれぞれ表彰されて居る。

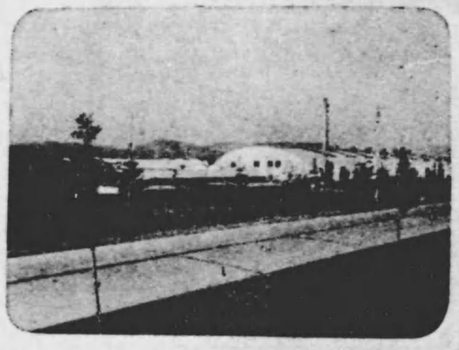
有度村吉川一六五
縣聯合分會長
從七位
伴野農夫男

父君公太郎氏は村會議員。氏は明治三十四年四月二十四日の出生、縣立中泉農學校出身、一年志願兵として砲兵聯隊に入り、砲兵軍曹となり、後ち同少尉に任官、從七位に叙位された。青年團長たること二ヶ年、帝國在鄉軍人會有度村分會長たること四ヶ年、また青年訓練指導の任に與る七ヶ年、現在は在鄉軍人會安倍郡聯合分會長として熱心に活躍して居る。氏の職務に忠實なる、そして些の私心を挾まず、すべて公平な見地から處理することは夙に令聞を馳せて居る。青年訓練指導に對する功勞章を知事から贈られて表彰されてゐる。しな子夫人、又夫君と心を一にし、常に夫君に後顧の患ひをなからしめつゝあるの佳話は、全く婦人道の模範。二男二女がある。

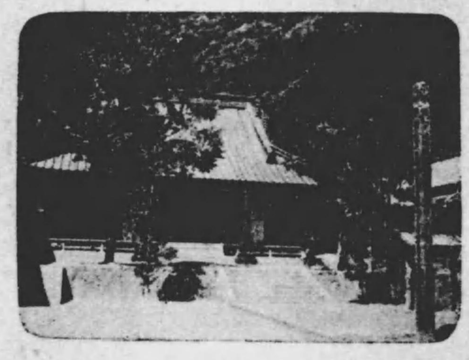
有度村北脇
綾羽クツシタ株式會社
電話清水二四・五九一番

當綾羽クツシタ株式會社は、昭和十年二月、資本金二百萬圓を以て創立、クツシタ製造を主なる目的となしてゐる。當會社製造のクツシタは他のそれのやうに丸に編まずに平に編み、しかも丸編みに比して丈夫で、穿き心地がよくて外觀優美、脚線美滿點といふ特色を有つてゐる。當工場地坪は一萬六千坪、從業員二百三

十人製品は後から後からと殺到する注文に追はれ通しの盛況にある。將來最も發展性をもつ會社である。取締役社長伊藤忠兵衛氏、專務取締役居初寛二郎氏等は他の幹部連と共に工場員を統制指導して好成績を示現し、より以上の社業を向上、進展せしむべく、和協一致、極力邁進してゐる。因に彼の三光紡績株式會社、吳羽紡績株式會社、濱名紡績株式會社は何れも當會社とは姉妹關係の間に柄ある會社で今後ますゝ提携・業界に躍進する。



服織村
久住山洞慶院



當院は今より四百八十五年前の享德元年の五月、福島伊賀守、この地を卜して開山、石叟圓柱、太巖宗梅を經て宗梅の弟子賢窓常俊行之正巡、回夫慶文の輪番制によつて相繼ぎ、後ち明治六年、獨住制に改め、現住職は第五世で、丹羽佛庵師である。宗派は曹洞宗、千手觀世音菩薩を本尊となしてゐる。大本山は越前の永平寺。縣下有數の名刹で、今より約二百五十年前、火災の見舞ふところとなつて烏有に歸し、後ち再建されたものである。年中行事としては七月十五日、同二十日に緣日が開かれる。丹羽住職は明治四十年、今の駒澤大學の前身たる曹洞宗大學林を卒業した名僧、檀家は安倍郡一體に亘つてゐる。石上誠一、石上政元、石上巖太郎氏等が檀徒總代として盡力しつゝある。

服織村
學務委員
從七位
三浦當義

氏は明治三十年四月三日、當吉氏の男に生れ、大正五年、靜岡中學校を卒業、後ち一年志願兵として步兵聯隊に入營、步兵少尉に任官、次で中尉に陞進して從七位に叙せられた。次で帝國在鄉軍人會服織村分會長として永年勤務し、又安倍郡聯合分會長となり、村會議員に選ばれ青年團長に推さるゝなど、貢獻努力する甚大なるものがある。目下は學務委員

として活動してゐる。資性温厚濶達果樹園藝を好み、そして常に產業の開發に留意、これが研究に力めてゐる。母堂あき子は健さん在。夫人との間に五男一女があ
ある。なほ父君は農に從事し、傍ら公共方面に關係して村長に推薦さるゝの外、村會議員、區長として村自治に功勞のあつた人、六十五歳で卒去した。

井川村井川一〇四四
栗山診療所主　**栗山德太郎**

明治十五年九月五日氏は靜岡市長田區所在近藤醫院に呱々の聲を擧ぐ。性、生得溫健頭腦明晰にして、明治三十八年慈惠醫學專門學校を卒業後、囑望されて現栗山家に婿入りし、明治四十年四月開業す。科目は全般に亘り、開業以來村醫校醫として貢獻し正に暖席の遑あらず。昭和七年より同十一年まで井川村消防組頭を勤めその間の功勞の故を以つて同十年金馬籠一條を受く。元村會議員、金錢債務調停委員、現檜徒總代を勤む。長男忠德氏は慶應大學醫學部卒業目下研究科に在り、二男昂氏は立教大學文學部卒業。三男正氏は慈惠醫科大學在學中等、春秋に富む令息達を有す。趣味としては讀書と盆栽その人格の高潔なる冒を俟たず。

井川村井川
井川村郵便局長　**鳥井鶴太郎**

明治二十五年十月一日局の創立と共に集配事務を開始し、亞いで同二十九年五月一日內外爲替事務、郵便貯金取扱並書留郵便事務を開始して村民の便益を圖り同年十一月十六日には小包郵便事務を開始す。

大正十三年七月二十一日、內外電信事務及電話事務開始に至つて、內外完備したる形態を整へることゝなつた。續いて同十五年十月一日郵便年金取扱を、同十一月一日には簡易保險取扱開始となるに及んで、村民は不自由を覺えなくなつた昭和六年十月一日には、小兒保險を始めることゝなり、局長の長年月の努力は酬ひられることゝなつた。

現局長鳥井鶴太郎氏は明治二十二年四月十五日生れの溫雅な人格者であり、井川村郵便局長として勤續すること實に三十有餘年、その功勞の故を以つて、遞信省より銀盃一個を下賜され、表彰された時は昭和七年である。現在從業員は十名いづれも孜々營々として局のために働くことは、局長鳥井氏に劣らず迅速正確を尙び、常に村民の福祉を計る。

又氏は、現に村會議員。家屋稅調査委員などの公職にあり、公私ともに村利を希ふところ、近來稀に見る利他の仁人である。因に郵便區域內は當井川村全村に及んでゐる。

井川村井川
村會議員　**森竹丑之助**

代々農を營み以つて家業となす。初代は彌左衛門と稱し、天保十五年沒す。先代喜與治氏は區長、區會議員等の公職を勤めその功績を認められる。當主丑之助氏は明治三十三年八月二十一日生、森竹家六代の相續者、村會議員、森林組合總代を勤む元國勢調査員、農業調査員、御大典記念桑園基本反別調査員として盡力せしことあり。目下現任中の森林組合總代はこれを十ケ年勤續し同村林業發達史に大書すべき人、その貢獻たるや村民の等しく認むる所なり。

家族は母堂りき女と氏夫妻並に三男一女の和怡たる生活。思想穩健にして村人の信望頗る篤く、その堅實なる歩みは、將來ともに大いに期待すべきものがあらう。

井川村田代
村會議員　**瀧浪源藏**

當家は舊家なるも、先祖の由來、代數等詳らかならず、五代前の源藏氏は、その當時よろづ屋と號して相當手廣く商業を營みしことありしも、その後農に轉じ以て今日に至る。先代米吉氏は區長等を勤め村政に貢獻ありたる功勞者。源藏氏はその長男として明治三十年十一月三日生る明朗快活の士にして、對人信用頗る厚く、元學務委員、現第三部消防部長、(六年目) 村會議員を二期森林組合總代を歷任し、消防部長としての氏は紀律嚴肅にして勤務黽勉、且技術に熟達せる故を以つて、昭和十一年靜岡縣警察部長より功勞證書を授けらる。

人生の働き盛り、氏の將來の活動は、刮目して期待すべきものがあらう。

大河內村
村長
從七位勳八等　**大村利平**

氏は郡內村長中の重鎭、曾て大河內郵便局長を勤續すること二十ケ年、その功によつて從七位勳八等に叙せられた。明治四十四年、大河內至誠產業組合創立に際して自ら發起者となつて盡力、組合長に推されて今日に至つてゐる。また村會議員たること多年。昭和八年、村長に推薦され、その他安倍郡茶業組合副組合長郡養蠶組合長として活躍貢獻しつゝあり氏の家は村內一の舊家、舊幕時代には名主を勤めた家柄、父君故利作氏は戶長をはじめ町村制實施當時の村長に選ばれ、明治四十二年まで盡力し、日露の役に內治に勞に依つて勳七等に叙せられ、更に郡會議員等あらゆる公職に關與、甚大なる功を稱へられてゐる。因に氏の令弟平三郎氏はまた公共方面に進出して今郵便局長を奉職中。

大河内村

大河内至誠 購買利用 信用販賣 組合

當組合は明治四十四年二月十三日の創立にして現在は保證責任大河内至誠信用販賣購買利用組合と稱し、本村平野、中野、横山、蕨野、相淵、渡の各大字を組合區域となし、出資一口の金額を二十圓と定めてある。組合員數は百三十九人、口數四百四にてその出資總額は八千八十圓拂込濟出資金は七千七百圓である。現在貸付金總額は三萬八千餘圓、貯金總額は五萬七千八百餘圓に上つてゐる。今當組合の事業狀況を見るに、貸出金に於て八百餘圓を減じ、貯金に於ては三千八百餘圓をましてゐる。販賣部にありては、生玉を購入加工した結果、蒟蒻荒粉は區域内の全部を統制し、木炭は夏高冬安の逆境のうちにも一萬三千餘俵を販賣してゐるが、鷄卵は飼料高によつて價格引き合はず從つて減少を見せ青果物の第一歩として豌豆を販賣し、また關係團體との協力によつて繭の販賣も共同の威力を發揮して總販賣高二萬圓を超過してゐる。購買部にあつては、生産川々品中の肥料は、年初價格高騰のためか前年に比較して量的に稍や遜色を見せたが、一般經濟用品に於てはインフレ景氣の餘波を受けての故か、農産品物價の漸次好調を示現し、組合員の購買方を增加した。なほ利用部は、設備利用期間が短かつたので、好成績を收むることは出來なかつた。組合長理事は創立以來大村利平氏で、氏の努力に依り昭和四年十月五日、縣支會より優良組合として表彰された。

大河内村平野

郵便局長 大村平三郎

電話大河内一番

氏は利作氏の男、明治十七年六月十五日の出生、温厚篤實の紳士。明治三十五年、靜岡農業學校出身、同四十年、大河内郵便局通信事務員を拜命、昭和二年十一月一日同局長に任官、通信事務の開發に努力し、同十一年六月、局舍を改築、面目を一新して今日に至つてゐるが、この間氏は安倍北部六ケ村を一團として安倍公友會を組織しその會長に任じ、關係四局と提携して地方開發のための電信電話の開拓を圖り、

關係各村より五萬圓の寄附を仰いでこれを實現し大河内、賤機、落合、井川の四局の距離約二十里、今や山間僻遠の地も文化の恩惠に浴することが出來た。當局の開設は明治二十五年十月一日で、電信電話の開始は大正十三年六月、町村電話交換開始は昭和四年の五月、集配事務、內外爲替並に貯金事務その他一切の事務は當局開設と同時に開始、從業員十名、集配區域は大河內、梅ヶ島である。氏は局長たるの外村會議員、學務委員、產業組合監事、村保勝會長、消防後援會、青年團顧問、駿河三等局長會第四部長、安倍林產株式會社重役として關與するなど八面六臂の怪腕を持つてゐる。令息賢一氏は當年二十七歲、專ら局事務に精進してゐる。

南藁科村

村長 玉井金次郎

氏は明治七年の生れ、温良にして篤實なるその性格は、一般から頗る好感をもたれてゐる。明治四十四年頃、村役場收入役となつたを振り出しに、引續き助役に擧げられて村長を輔佐すること三ケ年昭和八年、一村の輿望を負ふて村長に就任、現にその任に在つて村自治に力進しつゝある外、三期目の村會議員でもある父君源右衛門氏は當年八十四歲、近く米壽の祝を迎へんとして悠々自適してゐるが、往年は村會議員として、郡會議員として、また村役場助役として地方のために活躍した功勞者。談一度村政のことに及ぶや、談論風發しばし盡くるところを知らずで、そゞろに昔日の翁が風貌を偲ばしめる。翁よ、加餐を祈る。

南藁科村牧ヶ谷

村會議員 吉住政

氏は五代目、故忠太郎氏の長男、明治十五年十一月十五日の生れ、父祖の業たる農を繼いで勉勵するところがあつた。村會議員として村政に貢獻しつゝあるの外、三期目の學務委員であり、また家屋稅調査委員としても盡瘁してゐる。母堂は今、喜の壽の齡を迎へて家に在り、夫人との間に一男一女がある。長男忠夫氏は當年二十五歲、安倍農學校を卒業して後、靜岡步兵第三十四聯隊に一年志願兵として入隊、步兵少尉に任官、村民からその將來に多大の嘱望をかけられてゐる目下村青年團長として、青年指導のために熱心努力を捧げつゝあり、令嬢は家に在り只管家政を手傳つてゐる。家庭は極めて和氣靄々たり。

南藁科村牧ヶ谷

村會議員 動八等 津谷良平

同家は享保年間以來の舊家、農を本業となし、先代良作氏今は亡く、當主は明治十七年三月十五日の出生、日露役に出征その功に依つて動八等に叙され、瑞寶章を下賜さる。軍人分會正副會長を各一期、村會議員たるの外、安倍茶業組合常任員等に擧げられてゐる。夫人との間に四男一女あり、長男慶一氏は安倍農學校

卒業後、家業に精進しつゝあつたが、一年志願兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營服役除隊後は帝國在郷軍人會南藁科村分會長に推擧され、在職八ヶ年、村内の信望大に厚きを加へた。間もなくして村役場收入役に選ばれ、事務に當ること一期。三男紀正氏は目下横須賀海兵團に入團、夕霧乘組員たり。

中藁科村大原
中藁科村長　**小林虎雄**

當主虎雄氏を以て十二代とし、代々農業を營む。先代清次郎氏は高潔なる人格者として知られ、縣會議員を三期、村長を二期、村會議員を勤むること實に四十三ヶ年の長きに亘りて著名なりしが、昭和十年八十一歳の高齢にて惜しまれつゝ長逝せり。

虎雄氏は縣立靜岡中學校卒業。元國勢調査員、現在學務委員、村會議員、檀徒總代寺を勤め、從來久しきに亘つて村長欠員中の處、昭和十二年六月十八日の村會に於て村長就任を内諾し、遂に決定を見るに至り、目下その才腕を揮ひつゝあり。

村の重鎭として一般の信頼厚く、資性溫雅、篤實にして名望家として村内の衆望日を趁ひて益々旺んなり。

中藁科村水見色
村會議員　**勝山大吉**

代々農業にて推移し、先代長藏氏は學務委員、區長を勤め、且精農家として知られし人大吉氏はその長男、明治十六年一月十一日の生れ、勝山家三代の當主。元區長、氏子總代、檀家總代等に功勞あり現在は村會議員二期目を奉職中。

氏は溫厚篤實、而も公共心にあつく、對人信用極めて良く、議員としては最適人物との定評あり、又水見色區の代表的人物として衆望を聚め、自已を沒却して村民の福祉に努むること多年、然れども外觀的名利に奔らず、穩健なる思想と、著實なる其の歩みは、衆のよく認むる所村全體が氏に負ふところ多し。精農家として又範を垂る。以て學ぶべきこと多し。

中藁科村大原
中藁信用購買販賣利用組合

本組合昭和二年十月二十一日を以て認可されたもので、今日では保證責任中藁信用購買販賣利用組合と稱呼してゐる。小布杉を除く外の村一圓を組合と定めてある。出資一口の金額二十圓、三百八十三名の組合員中、その殆んどが農業者で全部口數六百五十二口、一萬三千四十圓である。貸付金總額は三萬九千四百餘圓貯金總額は八萬百餘圓を示し、各事業部の利用によつて收めた前年度利益は八千八百餘圓であゐ、そして差引剩餘金は三百八十餘圓で、拂込濟出資金に對して年三分の配當金をなしてゐる。當組合の組合長理事は初代が渡澤吳吉氏、二代が森利吉氏、三代目現藤田粧平氏である。また常務理事田中格太郎氏は曾て大原區長

であつたし、同原田清市氏は前の富澤區長で、現村會議員で、更に今後の活躍振りが俟たれる。

中藁科村
産業組合長　**藤田粧平**

氏は明治九年、當家五代目の當主として生れた、代々農を家業となして精進努力を續けた。後ち村會議員に推されて當選、しかも再選、三選と村治に與ること實に二十ヶ年、區長に在ることまた多年その功勞は決して尠少なものではなかつた。氏が村會議員二十ヶ年勤續の故を以て表彰されたゐ、また故なしではあるまい。現在は中藁産業組合長として組合發展に貢献し、また家屋税調査員としても活動をしてゐる。人格高潔、極めて信望の厚い士、曹洞宗の信者である。家族は全部で六人あり、三男氏は今、靜岡青年學校教員を奉職してゐるが、その將來ある人物として大に嘱望されて居る。青年の崇拜するところ極めて篤きものがあり

中藁科村産女
村會議員　**牧野昌司**

氏は明治三十四年の生れ、溫厚篤實、農村經濟更生に理解を持ち、將來村自治の上に活躍を期待されて居る。戸ヶ崎農學校出身、夙に家業に精進し、前に青年團長、檀家總代、日本赤十字社員たりしが、現在は村會議員として活動して居る家は名主を勤めて來た古い家柄で、父君登四郎氏は村長を一期、その他の公職に在つて村自治開發の爲めに功勞のあつた人、昭和十一年の五月、故人となつた。氏に兄弟七人あり、内令弟氏は靜岡縣工場課に勤務、次弟氏は靜岡農學校卒業後一年志願豫備歩兵少尉に任官、靜岡市の岡村味噌店の養子となつて家業に精進努力し、よく家名を揚げ今日をなさしめてゐる。尚ほ現青年團長光住忠夫氏とは從兄弟で。二男二女あり、狩に釣に旅行にそしてまたスポーツにと多趣味な人である。

清澤村坂本一二
清澤山清源寺住職　**開地清純**

住職にして村會議員、本寺は曹洞宗本尊は釋迦牟尼如來、遠州可睡齋の廿七世教寂藝訓大和尚の開山なり境内坪數七百八十坪連綿八百年の古刹なれど往時回録に逢ひて記録を燒亡す。村内小島、鍵穴、赤澤に末寺を有す。氏は明治六年生れ十七世の和尚、伽藍宏莊を極む。檀家は遠く靜岡、清水、東京市に及ぶ。

亡父向井清長氏は元千五百石の旗本、講武所の武術師範にて明治十二年頃沼津警察署長を奉職せし士、和尚又父に劣らず教育界にあること十八年、現在は靜岡縣社會事業協會評議員を甫め種々社會敎

育に盡瘁し、長男清基氏亦軍人分會副會長十三年勤續並に消防組頭、日本童話協會幹事、靜岡師範童話部顧問等の活躍と相俟つてその評、郡内一として名高い。

玉川村

村長 安本佐左衛門

氏は村役場收入役たること久しくして後ち助役に擧げられて任にあること一期半、續いて昭和二年村民一致の推薦によつて村長に就任、現在に至つて居るが、この間玉機、玉川、長熊、西山橋等の架橋を實現し、また東小學校の改築を竣成して居るが、氏のこれ迄に盡瘁した功績は甚大なるものである。現に安倍郡町村長會の會長でもある。明治十四年生れの當年とつて五十七歳。至極穩健着實にして職務熱心の士なり。

玉川村幕合

郵便局長 油上甚太郎

電話一番

祖は遠く、武田家の臣、慶長年間、今より四百年前、十八代の祖が當地に來つてより今日に及んでゐる。先代元吉氏は郵便局長、村長、村會議員、學務委員その他幾多の公職に推されて盡瘁した功勞者、局長時代に從七位勳八等に叙せらる氏はその男として明治二十七年四月三十日の出生、靜岡中學校の出身。父君の後を繼いで局長となり、通信事務の開發に留意、山間僻地にあつて電信電話の架設を企劃し、巨額の寄附金を得るために多大の努力を拂ひ、また局舍の改築に盡すなど、全く村内通信事務の中興功勞者たり。現在は村會議員、温知會支部長、同窓會々長、保育會副會頭等に擧げられ、地方青年の指導並に村政に功がある。令息寛氏は目下日本大學に在學中である。落合郵

便局は明治七年九月一日郵便御用取扱として通信事務開始、當玉川村全體、井川村の一部口坂本を集配區域となして居る同二十三年四月内國爲替、同二十五年七月外國爲替の事務を、郵便貯金は同十八年十月、小包郵便は同三十三年七月、電話は大正十三年七月、簡易保險は同十五年十月にそれぞれ事務を開始した。從業員は都合十二名。なほ初代局長は加納幸右衛門氏で、現局長は實にその四代目に當る。

清澤村寺居渡二一三ノ六

清澤村信用購買販賣利用組合

當組合の出來たのは大正十四年六月二十三日で、創立當時は有限責任組織で、單に信用事業を營んで居た。昭和四年の三月、購買事業を加へ同八年三月二十四日、保證責任とし、販賣、利用の二事業を加へて保證責任清澤村信用購買販賣利用組合と稱して今日に及んで居る。組合區域は村全體、出資一口の金額は二十圓

出資總額は三萬四千三百二十圓で、この組合員數は四百二十四名、一千七百十六口である。そして組合員の大約は農業者で、組合員は三百六十二人、一千四百二十五口を數へて居る。現在の貸付金總額は四萬四千九百餘圓、貯金は四萬三千八百餘圓に上つて居る。當組合の購買事業部にあつては、主として肥料と米穀とを取扱つて居るが、前年度の購買價額は一万五千五百二十九圓二十四錢を收めて居る。その他販賣部、利用部にあつても好成績を擧げて居る。組合長理事大棟金次郎氏、專務理事森與助氏の兩人は、創立以來引續き在任。そして現理事は小林包次郎氏、勝山菊次郎、大橋熊吉、尾崎賀吉、高橋光廣氏等で、現監事は大橋清作宮本柳平、尾崎眞一氏等である。大棟組合長は村内の有力者であり、人望家でもあり、そして一村の推薦によつて就任した元村長。森專務は元村會議員である。なほ現在の事務所は昭和十年二月二十八日、新築落成したものである。

清澤村坂本

産業組合監事 宮本柳平

動八等

氏は明治十六年五月一日の出生、資性言行一致の士、しかも愛鄉の念に厚く、これまで道路に學校に私財を投じて盡力したことなか〳〵多い。日露戰役に出征各地に轉戰して功あり、凱旋後勳八等に叙し、白色桐葉章を下賜された。二十五歳の時に區長に推されて區民の信望を厚からしめ、其他學務委員、村農會代議員檀徒總代等を兼ねて盡力するところがあり、現在は清澤村産業組合監事として活躍して居る。家は相當舊家である、が始祖年代等を明かにして居ない。まづ氏は十代目位か。四代目条藏氏は幕政當時、庄屋として拜命するや、一意專念して土地の發展と住民の幸福のために努力し、先代太郎右衛門氏は區長、村會議員、氏子總代、檀家總代その他の職に就いて盡瘁貢獻し、しかも多大の功勞のあつた人だつた。

清澤村峯山

村會議員 小林美忠

當家初代は忠左衛門と稱し、今川家の家臣、主家滅亡と共に當地に落ちのびて土着歸農したものだと傳へられてゐる。先代美之助氏は村會議員たること二期、學務委員たること二十餘年間、また永年區長たるなど、偉大な功績が今に輝いてゐる。氏は實に十四代目、明治二十六年八月一日出生、父祖の業たる農業に精進一層家礎の強固さを加へ、推されて區長産業組合評議員、土地調査員として功を致し、現在は村會議員たると同時にまた學務委員、日本赤十字社特別社員として村内に重きをなしてゐる。氏は人物であると共

に村内屈指の資産家であり、そして年齢將に働き盛りであるなどが、嘱望の的となつてゐる。たか子母堂健在、一男一女がある。

清澤村久能尾

村會議員 尾崎鑛作

氏は本村の大久保字左で一生を通した村會議員、郡會議員だつた六兵衛氏の二男として明治三十一年十月二十日に出生大正十三年今の地に分家獨立して雜貨商を開始、爾來如才なく事に當り、しかも勤勉と努力とが實を結んで現在の大をなさしめたのである。元區長として區政に與り、目下は村會議員、久能尾消防組頭、久能尾納税組合長、區協議員等を兼ねて八面六臂の活躍を續けてゐる。思想穏健温厚にしてしかも公共心に富む氏の將來に、村民の誰もが大なる期待をかけて刮目してゐるところである。夫人との間に一男四女のある平和な家庭。なほ消防組は昭和十一年私設消防として創立、腕押ポンプ一臺、組頭以下五十二名、同十一年中出動回數三回である。

清澤村相○

村會議員 大橋清作

氏は今、村會を牛耳る有力家、從來産業に道路に功績を擧げて數ふべからざるものがあり、曾てまた産業組合設立に際しては進んで自ら發起者となり、主唱者となつて實現し、いよ〳〵練磨せる手腕と圓熟せる人格とが相俟つて一村の元老として、一層重きをなしてゐる。曾村て長たること六ケ年、郡會議員、村農會長、區長、郡農會代議員、郡畜産組合代議員學務委員等に推されて盡瘁、現在は五期目の村會議員、産業組合監事、氏子總代檀徒總代、日本赤十字社特別社員等を兼ねて一心奉公の上から努力してゐる。家は相當の舊家で、農業を相繼いで現在に至つたもので、父君爲吉氏は熱心農事に精進した人である。長男清次郎氏は縣立安倍農學校卒業、目下農事に專念して村内に於ける模範として嘱望されてゐる。

清澤村鍵穴

村會議員 佐藤金三

當家は始祖以來三百三十餘年、十六代目の舊家、代々農を生業となして來た。先代東平氏は區長、村會議員、學務委員村役場收入役、助役など各要職に就いて盡力した功勞は甚大なるものがあつた氏はその三男、明治十八年五月二十日の出生、兵役の關係は補充兵、家業に精進すると共に、また亡き父君の遺志を繼いで公共方面に心を致して來た。元區長として區政の刷新に力を注いで來たが、氏は極めて眞面目であり、且つ言行一致の人であることが、自然民心をあつめ、現在は二期目の村會議員であり、議員中の古參者として重きをなしてゐる。また氏子總代としても相當幹旋の勞を厭はないところから、一般からかけられる衆望はたゞ厚きに厚きを加へるのみである。

清澤村坂本

村農會長 山田悦

氏は明治十三年十二月、故松藏氏の長男に生れ、身を處する淸直趣味に俳句があり、自ら俳名を一聲と號し宗匠格として地方俳壇に聲名を鳴らしてゐる。元村役場收入役、村會議員、區長、家屋税調査員、國勢調査員等に選ばれ、相當その功を稱へられてゐる。昭和十年來村農會長に推され、また安倍郡農會代議員、土地調査委員など現任、村民からは農事百般に精通した名農會長の定評を與へられてゐる。家は十三代目の古い〳〵家柄で、代々農を本業となして來たものであるが、後ち營業に熱心するに至つた、祖父太左衛門氏は戸長を拜命、夙に茶業の開拓者として多大な功を殘し、父君松藏氏は學務委員として活動しつゝあつたが三十七歳の若い身空で惜しくも世を去つたのである。家には男唯一氏夫妻に令孫があり、極めて圓滿。

清澤村峯山

村農會總代 小林平吉

氏の家は土地切つての最古のものと傳へられてゐる。先々代作平氏は舊幕時代に名主を勤め、先代作兵衛氏は區長、農會總代等に推されて永年盡力し、相當功績を稱へられてゐる。氏は明治五年二月五日の生れ、父祖の業を繼いで農事に精進し、一方また村内の事に關係、村會議員、區長、學務委員たること十五ケ年小學校建築委員長などに擧げられ、昭和十一年の小學校建築に際しては、特に至大の努力を拂つて圓滿に完成せしめてゐる。目下は村農會總代として農事改良方面に力を注いでゐる。また氏は赤十字社特別社員でもある。因に當家は十二代目始祖は武田家の臣なりともいふし、また今川家の臣でもあるといはれてゐるが、主家の滅亡と共に武士をすてゝこの地に隱遁して終に土着したものだとの說がある。

二澤村黒川

村會議員 勝山菊次郎

當家先代故金作氏は區長、産業組合理事に推されて相當年數努力し、また精農家としても名が高かつた氏はその長男明治三十年九月二十日の出生、四代目の當主である。大正六年兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、滿期除隊後は益々家業に勵みつゝある。前に帝國在鄕軍人會清澤村分會副會長、區長、家屋税調査員、國勢調査員等を兼ねて盡力し、現在は二期目の村會議員、六年目の學務委員、八年目の産業組合理事として、最も有望な態度を以て活躍前へ〳〵と進んで居る。性温厚にして着實、しかも極めて公共心に

富み、村内第一人者として衆望を負つて居る。母堂は今健在、夫人との間に三男一女があり、家庭は和氣洋々たる中に浸つて居る。

有度村

帝國在郷軍人會有度村分會

軍事思想の普及は帝國在郷軍人會の努力に俟たねばならない。この軍人會の發展は地方各町村に分立してゐる分會の眞面目なる活躍によらねばならない。そして分會の連絡の統制がなり、謂ゆる異体同心、一体となつて行動することによつて、始めて所期の目的を果すことになるのである。この意味に於て當村分會は有田道純氏分會長をはじめ副分會長、班長等、折柄の日支事變を楔機となし、一層の緊張味を以て分會のために努力し、召集兵の應募、遺族の扶助費など〻寸遺漏なきを期しつゝ懸命の盡力奔走をなし、以て戰線にあるものと、銃後にあるもののために副はんとしてゐる。當村がこれを非常に徳となしてゐるのも、寧ろ當然である。

有度村

前村長 野田才作

氏は村長をはじめ村内あらゆる公、名譽職に就任、しかもそれ〻〻努力貢献しその功を稱へられ、今では村内元老株の一人として重きをなし、直接間接村内の事に與つてゐる。

大河内村平野

高橋醫院

當醫院は内科、小兒科、外一般の診療に應じ、當地方から頗る好評を以て迎へられて居る。院主は温厚篤實、そして人格の高いことを以て好評されて居る高橋金一氏である。氏は明治二十五年六月十九日、新潟縣北蒲原郡黒川村の士族の家に生れ、大正十二年、東京醫學專門學校の出身で、水戸市水戸病院、東京古河工業株式會社醫員、青森縣西津輕郡大戸瀬村大戸瀬病院、鐵道省囑託醫等となつて勤務し、次で本郡大川村々醫を經て今の地に獨立開業、昭和十一年の十月、本村村醫、校醫を兼ねて現在に至つて居る。趣味は盆栽と讀書、夫人との間に四男三女あり、平和な家庭を營んで居る。なほ當院出張所を同村渡十七番地に設けて一般の治療を引き受けて居るが、これまた日に隆昌を見せてゐる。

南藁科村産女

正信院産女千子觀音

當院は今より四百年前、熒翁傳公師によつて開創されたもので、曹洞宗派に屬し、千子觀音を本尊となして居る。現在の本堂等の建物は、默旨賢道師によつてすべて建設されたのである。現住職は淺井佛宗師であるが、師は寺門のために盡力貢献すること二十年、村民から多大の尊敬を以て仰がれて居る。稀に見る有徳の名僧である。

駿東郡

足柄村桑木

村會議員 前村長 小見山竹三郎

誠實微度なる人望家たる氏は明治三年四月七日の出生である。その家は代々庄屋をつとめ、亡祖父周作氏は戸長にも擧げられ、亡父春五郎氏は村會議員その他を歴任せる自治功勞者である。氏は菅沼村足柄村組合役場當時收入役をつとめ、明治四十三年右兩村分離に當つて足柄村助役となり、間もなく村長に擧げられ在任三期種々の事業を完成して一村の繁榮を來さしめた。また村農會長、區長、學務委員たりしことあり、現時村會議員三期目のほか産業組合理事、社寺總代等を兼職する。因に令息章氏は高根村養蠶技手を現任し實力ある俊才と云はれてゐる。

足柄村桑木

村會議員 元産業組合長 小見山伊作

渙々昱々人目の精を奪ふとは氏の如き人材を形容しての言葉であらう。部落切つての舊家で代々農を營む家に、與十郎氏の男として明治十三年に呱々の聲をあげ、夙に常設委員、區長等に選ばれて功勞多年に及び、學務委員に推されて學事に奔走し、産業組合の設立には一方ならず奔走努力して設立後は理事、組合長を歴任しまた養蠶組合支部長としては蠶糸業の發達に寄與貢献し、現時區長、村會議員、大雲院總代、鄕社淺間神社總代を兼ね、あらゆる村政に努め、殊に造林事業に就いては卓拔の手腕を發揮せる自治功勞者中の白眉である。家庭には三男一女を有し、長男權十氏は元青年團長にして現郡青年聯合會幹事として重きをなす。

北鄕村上古城

舊家 高杉敏一郎

當家は部落草分けの舊家で、十八九代を累ねし家である。氏は明治二十八年十二月十六日生れ、中泉農學校卒業後御厨銀行に入り、大正六年五月岩崎氏の紹介で東洋拓殖株式會社に轉じた。同社奉天支店、青島支店勤務を經て、東省實業會社に移り、青島、奉天、長春の本支店勤務を歴勤、大正十一年退職するや大連市に於て茶商を經營、その後東京に轉じ、昭和九年歸鄕、高杉家を繼いで今日に至る。亡父喜六氏は戸長、村會議長、學校

幹事、副區長兼學區取締、醫務取締及び町村制實施後の村長等をつとめ賞杯賞狀を受けしこと前後數十回に及ぶ。大正三年享年七十七にて歿し、その後を令兄太郎造氏が襲つた。太郎造氏は村長、村會議員、郡會議員、同參事會員、同議長、學務委員等に任ぜし自治功勞者である。

金岡村

金岡信用販賣購買利用組合

當組合は大正十四年五月に設立され、現時組合員六百五十餘名、出資千二十口（一口二十圓）、準備金及積立金一萬三千餘圓、餘裕金十四萬二千餘圓を算し、最近一般景氣の向上に伴ひ各種事業共至極順調に進展し、貯金は廿八萬圓、貸付は十四萬圓にして利息の收入成績は相當良好である。購買事業は著るしき進歩なきも肥料、飼料、俵類、米等約五萬五千圓を取扱ひ、販賣は逐次伸展の域に向ひ、米麥等約九千六百俵、甘藷六萬七千俵、その他鷄卵等いづれも相當佳良なる成果を擧げてゐる。農業倉庫は平家六十坪にて昭和十年の開設に係り漸次取扱數量の增加を見てゐる。初代組合長は江原次郎氏。現組合長宮口酒造三郎氏は組合創立功勞者にして當初は專務理事に任じて活躍、後ち組合長に推されて今日に至り、手腕力行の人と評される。

北郷村 一色

元村會議員 湯山金次郎

誠實勤勉にして溫和、村內の信望極めて高き氏は、部落の舊家にして代々農を營む湯山家に、先考藤次郎氏の男として明治八年一月を以て呱々の聲をあげた。藤次郎氏は生前家業の傍ら常設委員、村會議員、社寺總代等に任じて公共のために盡瘁せる功勞者、八十一歳を一期に永眠の床に就いた。氏もまた早くより家業の傍ら自治公共事業に竭し、區長、村會議員、產業組合理事、村農會部農會長、國勢調査員等の諸職に推されて貢献多く現時寶鏡寺總代及び神社總代に擧げられるほか一色耕地整理組合役員として活躍し、村政への寄與甚大にして、產業の開發、思想の善導には與つて功績顯著なるものがある。

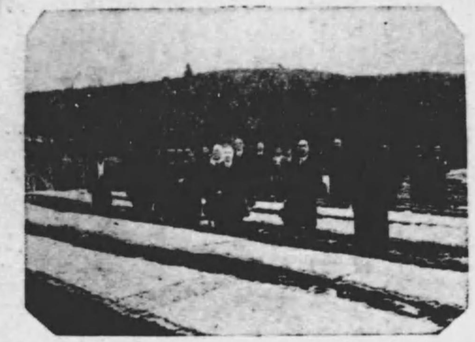
足柄村 竹之下

村會議員 元助役 鈴木信太郎

智辯に長じ手腕に勝れたる氏は、大正六年村助役に就任せるを振り出しに社會公共の事に盡瘁貢献するところ多く、大正十年には村會議員に選ばれて引續き重選今日に至り、同年四月には消防組頭に推されて勤續多年、警察部長、村長等よりその功を表彰された。大正十三年道路組合議員となり現任中、昭和二年には衛生委員長に推され、また同年竹之下耕地整理副組合長に選任され在職二期、昭和四年以來區長をつとめ、產業組合には會て監事として現に理事として努力貢献しつゝあり、その國勢調査員たること三回家屋稅調査員にも推擧され、村治の各方面に關係して功績尠なからざるものがある。生れは明治十九年二月五日、尊父常藏氏は享年四十にて永眠した。因に長男信久氏は文才あり鄕土研究に趣味を持つてゐる。

須走村

須走信用販賣購買利用組合



當組合は須走信用購買販賣組合として昭和六年六月九日に創立認可を得た、まだ歴史の新らしいものである。組合創立の動機は、もと富士山中腹にある地、冬期三ヶ月間は、積雪のために屋外の仕事は全然不能、たゞ空しく夏期登山客相手の收入のみを頼るの外はない故に其間の副業の必要を感じ、それによつて各人の收益を圖ることゝし主として輸出向細寒天の製造と販賣とをなしてゐる。販賣先は神戸貿易商永瀬商會である。組合の一口出資額は三十圓、出資總額一萬五百圓で、組合員數は六十一名である。原料仕入年額約三萬五千圓、製品賣上高は年額約四萬圓、その純益を組合員に配當する。工場二棟、倉庫四棟があり、初代組合理事長は梶靜雄氏、現在は高村彌六氏、專務理事は米山孝氏である。

北郷村 古澤

天理教水口大教會 佐野原分教會 駿東支教會

當教會の格式は天理教支教會で祭神は國常之命、面足之命、國狹土之命、月讀之命、雲讀之命、惶根之命、大食天之命大戸邊之命の十柱の神を天理王命と稱して奉祀してゐる。當教會は明治二十九年七月三日の創設で、初代會長山口元次郎氏を創設者となして居る。爾來熱心布教宣教に力を注ぎ、信者日についで多數を

編へ、同四十年頃、部下講社よりの獻納によつて現在の地に道場を新築し、竣工と同時に移轉翌四十一年天理教獨立認可となるや、一層布教に宣教に努力し、その結果として部内とも信徒いよ／＼増加し、ここに昇格改稱を申請、同四十二年三月七日駿東支教會と改稱するに至つたもので現會長は山口寅藏氏である。

浮島村

村會議員　山田六太郎

當家は今の地に分家獨立して六代目、代々耕耘の業に親み、確實なる産業發展のために多大の努力を拂つて來た家柄である。氏は友藏氏の長男、明治十九年六月五日の生れ、曾て消防世話掛として盡力し、また區長として耕地整理の事業を完成し、公有地「ノビヤキ」の地を區民各自に分割するなど、その功績決して尠少ではなかつた。昭和十二年五月、有志に推されて村會議員立候補を宣するや、八方より後援者現はれて當選、今村治に與つて一村の平和のために奔命して居る。また公設消防設立委員をも兼ねて居る。資性温良、とても眞面目な人。ウメ子夫人は同郡愛鷹村伊藤矢一郎氏の令妹、長男氏は今、家業を助けて居る。

村會議員　川口鶴吉

氏は利助氏の長男、明治元年九月十五日の出生、疾くより代々の家業たる農に從事、肥料の研究家でありまた實際家、そして篤農家としても知られて居た。他面村内の大小の事に關與、即ち消防部のためには二三十年も盡力し、納税方面にも相當努力した、前には出荷組合委員であつたが昭和十二年五月の村會議員改選に際して出馬、この一戰を死後の思ひ出にとばかりに武者振ひ勇ましく奮闘、さすがに古豪、若き闘士と共に轡を並べて村自治の刷新、發展にと盡瘁しつゝある温厚篤實な人望家、農事肥料といへば、歡んで世話して居る。曾て縣農會から表彰されて居る、家族は八人。家は既に長男氏に讓つて今は樂隱居の身分である。

須山村須山

須山郵便局

須山郵便局は三等局で、明治十三年二月一日の開局、同十九年より現在の制度に從つて事務取扱をなして居る。區域は須山村全部で、集配事務は開局當時から開始し、内外爲替事務は同二十二年に開始して居る。内外電信並に電話の事務等は、まだ開始して居ない。そして郵便物の取扱數は、昭和十一年度の引受は二萬九千七百九十一通で、配達は四萬八千八十二通を數へて居る。それに各種保險年金加入者數は二百四十二に達して居るがしかもこれ等の取扱數は無論年と共に增

加するものであり、更に電信事務の開始電話事務の開始等、この方面に對する計畫なども着々進められて居るに違ひない初代局長は渡邊豊次郎氏、現渡邊國信氏は二代目、甲種一級勳功賞を授與され、從業員は四人である。

清水村下戸藏

金通山立泉寺

當寺は臨濟宗妙心寺末にして、本尊は釋迦如來、開山は昭應二年である。爾來時に榮衰ありと雖も連綿として法燈を今日に傳へ、特に戸藏城主とは關係深かりしと傳へられ現在寺の裏山にはその城跡がある。境内一反二畝歩、本堂は六間と七間の建物にて、靈域に更に森嚴の氣を添へてゐる。歴代住職はいづれも歸依の心高き善知識、村民の尊敬をあつめて來た。現住職山理雄堂師は十三世に當り、博覽强記、頭腦明敏なること他にその比少なく、庶民敬慕の的となつてゐる。因に檀家は清水村下戸藏一圓にて、總代は梅田信譽氏である。

浮島村平沼

妙永山法華寺

日蓮宗に屬する當山は釋迦如來を本尊とし、開山は光林院日清上人、その時代は慶長年間である。日蓮上人御眞筆に係る八大童子曼荼羅を藏し、古來當地の名刹として善男善女の參詣多く、杖をつくもの後を絶たず、如來の法光燦として輝きわたつた。靈域の清淨、伽藍の大、語らずして由緒の深きを想はしめる。山主代を經ること三十七世、現住職瓜田春一師は明治二十七年九月一日の轍降にて、佛門に歸依してすでに幾年、修業と精進に刻苦の月日を送り、氣高き沙門として令名今や四隣に普きものがある。因に當寺檀家は約三百戸をかぞへる。

大岡村

天理教嶽東大教會

當教會は明治二十五年十月の創建に係り、天理王命を祭神とする。創建者鈴木半次郎氏は至信の念高き人格者にて、助一條に布教せられたる結果、漸次本國的に信徒を結成し、今日の如く大教會に昇格を見るに至つたのである。一月、十日の春秋二季の大祭のほか四月には婦人會寄年會、總會が開催される。現教會長鈴木平作氏は鈴木半次郎氏の長男、明治十九年十一月十六日を以て生を享け、生涯を天理教に捧げて生活し、現在中教正の資格を有する。部下教會數百七十一ヶ所を有し、目下役員十六名、準役員十名を以て教務一切を處理し、縣下第一位の教會として有名である。

金岡村岡宮大豆島

沼津農學校

電話沼津二七三番

本校は明治三十五年片濱村外八ヶ村學校組合立駿東農林水産學校として開校あり、同四十一年水産科を廢して駿東農林學校と改め、大正十三年第一部（甲種程

度)、第二部(乙種程度)の二部組織なり昭和二年縣營に移管、同六年校名を現在の如く靜岡縣立沼津農學校と改めた。この間校舍の增改築屢次にして、溫室、豚舍、鷄舍、堆肥舍、水肥舍、機械製茶等は他に誇るに足るもの、現在舊第一部は第一本科と稱し、第二部は第二本科と稱す。修業年限各三ヶ年、生徒三百名、職員十九名を有し校長森岡光信氏は愛媛縣の人にして昭和三年十二月の就任である本校生徒は誠實、勤儉、攝生の校訓を基調とし、質實剛健の精神を涵養し、眞摯なる農業者たるべく努力してゐる。

御殿場町　新橋

養蠶業功勞者　故　**勝亦國臣**

翁は慶應二年三月十一日の出生、明治二十二年原里村蠶糸業組合委員に就任、同二十五年原里村村會議員に當選する等早くより自治産業の事業に盡瘁し、公職に在りつゝ、東京專門學校邦語政科全科及び日本法律學校法科を卒業し、郡會議員同議長、御殿場町會議員、御殿場町會議員縣會議員等に當選すること再三再四に及び、大正六年から同十三年まで御殿場町長をつとめ、地方自治に遺せる功績は絶大にして筆紙に盡し難く、また駿東郡沼津市蠶糸同業組合長、靜岡縣農會副會長駿東郡農會長、縣養鷄組合聯合會副會長駿東郡農産物出荷組合聯合會長、縣西瓜組合聯合會副會長、養鷄組合中央會理事縣養蠶業組合聯合會長、其他十指に餘る要職を兼ね、農業功勞者、または養蠶業功勞者、或は地方實業教育振興改善功勞者として表彰數回に及び、大日本蠶糸會よりは有功章を授けられ、觀櫻御會、觀艦式に召されること再三に及んでゐる。

浮島村

妙法山蓮興寺

當寺は日蓮正宗に屬する淨刹にて、草創は今から約五百五十年前の嘉歷三年、本山大石寺第二世日興上人の手によつて興された。爾來遠近の男女の信仰をあつめ、鄕土に誇る靈山として寺號普く知られ、累代の住職はいづれも仁德厚き善知識にて、衆庶の敎化、寺運の興隆に意を用ひ、去登車[illegible]と二十四代、現住職太田廣伯師また檀徒の尊敬を受けて令名高く、毎月一回宛法話說敎會を催ほして宗敎による敎化と衆生濟度に力を盡し、また社會事業に貢獻裨益するところも多い趣味は周易學、その蘊奧を究めてすでに一家を成すといふも過言ではない。

小山町

町會議員、軍友會役員、勳八等　**岩田芳忠**

內に誠實愛敬を藏し、外に正義の剛勇を示現するものは、わが岩田芳忠氏である。明治十六年六月二十八日を以て呱聲を擧げ、岩代家二十代目を繼承、始祖は遠く南北朝時代に活躍せし人なりといふ舊家である。祖父六郎兵衛氏は名主をせしことあり、また沖天の雄志を抱いて永らく支那上海に居住し、會社勤務をしたこともある氣骨の人、尊父は專ら農を業として精勵これ努めた人望家である。氏はこれら祖父の血を享けて誠實と剛勇共に兼備し、町內の信望厚く、堅實なる材幹と評され、會ては消防部長をつとめ、現在軍友會役員及び町會議員として活動してゐる。令閨らくさんとの間には四人の子女あり、また令孫四人を有し至極圓滿の家庭である。

小山町

舊農家、小山町湯船開墾事業組合役員　**高橋勝造**

實直堅實なる中堅人物として衆望頗るあつき氏は明治十八年四月二十二日の出生にて長じて高橋彌十郎氏の資子となつた。抑々高橋家は氏を以て二十代とする舊家にて、もとは木村性を名乘りしも、中世より高橋姓に變更したもので祖先は鎌倉時代以前から當地に住居したといひ、代々農業を經營した。養父は村會議員に選ばれて村政に參與せし自治的才腕家である氏は祖業を承けて篤農の聞え高く、農には町會議員として活躍、今また小山町湯船の開墾事業組合役員に推されて土地の開發と産業の進展に力を致しつゝある。令閨との間には一男一女がある。

北鄕村一色正倉

地主　元村會議員　**山口嘉六**

當家は、大字正倉に於ける草分けの舊家であり、山口家の總本家である。先代善十郎氏は、戶長時代の用係をつとめ、用澤村外十二ヶ村々會議員に選ばれる等自治に功勞多かりしも六十四歲を一期に永眠した。翁はその男、慶應二年九月十九日を以て生を享け、三十八歲の時から常設委

員、村會議員六期、學務委員、國勢調査員、部農會長、消防組頭、淺間神社總代寺院總代、一色耕地整理組合總代、山野統一委員、その他あらゆる方面に關與し殊に山林組合議員としての功績顯著なるものがあり、北郷、高根、玉穗の各村長から表彰されてゐる。嗣子實氏は精農家の聞え高く、五町歩を耕作する豪農である。

北郷村柵頭

産業組合長
元北郷村長
勳七等

小野幸太郎

玲瓏たる性格を有して人望高き翁は元治元年七月の出生、戸長時代の筆生、町村合併委員にして、村制實施後第一回目から村會議員に當選すること一再ならず助役もつとめ、日露戰爭當時は村長の椅子にあり功により勳七等青色桐葉章を賜つた。また村農會長、消防組頭、郡會議員、同參事會員たること多年、産業組合創立以來の役員にて現に組合長に任じ事

浮島

浮島村信用 販賣購買利用 組合

當組合は大正十四年十二月の設立認可に係り、爾來順調に發達して今日に至り組合員六百二十餘名、保證責任組織にて信用販賣購買利用の四種事業を兼營する近年農家經濟の好轉につれて貸付金は減少の傾向にあり現在約十萬三千圓を算しこれに反し貯金は漸增の趨勢にあり八萬二千圓弱を示す。販賣總額は約六萬圓に上り、麥類四千俵、甘藷一萬六千俵、米六百俵を取扱ひ甘藷に於ては本村特產たる名目にかけて今後なほ飛躍せしむべく

績踏るべきもの多い。柵頭耕地整理組合長としての功績も沒すべからず、社寺總代も現任する。道路改修、學校建築、同敷地の擴張等遂行せる事業は一々枚擧に遑なく、實に村内切つての元老で功勞者曩に觀櫻御會、觀菊御會に招かれ、聖上當地御巡幸の際は拜謁の榮を賜ひ、御大典の時は地方饗餼の光榮に浴した。

努力中である。購買は農家必需品の擴大强化に踏るべきものがある。利用部には葬具三、籾摺機四が設備され、好成績を收めてゐる。初代組合長は森信吾氏、二代目成島實氏にして現組合長は初代森信吾氏の再任である。

北郷村柵頭

自治功勞者
元北郷村長

小野勇逸

生涯を自治に捧げ、鄕土北鄕村のために終始した翁は、部落有數の舊家にて、代々農を營みつゝ庄屋をつとめし小野家の出、嘉永元年六月十七日に生れ、大正五年三月享年六十九にて永逝した。明治七年柵頭村外六ケ村の戸長となり、次で第一大區五小區四ケ村戸長、同學校幹事第一大區副區長、柵頭組戸長、三十七學區學務委員、古澤組戸長、古澤村外十二ケ村戸長等を歷任、この間縣會議員にも當選した。自治制施行後初代北鄕村々長に擧げられ、今日の北鄕村の基礎を固めた唯一の功勞者である。この他郡會議員

をはじめ地方自治のあらゆる方面に關與

貢獻し富士紡誘致には特に東奔西走の勞をとり表彰感謝を受けしこと再三に及ぶ。令息信吉郎氏は明治二十五年二月の生れ、翁の後を嗣いで現に村會議員に任じて活躍してゐる。

小山町

小山町信用 販賣購買利用 組合

電話小山五四番

當組合は大正九年六月有限責任組織にて設立され、信用單營であつたが、昭和七年五月販賣購買利用の事業を加へ、翌八年保證責任に改めて今日に至つた。區域は小山町一圓、組合員は五百三十名、出資七百八十口(一口二十五圓)を算する

信用部は取引高漸增の傾向にあり、貸出金十二萬五千餘圓、貯金十萬圓に達する購買並に販賣は、農家の合理的經營化と組合員の利用激增とにより、昭和十一年度の如き肥料の取扱高が一躍前年度の倍額となり約三千四百圓に上つた。利用部には籾摺機及び發芽機がある。近時組合精神の普及と事業の整備は大いに見るべきものあり、組合員の利用增進と相俟つて好成績である。初代組合長山口彌治氏は呉服商を業とし、消防組頭、區長等をつとめしことあり、組合創立には特に功勞ありし人、現組合長湯山正平氏は山口氏の後を承けて卓拔の手腕を發揮して信望あつく、また專務理事室伏熊藏氏は元町長に選任されし當町の有方者にして、現に町會議員の任にあるほか駿東郡沼津市養蠶實行組合長、町養蠶實行組合長、青物市場專務取締役を兼ね令名嘖々たるものがある。

北郷村用澤

元村會議員

梶安五郎

德望四隣に普く、部落の功勞者、篤實なる人格者といはれる氏は、明治六年十月二十九日の出生である。家業農に精勵する傍ら夙に自治公共の事業に參畫貢獻し、常設委員、區長、部農會長、防火組合長、村會議員、耕地整理組合役員、山野統一委員等種多の公名譽職に歷任し、殊に村會議員中の功績顯著にして本村の向上に裨益せるところ甚大である。現在は鄕社淺田神社總代をつとめる。因に當家は十一代を經る舊家にて、始祖は女性法名を源始院妙普月法大姉といふ。代々農業を經營し、祖父甚三郎氏は名主下役をつとめ、嚴父平十郎氏は精農家として聞え社寺總代等に推されし人、八十三歲の長壽を全ふした。なほ長男重雄氏は養蠶實行組合副組長を現任する才幹である。

北郷村中日向

駿河銀行御殿場支店長、元北郷村收入役

小野壽雄

小野家は中日向での舊家、代々農に從事して名主の役をつとめた。先代綱太郎氏は戸長時代から用係等に任ぜし村政の功勞者で、常設委員、學務委員、村會議員、社寺總代等にも選ばれ、七十五歲で幽明境を異にするまで一生を村治に献じた人である。當主小野壽雄氏はその男として明治二十年十一月に呱聲をあげた。大正二年二月駿河銀行に入り、同八年九月まで御殿場支店勤務、一時退職して北郷村收入役となり、大正十二年來產業組合專務理事に推されたが昭和二年十二月再び駿河銀行支店長に拔擢されて今日に至り當地金融界での才幹と謳はれこの間區長、神社總代、寺院總代等を勤めた。

長泉村

長泉信用販賣購買利用組合

常組合は明治四十二年五月の創立にして組合員四百四十餘名、出資五百二十餘口(一口五十圓)保證責任組織にて四種事業を兼營する。緊張堅實を旨とし只管組合員の福利增進を圖り、銳意內容の整理充實につとめつゝあり、貯金は二十七萬圓、作付金は十一萬六千餘圓に上り、販賣は甘藍、麥、甘藷等を取扱つて八萬七千餘圓を算し、購買事業にありては七萬六千七百圓、利用部には肥料粉碎機、同粉末機、六馬力發動機があり、農業倉庫も年々利用者激增し、常に豫期以上の成績を收めてゐる。これ偏へに役職員の努力の結果であると共に、組合員が組合を理解し、組合を愛し、組合精神を發揮して組合を利用する結果に外ならない。現組合長は井上周一郎氏、專務理事は室狀威公氏である。

北郷村阿多里

甲斐醫院長 村會議員

甲斐昇

人の幸福はそれぞれの立場や境遇によつて同一ではないが、しかしいつも健康で、平和に天壽を全ふすることを以て、人生の大きな幸福の一つに數へることには誰も異存はないであらう。人間の健康を司る醫師の責務たるや重且つ大といはざるを得ない。わが甲斐昇氏は刀圭家中の雄、廣島縣の人で明治十八年に生を享け、同三十九年京都醫科大學を優秀の成績で卒業し、各所に於て實地の研鑽を積んで後、明治四十三年當地に開業、內科產婦人科を專門として繁榮を呈し、眞に醫師中の醫師と謳はれる德行家、校醫、村醫を兼ね、また村會議員に當選して村政にも盡すところあり、本村屈指の有力者である。

北郷村用澤

元村會議員

遠藤美雄

村內有數の資產家、加ふるに溫厚篤實を賞される氏の家は、十二三代以上を經る舊家にて、代々農耕の業に從ひ、亡父伍郎氏は村治に寄與貢献多く、常設委員村會議員等に選出されし人望家、先年七

十四歲を以て黃泉の旅人となつた。氏は明治十九年六月の岳降、夙に自治に盡瘁勞力し、村會議員たりしこと多年、また常設委員、區長、學務委員、消防組頭、產業組合理事、國勢調查員、第二用澤耕地整理組合長、山野統一委員、その他あらゆる村治をつとめたる自治功勞者にして、沼津中學校の第一回卒業生、現時清龍寺總代及鄉社淺間神社總代を兼ねてゐる。

北郷村大御神

村會議員 大御神區長

天野茂

天野家は代々名主をつとめし舊家。曾祖父幸逸郎氏は文政五年三月に生れ、明治三十八年十月八十四歲を一期に逝去されるまで公共のために盡瘁せる仁德厚き人、實永年間富嶽火噴火の際、全村火山灰に埋沒して耕作の地を失ひ村民離散の境遇に至りし時、數世の祖孫左衛門氏が率先村民を率ゐて拮据開墾して數段歩の耕地を得た遺業を繼ぎ、鄉黨を率ゐて弘化四年より開墾開拓の事業を起し堅水實十二、長さ一千二百四十七間、獲田二町六段餘、また植林數百町歩、一林一田と雖も獲れば必ず村民に分與し、私慾を出さず、教育衛生にも盡し、實に本村更生の大恩人にて、大正三年頌德碑を建立された。亡祖父孫次郎氏は戸長をつとめ、先考久作氏は常設委員、村會議員に選ばれて村治のために一身を捧げ、昭和八年年七十歲で永眠した。當主天野茂氏は明治二十八年十二月六日の岳降、父祖の血を享けて奉公の念厚く、現時區長二期目の任にあるほか、村會議員、產業組合理事、社寺總代等をつとめ、村の有力者、部落の第一人者と賞稱されてゐる。

小山町

小山町長

高橋文治郎

淵默の智、統御の才、加ふるに人格の高きを以て令名普き氏は、千葉縣の產、明治元年十一月二十一日を以て生れ、同三十四年靜岡縣巡查を拜命、三十八年警部に昇進、縣警察部に勤め、四十三年韓國政府に聘されて渡鮮、間もなく日韓併合となるや總督府警部に任じ、江原道鐵原、平康各署長、江原道警察部警務主任をつとめて後歸省、再び本縣に於て熱海署長に任ぜられたが、またまた渡鮮して各地に署長を歷任して大正十二年退職した。その後小山町助役に推され、昭和八年十一月には町長に選任、卓拔の手腕を揮つて町政に貢献してゐる。

小山町

元小山町長 勳八等

湯山剛平

溫厚篤實、信敎の心篤く、天理敎信者にして大講義の資格を有する翁は文久元

年の出生である。明治十七年菅沼村村會議員に當選して以來自治公共に盡瘁貢献すること多年、戸長役場用係、菅沼村足柄村組合役場助役、同組合長、駿東郡會議員、小山町會議員、同町長、その他あらゆる公名譽職に就き、町長、郡長、縣知事等より時に表彰され、時に感謝狀を贈られしこと一再ならず、殊に明治三十七八年戰爭の時は内治に功勞多きを以て勳八等白色桐葉章を授けられた。町内切つての元老である。四男博愛氏は北海道、東北東京の各帝國大學で研鑽を重ねし醫學博士目下東京市芝區新堀町に開業隆盛を呈してゐる。

北郷村用澤

北郷尋常高等小學校

當校は明治七年北郷學校と稱して設立されしに創まり、爾來數度の變改を經て大正十一年三月より現在の如く改めて今日に至つた。教授の型式に捉はれることなく、偏智教育に墮せず、鄉土に立脚し自學の態度を確立し、作業に訴へて實力の養成に資し、併せて勤勞を尊ぶの良習を涵養しつゝあり、農業に主力を注ぎ、從つて他に類例を見ざる千二百五十坪といふ農場を持つてゐる。約九百名の兒童は品性純朴にして從順、就學率百%、出席歩合九割八分を示し、職員は十九名である。出身名士中には帝大出身の醫學士芦澤文雄氏、同じく神奈川縣立愛甲農學校長鈴木繁氏、三井物産重役水原正雄氏等がある。歴代校長中二代目渡邊芳藏氏は十五年餘に亙り薄給に甘んじて只管兒童の訓育に終始したる功勞者、現校長杉山建次氏は教育的手腕に長ずる材幹である。

御殿場町

御殿場農業青年學校

電話御殿場二一一番

本校は大正八年の創立にて、當初は御殿場町外九ケ町村學校組合御殿場高等農業補習學校と稱した。大正十二年より縣營に移管となり、昭和十年現校名に改めた。心身を鍛錬し德性を涵養すると共に職業及び實際生活に須要なる知能を授け國民たるの資質を向上せしめ、併せて生徒自らが進んで修學するの風を馴致せしめつゝあり、縣下唯一の農業青年學校にして他の模範たるべく生れたもの、生徒は特に志願したる農村中堅人物たらんと希望に滿ちたるものゝみにて現在百名を數へる。校長秋口常太郎氏は御殿場實業學校長にして令名高き名教育家である。

御殿場町御殿場

御殿場實業學校

電話御殿場一一一番

本校は明治三十四年御殿場農學校と稱して創立され、大正三年女子部を設置、一時女子部の分離獨立を見たが、大正十一年組織を變更して甲種となり、更に御殿場實科女學校(舊女子部)を合併して現校名に改めた。昭和九年、男子部第二種(五年制)を新設した。中等學校にして男女を同一校に收容するは本校を以て全國の嚆矢とする。男女關係の訓育に就いては特に重點を置き、且つ國家の興隆は唯に男子の活動に俟つべきのみならず、女子の努力に負ふところ甚大なるを、實際生活に即して會得せしめる。卒業生は男子千七百餘名、女子千五十名を算し、特殊施設として御實農士道場及び新興の家がある。現在生徒數は、男子一種百六十名、同二種百七十名、女子百九十名。現校長秋口常太郎氏は正六位勳六等を有する教育界の功勞者である。

小山町

町會議員

岩田幸惠

生物は物界の花、理想的生活は生物界の花といふ。わが岩田幸惠氏は自治界の花である。十代餘を續く舊家に、先考宮五郎氏を父として明治十二年に生を享け同三十三年菅沼村足柄村組合役場書記を拜命、二年後には收入役となり、三十八年退職して同年富士瓦斯紡績小山工場庶務主任となり、次で工場次長に昇進、昭和二年富士電力會社に轉じ、本社土木課次長兼小山出張所長をつとめ、昭和十年まで勤續した。菅沼村時代から村會議員をつとめ、町制施行後も引續き町會議員に選ばれて現に七期目の任にあり、町議中の最古參者、學務委員、産業組合理事を兼任する。曩に町制二十周年記念に際し町長より表彰さるゝの榮に浴した。因に長男彰氏は慶應大學商科出身の俊才である。

小山町菅沼

向嶽山 十輪寺

當寺は曹洞宗に屬し、御殿場町大雲院末にして本尊は千体觀音中尊聖觀世音菩薩、脇立は毘沙門天及び辯財天女である。建長六年北條時頼公の開創に係り、もと眞言宗月木山重林寺と號してゐたが、元和二年改宗し現在の寺號となつた。改宗初代は智山廣達大和尚である。本尊は出世觀音の別稱あり、立身出世福德良緣の靈驗あらたかなるため近來受驗者の參詣殊のほか多きを加へて來た。毎年四月十五日には恒季法要を營み、夏季には修道集會を催ふす。本堂、庫裡、總門、開山堂の建造物あり、本堂は元祿十四年八世丹山大和尚の建立せしものと傳へる。檀家は小山町、北郷村、足柄村に亙り、總代は湯山保壽氏、湯山重治氏、湯山潤作氏の三名、現住職は菊地良三師である。

浮島村石川

山一製材合資會社營業主任

天野一男

電話原六七番

献身奉公の志操堅く、創造を尚び、向上の精神と潤達なる氣力に滿てるは、わが天野一男氏である。夙に事業界の惑星

として異彩を放ち、昭和十年率先山一製材合資會社の設立を主唱し功あり、製材販賣並に製函建築請負を業として今日に至り、業界切つての手腕家として聲名並びなく、事業は一途に發展の道を辿り、設立後、日尚淺しと雖も他社の容易に追隨し得られぬ業績を示してゐる。これ偏へに營業主任たる氏の力量に俟つもの多く十數名の從業員は慈父の如く、賢兄の如く氏を敬慕信頼してゐる。今後の活躍こそ更に一層期待を大にして待つべきであらう。

印野村

養蠶實行組合長　勝間田國太郎

勤勞に精勵し、善種を推讓してこれを增益するもの、わが勝間田國大郎氏の右に出づるは少ない。氏は原里村陣場勝間田豊吉氏の男にして明治十七年八月を以て呱々の聲をあげ、約三十年前勝間田久七氏の養子となり、十三年前養父逝去の後を承けて家督を相續し今日に至つた。養蠶に就いて種々の研究をなし、斯業の發達向上に資するところ大なりし功勞者にして、現時養蠶實行組合長に推擧されて活躍を續けてゐる。曾ては村會議員、區長、消防組小頭、同部長を各一期づゝ歴任し、現在は前記組合長たるほか區水道組合長、農會總代、森林土工組合員を兼ねる。家庭には二男三女あり、家門益々繁榮を加へてゐる。

高根村

學務委員　林木之進

資性俊敏にして人格高き氏は明治十五年一月十日を以て生れ、長じて當家の養子となり、先代才三郎氏の後を襲つた。當家は氏を以て十二三代とする舊家にて先代は年少の折り上京し、刻苦勉勵につとめ、歸村後は鄉土に文化を導き入れし先覺者、當時近鄉で珍奇とされた輸入ブリキを以て屋根を葺き、世人から「鐵屋根」と呼ばれたこともある。當主林木之進氏は三十歳頃より村會議員三期、農會長等に任じて村政に功多く、目下西遠無盡會社監査役、學務委員を兼任し、須走村に旅館武藏野を經營し、またまた住友生命保險會社甲種代理店を經營する。因みに長男泉氏は明治三十三年出生にて、現に京都帝大醫學部に教鞭を執る醫學博士にして生物學の權威といはれる。次男益雄氏三男知男氏共に社會教化に盡瘁するところが多い。

小山町

駿河銀行重役
元町長、正八位　室伏完

昂揚飛躍、業界の雄として聲望高き氏は明治四十一年兵にて一年志願の主計少尉、除隊後町在鄉軍人分會長に推されて貢献すること多年、また大正九年から同

十四年まで町長に選任されて町政に盡瘁し、現時は町會議員及び學務委員の任にある。町内第一の資産家といはれ駿河銀行取締役その他實業界にも重きをなしてゐる。先考薫平氏は地方公共の事に盡瘁せること實に三十有餘年、富士瓦斯紡績會社の創立に際し率先これに贊して大株主となり、また地方銀行の取締役、郡會議長、縣會議員たること三次に及び、人の衆議院議員候補者に推薦するものあるや他に讓りて受けず人々はます〳〵その襟度に敬服した。明治三十四年六月永眠享年四十六歳。

小山町

岩田醫院長
元町會議員　岩田浩

誠心誠意、親の子を愛するの心を以て患者に接し、一度刀圭を採れば如何なる難病痼疾と雖もこれを治せざるなく、名醫の譽れを恣にするわが岩田浩氏は、明治七年九月十三日の岳降である。明治二十七年濟世學舍を卒業し、爾來臨床上の實驗を積むこと約十年、明治三十六年當町に醫院を開いて今日に至り、傍ら明治三十九年から昭和八年まで町醫に任じて公衆の保健衛生に盡瘁するところ多く、また曩に町會議員に選ばれて町政に參與し醫師としての立場から公共の福祉增進に寢食を忘れて奮闘した。資性溫厚にして人格高く、稀有の名刀圭家といはれてゐる。

深良村

村會議員　小林文藏

部落を双肩に擔つて健闘するの覇氣あるものは、わが小林文藏氏である。數代を相嗣ぐ小林家に、明治十三年八月十日篤農家として知られし先考亀吉氏の男に生れ、二十歳の時令兄の逝去に遭ひしため家督を相續して今日に至つた。溫厚且つ篤實なる中に雄健の氣象を藏し、家業に精勵しては篤農家の聞え高く、村のため部落のために盡しては功勞者と讃えられ、現に村會議員二期目をつとめるほか部落關係の公、名譽職を兼任して專心公共の福祉と部落の繁榮のため奮闘されてゐる。誠に得難き人材にして功績も一々枚擧に遑なき程である。

印野村

前村會議員　勝間田行信

「人多き人の中にも人ぞなき」……と古人は嘆いた。その少い人の中でも、殊に逸材と定評のある氏は、明治二十年六月二十九日の岳降である。實父渡邊豊次郎氏は須山郵便局長たりしことある仁德家にて、正八位勳八等を拜受せし人、六十四歳を以て永逝されたが、渡邊家現主は郵便局長をつとめる傍ら鄉社々司に任じて神社に奉仕してゐる。氏はこゝより出て勝間田鶴吉氏の養子となり、家督を嗣

いで家業に精勵すると共に、村會議員に選ばれては村政に盡瘁し、消防部長となつては一村警防の責に任じ戶長に擧げられるや部落のため骨身を惜しまず奔走し、その他森林組合總代、縣桑園調査員等を歷任した。家庭は男子八名、女子四名にて至福の日々を送つてゐる。

高根村六日市場
村會議員　杉山竹次郎

當家は武田信玄の後裔にて、當地開拓の郷士を祖とし、開祖以來二百有餘年、中世塚原より現地（通稱勘九郎屋敷）に移り、酒造業を營んで盛大なりしため、今も附近では當家を呼んで酒屋といひ、當時使用の珍奇なる酒造用具が今なほ所藏される。近代に至つては農を業とし、特に先々代勘九郎氏は富士岡村より養子に來た人でその刻苦により家運を堅きに導いた篤農家である。當主杉山竹次郎氏は先代宇吉氏の男、明治十九年八月十八日を以て呱聲をあげ、祖父の遺志を嗣いで家業に精勤してゐる。嗣子杉山勘九郎氏は明治二十七年の出生、御殿場町三十五銀行支店に勤務し、將來を囑望さる。

高根村

高根尋常高等小學校

本校は明治七年の創校に係り、當時は字六日市場にあり、大正十年五月山之尻山尾田に移轉、昭和九年十月新校舍を建築、現在に至り尋常科一、二年生のみの分教場を字上小林に置く。兒童の自發的活動を重視し、これを輔導し以て自學自習の習慣を養ひ、實力の養成と創造力の啓培に努むるを以て教育の方針となし、私設電話、ラヂオ、蓄音機等の特殊設備がある。創校以來の卒業生約二千七百人

林木之進氏令息醫學博士林泉氏も本校の出身である。歷代校長は吉田貞一、宇佐美祖孝、山田傳一、高木壬太郎、杉山喬、堀內千代之丞、松井幸三郎、長田登雄、瀧本賢司、杉山鷲雄、鈴木國太郎、高橋美策（現任）の諸氏、現在兒童數六百名、就學步合九割九分八厘出席步合九割八分を示す。

玉穗村中畑

玉穗尋常高等小學校

電話御殿場一六一番

當校は明治二十五年の開校にして、爾

來校地の擴張、校舍の改築再二に亘り、教育勅語の御趣旨を奉体し、日本國民たるの基礎を確立し、將來有爲なる村民たらしむる方針のもとに、農業方面に重點を置いて農民魂の養成につとめ、また兒童の特徴教育を施し、個性的色彩を濃厚ならしめてゐる。毎月十日には學校長の精神訓話あり、兒童と教員とが合同美化作業を行ひ、また毎學期一回最高學年兒童をして樂山莊にて一泊修養會をなさしめてゐる。兒童約六百名、教員十五名、出席步合九割九分四厘、就學步合十割を示し、創校以來の卒業生二千餘名、大正三年三月には優良校として縣より表彰された。現校長野知喜三郎氏は從七位勳七等に叙され高等官七等待遇を受ける逸材である。

足柄村竹之下

足柄尋常高等小學校

富士の高嶺を正面に仰ぎ、鮎澤川のさやくほとり、名高き歷史の蹟見下して我等が母校はそゝり立つ、――校歌の調べそのまゝに理想の地にそびえ立つ本校は、明治七年にその濫觴を發する。その後幾變轉して明治四十二年足柄尋常小學校となり、大正十四年高等科を併置すると共に現校名に改めて今日に至つた。特殊施設として昭和十一年冬より縣の指導に基き改良竈を使用して兒童に製炭の實習を行ひつゝある。教員十名を算し、就學率及び出席率は百%。衛生施設完備し足柄山の金時の傳說を持つところだけに角力の競技は非常に強い。歷代校長は渡邊芳藏、岩田貞治、高橋美策、後藤賢次植松省三（現任）の諸氏である。

金岡村西澤田

芹澤醫院長　元村會議員　芹澤慶佐久

溫厚篤實にして紳士的なる人格者と評される氏は、近來稀に見るところの名國手と謳はれる。抑々芹澤家は當地屈指の舊家にて、文久年間三代目芹澤久右衛門氏は領主本多侯の頃、村有志と圖つて數百本の植林をなして部落財政に永遠の堅きを加へた人、また先代久太郎氏は郡會議員、村會議員、戶長等自治方面に盡力し、名主たりしこともあり、帶刀も許された人材である。氏はその長男として明治十八年一月三日を以て生れた。慈惠醫專に學び、醫術の蘊奧を究めるや明治四十三年十一月現在の地に開業、爾來名醫の聞え高くして隆盛日に日を加へ、また村衛生に貢獻多く、校醫、學務委員に任じ、村會議員當選も三回に及び、郡教育界より表彰二回にわたり、元文相鳩山一郎氏の知遇も受けた。

印野村
前村會議員　勝間田久次郎

終始一貫、自己の社會的使命に立脚し

不撓轉の勇猛心を以て社會のため公共のために奉仕せる氏は、共聲山役員たりしことある菅沼平八氏の男、明治十三年一月八日を以て健かな呱聲をあげた。幼時より頭腦明敏にして俊英の才あり、長じて勝間田久助氏の養子となつた。爾來家業に精勵すると共に村會議員三期、消防組小頭一年、同部長一期、その他學務委員、家屋稅調査員、產業組合役員、國勢調査委員等を歷任し、材能適くとして可ならざるなく、人望殊更に厚きものがある。家庭には四男三女を有し、長男は家業に從事し、次男は海軍兵として皇國のために働いてゐる。

原町

安泰山 德源寺

釋迦如來を本尊とし、妙心寺派末たる當山は、建久四年北條時宗の開創に係る境內三段三畝二歩、墓地一反歩あり、堂塔整ひ、寺內の觀世音菩薩は特に靈驗顯著なるを以て其名、遠近に聞える。毎月十七日には例祭あり、一月十六日の國家泰平祈願、七月五日の大施餓鬼、十月五日のダルマ法事等の行事には遠近の男女老若の區別なく群れ集ひ頗る殷盛を極め

當地名物の一となつてゐる寺寶として獨立山號書を藏する。檀家は原町、片濱村、沼津市に亙り、總代には渡邊耕造氏、渡邊德次郎氏、大石茂作氏等あり、住職內藤宗氏師は歸依の心一筋に高き善知識である。

小山町小山

岩田好太郎

岩田醫院長、町會議員、校醫

剛克雄健の一氣を以て貫き、聲望頗る高き氏は駿東郡足柄村の產、明治十九年を以て生をこの世に享け、夙に醫業報國を志して濟生學舍に入り、明治三十五年これを卒業するや、東京順天堂醫院、丸茂病院等に研究勤務して實地の技を練り同三十九年伊東町松原に於て開業したるも不幸祝融の災に遭ひ、四十一年現在地に移轉、爾來日增しに隆盛を加へ、患家の住來引きも切らず、傍ら明治四十五年以來校醫を兼ね、また大正十三年町會議員に當選以來重選任に至り、學務委員三期目を兼任する。町政、學事、衛生の各方面に功勞顯著なる人材である。家庭には四男四女を有し、長男好之氏は金澤醫大を出て目下研究中、近く博士號を授與されるであらう。

小山町小山

室伏辰次郎

自治功勞者
元縣會議員

世に自治功勞者と稱される人は極めて多いが、氏の如く一身を自治公共のために捧げてゐる人は誠に少ない。大字小山の舊家にして農を營み、代々名主をつと

めし室伏家に、亡父久作氏の男として生を享けてより七十餘年、一意公益に專念したのである。明治二十九年三十歲の若さで六合村會議員となり、引續き町會議員に選ばれて就任三十年餘、また郡會議員九期、同參事會員をつとめ、明治三十二年の頃小山郵便局長を命ぜられ在職四ケ年、遞信事業の先覺者でもある。昭和二年縣會議員に當選、參事會員をも兼ねた。その他學務委員、區長、町農會長、消防組頭、擧げ來れば限りなく、功績は筆紙に盡し難い。四男四女を有し、長男武氏は町助役及び町會議員をつとめし信望家である。

金岡村 岡川色

村會議員 學務委員 野秋直太郎

一國の除替は一にかゝつて教育のことにありといはれ、教育事業こそ最も重要なるものゝ一つである。氏は明治五年一月一日の吉日を以て生をこの世に享け、明治二十八年三月尋常師範學校を卒業、爾來縣下各地の小學校に教鞭を執ることゝ實に三十四年間、校長を最後に退職し、その間の功績は一々枚擧に遑なく、慈愛に模範的な名教育家の定評を有し、父兄の信望は到る處で高かつた。されば教育功勞者として縣知事より表彰されしも宜なることである。因に尊父は農業を營みつゝ戶長をつとめまた教育界に貢獻ありし仁德の人、令息は慶應大學を出て目下北海道釧路市に開院せる刀圭家である。

原里村 一島田

助役、正八位 芹澤英夫

當家は代々現地に居住、先代十四雄氏は明治二十二年六月、原里村印野村組合村當時村役場書記を振り出しに助役、組合村長に擧げらるゝこと四度、組合會議員、原里村會議員三期、郡會議員二期、原里村長に選ばるゝこと五度、學務委員郡町村長會長、縣町村長會幹事、その他山林組合會議員、學校組合會議員、郡農會評議員等、あらゆる公職に歷任、村長在職中の昭和二年十二月十四日、六十三歲を以て長逝したが教育の發展、青年の指導、

村勢の向上發展に、村風の改善にと努力終に優良村と謳はるゝに至つた功績顯著なるものがある。氏は其男明治廿二年二月十日の出生、一年志願兵の陸軍工兵少尉で正八位、現村役場助役、消防組頭、縣消防組聯合會評議員等を兼ねてゐる。

原里村　川島田

天理教神場支教會

創建者は勝亦正司氏で明治二十四五年頃、本村神場に出張所を創設京都河原町分教會に屬し、同三十二年、當村川島田教會所を建築、同三十五六年頃水口大教會に屬し、同四十一年天理教水口大教會佐野原分教會神場支教會となして今日に至つてゐる。現在部分教會七十ケ所、信徒一萬近くを有し、支教會中の最も大なるものとされてゐる。正司氏が三十五六歳の頃祖父氏が病に臥し、醫師の匙を投げるに及んで信者となり、一念信仰した結果全快を見、これが動機となつて自ら支教會を起すに至つた。其男隆吉氏は父君の後を驛ふて現在に及んでゐるが、明治三十九年兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、一等兵に昇進して除隊、在郷軍人分會班長、消防部長、副組頭、區長、村會議員、氏子總代として盡力するところがあつた。

富岡村

村會議員　眞田清三

當家は本村眞田一門の總本家で、土地屈指の舊家、先代新次郎氏は村會議員二期、その他の組合議員に擧げられて自治に貢獻する多大なるものがあつた。氏は明治二十八年二月二日の出生。大正四年豐橋歩兵第二十一聯隊に入營した。父君の區長當時、氏はその隻腕となつて輔佐し、後ち村消防組に盡瘁、第七部長として活躍、昭和九年五月、その副組頭に推されて現在に至つてゐる。氏はまた村會議員、納税組合副組合長現任中であり、税額査定については眞劍的に均當を期すべく納税組合を組織し、村更生の緒につかしめたる如き、氏の勞大なるものがあり、しかも斯の如き士を村會に送りたる本村のために祝福すべきことである。

高根村　振原

元村長　杉山隆義

當家は長壽者の家柄か、先代五郎氏は通り名を吉兵衛さんと呼ばれ、村の功勞者であつたし、しかも八十二歳の長壽を保つた人。氏また七十九歳の高齢でぴんぴんたる健康振りに青年から羨まれてゐる。町村制施行後、第四代目の村長として村治に臨み穩健にして質實なる其態度は村民の人望をあつめ、今なほ村の功勞者、長老として敬虔の念を以て迎へられてゐる長男昌治氏は五十三歳、現に裾野實業學

校長として青年訓陶に活動してゐる。因に當家は凡そ五六百年前から連綿續いた舊家今より八代前の惣兵衛氏以後、代々名主役を勤めて土地に重きをなして來た名望家である。

印野村　足柄村

學務委員　山本幸太郎

氏は曾て村會議員に選ばるゝこと三回村治に對する功績の大なるものがあつたし、その他常設委員、消防組小頭、農會役員、區長二期に推さるゝなど多年、また功を樹てゝゐる。現在は學務委員であり産業組合理事でもあるが、その絶えざる努力は、必ずや大なる功績を結ばしめずには措くまい。氏の家は七八代目の家柄先代は長吉氏、氏はその長子、明治十七年二月九日の生れ、資性溫厚篤實、なかなか信望の篤い人、趣味としては銃獵がある。家庭は四男六女の子福者であり、長男清氏は宇都宮農林學校を卒業の俊才で本縣社會課に勤務してゐるが、その前途を囑望されてゐる。

足柄村竹之下

元村長　元郡會議員　岩田精次郎

足柄村の元老にして村治功勞者中の隨一たる翁は、文久二年十月十八日室伏金平氏の二男に生れ、二十三歳の時岩田源藏氏の養子となつた、實父金平氏は菅沼村會議員、區長等に任じ、七十二歳を以て永眠、養父源藏氏は當家現在の基礎を築いた人で、竹之下區長、足柄村會議員をつとめ七十二歳で長逝した。氏もまた夙に社會公共に盡瘁し、竹之下區長村會議員を多年、菅沼村足柄村組合役場收入役、同助役を歷任、大正二年村長の椅子に就き在任一期なりしも功績頗る多く、また郡會議員二期、同參事會員、學務委員、消防組部長、興雲寺總代、淺間神社總代をつとめ、現時産業組合理事として重きをなす。因に養子柄丸氏は高橋村上小林勝又家の人で現時助役をつとめる。

足柄村　竹之下

足柄村信用販賣購買利用組合

本組合は大正十年三月二十三日に創立したもので、現在は保證責任の組織で信用、販賣、購買、利用の四種の事業を取扱つてゐる。出資一口の金額は三十圓で村全體を組合區域となし、その加入者は二百四十餘人で、口數は三百七十餘口に達してゐる。貸付金總額は六萬四千餘圓であつて、貯金總額は十萬六千餘圓を計上してゐる。即ち貯金に於ては前年度に比して六千圓の增加を示し、貸付金にあつては償還、貸付の異動が增加し、利息の收入また良好で約六萬圓の餘裕金を見せてゐる。販賣部では藥、木炭の加工販賣をなし、購買部にあつては肥料、その

他米・麥・雜貨等を扱つて相當の利益をあげ、利川部にあつては籾摺機によつて好成績を示してゐる。前組合長理事は小見山伊作氏で、現在は岩田佐十郎氏。

高根村六日市場

高根須走組合村長

杉山謙三

氏は六代目だといふ。父君は爲右衛門氏明治十一年三月九日生れで、代々農を本業となして來た。氏が過去の業績は村役場の收入役としては納税方面に特に功を致し村長に推されては滑滑勝な村治の上に刷新を施して明るくし村會議員となつてはとかく陷り易い情弊を打破して責務を果すことに精進せしめその他常設委員村農會長、消防組頭、産業組合長、氏子總代などとして盡力貢献するところ偉大なるものがあつた。現在は高根須走組合村長であり、そしてまた學務委員、産業組合理事、寺總代などを兼務奔走してゐる溫厚篤實の人望家で、村内に於ける元老でもある。五男六女の子福者である。

足柄村竹之下

村會議員

湯山亥太郎

氏の家は今より二十代も前にすでに當地に居住したもので、それ以前は明かでないが累代農業に從事、夙に篤農家として土地に知られてゐる。氏は表吉氏の三男明治十二年一月二十日の出生。長じて家業を助け今日の基礎を鞏固ならしめたもので、その實直な性格は衆望の歸するところとなつたのであらう。一度村會議員に當選するや、小にしては村治のため大にしては邦家のためにとの一念を以て男加壽夫氏は現在鄉軍役員として努力。努力を傾けて專心村治に盡し功績を樹てゝゐる。青年團役員としては青年指導の爲めに日夜奔命力を致し、檀家總代としてまた萬遺憾なきことを所期して奔走してゐる。夫人との間に五男三女がある。

北鄉村

村會議員

從七位

林與四郎

氏は明治二十八年七月二日故半次郎氏の男に生れ、御殿場實業學校を經て麻布獸醫學校に學び、卒業後、東京に在つて研究を重ね、大正四年、當村に開業して引續き今日に至つてゐるが、この間一年志願兵として騎兵第十九聯隊に入り、後ち三等獸醫に任官正八位に叙し、更に二等獸醫

に陞進して從七位に叙せられた。同九年村青年團長、郡青年團幹事、在鄉軍人村分會長、郡聯合分會副會長、村分會顧問郡獸醫蹄鐵組合長、郡蹄鐵會長等に擧げられ、盡力し現在は村會議員をはじめ尙防組頭縣獸醫師會理事、武德會縣支部奬勵委員、同會御殿場支部常議員、駿東郡沼津市家畜保險組合技術員、山梨原中野忍野二村の囑託その他幾多の公職に關係活動してゐる。

足柄村

産業組合長

岩田佐十郎

氏は本村産業組合創立以來、理事として監事として鞅掌精進するところがあつたが現在はその組合長理事に選ばれ、部下を統制督勵してよき業績を擧ぐべく更に邁進してゐる。氏はまた明治四十三年來、村會議員たること多年、その他村役場收入役助役、區長、檀家總代などにも擧げられて甚大な功績を讃へられてゐる自治の功勞者でもある。當年は六十五歳か。身は老境にあれどはり切つた元氣で組合のために懸命の努力を續けてゐる。

北鄉村一色

村會議員

勳七等

山口六三郎

氏は文四郎氏の次男明治十一年三月五日の出生。既に二十代も經たといふ舊い家柄で今でも農業を營んでゐる。明治三十七八年日露の役起るや、騎兵軍曹として從軍各戰線に立つて功を致すところ大なるものがあつた。平和克復後、その功によつて勳七等を賜はり、男子としての面目を輝かした。曾て區長に擧げられ消防部長として業績を樹て、村内の信頼を一層深からしめ、村民の代表者となつて村會に立つて活躍してゐる。また氏子總代をも兼ねてゐる。

大岡村下石田

村會議員

木下周作

曾て愛鷹山の山林境界問題の起つた時村長を輔けて解決せしめたのは、實に當家先代周次郎氏で、氏は村役場書記より收入役、助役等を多年勤め、また村内消防の七部制を三部制となし、且つ消防器具を設置するなど、四代の村長を輔けて多大の功勞を樹てゝゐる。氏はその長男明治十九年六月七日の出生、區長と農會副會長とに永年任じ、大正十二年の震災當時は寢食を忘れて活動したほどで、その職務に對する忠實さは頗る村内を動かしてゐる。その後産業組合理事、幹事、評定員、納税委員として活動し、現在は村會議員、村政に與つてゐる。氏は青年時代より、政治思想を研究し、郡内政友會の相談役として農事を中心とせる青年團等に働きかけてゐる。消防功勞賞をあたへられた功勞者である。

北郷村古澤

村會議員 芹澤孝逸

當家は十代前の家系を詳かにして居ないほど、村の舊家であり、そして代々農を相續いで家業となして來た。先代平重郎氏は村會議員として村治に、區長として區政にあづかり相當の業績を高め、その功勞は今も稱へられて居る。氏はその長男、明治二十一年一月五日の生れ、早くから家業に精進して今日に至つて居る現村會議員として村政に關與、村會では一方の闘士として重きをなし、また耕地整理組合長としても活躍を見せて居る。とても堅實な人、別にこれと定つた趣味がない。夫人は柔順貞淑な人、そして內助の功勞者でもある。一女一孫がある。

大岡村北小林

村會議員 加藤萬作

同家は村內に聞えた農家、また養蠶家でもあり、五代前から分家したもの、先代亡虎藏氏は區長、評議員、氏子總代、その他村內世話役として圓滿に治めた溫良の人だつた。氏はその長男、明治十九年十月七日の出生。明治三十九年名古屋輜重隊に入隊、滿四除隊後は村內消防訓練の任に就き、在鄕軍人會委員、消防小頭、部長、副組頭に推され、當時七部制の消防組を三部制に改め、また幹部と計つて最新式の器具を備へるなど非常の功勞があり、消防より功勞賞を授けられた現在は郡政友會委員となつて政治方面に力を入れ、二期目の村會議員として村治に關與、村政刷新に向つて邁進しつゝある。夫人はミネ子さん、長男は家業に從事して居る。

印野村

學務委員 勳七等 岩瀨政男

氏は明治二十五年三月十四日出生。大正元年歩兵第三十四聯隊に入營大正三四年及び八九年戰役に出征その功によつて勳七等に叙せられた。帝國在鄕軍人會印野村分會長を永らく勤め、村會議員たること三期、その他村農會役員、消防組小頭、部長、常設委員、國勢調査員等に推されて盡瘁するところあつたが、現在は學務委員として活動して居る。趣味は庭造り氏の家は岩瀨から分家したもので、約九代を經て居る。父君喜三郎氏は昭和三年七十八歳の高齢で世を去つた。夫人との間に一男三女があり、長男貞氏は目下御殿

場實業學校在學中の俊才である。

清水村伏見泉頭南

大東紡織株式會社 沼津工場

電話三島一七六番 六六五番

當工場は大正七年十二月東京キヤリコ製織秩式會社沼津分工場として設立せられ、大正十年五月本社が東京モスリン紡織株式會社と合併せるにより同社沼津工場となり、更に昭和十一年十二月社名を大東紡織株式會社と改稱された。本社は東京市日本橋區蛎殼町二丁目十六番地にあり、資本金一千七十萬二千六百圓（一株の金額五十圓）である。取締役社長鶴見左吉雄氏、常務取締役楠本吉次郎氏、同杉本德三氏、同白石德三郎氏、取締役小松恒太郎氏、同角田晴之助氏、同木村雄次氏、監査役金子良吉氏、同犬塚勝之丞氏、同深井三男氏。尙當工場從業員は九百三十人にて、モスリン、ステープル紡績織布並に漂泊精整を行ひ、工場長岩井貞國氏、工場長三崎道郎氏、事務長伊藤廉三氏である。

印野村

村會議員 池谷兵吉

氏の家は當村切つての養蠶家、春蠶のみにて二百貫、その他を合すると一ヶ年四百貫からの收繭高を見せて居るといふ父君伊三吉氏は村會議員等に選ばれ、八十七歳の長命を以て昭和十一年に逝去した。氏は日露戰爭當時國民兵として召集され、從軍記章を授けられた。會て消防組小頭同部長同組頭、區長、養蠶組合支部村長、役場助役、農會副會長、常設委員、農業調査員國勢調査員等に盡力、現在は四期目の村會議員、學務委員、產業組合理事、養蠶實行組合長を兼ねて奔走して居る、趣味は狩獵。大正四年、郡農會長から表彰されて居る。長男貞一氏は韮山中學出身にして現に二期目の青年團長在任中。

小山町

法雨山甘露寺

當寺は、武藏國高麗郡龍穩寺末にして開基は正嚴德勝和尙（俗名楠正勝、年代は嘉慶元年である。その後天文九庚子年襄庵に歸し、元和三乙巳年龍穩寺十八世洲珊嶺渚大和尙が再興し、これを第一世となす、第二州鐵心御州禪師の代に現今の地を寺刹を建立したので、御州師は後年大本山永平寺二十九世の貫主となり、靈元天皇より大覺佛海禪師の號を宣下せられた名僧といはれて居る。現代深谷博道師は第十九世に當り、十八世道契師は寺運傾き寺有財產も大半放賣せられたりしを整理し、現在の田畑山林等完全に寺有となし、大いに聲革したのみか、大正十二年の大震災にて寺院堂宇一時に倒壞し、これが再建に二萬餘圓の資を募り壯

麗なる大伽藍を新築せし等みな道契師の努力甚大なるに依る。

印野村萩野

養蠶實行組合長 渡邊正美

氏の家は始祖以來既に二百年も閲した家柄そして歴代農を本業として來た。父君は正吉氏、區長に推されて盡瘁するところあり、疾くから人望をあつめて居た氏は明治二十三年八月に今の地に生れ、大正四年兵役に服して看護兵となり、滿期除隊後は熱心家業に從事しつゝ今日に及んで居る。前に村會議員に選ばれて村政方面に熱心盡力よく村治の副ふところがあつたし、また消防部長としても部下の信望が厚かつた。目下は養蠶實行組合長を帶びて斯業の刷新に實行にと鋭意精進しつゝある。家には六男四女あり子福者として羨まれ、家庭は極めて圓滿である。

小山町菅沼

正六位勳五等
駿東郡沼津市
養蠶業組合長

湯山正平

電話小山六八番

養蠶業の進展は農家經濟の更生に大なる關係ありとして熱烈以て盡瘁する氏は明治十七年五月十五日の出生、夙に軍醫となり、同四十三年十二月陸軍二等軍醫に任ぜられ、大正八年九月退官、爾來令夫人(女醫)と共に現地に開業して、今日に至り、傍ら自己産業に貢献多く、曾ては小山町長に選任、今また小山町産業組合長小山町養蠶實行組合長駿東郡沼津市養蠶業組合長等を兼ねて農家經濟の向上と産業の進展に盡して居る。

大岡村日吉

旭食料工業合資會社

電話沼津一四三番

罐詰その他食料品加工を營む當社は、昭和十一年四月に新設されしものにして資本金十萬圓、爾來日尚淺しと雖も事業成績大いに見るべきものあり、最初の一ケ年に於て約百五十萬圓の産額を示し、當地食料品工業界に萬丈の氣焔を吐いてゐる。密柑果物及び魚類に特に優良低廉なるもの多く製品は佛國、英國、南アメリカ等に輸出され、なほ續々新販路の擴張を見てゐる。從業員百名、待遇の良好たること他にその類が少い。代表社員池邊庫彌氏は水産講習所出身にて陸軍少尉昇揚飛躍の人として令名がある。

小山町

小山産業組合理事
小山齒科醫院長

小山彦平

人格高潔にして資性温厚、當地齒科醫師會に重きを成す氏は田方郡中狩野村の出身、明治二十三年七月一日を以て彦次郎氏の男に生れ、大正元年東京齒科醫專を卒業、その後暫く實地の研究に沒頭し大正四年現在地に開業今日に至る。小山

第一小學校醫を大正十二年から囑託され學校衛生に功あり、齒科醫師會副會長としても重きをなし、また信用組合理事を現任する。令弟武藤壯男氏は明治藥專出身の藥劑師にて小山町に藥局を經營中。同じく令弟日出男氏は慈惠醫大に學べる新進刀圭家にて目下東京に於て實地研究中である。

小山町藤曲

町會議員

藤田鏡

新鋭よく信任をあつめて人望殊更に高き氏は明治三十二年六月十五日の岳母である。夙に中央商業學校に入り大正十年優秀の成績を以てこれを卒業するや、直ちに東京市所在の株式取引商店に入つて勤續二ケ年、退職後現在の富士瓦斯紡績會社に入社、小山工場庶務係として全工場の信任と人望を一身にあつめて今日に至る。爰に町會議員に選任せられ、議員中の最年少者にて氣慨當るべからず、町政上に及ぼせる功績頗る多く、前途洋々として一般から囑望期待されてゐる。因に當家は藤田姓を名乘る一族中でも古い方で、尊父蒲作氏は商業の傍ら部落世話役ををつとめた人である。

原町

旭醫院

電話三一番

當醫院は內科、小兒科を專門となし、患家の氣受けが最もよい。院主は旭初雄氏、亡父君が開業醫師として永らく開拓した土地である。氏は明治三十一年十二月十九日の生れ、大正十一年三月、東京醫學專門學校を卒業し、直ちに順天堂病院に勤務、傍ら大に實地を磨くところがあつた。同十二年、在沼津市の澤病院に轉じ、內科を擔任してゐた。同十五年、同病院副院長に就任、信望いよ〳〵高きを加へるに至つた。昭和四年十一月、今の地に開業、傍ら從前通り同病院に通勤しつゝあつたが、同九年、同病院を辭し專心旭醫院に全精神を打ち込んで努力してゐる。地はもと父君の開拓するところまた町內並に附近から單獨開業を囑望されてゐたゞけあつて、一度氏の開業を傳へ聞くや患者翕然としてその門に群衆するの盛況を呈してゐる。氏は今、原小學校醫、原町々醫、駿東郡醫師會理事、駿東郡學校衛生會副會長、原青年團長などに選ばれて兼任してゐるが、一般からはその將來を期待されてゐる。氏はまた、町內貧困者のためには歡んで無料診療に應じてゐる。趣味はテニス、碁、讀書で家には母堂、夫人との間に五子あり、令妹さんは縣立沼津高等女學校理科教授を奉職してゐる。

北郷村大胡田

廣瀨醫院長
元村會議員
元校醫

廣瀨惣治郎

資性穩健、思想堅實たる氏は、信念に强く、方技に冴える人望家である。嚴父清十郎氏は皇漢醫として令名高く、校醫等をつとめし衛生功勞者である。氏は父

久二年十二月十日を以て呱聲をあげ、幼時より仁術を以て世に報ゐんことを志し明治十九年刻苦勉勵の効顯はれて醫術試驗に合格し、直ちに組業を繼いで今日に至つたこの間村醫、校醫を囑託されしこと二十有五ケ年公衆衛生、兒童保健に功績多大にして、傍ら村會議員、學務委員に當選して社會公共に關與貢獻し、一面村治功勞者としても有名である。現在社寺總代をつとめ、村の元老と尊敬される。令息千秋氏は東京醫專卒業の逸材にて富士紡小山工場病院に勤務中である。

御殿場町

御殿場信用販賣購買利用組合

當組合は大正十二年三月の創立にて、組織は保證責任、四種事業を經營し、附設の農業倉庫は敷地二百餘坪、建坪七十坪である。組合員七百六十餘名を有し、出資約二千六百六十口、準備金及び積立金九千餘圓、借入金一萬六千二百餘圓、餘裕金二萬七千四百圓弱をかぞへ、昭和十一年末に於いて次の如き概況を示してゐる。

貸付金	一三三五、四〇〇圓
貯金	二四四、七七九圓
販賣年額	五、三四九圓
購買品賣却年額	二八、二五三圓
農業倉庫收入	三二七圓

役職員の努力と、組合員の組合精神向上のため常に好き成績を收めつゝあるは大いに祝福すべきである。現組合長は鈴木文作氏。

原里村板妻

産業組合理事 長田藤作

動七等

氏は明治十三年三月二十九日、元三郎氏の二男に生れ、明治三十六年、現地に分家獨立して今日に至つたもので、同三十三年、靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、同三十七八年日露戰役には從軍參加、歩兵軍曹に累進、功に依つて勳七等に叙せられたのである。帝國在鄉軍人會原里村分會評議員、消防組小頭、同部長、部提會長、養蠶組合監事、國勢調査員、村會議員等に擧げられて努力するところあり相當の功を稱へられてゐる。目下は産業組合理事たること七年目、區有地財産管理委員を兼ねて活動してゐる。溫厚篤實な、そして人望家である。さく子夫人との間に五男三女の子福者、長男は博氏、御殿場實業學校出身、家にあつて父業を助けてゐる。

原里村

原里村信用購買販賣利用組合

大正九年十一月に設立されし本組合は當初有限責任にて信用事業のみを營んだが、大正十一年購買販賣利用の事業を加へ、昭和八年三月保證責任に改めた。大正十年には組合員五百八十名であつたが昭和十一年には六百九十餘名に增加、貯金も大正十年には僅に一萬五千圓なりしも昭和十一年には二十二萬七千圓に增加した。現在貸出金は千百有餘件、二十一萬圓に上り、預金は約九萬圓、利用設備には葬具三組、醬油搾二組、籾摺機二組發動機二台あり、販賣は苗木、木炭、玉蜀黍を主に三千餘圓、購買は玄米三十五俵をはじめ約三千三百圓に達する。現組合長は菅沼武男氏、專務理事は芹澤善吾氏である。

大岡村

東京麻絲紡績株式會社沼津工場

電話沼津 五四四番・八八七番

ラミー糸紡績業界の覇者たる當社は大正五年十二月の設立、當初資本金百五十萬圓なりしも同八年四百五十萬圓に增加同十二年百三十五萬圓に減少、次で昭和九年再び增資して、三百萬圓となり今日に至つ

當工場は敷地七萬坪精紡機二萬錘を有し職員四十五名職工千三百名にて製糸年産三百萬封度、織布七萬反(廣巾)に及ぶ販路は内地一般、朝鮮全道、滿洲、支那南洋、歐米諸國にまで亘る。本社は東京市日本橋區本町にあり、重役は專務取締役石崎石三氏、取締役林莊治氏、同大橋常太郎氏ほか五名、監査役杉山周藏氏ほか一名である。

原町原

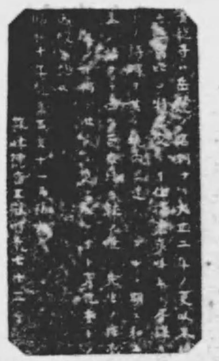
鈴木由太郎商店

電話四番

當店は大正二年、業界稍々不振の時代に創めて開業したものであるが、經營者の堅忍不拔なる、從業員の主を思ふ子心とがよくこれを突破し得て、遂に今日の大成を見るに至つたのである。事業は輸出トロンヲーク、刺繍、レース、パテン加工業で、その製品は北アメリカ並に歐洲に向けて輸出され、多大の好評を博してゐる。曾て佛國博覽會に出品して賞を受け、また昭和八年、長くも皇太后陛下より御買上げの光榮に浴してゐるは以て當商店の製品の如何なるものであるかを、確實に知ることが出來るわけである。今神戸市葺合區宮町電話葺合一一〇八番並に東京市荏原區小山町一一八とに支店を設けてゐる。

高根村増田

護法芙蓉山 青龍寺



當寺は人皇第四十一代持統天皇の朱雀丙戌元年十月役小角行者の開山に係り、臨濟宗鎌倉延長寺末にして觀世音菩薩を本尊とする。建武二年、新田足利兩氏が竹之下に合戰せし時兵燹にかゝり古記錄等を烏有に歸せしため由緒の詳細を傳へ得ないが、當村は往昔青龍寺村と稱せし時代あり、天和年間に至つて增田村と改めたもので、當寺が鄕土開發の以前にすでに建立されたことを物語つて餘りある。境內千五百坪、本堂は間口九間、奥行六間、庫裡は九間四面にて天保九年の建立なりと傳へる。寺寶に釋迦如來行者尊像畵、乃木大將血痕附着の被覆、出產釋迦像を藏し、德富蘇峯翁の詩碑がある。現住職中山易誠師は二十五世に當り、檀徒總代は林悟男、遠藤善雄、小野和三郎の諸氏である。

愛鷹村

三井高次郎

縣農會副會長

氏の家は代々當地に居住、父君は村自治方面に盡瘁功勞のあつた人格者である。氏は明治二十九年十一月の出生、中泉農業學校出身の陸軍歩兵少尉、現に縣農會副會長、產業出荷組合長を兼ねて縱橫に活動してゐる。當村は由來產物の多い地であるところから、氏は夙にこの點に注目、產出者の利便を念頭に專心してゐるが、主要產物は甘藷、茶、大根等で、農會の取扱は八割に及んでゐる。また縣農會とは密接な連絡をとり、殊に技手、植松氏等の指導によつて非常な發展を見せ縣奬勵の千貫取にも當選してゐるほどで一に氏が努力の賜物である。氏が十二年前、少壯の身を以て疾くも縣農會副會長に推されたる、また故なしではない。

深良村市場

大庭寛

村會議員、元郡教育會長、勳八等

教育者中での典型的模範人物たる氏は明治十六年十一月十日を以て區長、部落世話役等をつとたる先考艶吉氏の男に出生、明治三十九年靜岡師範學校を卒業し直ちに駿東部浮島小學校に奉職、次いで同郡大岡校を經て、同郡北鄕小學校長に榮轉し、更に沼津女子、沼津男子、柳原（現沼津第三）、浮島、愛鷹、深良、御殿場の各校長を歷任し、昭和八年退職、その間郡教育會長、郡校長會長、縣教育會參事、縣教職員互助會評議員、縣體育會評議員等をつとめて教育界に重きをなし

當時としては稀有の高等官七等待遇を受け、功により從七位勳八等を賜つた。郡の學用品購買組合の設立にも盡力し、青年訓練所設置當時はその指導に尠なからず貢獻した。現時村會議員として村治——特に教育の普及向上に盡して居る。

小山町

加藤善藏

三井物產食料品特約店元町會議員

資性溫良勤勉家にして商才に富む氏はまた町內切つての有力者である。明治二十三年富士郡原田村に於て呱々の聲をあげ、大正四年當地に來つて呉服商を開業同十二年より食料品卸商を兼營するやうになり、酒類罐詰の問屋、三井物產食料品特約店として經營、年と共に良好となり、今や小山町商工界の第一人者と評されるに至つた。多年町商工會長をつとめて功勞あり、町會議員にも選ばれしことあり、現在は產業組合理事及び所得調査委員を兼任する。人材中の人材にて當町の至寶とも稱すべき存在である、因に御殿場線駿河驛前には出張所を置く。

小泉村佐野

佐野郵便局

當局は明治七年九月の開局にしてその後幾變遷を經て佐野郵便局となつた。小泉、泉、深良、富岡の四ケ村を區域として電信だけは右四ケ村のほか須山村及び三島町の一部をもふくむ。大正九年電話通話事務を開始、同九年よりは交換をもなしてゐる。歷代局長は杉山角平、星野德三郎、星野力の諸氏にして、現局長渡邊愼一氏は明治四十一年の就任、當地方局長中の古參者で、三等局長會の部長を現任し、また村會議員として活躍せしこともある。令孫三郎氏は小泉村收入役、助役、村長、郡會議員等の經歷を持つ自治の功勞者、現に村會議員及び學務委員を兼ね、日夜寢食を忘れて自治公共の事に盡瘁してゐる。

富士岡村二子

村會議員

杉山到自

氏は明治二十一年八月一日、先代僉次郎氏の長男に生れながら、病弱なるが故に、土地草分けの名家を長姉に護つて分家した人。大正十五年、區長を振出しに消防富士岡の元第二部の組頭として貢獻するところがあつた。現村會議員として村治に與ると共に、また二子養蚕實行組合長を兼ねて活動を見せてゐる。また昭和三

年來、氏子總代としても奔走してゐるが不幸にして夫人との間に子なく、家業を令弟五郎氏に委ね、自らは隱居してたゞ村政へのみと心を注いでゐる。因に當地は政友會の地盤として政爭なく、平和そのまゝの良村である。家は十一人家族。

小山町湯舟
町會議員　**池谷貞治**

志操堅實性質溫和、重厚にして町內の信望高き氏は明治二十年十月二十日の出生、抑々池谷家は湯舟六軒百姓の一にして當地屈指の舊家、代々農を營み、嚴父牛藏氏は收入役をつとめ、手腕と力量に富む新人として將來を囑望されたが、氏が七歲の時、年齡僅かに二十九年にて夭折された。かくて氏は慈母のかひなに育てられ、專ら農に精勵しつゝ今日に至つた。町會議員に當選三回、現にその任にあり、曾ては區長及び寺社總代その他をつとめたる部落の有力者である。溫厚氏の右に出づるものなく、家庭には六男一女あり、長男典男氏は師範學校二部を卒業し目下小山第二小學校に教鞭を執り兒童父兄より尊敬されてゐる。

玉穗村中畑
元收入役　**福島源作**

氏は第十一代目の當主、篤農家として知られ、また戶長役場時代の用係として勤めた父君儀作氏の後を繼いで農に精進するところがあつた。その十七歲の時、即ち明治十八年十二月、戶長役場の筆生となり同二十一年三月、杉名澤村外九ヶ村戶長役場の用係となり、同二十二年三月、玉穗村戶長役場の用係に轉じ、町村制の實施と共に同村役場の初代收入役に推されて業績を擧げ、その他副區長、區長、學務委員、農業調査員、國勢調査員、山野統一委員、家屋稅調査員等を命ぜられ、それ〴〵職務、自治の功勞者として、また村內元老格の一人として最も重きをなしてゐる。公平無私な人、六男三女あり長男榮氏は元消防組長だつたが、今は家業の入として働いてゐる。

小山町小山
駿河銀行山北支店長　**白井益雄**

篤實にして眞摯、信用と人望を一身にあつめてゐる氏は、精農家として聞え高き白井有次郎氏の男、分家以來第三代目の當主である。大正六年駿河銀行に入つて小山支店に勤務し、精勵恪勤よく行員の範となり、同僚の氣受けよく、先輩の信任厚く、人格の高潔と事務的才腕と相俟つて漸次昇進し、遂に山北支店長に拔擢されて今日に至り、今や當地金融界に牢として拔くべからざる地盤と地位を有してゐる。實に努力の結晶といふべく、

精勵の結果と稱すべきであらう。家庭には四男一女を有し圓滿平和を極める。

玉穗村川柳
學務委員
勳七等　**土屋元作**

土屋家は三百年來の家柄、元は武家、後ち歸農して土着したものだといひ傳へられてゐる。父君宇平次氏は八十九歲の高齡者で現存、令兄美之作氏は前村會議員、村役場助役、郡會議員などゝして功勞ある人。氏はこの家から分家したもので六十一歲、曾て第三師團野砲兵として日露戰爭に參加功に依つて勳七等を下賜された勇士である。明治三十五年、村役場收入役を振り出しに助役となつて村長を助け郡農會議員一期、氏子、檀徒總代として盡力するところ多く、なか〳〵の人望家である。現在は三期目の學務委員として衝に當つてゐる。趣味は狩獵をよくし、政黨政治の讃美者。長男壽氏は軍人として滿洲に服務してゐる。（寫眞は父君）

御殿場町新橋
富士屋旅館
電話御殿場二三番

當館は町內最古のもの、約二百年以前から連綿と續き、現に鐵道省、遞信省、陸海軍省、ツーリスト指定館であり、常に高貴の方々の光榮に浴してゐる。經營者伴野家は德川幕府初期以來の舊家で、元舊御殿場に居住した名望家である。先代佐吉氏は富士登山道路開拓の功勞者で瀧ヶ原にその記念碑があり、區長、町會議員等幾多の公職に就いて業績を擧げてゐる。岡次郎氏はその長男、明治八年五月の出生、曾ては町會議員、區長、國勢調査員、納稅組合長、家屋稅調査員、消防組頭、實業學校組合議員、旅館組合長等に貢獻し、現在は方面委員、町農會幹事として努力してゐる。なほ長男高義氏は早稻田大學理工科の出身、目下九州三井炭坑に勤務中。

玉穗村中畑
元小學校長
從七位勳六等　**長田喜平**

氏は明治十八年十一月二十五日、部落舊農家總平氏の男に生れ、明治四十二年靜岡師範を卒業するや、高根村尋常小學校訓導を振り出しに深良、沼津、御殿場原里、北鄕、島南、大岡、再び北鄕尋常高等小學校へと轉任昇進して校長となつたが、しかも氏の赴くところ多くは難治の地であるだけに、その手腕のほどは疾くに上司の眼に止まつてゐたものであらう。育

奏事業に携はる事實に二十員六年餘、昭和八年三月、奏任八等待遇に、同年五月正八位に叙し、同十年三月、七等待遇と同時に從七位に陞叙、同八月、勳八等瑞寶章を賜はつた教育界の功勞者。この年退職して、目下玉穗小學校代用教員を奉職してゐる。夫人との間に三男二女がある。

御殿場町　新橋
學務委員　**鈴木淺太郎**
電話二二二番

氏は松屋旅館の經營者、明治十一年十月二十五日、本郡足柄村故傳二郎氏の男に生れ、同二十二年當驛の開通に際して當町に來り、旅館開業して今日に至つてゐる。陸軍省指定の旅館で、長くも竹田東久邇、白川、朝香、梨本の各宮殿下の光榮を辱ふし、また政界、陸軍の名士高官の宿泊など枚擧するに遑がない。なほ氏は町役場收入役をはじめ區長、町會議員、消防部長、旅館組合長、料理業組合長として業績を擧げ、目下學務委員、商工會副會長、旅館並に料理業兩組合顧問登山組合顧問としても活動を見せてゐる。要するに同業者間の重鎮、町自治功勞者である。後嗣者次郎氏は今、千葉醫大在學中、次女氏は舞鶴要港部參謀海軍少佐中島四郎氏夫人である。

玉穗村川柳
青年聯盟幹事　**土屋正夫**

當家の先代嘉市氏は、明治三十七八年日露の役に出征、各地に轉戰功を樹てゝ勳八等白色桐葉章並に金百五十圓を下賜され、明治四十年、村役場收入役に歴任、大正四年に區長、農會幹事、同十年に村會議員、同年八月に村役場助役に推されて三期に及び、昭和九年五月、村長に選ばれて同十一年十一月十三日、五十六歳を以て逝去した村自治の功勞者である。氏はその男、明治四十一年二月の出生、御殿場實業學校の出身で、昭和六、七年には青年團長として活動し、同八年よりは產業組合青年聯盟幹事となつて盡力してゐる。溫和にして實直な、これからの士として囑望されてゐる。夫人久子さんとの間に一男一女がある。

小山町　奈良橋
町會議員　**野木禾作**

氏は前に町會議員に選ばれて町政のために精進し、其他區長としても消防部長としても大に盡力貢獻するところがあり消防部長といふ名の下に表彰されたほどである。實直にして熱心なる氏の性格は一層衆望をあつめ、昭和十二年五月の町會議員改選に際して、又もや當選、町政に對する年來の抱負を實現せしむべく努力を拂つてゐる。その外養蠶組合役員で

もある。氏の家は代々農を家業となして來たもので、野木家から分家獨立してから六七代目といふ。父君乙吉氏は篤農家として名を馳せてゐる。氏は明治二十三年六月十五日生れの四十八歳、眞に活動ざかりである。二男三女があり、家庭は極めて圓滿である。

原里村永塚
村會議員　**後藤正實**

氏は明治三十三年二月十日出生、父君治策氏は區長、祖父氏は戸長を六代前の祖より村内のために盡瘁したこと尠少ではない。氏は縣立御殿場實業學校第十三回の卒業生、十年前より片倉製糸會社の依囑によつて本村保土澤、北畑（川島田の内）、永塚三部落の蠶種製造の代表者を勤めつゝ今日に至つてゐるが、曾て青年團支部長、同本團評議員、部農會長、村農會評議員等を勤めて功を樹て、ます人望を高めるに至つて、昭和十二年五月の村會議員改選に際し、推されて初めて立候補し、大多數で當選し、村會に登場することになつたのであるが、その活躍振りは村内一般が刮目するところであらう。

御殿場町　深澤
町會議員　**小松伊太郎**

氏の生れは明治十九年七月十三日とあるから、やつと五十を越したばかりの、人の世の酸いも辛いも悟り切つた今が働きざかりだ。小學校を出たきり、そして騎兵甲種合格でありながら抽籤免れとなつたを、いかに惱んだことか。よし！乃公は男子率公の戰務を町自治の上で果さうとした氏だ。這般の町會議員改選に際し、投票日間近に立候補して、しかも第三位を以て當選したほどの氏だ、この一事、氏の萬事を語つてゐるではないか。なほ養蠶實行組合深澤組合長、米穀統制委員、納稅組合長等を兼ねてゐる。曾て火防組合長、町農會部會長に任じてゐた溫厚圓滿な人柄者。母堂氏七十七歳を以て健在、夫人シゲ子さんよく夫君を助けてゐる。

小山町
南壽堂醫院長
町醫　**岩田茂**
電話小山七六番

事に當りて眞摯、物を處するに着實なる氏は明治二十九年十月二十一日の誕生亡父莊吾氏は國家試驗に合格せる實力ある醫家にして明治二十年頃から大正五年まで小山町に開業し、外科を得意とし、小山第一小學校醫、小山町會議員をつとめし人である。氏は大正九年金澤醫科大學を卒業し富士紡績附屬病院及び和歌山市金山病院に勤務研究して臨床の蘊蓄を深くし、昭和二年現在地に開業、內科の

名醫として患者の履戸外に充つるの隆盛を示してゐる。また多年町醫を兼ね、人格高き國手として知られる。因に令弟治氏は慈惠醫大出身にて目下新潟に於て實地を研究中。

高根村　山之尻

村會議員
動七等

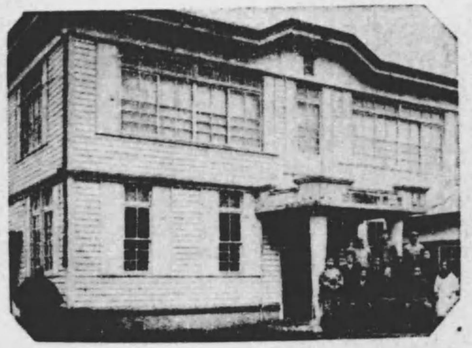
瀧口榮

當家は二十二三代を經た舊家、代々名主を勤めた家柄で、祖父穗之助氏は名主を勤め、後ち山之尻村戸長となつた人、先代壽雄氏は永年官選戸長として盡瘁、町村制實施後初代助役となり、後ち村長となつた外村會議員、郡會議員、縣會議員等の要職に就き、自治功勞者として七十八歳を以て逝去した。氏はその男、明治十二年九月の生れ、慶應義塾別科出身一年志願兵となつて麻布歩兵第三聯隊に入營、一等計手となつて日露戰役に參加功によつて勳七等に叙せられた。曾て村役場書記、助役、產業組合理事、在鄕軍人分會長、學務委員等を勤め、現在は五同目の村會議員にして長老として村政に與つてゐる。夫人との間に五男子があり奢性溫厚篤實にして村內切つての人望家である。

富士岡村

富士岡村信用販賣購買利用組合

當組合は、現組合長及び前專務理事杉山通雄氏等の主唱發起により大正十三年九月に設立を認可された。當時組合員四百七十七名を擁し、四種事業にて、組織は有限責任だつた。昭和五年神坂組合を合併、同八年保證責任に改めて今日に及ぶ。郡內有數の優良組合にして殊に利用部事業は他の模範である。年々の利用料三千五百圓を越え、肥料改善策としての適地適肥の配合機の利用は特に盛んである。現時組合員約六百四十名、出資千百九十餘口（一口三十圓）にて、貸付二十萬圓、貯金廿三萬圓に上り利子延滯者は逐次完納しつゝあり、販賣は蔬菜、俵、藷、梅の集荷、菜種、甘藷、米穀等五萬餘圓、購買は肥料を主とし、雜貨これに次ぐ。組合長鈴木孫作氏は、村會議員をはじめ收入役、助役、村長、村農會長等の要職にありたる元老である。



高根村　山ノ尻

元組合村長
動七等

瀧口源太郎

縣下鄕土史の大家、そして御厨蘇峯會の會長である氏は、明治二年二月二十七日の出生、學務委員を振り出しに組合役場收入役、助役から村長に選ばるゝこと二期、日露戰役當時內治の功に依り勳七等靑色桐葉章を下賜された。また村會議員二期、農會長、消防組頭二期を務め、功績を稱へられてゐる。現在は氏子總代檀徒總代、高根報德社長、山ノ尻耕地整理組合長、縣鄕土研究會理事、北駿鄕土研究會顧問として村內に重きをなしてゐる。家は中興の祖より四代目、代々農を襲き、二代目源作氏は組頭を、父君關太郎氏は山ノ尻村戸長を勤め、町村制施行後常設委員として何れも功勞があつた。三男五女あり、次男諄氏は御殿場實業學校出身、元區長を勤めた。

泉村　公文明

光明寺

當寺は曹洞宗に屬し、本尊は地藏尊にて、開山は光明寺殿天養圓心大居士である。天長八年空海上人の創立に係りし當時は眞言宗であつたといふ。爾來幾星霜時に盛衰ありと雖も常に善男善女の信仰厚く、殊に寺內に祀る不動尊は靈驗あらたかなるを以て知られ、十里を遠しとせず參詣するものが多い。境內二百五十坪本堂は間口八間、奥行七間にて大正七年の新築に係る。曹洞宗一般行事のほか一月八日の不動祭は特に人出の山をなす。檀家七十戸、河鰭實英氏の如き知名の士の參詣も受ける。現住職は二十三世松尾龍明師にして檀徒總代は川村宇太郎、渡邊義夫高村種作の三氏である。

小山町　落合

岩田英雄

當町の名家、北駿での名門たる當家の祖先は、南朝の忠臣新田氏の一族で、新田半右衛門堅秀といふ。紀州熊野の產ともいひ、或ひは東北地方の出身ともいふが、一時熊野に居住したことは確かで、熊野神社を氏神として崇敬した。建武二年竹之下合戰の時、堅秀は藤原爲冬卿股肱の臣として從軍し、不幸敗戰となるや爲冬卿の首級を守護して今の茅沼たる乘鞍鄕の百姓悟助方に落ちつき、首級は附近の淨地に埋め、世を憚るため地神樣と稱し、悟助の娘を納れて一男二女をもうけ、後に寶篋印塔を建てゝ回向怠りなかつた。かくて子孫土着し、連綿二十五代現主に及び、この間十一代の時から岩田と姓を改め、代々半右衛門を名乘つてゐた、が二十三代の當主は蜂三郎と名乘り二十四代は萬次郎と稱した。蜂三郎氏は富士紡創立に地元として盡瘁せる第一人者にして、萬次郎氏は小山町の前身たる六合村の村長在職中病死された。かゝる舊家名門を有することは當町の大いに誇りとするに足るところである。

印野村

村會議員　岩瀬千代隆

氏は岩瀬富五郎氏の二男で、約二十五年前に分家獨立したもの、現に雜貨商を營んでゐるが、謂ゆる黎明に起きて星を戴いて歸る的な勉勵と努力とが店頭を賑はし、最近オート三輪車を買入れて駈け廻はるといふほゝ笑ましい商勢を見せてゐる。

公共方面にあつては、二期間區長として盡力し、現在は村會議員に家屋稅調査員農業調査員を兼ねてゐるが、これは自分としては名譽ではあるが、それだけに重大な責任を負はされたものであるとなし、常にこれを完全に果すべく鋭意努力してゐる。明治三十五年生れの四十七歳、正に働きざかり、輝かしい前途が開かれてゐる。家には四男三女の七子がゐる。

小山町　茅沼

長谷川醫科醫院長、校醫　長谷川堅二

外に名利の競爭なく、內に危殆の憂閑なし、——これぞ長谷川堅二氏の長敬すべき姿である。明治三十四年四月六日を以て生をこの世に享けた。千葉縣の人で苦學力行克く己を躍進して成功の彼岸に達せる立志傳中の人、大正十二年醫科醫師檢定試驗に合格するや翌十三年小山町に獨立開業して今日に至り、設備優秀技術卓拔の定評あり、文字通り門前市を成すの盛況を呈してゐる。年齡未だ不惑に達せず前途春秋に富み、名醫科醫の名愈々高きものがある。小山第二小學校及び足柄小學校の校醫を務め、兒童醫科衛生に裨益するところが多い。

原里村　杉名澤

元村會議員　動七等　子上孝平

氏の家は土地に於ける最も有力な名望家と稱へられてゐて、七代位の舊家、現在も農を家業となしてゐる。父君吉次郎氏は六十歳で逝去されたが、生前は村會議員として、區長として、村役場收入役として相當の業績を擧げ、功を樹てゝゐる。氏は明治十五年十二月の生れ、同三十五年兵として入營、日露戰役に參加、各戰線に立つて名をはせた勇士、平和克復後、功に依つて勳七等に叙せられ、錦衣を故山に飾つた人だ。區長を振り出しに公職に就き、村役場收入役を永年勤め、また村會議員としても多大の功を現はしてゐる。常に清廉潔白を以て人に接し、また事に當つてゐる。故に人望家として稱えられて居るのも當然である。

富岡村

村會議員　中村竹雄

會て富岡村小學校移轉新築にからんで自治機關は解滅、前途暗澹收拾すべからざる狀態に陷つた時、決然起つて村有志に圖り、更生委員會を組織し、自ら委員長の椅子を占めて斷の一字、截然紛糾を氷解した當年の傑物は實に氏ではなかつたか、爾來氏の信望更に厚きを加へ、今や村會議員に當選、出納檢査立會人を兼ねて、深く村治の眞髓に觸れ、村內の輿望は氏の双肩にかゝつてゐる。區協議員を振出しに消防組第三部々長、次で村消防組副組頭から組頭の要職に與つた人、明治三十年八月二十二日生れの四十一歳氏の前途に幸あれ、輝きあれを念ずる。氏は代々庄屋を勤め、帶刀御免の家柄であつた中村家竹治郎氏の四男に生れ、大正八年に分家獨立した人である。

原里村　杉名澤

村會議員　佐藤甚太郎

當家は謂ゆる六軒百姓と稱せらる中の一軒、先代亡甚四郎氏は常設委員、村會議員等を勤め、七十七歳の高齡で歿せられた村政の功勞者である。氏はその男、明治十二年一月十三日の出生、現在三期目の村會議員郷社氏子總代を兼ねて活動してゐるが、これまでは村役場收入役を三期、助役を一期、その他村農會副會長區長、常設委員、國勢調査員、部農會長五人組役員等に盡瘁、その功勞甚大なるものがある。生來溫良にして人情味の極めて豐かな、そしてなか〳〵の人望家でもある。夫人との間に三男あり、長男甚逸氏は元青年團部支長であつたが、目下は養蠶指導員として活躍を見せてゐる。

玉穗村

學務委員　芹澤寅三

溫厚篤實、加ふるに寡默を以てし、眞に教育者的タイプの人たる翁は、人望極めて厚き陰德の人である。慶應三年二月十一日を以て湯山新八氏の四男として呱聲をあげ、後、芹澤惣平氏の養子となつたもので、獨學よく業を修め、夙に小學校に教鞭を執り、慈父の心を以て兒童に接し、兒童生徒よりは勿論、父兄の敬慕措くところを知らなかつた。漸次昇進して校長となり、退職後は靜岡縣度量衡指導員及び信用組合理事を歷任、教育を社會公共の事業と一致せしめて農村民指導に新機軸を開き、現在は學務委員に擧げられて專ら玉穗村の教育振興に力を致してゐる。政治的には民政黨を支持する。曩に教育功勞者として縣教育會長より表彰數度に及んだ。目下盆栽を友に悠々の日を送つてゐる。

原里村　神山

前村會議員　測量師　長田重次郎

氏は又四郎氏の長男、明治十二年四月

一日、本郡富士岡村に生れ、現地に移つて現に三十有九年になる。曾て富士岡村役場土地係勤務中、測量學を獨學研究して測量家となり、今日では遠近の町村から依頼を受けてゐるほどだ、曾て村會議員、農業調査員として盡力現在は土地賃作價格調査委員、沼津稅務管内土地調査委員を兼ねてそれ〴〵活動してゐる。また昭和十年陸軍屬となり、特に大野原より本村神湯に至る八米幅四粁の道路新設工事には大なる功績を稱へられてゐる。なほ長男十一氏は三島町にあつて食堂を經營してゐるが極めて繁昌を呈してゐる。

富岡村葛山
村會議員 勝又政市
勳八等

當家先代良作氏は村内屈指の素封家牛田家から分家獨立したもので、篤農家の聞え高く傍ら區長として盡力。現に寺世話人を勤めてゐる。氏はその男、明治二十五年八月十七日の生れ、大正元年靜岡歩兵第三十四聯隊入營、現役中日獨戰に出征、功によつて勳八等に叙し、白色桐葉章を賜はり、また陸軍歩兵上等兵に昇進した除隊後帝國在郷軍人分會富岡村分會副會長、區長、消防組第三部長を兼ねて盡瘁するところがあつた。現在は村會議員並に區長として村自治に參與、年來の抱を吐露してこれが實現化に鋭意努力を傾けてゐる。なほ氏は前期區長任期中、道路等の開發に貢献し、架橋工事を完了すること數ヶ所に及んでゐる。令閨はシゲ子さん、二女がある。

原里村保土澤
村會議員 土屋勇藏

氏は現村會議員、しかも四期目でありそれに學務委員、產業組合監事等を兼ねて、村政の刷新へと拍車をかけつゝあるわけだ。前には村役場收入役、區長、消防組部長、郡會議員、農業調査員、國勢調査員、氏子總代等に擧げられて盡瘁、その功を謳はれて居る。氏の家は三代目さう古いといふほどではないが、村内の衆望をあつめて居る。父君は林平氏、氏は明治六年十月七日、その長子に生れたもの、疾くから父祖の業に邁進精勵して益々家業は繁榮しつつあり令弟幸作氏は學校出海軍兵身、累進して海軍大佐となつたが惜しい哉、昭和三年、突然逝去した。これは獨り當家にとつては勿論のこと、國家の大損失であると惜まれて居る。

富岡村大畑
村會議員 加藤德平

當家は土地の舊家、曾祖父太兵衛氏は名主を命ぜられたほどであつたが、盛衰の岐路は豫測出來ず、一家漸く傾きかけた頃、氏は東都に在つて奮闘中であつたが、一家の大事を知るや、すべてを一擲しに歸郷、農事に全力を注いで精進、終に挽回するに及んで公共方面に心を致し昭和九年、農會總代に擧げられた。同十二年五月、肅選第一回に推されて立候補定員十二名に對してこれを爭ふもの十九名、有權者二十二名の大畑區から打つて出て當選の榮冠を贏ち得たるもの、氏が主張と抱負に對する人望のいかに大なるものあるかを裏書するものである。上下の人情に通じた熱血の士、讀書家。夫人はつね子さん。長男博氏は商業見習中、長女喜久代子氏は靜岡女子師範出身者である。

原里村川島田
自治功勞者 勝間田新治郎

翁は文久二年七月九日の降誕、資性英邁にして人格高く、夙に公共の事に關與して功績多く、明治十五年印野村と入會秣場爭論を惹起し、示談總代人に選任せられるや、翌十六年さしもの難事件を解決し、村農會幹事、郡農會役員を歴任して產業の開發に盡すところあり、明治三十一年初めて當地方に於て竹行李を製造するに當り、岳東合資會社を組織して社長に任じ、斯業の嚆矢をなした。その後郡會議員、同參事會員、學務委員、村農會長に選ばれ、また印野村地主總代人として地主と小作人の協調に努力し、明治四十三年富士裾野陸軍演習場の擴張に當り北畑部落四十有餘戸の移轉問題勃發の際は、移轉地の選定その他萬般に亘りて部落民代表としてこれが任務の遂行に努力して該部落民一同の絶大の感謝を受けた大正に入つてから駿河銀行代理店を經營次いで同行御殿場支店長に就任、傍ら村會議員、學務委員に當選活躍せるほか幾多の公名譽職を兼任し、大正九年原里村產業組合を設立して理事に當選し、爾來十八ヶ年重選して今日に至る。以上のほか各種公名譽職に就けること一々枚擧に遑あらず。表彰再三に及び、眞に自治功勞者中の尤なるものである。

關係村民の絶讃を浴びし手腕家である。第三十學區立身舍聯合會議員、同議長、杉谷澤村外九ヶ村聯合會議員に任じ、自治制施行後は原里村印野村組合會議員に選ばれ、その他駿東郡沼津町外二十六ヶ村聯合町村會議員、印野村外六ヶ村組合議員、山林組合議員に當選、また御厨町外九ヶ村學校組合議員として學事に貢献

原里村神揚

村會議員

勝亦正男

氏は明治十九年十月十四日の生れ、十六歳から消防手を拜命、小頭に進み、更に部長、副組頭に進んで、大正十四年まで勤め、また區長として一期、部農會長にも推されて功があつた。

現在は村會議員、養蠶實行組合長、產業組合理事、氏子總代等を兼ねて銳意精進してゐる。溫厚篤實な篤農家で、家は部落の舊い家柄で農を以て相繼ぎ、祖父太十郎氏は幼名を平兵衛氏と稱し、神湯戶長として盡力し、父君福太郎氏はまた村會議員をはじめ常設委員、養蠶實行組合長その他の公職に責任して功勞を稱へられ、現に七十三歳の高齡を以て健在、家事を見て居られる。尙長男は死去、次男厚氏は三島中學校の出身の秀才で家庭にある。

泉村平松

村會議員

梶常次郎

電話佐野三二番

氏は明治四年九月、田方郡三島町伊豆佐野に出生、同地梶熊藏氏の女婿となつて分家、現在の地に移つて今日に至つてゐる。本家は梶慶三郎氏、伊豆佐野切つての舊家として聞えて居る。氏は不幸兵役に外れて國家奉公の義務を果さなかつたことを恨事となし、爾來公私の事に關し國家奉公の一念を以て當つて來たのであるが、曩には區長として、國勢調査員として盡力し、現在は村會議員、道路組合會員を兼ねて精進してゐる。他面また無限責任組織である佐野合同運送合資會社代表者として關與して居る。重厚溫和の士。長男克己氏は三島商業出身、目下陸軍主計少尉として滿洲にあつて服務中であり、二男森治氏は沼津中學出、また滿洲ハルビン學校在學中。

印野村

區長代理

勝間田運衛

氏の家は勝間田龜年氏の家から分家したもので、既に二百年も經て居る舊農家である。氏は由藏氏の男、明治二十三年一月二十三日の出生。明治四十年、消防手を拜命、大正十二年、消防小頭に進み昭和三年、消防部長となつて二期また副組頭として一期を勤め、且つ在鄉軍人分會班長を一期、評議員となつて盡力貢獻するところがあつた。現在は區長代理に推されて區政に與り、銳意努力してゐる。溫情の人、事に當つては極めて熱心である。

大人との間に一男六女があり、長男哲氏は昭和十二年三月、實業學校を卒業し、目下家業に從事、將來に望みを囑されてゐる。

泉村平松

梶竹パイプ製造所

當製造所は個人經營にかゝるもので、箱根特產の篠竹を素材となして加工、竹パイプ並にペン軸を製作してゐる。大正三年三月、創めて製造を開始、昭和十一年十月、火災に罹つて全部燒出、同年十二月、再建成つて現在に及んでゐるのであるが、その工場の坪數は二百坪、こゝに働く從業員數は四十名で、年製造高は實に三千萬本、これが主要販路は朝鮮總督府煙草專賣局に三分の二を納入し、殘り三分の一を內地殊に名古屋、大阪方面の喫煙具商に賣却してゐる。そして普通低級品の外に、當製造所獨特の高級美術品を製產してゐる。昭和五年 今上陛下本縣御巡幸の砌、獻納御嘉納の光榮に浴し、しかも前途ますゝ隆昌の傾向を示してゐる。

印野村

村會議員

勝間田壽江

當家は七八代目の舊家、先代雄次郎氏は郡會議員、村會議員、學務委員、消防組頭など推されて相當功績のあつた人。氏はその男、明治二十一年一月一日の出生、明治四十一年、豐橋工兵隊に入營、滿期除隊後、在鄉軍人分會役員として活動し、次で消防組小頭、部長、副組頭、組頭、部農會長、產業組合支部長、農業調査員國勢調査員を勤め、現在は二期目の村會議員であり、その他學務委員、產業組合監事を兼任、銳意努力してゐるのである。

趣味は狩獵、六男三女の子福者、長男多住氏は二十九歳、縣立御殿場實業學校出身の秀才で目下家にあつて家業に精勵してゐる。

泉村平松

福島竹パイプ製造所

電話佐野二七番

當製造所は大正四年の創設、個人經營の微々たるものであつたが、同七年、上海に於ける英米トラストに直接納入するやうに至つて一躍に盛大となり、昭和十一年、株式組織に變更して發展へと努力しつゝ今日に及んでゐる。現在資本金は五萬圓で全額拂込、一ケ年の製造高四百萬本で、主として朝鮮總督府專賣局納品になつてゐる。昭和五年 今上陛下縣下御巡幸の砌、製品獻納の光榮に浴した。從業員は夏、冬とによつて異なり、冬は五十名である。初代福島氏の後を繼いで二代福島博、三代今關、四代水口氏等を經

て五代目福島信太郎が現社長として社務に與つてゐる。氏は元教導團出身の陸軍歩兵曹長で村會議員、區長、學務委員、方面委員その他を兼務盡力してゐる。

原里村板妻
村會議員　米山正行

當家は土地の草分け、六軒百姓の一戸で、寶永年間、富士噴火の際に砂が降つたゝめ、當時砂走方面に居住したものもこの地に逃げ込んだもの云々といひ傳へられてゐる。先代は吉藏氏、氏はその二男、明治二十四年三月二十五日生れ、明治四十四年、歩兵第三十四聯隊に入營したが、入營中負傷したゝ除隊した。後ち傷痍軍人會の役員として活動するところあつたが、現在は三期目の村會議員として引續き村政に關與、貢献盡力しつゝある。なほ二十一年前より當地演習地の實彈射擊彈の破片等の權利を、得て掘り出しめつゝある。夫人との間に五男二女あり長男勝一氏は當年二十三歳、御殿場實業學校出身 今、青年團支部役員として奔走してゐる。

高根村塚原
村會議員　高杉善作

高杉家は寶永年間以前、須走方面から來つて當地を開拓、俗に「發切り」草分けとして武士より農に轉じたもの、所謂六軒百姓の大家格たる舊家である。屋敷裏に稲荷の塚があり、明治初年伐り倒した神木老杉の洞から、富士 活火山時代寶永年間爆發した時の降灰が發見されたといふによつて見るも、いかに舊家であるかが知られる。先々代直次郎氏は若い頃には小田原城主の下に鐵砲役を勤めたもの、八十二歳の高齢を以て逝去した。氏は先代直次郎氏の男、日露戰役に出征、滿洲にあること約一ヶ年、功に依つて勳八等を下賜された。現在は村會議員、高根須走組合會議員、塚原養蠶實行組合長である六男二女の子福者。

清水村八幡
佛惠山法泉寺

本山は釋迦如來を本尊となし、臨濟宗妙心寺派に屬し、本山妙心寺の直末である。本山は建久の頃か、鎌倉建長寺末であつたさうだが、永祿年間の兵火に罹つて舊記等を悉く燒失、開祖年曆が詳かでない。明暦年中、長州首座、堂宇を回復して妙心寺末となり、後ち天和年間、下野國宇都宮城主戸田山城守——後裔子爵

戸田忠庸氏——の女これを再興し、戸田家の菩提寺宇都宮市英岩寺の住持生鐵大和尚を請じて開祖となし、女の法名を運院殿と號して本山の開基である。後ち數世を經て堂宇悉く頽廢、文久二年先住南泉普願東京市本所區原庭町東盛寺より本山に遷住、堂宇を再興、大凡舊觀に復するものあつたが、明治三年、隣火に燒けて以來假堂を造營して今日に至つてゐる。現住職は禪太應師、檀家は沼津市、三島町、清水村、東京等にある。

原里村永塚
元村會議員　長田兵五郎

氏は源十郎氏の長男、明治二年一月二十六日生れ、明治三十三年頃より村内公共方面に乘り出し、部農會長、村農會評議員に擧げられ、村會議員としては明治四十年、太正十年及び昭和四年の前後三回、其の他常設委員、國勢調査員、養蠶小組合長、原里村永塚耕地整理組合長等に推されて功勞を稱へられてゐる。また明治三十九年、當部落に永安報德社を創立して幹事となり、後ち副社長として活動、社員の親睦、德育の向上等に努めるところがあつた。當家は七八代目で、古くは金物類の事業に關係してゐたものか、近くに「金山彦尊」と稱する小祠がある。二男一女あり、長男博隆氏は御殿場實業學校出身の英才である。

御殿場町
町會議員　小早川與市郎
電話二一番

氏は明治九年、常藏氏の次男として田方郡三島町に生れ、同二十一年、令兄故福太郎氏と共に當地に來つて釀造業を開始し、銘酒「靈長」、「富士自慢」など最も好評を博してゐる。令兄歿後は令甥豊乃氏と共同して三島屋本店を經營、奮勵努力と共に一層隆昌を招來し、現に多額納税者である。氏は今、三期目町會議員として町政に與りつゝあるか、會ては區長、消防部長、國勢調査員として盡力した町自治の功勞有である。性温厚な士。故令兄氏は生前學務委員、町會議員等に選ばれて精進し、大に町政のために貢献すると

ところがあり、眞の活動もこれからといふところで世を去つたので、その死がひどく惜まれてゐる。

長泉村下土狩

村會議員
元小學校長

富岡喜作

村内屈指の大農家たる富岡家に、明治十三年六月十三日を以て生を享けたる氏は、靜岡師範一般科出身にて、愛鷹村小學校長を六ヶ年、小泉村小學校長六ヶ年、次で大岡村小學校長を昭和五年停車退職まで勤續した。本村小學校にも教鞭を執りしことあり、教育に身を捧げること約三十ヶ年、その後は方面委員、區長に推され、現に村會議員として貢献しつゝあり、村内農地が水利不便のため、有志と謀つて農地内井戸を穿ち、電力により貯水池に汲み出して作物に灌漑する方法を講じ、東京電燈と交渉して電力無料使用の契約をなせる功勞は沒することが出來ない。莽、俳句に趣味あり、その會を創つて會誌を發行してゐる。因に尊父平作氏は常設委員を多年つとめし人である。

御殿場町

町會議員

伴野泰助

氏の家は十代目、約百八十年も連綿續いて來た家柄、父君用左衛門氏の代までは農を營んでゐたが、大正十二年來は雜貨、酒類、煙草業を營んでゐる。氏は明治十二年三月五日の生れ、元酒市場を自ら經營したが、後ちこれを株式會社名取商會の經營に移して支店長となり、手腕を揮つて業績をあげたが、昭和九年、縣購聯の手に移るや、その主任となつて勤務し、翌十年に退職、現在は町會議員として町政に關與してゐる。前に區長たること二回、町農會評議員四期、消防部長、消防副組頭、家屋税調査員、國勢調査員として盡力してゐる。長男喜三氏は沼津商業出身、現藺市場主任、女婿伴野巖氏は東京新橋驛運輸事務所に勤務中である。

深良村

深良村信用販賣購買利用組合

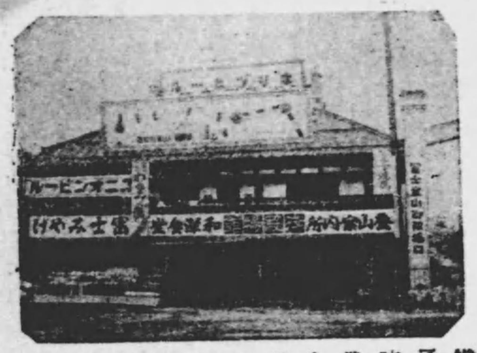
當組合は大正十三年十二月の設立認可に係り、組織は保證責任、信販購利の四種事業を兼營し、組合員三百二十名、出資八百三十口(一口三十圓)、準備金及び積立金二千八百餘圓、餘裕金二萬二千七百餘圓を算する。常に慎重經營に當り、系統機關並に各種團體と緊密なる連絡を圖り農村更生のため努力しつゝあり、貸付金六萬五千餘圓、貯金九萬七千九百圓販賣事業に於ては米二千八百餘俵、麥類九百五十俵、菜種八十數叺、甘藷七千俵蔬菜俵二千六百枚等を取扱ひ、年々數萬圓を前後し、特に米、麥は强固なる統制販賣を行ひ、生産者の利益擁護、萬全を

期してゐる。購買品賣却高は年約三萬圓程度である。現組合長は松井誠保氏、專務理事は小林信一氏。

御殿場町 駅前

御殿場館

電話御殿場二九番



當館經營者は川合政義氏、約六十年前鐵道開通と同時に開業したもの、明治四十二年十二月前經營者より讓受け同四十三年五月、火災に遭つて再建、今日に至つてゐる。收容人員は約百名、登山客を主とし食堂及びみやげ物店を兼營してゐる。名勝としては富士山、富士五湖があり、館前から富士登山バス、富士五湖周遊、甲府その他行のバスが運行してゐる。現經營者は川合秋作氏の次男、前經營者で一代の成功者である金次郎氏の養嗣子となり、先代歿後沼津商業學校を出、爾來旅館の經營に專念して遂に今日の大を見るに至つた。富士山麓自動車株式會社の大株主である。夫人との間に一男一女がある。

原里村板妻

郵便局長

長田偉佐美

原里郵便局は明治四十五年、當家先代長田爲作氏の時代に開局、無集配、電信電話を除く外はすべての事務開始、爲作氏初代局長として鞅掌、また區長、常設委員としても活動し、大正十五年十一月一日以來、氏は局長を拜命、今日に至つてゐる。氏は明治十七年六月十日生れ、曾ては消防組小頭、同部長、同副組頭、組頭として活躍、組頭在職中金馬籤を授けられしほどの業績を擧げてゐる。家はもと安倍郡より移住し來つた六軒百姓の一軒、當地草分けの家柄で代々名主を勤めて土地開發に功あつた。チヨ子夫人との間に四男三女があり、長男久男氏は御殿場實業學校出身、目下家にあつて父業を助けてゐる。

原里村板妻

村會議員

長田竹治郎

氏の家は慶安年間前より今の地に住んで來た舊家で、明治十四年十一月十五日甚四郎氏の長男に生れたのである。前に產業組合監事に推さるゝこと三期、昭和

十一年まで及び、その他區長、農會支部長、消防組小頭、同部長、養蠶小組合長農 調査委員、桑園調査委員、家屋稅調査委員等に推されて盡力貢献するところがあつた。現在は二期目の村會議員として村政に與り、また氏子總代、檀家總代等を兼ねて鋭意精進してゐる。資性溫厚にして着實、村内に於ける信望極めて厚く、夫人けい子さん、貞淑にして内助の功勞者二男四女あり、長男一氏は御殿場實業學校卒業後は家にあつて、家業を助け、在鄉軍人分會班長、青年團役員を勤めてゐる。

原里村板妻
元村會議員
勳七等 **長田與市郎**

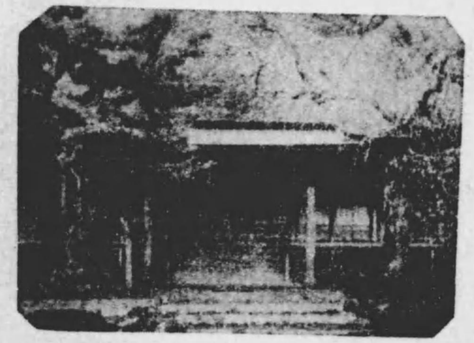
氏の家は氏はじめ五名の軍人を出して國家に奉公、しかも戰爭に事變に活躍偉功を奏した榮えある家柄である。家は三百年前より綿々として續いたもの、氏は長七氏の長男、明治六年七月十日の出生明治二十六年、近衛歩兵第四聯隊に入營日清戰役に出征、功に依つて勳八等に叙せられ、次で日露の役に後備として出征上等兵に昇進、勳七等に昇叙された勇士である村内の事に與ては村會議員消防組小頭、部長、産業組合監事、氏子總代、檀家總代等に擧げられてゐる。現在は公職を去つて徐々に老後を養つてゐる。長男清作氏は御殿場實業學校出身、前消防組小頭として努力した。

部農會副會長

小山町

梅光山正福寺

當山は大谷派眞宗に屬し、慶安七甲寅年、權大僧正實雄大法印の開基で、奇頭鹿寺と稱し、弘法大師作の藥師如來を本尊となしてゐる。境内その他一町四方で遍照寺眞敎院隨正庵などの末寺があり、なかなか旺んであつたが、五世覆善法印の代になつて寺勢衰へ、寺財を傾け、法祿は全く蕩盡したのを、六世心光院了宗師、甲



州長圓寺より來つて住持となるに及んで堂宇を改築し、宗旨を改めて今の正福寺と改稱するに至つたもので、了宗師は駿州前一色城主藤原寄長の五男である。そして寺刹の建立は天文七戊申年で、以來淨土眞宗として今日に至つてゐるが、法燈を繼ぐこと二十世に及んでゐる。

原里村川島田
前村會議員 **山田隆**

氏は勇吉氏の長男、明治二十二年八月十五日、泉村に出生、明治四十二年、今の地に移轉し來つて質商を開業、引續き現在に及んでゐる。昭和四年來村會議員として村政に關與する二期、また産業組合監事にあげらるゝなど旺んに活動して貢献するところがあつた。現在は森之越三之組長として努力を續けてゐる。氏やなほ春秋に富み、意氣極めて壯なるものがあり今後の活動振りこそ、村民の共に俱に刮目、期待をかけてゐるところである。資性溫良の好紳士、夫人との間に三男子あり、長男勳一氏は御殿場實業學校卒業者靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、間もなく滿洲守備隊として渡滿、昭和十一年五月除隊、上等兵に昇進、勳八等に叙せられた。

原里村杉名澤
副組頭 **佐藤覺太郎**

氏は明治二十三年七月一日、敏吉氏の長男に生れた人、とても眞面目な、そして極めて熱心な努力家、前には帝國在鄉軍人會原里村分會長をはじめ消防組小頭同部長、青年團役員、農會役員、また昭和十二年三月までは青年訓練、青年學校指導主任等を兼ねて活躍した。そして現在は消防組副組頭、養蠶實行組合監事、區長代理として熱心力を捧げてゐる。昭和八年、鈴木帝國在鄉軍人會より功勞章を授けられ、超えて同十一年十一月三日時の寺内陸軍大臣より靑訓指導の功に對して表彰されてゐる。洵に氏の平常に榮あらしめるものだ。よし子夫人との間に三男二女がある。因に當家は元祿年間に相模より移住したものだと傳へられてゐる。

御殿場町東田中
町會議員 **横山喜克**

氏の家は土地の舊家、舊幕時代には代々庄屋を勤めて來た家柄である。父君伊十郎氏は町會議員として町政に與った人、氏が五六歳の時に世を早めてしまつた。氏は三男、明治十六年八月生れ、早

稲田大學政治經濟科に學び、逓信大臣永井柳太郎閣下と同期卒業、二十七歳より町會議員に選ばれ現に今も町會議員として活躍を續けてゐる。この間また農會長、町長として貢献する多大なるものがあつた眞面目な奮闘的な人、庭園と狩獵とに趣味を有つてゐる。夫人益美子さんは福井高女出身の才媛、内助に最も努めつゝあり、間に一女あるのみ、小學校に通つてゐる。まつ子母堂、當年八十三歳、髪饌として健在。

愛宕町青野

妙泉寺 本法寺兼務住職 原井月禧

至信高悟の心境に徹する師は、駿東郡愛鷹村妙泉寺住職にして、また同郡浮島村本法寺住職である。大正七年大本山光長寺常議員に當選以來毎期當選して現任し、また本門法華宗專任布教師並に光長寺布師を兼ね、光涌會々長たること前後三期、昭和九年には靜岡縣佛教會岳南分會評議員を囑託され、同年浮島村佛教會主任理事にあげられ、昭和十一年には本門法華宗々會議員に選出された。かくて曩には一代上允許され、昭和十一年には管長より本法寺本堂、庫裡改築並に布教師としての永年の功により一等上級緋金紋九七條着用を允許さるゝ光榮に浴したまた社會事業及び自治方面にも貢献多く國勢調査員、村會議員、岳南保護會評議員等を歴任した。因に妙泉寺は永璽寺松本法寺は平僧寺末である。

富岡村下和田

村會議員 勳八等 眞田萬平治

當家四代前長右衛門氏は、村でも利かぬ氣の人物、永らく名主を勤めれば、祖父長三郎氏は明治維新當時の戸長を拜命先代米吉氏また人民總代、即ち區長に推されて盡力するなど、何れも村自治のために大なる功績を擧げてゐる。氏は明治十六年生れ、陸軍歩兵一等兵、日露戰役に參加して功を樹て、勳八等に叙し、白色桐葉章を下賜された。凱旋除隊後は帝國在郷軍人會富岡村分會班長として活動、その勞を謝されてゐる。昭和十二年五月の村會議員改選に出馬、美事金的を射あて、村政に與り、また他方産業組合監事を兼ねてこの方面にも力を注いでゐる。夫人との間に男女八人の子輻者、長男虎五氏は二十四歳、下士官として、勤務中である。

富岡村御宿

元村長 故 湯山榮男

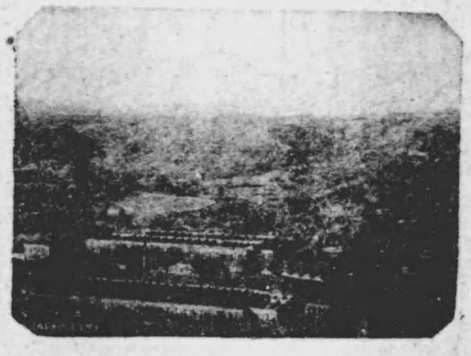
氏の家の始祖は遠く、頼朝時代より傳はるといはれ、しかも世に聞えた家門、富岡村三湯山の一つで、幕政當時には、代々名主を勤めた家柄である。氏は大正九年、一村の推薦によつて村長に選ばれ献身的の努力を傾注して村治に與り、大に村利村福を計つて一村の輿望に副ふところあり、同十三年、圓滿辞職したが、なほその他の公職に關係して活動するところがあつた。昭和十年、五十九歳を以て長逝したが、村民等しく哀悼慟哭して止まなかつた。氏に長男森男氏がある。明治大學出身の經濟學士、三十三歳にして家督を繼ぎ、目下駿河銀行員として佐野支店に勤務中であるが、その前途に多大の望みをかけられてゐる。

小山町

富士瓦斯紡績株式會社小山工場

電話 小山三番

當社は明治二十九年の創立、資本金は五千萬圓、本社を東京市日本橋區本町に置き、小山、川崎、平塚、その他計十五ケ所に工場を、大阪及び名古屋に出張所を有し、主として綿糸、絹糸の紡績並に綿布、絹布の製織仕上の事業をなす日本有數の大會社で、取締役會長には日比谷平左衛門氏が專務取締役には鹿村美久氏がなつてゐる。當小山工場の設備は新式で、換氣、採光、煖房の裝置は遺憾なく完備し綿糸紡績並に綿布の製織仕上等をなし、仕事は晝夜二部制、寄宿舍、食堂、富士女學校、附屬病院等の設備あり、工場は第一から第五までにわかれ、女工手三千人を突破する。



高根村

高根村信用販賣購買利用組合

當組合は大正十五年を以て設立された組合員四百餘名、出資六百九十口（一口三十圓）にて、保證責任組織、四種事業を營み、準備金及び積立金四千圓弱、餘裕金五萬二千七百餘圓を有し、事業は極めて順調なる發達の一路をたどり、十一萬二千六百圓の現在高を示し、貸付は六萬三千七百圓である。販賣事業に於ては本村特産たる繻米販賣に主力を注ぎ、農會と提携して總額二萬四千圓弱の賣上を見てゐる。購買事業は地理的關係上餘りに意を用ゐざるも年額一萬四千圓に上る利用部は籾摺機三台、精穀機一台、平麥機一臺、製紛機二台、器具一揃を設備し籾摺、精穀、製粉の利用者が多く、利用料年々一千圓を突破する。現組合長は杉

山兼良氏である。

長泉村　下土狩
前長泉村長
勳八等　鈴木博夫

村政功勞者中の一人者たる翁は、甚に趣味あり、溫厚篤實の資性を以て知られる。元治元年十月二十日、故伴右衛門氏の男に生れ、若冠十七歳にして下土狩村會議員に當選自治制施行後引續き長泉村村會議員に選ばれて活躍すること前後三十有餘年、大正十五年郡長より自治功勞者として表彰され、また日露戰爭當時は村助役の任にありて內治の功多き故を以て勳八等を賜つた。明治四十年及び昭和五年の二回村長に選任、學校舍、役場廳舍の建築、道路改修等の事業を完工、なほ學務委員、產業組合理事を現任、殊に產業組合の主唱發起人にて組合の今日をあらしめた恩人、消防組設立にも奔走一方なら ず初代組合に擧げられた。因に當家は十數代を經る舊家にて、嚴父は名主、戶長をつとめた人、令息昇氏は醫學博士にて大阪市南區高津九番町に產婦人科醫院を經營する。

長泉村　下土狩
村會議員
元郡會議員　井口篤三

氣品高くして典雅なる翁は慶應元年の岳降、亡父幹一郎氏は名主をつとめ、村制實施後大岡村戶長に任じた。氏は二十四歳にして長泉村收入役に擧げられ、次で助役に昇任、文官試驗に合格して靜岡縣第五課に奉職したが、幾許もなく貴族院議員松永安彥氏の家業を手傳ひ、後ち靜岡縣農工銀行に入り漸次支配人にまで昇進、停年退職後は靜岡三十五銀行沼津支店長をつとめ、また駿東郡會議員に當選し、東海同志會を組織して政治運動に乘り出し一方の雄と謳はれた。今は專ら閑雲野鶴を友として生活するも、先年選ばれて村會議員となり今日に至る。長兄磐氏は村治に功績多き人材、次兄省五氏は人も知る陸軍大將、共に今は故人である。嗣子俊彥氏は朝鮮銀行靑島支店長を現任し將來を囑望される。

小山町
飯盛山本蓮寺

當山はその昔湯船川の南岸に一つの草堂があつた、當時は眞言宗の寺院であつたが、その頃、日蓮宗大本山長光寺の若僧、まだ十四歳の日朝が行脚し、湯治のため當地に滯在中、しば〳〵この草堂に遊び、集まり來れる里人に向つて、日蓮宗の功德を說敎し、里人の信仰せる眞言宗は、日蓮宗より見れば之同敎義なりと喝破し、大に里人を感動せしめた。應永四一丑年、里人はこの若僧を請じて今の飯盛山城を相し寺刹を建立し、本蓮寺と

名づけたのである。即ち開祖記錄に徵するに日蓮聖人三代の法孫青蓮阿闍梨日朝で、今を距ること實に五百三十有餘年の昔で、法燈を承くる第三十六世に及ぶ古刹である。なほ今の寺院は延寶七年十月第十一世日蓮上人の再建にかゝるもので寺寶には日蓮聖人眞筆本尊五幅、日朝上人眞筆本尊、敎示書その他がある。

富士岡村　神山
村會議員　內藤新作
電話　神山七番

氏は明治二十年五月九日の生れ、幼少時極めて辛苦を嘗めたことから、專ら子弟の敎養に心を寄せてゐる。內藤家の先代友吉氏の後を嗣いだが、當家は土地の名望家でもある關係から、銳意家業に精進して今日をあらしめた。溫順にして淵達、私利を離れて公に趨るといふその性格は、夙に一般村民の注目を惹き、村會議員の改選に際して推されて當選、目下村政に與つてゐる。本村特設電話の架設に當つては、最も盡力するところ大なるものがあつたし、組合役員としても活動してゐる。夫人いち子さんとの間に二男二女あり、長男公男氏は靜岡師範出身、長女の千春子さんは三島高等女學校在學中。

富士岡村　神山尾尻
元村會議員　前田壯平

氏は先代德次郎氏の長男、明治十七年八月五日の生れで、四代相繼いで農を家業となして來た家柄であるところから、長じて父祖の業に銳意精進したことが、村民の間に名を馳せ、自然信望を博するに至つた。昭和八年の村會議員改選に當り、推されて立候補して當選、他に先んじて村治に關與、それこそ滅私奉公の念を以て貢獻、夙に功績を稱へられるところがあつた。また他に區長として、養蠶組合役員、農會役員としても相當活動してゐる。資性溫順質實の人、夫人は貞淑にして內助の功勞者、長男幸平氏は今、家にあつて父業を手傳つてゐる。また女子二人は他に嫁し、主婦としての婦人道に進んでゐる。

富士岡村　神山
村會議員　塩川孝

氏は田代德次郎氏の男、明治二十四年四月十九日の出生、その四歳の時、當家に入り、先代孫次郎氏を父となして育つた人だ。銳意して家業に當るところあつたが、昭和九年の一月、靜岡銀行御殿場支店に入り、その支店長として就任、行務に邁進してゐるが、部下の氣受けが頗るよい。また神山報德社の副社長としても盡力してゐる。更に氏は村會議員の椅子を占め、現に村治に與つてゐるが、正々堂々たる提案は、いつも村會の鳴りを鎭めてゐる。夫人あさ子氏との間に一男三女あり、長男孝信氏は金澤第四高等學校三年に在學中。長女かづゑ子、次女禎江子の兩孃は他家に嫁し、三女晧子孃は目下沼津高女四年に在學中である。

富士岡村　沼田
村會議員　**内田曾一**

欲しきは高潔なる志操、人格である。氏が遽然として現はれて村會議員の金的を中て得たのも、昭和八年まで村内小學校に奉職、主席訓導として師表に立つたことが、篤實高潔なる人格者たらしめ、また村會一の博識者として仰慕され、今後の活躍振りが村内一般から期待されてもゐる。家は土地の舊家で、農を家業とはなしてゐるが、今や家業を離れて村内公共事業、組合などに專心貢献すべく餘議なくされつゝあるといふことは、氏の美はしい性格がさうさせたもので、學窓教育を轉じて實際社會にうつし、自ら社會人としての範を示すであらうことを、村として、一般人として刮目刮待するものである。

玉穂村中畑
村會議員　**勝間田喜六**

當家は元印野村北畑にあつて、勝間田氏の總本家として有力なものであつたが明治四十四年十二月、今の地に移つて今日に至つてゐるもので、祖父仁平治氏は代々名主の家柄を受け、戸長としても功があり、先代市太郎氏は印野村會議員として村政に與つたが、四十六歳で逝去した。その男たる氏は、父祖の遺志を繼いで家業たる農に精進すると共に、他方村内自治のことには先んじて力を致し、曾ては消防部長であつたが、現在は村會議員であり、また區の協議員でもあり、父祖が遺した業績の達成に向つて邁進してゐる。趣味は狩獵で現に縣獵友會評議員に擧げられてゐるほどで、その技倆はさこそと思はれる。三男四女の父、長男喜市氏は御殿場實業學校の出身の秀才である。

玉穂村中畑
元村會議員　**西山正重**

氏は明治二十二年六月二十日の出生、疾くから家業となす農に精進したが、それのみを以て甘んじてゐなかつた。當地にも產業組合の創立を見るや招かれてその監事に就き、同組合の發展に努力し、區長代理に推さるゝや、絶えず區内の刷新改良に心を致して、しかも實績を擧げてゐた。次で村會議員、村農會評議員、總代、國勢調査員などゝしても相當の功を稱へられてゐる。性溫厚、そして信望の厚き人、長男氏は亡く、次男榮氏は目下海軍兵として入團勤務中である。因に西山家の祖父六三郎氏は當家中興の祖で精農家の聞えが高かつた。父君權五郎氏は家業を勵むと共に區長代理に選ばれ、現在の區の基礎を更に鞏固にした功勞者であつた。

玉穂村中畑
村會議員　**勝又惠佐久**

氏は富士岡村神山の農、前田德次郎氏の次男で、明治十九年十一月五日の出生、實父は常設委員、村會議員、その他の公職に貢献した人、實兄壯平氏また村會議

員に選ばれ、何れも村治の功勞者だつた氏は二十四歳の時、勝又家に入る、部落の舊家で、代々農を踏襲して來た先代藤五郎氏に仕へて孝養を怠らなかつた。元村農會總代を勤めたが、現在は村會議員として村治に關與、また養蠶實行組合長としても活躍してゐる。若くして實父氏に培かはれ、また勵まされ氏の公共心は年と共に膨らみ、村治を思ふ心は更に更に深く、しかも熱烈さを增してゆくばかりである。家には二男三女があり、長男源一郎氏は家業を助けてゐる。

深良村深良
村會議員　**高橋作十**

氏は明治九年十二月三十日、富田銀次氏の二男として生れ、後ち代々農業に專心して來た今の家當高橋家の先代熊次郎氏の嗣子として入つたもので、豪快にして仁俠なるその性格は、村切つての名物男たらしめ、謂ゆる正を踏んで恐れず、千萬人と雖も吾れ行かんの氣魄を以て公共方面に向つて闊步してゐる。立憲政友會に籍を置いて現に村會議員をはじめ畜產組合代議員、農會總代、森林組合總代駿東木炭組合總代を兼ね、それ〳〵活躍してゐる。正を踏んで恐れずの氣慨こそは、氏一人の占有物たらしめず、村一般に及ぼして欲しいものである。長男央男氏は、目下深良發電所に奉職中にして之又大いに將來を囑望されて居る。

深良村深良
村會議員　**杉本貞**

謂ゆる外柔內剛の士、外は質朴なれど內に覇氣滿々たる氏のこれからこそを、村人の等しく留意張目するところであらうが、明治二十五年八月八日、土屋銀次郎氏の四男に生れ、天正年代から農を以て傳はる杉本家先代岩太郎氏に望まれてその家を繼いだもので、大正元年、召されて工兵隊に入營、工兵上等兵に昇進、滿期除隊歸鄕してから、先代の權家總代の後を承けて總代兼會計係となり、また區長、消防副組頭、農會議員、納稅組合長、帝國在鄕軍人會深良村分會長等に推され、よくその實を果し、現在は村會議員、養蠶實行組合理事を兼ねて盡瘁してゐる。なほ消防現場功勞賞、納稅功勞感謝狀、消防功勞賞、在鄕軍人會功勞賞を授けられた。子女三人ある。長男茂氏は縣立沼津農學校出身の秀才である。

印野村
消防組頭　**岩瀨熊雄**

氏は明治二十七年二月二十三日の生れ疾くから家業たる農耕に親み、しかも精勵倦むところがなかつた。大正三年、徵兵に應じて中野電信隊に入營、精勤を以て知られ、他に範を垂れるところがあつた。滿期除隊となつてからは村內公共方面に心を致し、村會議員に擧げらるゝこと一期、國勢調査員として大いに寄與するところがあつた。今は消防組頭でありまた產業組合理事でもあり、熱心多年の抱負を傾けつゝある。家には三男二女が

ある。因に當家は二百年來の舊き家柄で農を以て家業となして今日に至つたもので、先代は松次氏、區長に推されて土地のために身を投げ出して盡力した人だつた。

原里村 保土澤
前村會議員 米山勘五郎

當家は元現在の地より八丁奥の古屋敷と稱するところにあつたを、後ち現在の地に移したもので、先代房五郎氏は牛馬商を營んでゐた。氏は物堅いことに於ては村内第一の稱がある。本村川島田の芹澤六郎平氏の長男であるが、明治三十五年、米山家に入つたもので、村會議員一期、消防組會計兼小頭三期、養蠶小組合支部長、部農會役員、區長二期を勤めて業績を擧げたが、現在は養蠶實行組合理事、產業組合部落委員を兼ねてそれ〴〵盡瘁してゐる。村内に於けるなか〳〵の人望家。一男三女があり、男房雄氏は大正十五年、歩兵第三十四聯隊に入隊、現在は帝國在鄕軍人會原里村分會班長を勤め、また本村消防組書記として働いてゐる。

原里村 保土澤
村會議員 山崎義親

氏は純朴そのまゝの人、明治二十年八月十八日の出生、家は七八代目、農を相繼いで來たもので、大正十二年、印野村消防組頭を六ヶ年、同上部長を二ヶ年勤めてゐる、(元來當初は原里村であるが、交通不便のために印野村に屬してゐる)。それに部農會長、その他の公職に盡力してゐるが、現在は二期目の村會議員として再度村政に與り、また養蠶實行組合長をも兼ねて、輝かしい業績に向つて精進しつゝある。父君源三郎氏は八十三歳、母堂は七十七歳、何れも健康體を以て家事を見てゐる。夫人コト子さんとの間に四男三女があり、長男勳氏は御殿場實業學校を卒業して、目下青年團の分團長として活動してゐるが、前途ある青年として注目されてゐる。

北鄕村 用澤
元村會議員 杉山忠太郎

溫厚篤實といはれる人は多いが、溫厚の中に氣慨を有し、篤實の中に覇氣を有する者は少い。わが杉山忠太郎氏は、その少い中の一人である。農を業として精勵、傍ら自治及び產業のことに盡力し、村會議員に選ばれて村政に參與すること多年、また區長、村農會役員、その他をつとめ、部落の有力者にして自治の功勞者で、人望普く、文字通り部落の誇りとされてゐる。また人に對するに親切、事に當つて周到、一字を忽せにせず、一劃を蔑まざるの士で、公衆の福利となることには骨身を惜しまず、私慾を去り私利を捨て、奔走し、稀に見る人格者と賞讃される。

北鄕村 一色
元村會議員 込山孝

篤農家としての聞え高く、本村自治產

業に貢献少なからざるは、わが込山孝氏である。部落の各役をはじめ、村會議員等を多年つとめたる功勞者にして、產業の開發、教育の振興等に貢献し、諤々の論は常に議員中の華といはれた。衆望のあつきこと部落隨一にて、北鄕村有力者に異彩を放つてゐる。人多き人の中にも人ぞなきと昔の人は歌つたが、少數の眞の人たるは難い。氏の如き人格と識見と手腕の三者兼備の村幹こそ、誠に眞の人たるの模範と稱すべきであらう。因に當家は部落屈指の舊家にして代々農を營み鄕黨の信望あつき家柄である。

原里村 板妻
元村會議員 長田和久治

當家は分家獨立して三代目、部落切つての資產家である。氏は元三郎氏の長男明治九年の出生、疾くより村内の事に與り、村會議員に選ばるゝこと一期、その他消防組小頭、同部長、常設委員、區長たること三期、その功勞多大なるものあつたが、十數年來はあらゆる公職を辭して斷然出馬せず、たゞ一念家業のために力を注いでゐる。氏をして斯の太き心境に追ひ込むに至つて動機は、果して何であるかを思はざを得ない。夫人との間に一男一女があり、長男氏は埼玉縣立秩父農學校を卒業すると同時に家にあつて父業を助けるところがあつた。後ち推されて消防部長に就任、現にその職にあつて盡力してゐるが、また將來を刮目されてゐる。

須山村
淺間神社

當社は木花開耶姫命を祭神となし、人皇第十二代景行天皇の御宇に創建されたものである。後ち欽明天皇の御代に再興され、天元四年、駿河の拜領主平兼盛これを修理し、文治二年、源頼朝、兵を起して戰を平氏に挑むや、まづ當社に詣で戰勝の祈願を籠め、武具と土地三十五町歩とを寄献したと傳へられてゐる。明治十八年列格、鄕社として今日に及んでゐる。戰勝と安產子育等に御神德顯著なるものがある。境内は一千五百坪、一歩神域に至れば思はず襟を正さしめるものがある。本殿の外に子安大神、足應大神八幡大神、八坂大神などの攝社末社が存置されてゐる。寶物には頼朝戰勝祈願狀武田信虎並に同勝頼の祈願があり、四月十七日が例祭、氏子三千八百戸、社司は清邊國信氏。

原里村 川島田
前村會議員 勝間田茂策

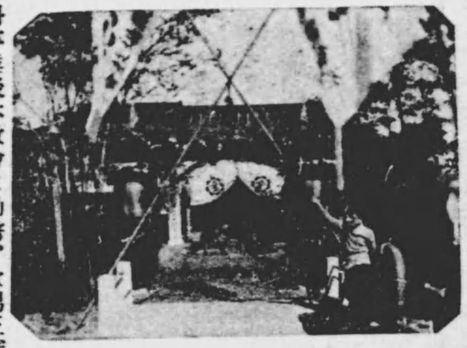
氏は明治三年生れ、同四十四年、印野村北畑部落は陸軍省に買收されたが、氏は當時の交渉委員として斡旋の勞をとり昭和元年、北畑部落四十數戸のうち三十數戸と共に、永年住み馴れた故地を後に今の地に移住したのだつた。曾ては印野村消防組小頭、同村北畑區長、同部落農會長、また昭和四年來は原里村會議員二期、區長三期、養蠶組合長、土地賃貸價

額調査委員等に擧げられ、永年村内大小の事に關與、その功決して尠少ならざるものがある。現在は區内の顧問役に推され、また淺間神社氏子總代として努力し一面片倉製糸の蠶種製造に從事してゐる夫人との間に二男一女があり、長男俊雄氏は四十歳、家にあつて父業を助けてゐる。

御殿場町

金光教御殿場教會所

本教會の創建者は若田福太郎氏、明治三十八年八月一日の創設で格式は五等級天地金の神造化三神を祭神となしてゐる氏は明治十五年、三島町久保町廣瀬儀平氏の四男に生れ、後ち若田家に入つたもので、幼少時より身体虚弱、加ふるに二兄氏共日露戰役に出征するに及んで、自らは宗教家として人のため將た世のためたらんと發心し、沼津教會の高橋權平師に就いて修業、三年後に本部の學校に入り、卒業後沼津教會に奉仕、二十四歳の時當地に來つて開教、非常の苦心を嘗めて漸く現在の隆盛を見せ、大正五年四月一日、今の地に移り昭和三年四月新殿竣成して今日に至つてゐる。



長男實氏は本科卒業後本教會に勤務、次男正勝氏は岡山縣總社町總社教會々長並に本部に兼務してゐる。

泉村茱畑

天理教佐野原分教會

當教會は、明治二十七年鈴木朝藏氏によつて始めて出張所の名目で設立の許可を得、その後明治三十四年支教會となり四十二年二月分教會に認定され、更に昭和九年四月獄東大教會より分れ水口分教會となり今日に至る。國常立尊、國狹槌尊、他八柱の神を祭神とし六月三十日、十二月三十一日に大祓を執行し盛大を極める。

現教會長は鈴木繁吉氏である。氏は駿東郡小泉村の人、明治二十七年の出生にて東京にて中學校を中途まで學び、別に業歴とてなく、大正四年八月嚴父朝藏氏逝去の後を承けて主宰者となつたが人格高く知識深く、信徒の尊敬を一身にあつめてゐる。なほ資格は權中教正、三級である。

御殿御町

天理教御殿場支教會

當支教會は勝又平三郎氏の設立に係る

氏は明治二十四年七月天理教信徒となつてより布教に力を致し、翌二十五年京都河原町分教會江州水口支教會設立認可され、二十七年には御殿場出張所を設置、爾來布教宣傳の實大いに擧がり、明治三十年頃までに駿東郡北郷村、富士郡原田村、神奈川縣足柄上郡金目村等に出張所を持つに至り同四十二年御殿場支教會に昇格した。かく當教會設立及び發展の恩人なるも、大正七年惜しくも永眠せられ、同年庄司宇太郎氏二代目會長に就任昭和八年土屋軍治氏三代目會長となり、

同十一年現會長勝又與作氏が先代逝去の後を承けて四代目會長に推されて今日に至つた。氏は幼少の頃兩足の膝が一寸もまがらず、醫藥も効なく、神佛への祈禱も驗あらざる折柄、長田角次郎氏及び神山老人の奬めにて天理教の信仰に入りしに、信仰後約半年の明治二十五年正月一日朝はじめて座ることが出來た。氏自身は勿論のこと兩親の悦び一方ならず、その後は親子揃つてます〳〵信仰を深くし、天理教の普及に盡して今日に及び、この間明治四十年、同四十一年、同四十二年の三年間續けて天理教本部に參拜し昭和七年二月天理教校を卒業した。現在訓導である。信徒の人望は極めて厚く、令名嘖々たるものがある。

大岡村

片倉製糸紡績株式會社

沼津蠶種製造所

電話沼津二四〇番

當所の本社は東京市京橋區築地二ノ三に在つて、資本金五千二百萬圓、製糸業を主体となしてゐるが、當所は專ら蠶種の製造に從事してゐる。昭和三年四月の創設で、建坪一千三百八十九坪、延二千百三十九坪に及び、一ヶ年の製造高は春蠶種二十萬個、夏秋蠶種十萬個、合計三十萬個で、無毒强健であることを特色とし、誇りとなしてゐる。堅實第一主義によつて經營、從業員數は最多の時は四百五十餘人に上り、現在工場長は藤岡豐海氏が當つてゐる、また現社長は今井五介氏で、工場及び營業所々在地は全國は勿論、米、支那等各所に散在し、六十有數ヶ所にあり、姉妹會社も十數ヶ所に設けられゐる。

高根村上小林

村農會長
元村會議員

勝又兵衛

氏は多年村政方面の闘士として善戰、今日の村治績をあらしめた功勞者の一人として、その名を沒することは出來ない現在は村の有力者、部落の元老として重

書をなし、元村會議員、現付農會長として村内の農業方面の改良刷新に力を注いでゐる。

高根村 上小林
村會議員 **勝又貞治**

氏の家は土地に於ける舊家として知られ、代々農を以て本業となして來たのである。

氏は父君の後を襲ふて家を繼ぐや家の内外に對して意を注ぎ、よく父君の心を休して活躍、今日を得たものである目下村會議であり、村會に於けるよき闘士として公のために戰つてゐるが從つて氏に集まる信頼の度は一層深きものがある。

小山町
町會議員 **湯山文英**

氏は早くから富士瓦斯紡績株式會社小山工場に入り、現在は庶務係として重きをなしてゐるが、町の人としては町政方面に關係し、昭和十二年五月、町會議員改選に際し、推されて立候補、町民の與望を負ふて當選、町政の刷新に努力貢献をなしてゐる。

富士岡村 神山
村會議員 **武藤作太郎**

氏は村會議員として、滅私奉公の一心を以てその職に當つてゐるが、氏は性温厚にして篤實、極めて眞面目な人格者であるだけに、その人望に至つては絶大なるものがある。氏は常にこれ等の衆望に副ふべく努力してゐる。

富士岡村 神山
村會議員 **宇田川義一**

氏が多年培かつた村だけに、その人氣は大したもので、現在は村會議員でありまた學務委員でもあり、さうして一村進展のリーダーとなつて精進努力してゐるこれまで村政の上に功勞のあつたことは改めて贊するまでもない。

富士岡村 中山
村會議員 **長田重作**

氏の家は始祖以來農を本業となして來た土地の舊家で、その祖は家業に邁進すると共に、また村政にも心を配つて貢献するところがあつた。故に土地の衆望はまことに著しいものがあり、氏は現在村會議員として村政に與りつゝあるもの、その反映とも見るべきで、古くからの人氣の堆積の結果と見るべしである。

原町
町會議員 **杉田友次郎**

氏はテーブル掛商として多年獨力を以て精勵また努力、遂に身を起し、町商工會の重鎭として推さるゝの一代成功者、まさしく立志傳中の一人者である。現町會議員として活躍、町自治に參與貢献してゐる。

富岡村 千福
村會議員 **西島親則**

氏は村内に於けるなか〳〵の人望家でまた有力者でもある。昭和十二年五月、村會議員に當選、現に村政に與つてゐるが、氏がこれまで盡力貢献した功にも大なるものがあり、常に村民の輿望に副へつゝある。

印野村
村會議員 **勝間田久次郎**

氏もまた人望家、いつも一村を背負つて立つの氣魄を以て村民に對してゐる。今、村會議員現任中で、熱心村政の上に力を注ぎつゝあり、しかも村内からは多大の嘱望を以て期待されてゐる。

長泉村 南一色
村會議員 元村長 **上杉種五郎**

氏は村内に於ける元老株、元村長として、また駿河銀行下土狩支店長として多年勤務、金融方面に貢献するところ著大なるものがある。現在は村會議員、學務委員としてなほ村政に功績を重ねてゐる令息氏は今、駿河銀行下土狩支店長として業界に擡頭、今後の人物として前途に多大の期待をかけられてゐる。

高根村 増田
林皓一郎

氏の家は土地の舊家、故祖父氏は村長として一村の利福增進に盡し、夙にその功勞を稱へられ、父君は軍人、帝國在郷軍人會高根村分會長として大なる功績のあつた人であるが、今は故人となつてゐる。氏は父祖の志を繼いで漸く村政方面に頭を擡げた前途春秋に富む青年である併し擡頭しかけてはゐるものゝ今暫くは待機の姿勢をとり、やがて一氣呵成的に邁進するのではあるまいか。（寫眞は父君雄一氏）

深良村 深良
消防組頭 **土屋登龍**

氏はイエス、ノーを確然と答へ得る痛快仁俠の士、十八年前、村消防の振はざりし當時、組頭に推され、鋭意して組の發展完成に努め、所謂一心は岩をも透すの例に背かず、金馬籠を獲得するまでの向上發展を示し、大に盛名を謳はれて隱退したが、近時また同村消防組の衰退に

傾くや、再び衆望を負ふて組頭に就任、同組の更生に献身的の努力をなしてゐる

氏の家は十七代目の舊家、幕政當時土屋姓を名乘つたほどの名門、一説には武田信玄二十四將の一人土屋左衛門尉の後裔であると傳へられてゐる。父君友次郎氏は町村制施行以來、村會議員として村治に與ること三十有六年、昭和十一年、甚大な功績を殘して逝去した。

泉村公文名
區長　高田小市郎

當家は安倍貞任の出、越後高田に住して高田姓を冒し、天正年代、今の地に移り秀經より代を累ぬる四百年、鄉士として繁榮した舊家で、先代亡市五郎氏は戸長、村總代を勤めた。氏はその四男、明治九年の出生。明治大學出身、始め東京市水道局に奉職、後ち牛込區役所に轉任して水道課長となり、次で衛生、道路の兩課長を兼務、大正十五年の三月に辞任翌四月より昭和三年九月まで東京市購買組合主事として活動した。歸鄉後は立憲民政黨に籍を於いて村治に與り、現に區長、學

務委員を兼任してゐる。精動十年によつて銀時計を、同十五年によつて銀盃を受けてゐる。圓轉滑脫の性、晴耕雨讀し、また釣にも興をもつてゐる。長男穗氏は東京府立工藝學校卒業後、東京市技手として勤務してゐるが極めて眞面目な、そしてとても責任感の強い將來ある青年と嘱されてゐる。

泉村茶畑
農會評議員　杉山八百藏

氏は今は故人となつた常吉氏の三男で明治二十三年の出生、代々相繼いで農を本業となして來た。氏は極めて忠實なる農耕人で、禪宗の信者。前に區長となり家屋税調査員であり且つ肥料調査員、國勢調査

員として盡力し、現在は農會評議員をはじめ駿東郡稻作改善實行班長、泉村振興會委員を兼ねて、それ〴〵奔走貢献しつつある。氏は名に走る人ではなく、たゞ

自己の負はされた職責に對しては、徹頭徹尾完全に結實せしむべく努力を續けるのみだ。想ふにかういふ人があつてこそ始めて村の實績があがるのではあるまいか。子女九人あり、長男正雄氏は今、在鄉軍人分會班長を勤めてゐる。

泉村公文名
元助役
勳八等　室伏幾太郎

淵恭寛仁の性、そして生氣潑溂たる八十の高齢者とは見られない氏は、勝俣多吉氏の男に生れて、當家に入つた人。當家の遠祖は藤原家、武田家の家臣で後に歸農し名主を勤め室伏の苗字を許され、先代故源六氏また駿東一圓に聞えた人物といふ名家であるを知つては、瞬時も心の紐を解かなかつた。明治九年來字の用係となり、次で村役場に入り、大正三年助役に推され、日獨戰爭の際、內治の功に依つて勳八等に叙せられ、且つ永年村治の功勞により銀盃賞狀等を數次授與されてゐる。男亡正吉氏は村のために水道敷設に貢献した功績者、令孫正俊氏は今、大志を抱いて南米ブラジルのサンポーで新聞社を經營してゐる。

泉村茶畑
村會議員　杉山福次郎

當家先代亡林七氏が分家して以來營々として農事に勤め、遂に今日の基礎を築くに至つた典型的の精農家であつた。氏はその三男、明治三十七年兵、日露の役に從つて國民の義務を盡した。夙に愛鄉心に富み、公共事業に力を注ぎ、道路委員、神社復興員、消防役員等を勤め、よく衆望を負つて職責を果し、鄉村に缺くべからざる人物たらしめた。昭和十二年五月、村會議員改選に當つて推されて當選、現に村會要衛の人として活躍しつゝあり、その他農會評定員、出荷組合長としても

盡力奔走してゐる。資性溫厚篤家、極めて責任感の強い人、無論今後のことは期して俟つべしで、子女三人あり、家庭は頗る圓滿である。

深良村岩波
元村長　故井上伴學

當家の祖父伴右衛門氏の代に大飢饉があつて、村內の窮民食に飢えて草の根、木の根を掘つては辛うじて命を支へたが遂にこれ等を掘り盡してからは、日に幾人となく路傍に倒れ行くさまを目撃しては、氏はそのまゝに眼をつぶつてをることが出來ず、自ら家財を投げ出してこれ

が救済に努めたといふ名主の面目を躍らせた人。氏はその令孫、幼にして父君伴藏氏に死別したが、母堂つな子氏は所謂女丈夫タイプの人、繊手よく家運の挽回に努め、また氏の訓育に慮るところがあつた。後ち氏は裁判所に勤め、大に將來を嘱望されたが、一度村治のことに思を致すやこの邊に心を注ぐこと最も深く、辭任後は專心村治方面に活躍した。明治四十年推されて村長の任に就くや、爾來大正三年に至るまでの間、夙夜勵勉して業績を擧げ、大にその手腕を讃へられ、衆望は期せずして双肩に落ちて來た。同六年からは御厨銀行支店長として勤務、疾くに令名を馳せ、功績を謳はれたが、不幸病を得て仆れたは哀惜に堪えない。未亡人登和子氏、夙に貞淑温雅の人、今は令息雄父氏の訓育に我れを忘れてゐる。

深良村上原
元村長 **小林義左**

當家は部落小林一門の總本家、實に二十四代連綿の家柄である。先代由太郎氏は町村制施行前、戸長として勤務、明治二十三年七月、一村の推擧によつて村長に就任、また蘆ノ湖湖水組合管理村長となり、その在任中官有地七百町歩の村有林拂下請願運動に奔走、遂にこれを貫徹して村有林となし、現在は植林地となして將來のために備へてゐるなど、常に挺身村治に滿腔した功績は、全く筆紙に盡しがたいものがあり、これを置土産となし、六十二歲を以て死去した。氏はその長子、明治十七年十月十一日の生れ、曾て上原區長たること二期、また檀家總代として盡力、現在は二期目の村會議員として活躍してゐる。（寫眞は先代由太郎氏）

富岡村下和田
元村長 動八等 **杉山勝三郎**

舊幕時代、當家祖父伴藏氏は村總代を勤めたほどの土地の舊家、代々農に從事傍ら萬荒物商を營み、先代治三郎氏は村會議員等に選ばれて貢献した自治功勞者氏は明治二十六年二月十七日の出生、長崎縣神陽實校出身、大正二年長崎重砲兵大隊に入營、日獨戰爭には長崎重砲台守備の任に就き、功に依つて動八等に叙し准尉に

昇進した。軍役勤務中、當家の女婿となり、退役後は、帝國在郷軍人會富岡村分會長に就任、現にその任にある。村役場書記を振り出しに收入役、助役、更に村長に推擧されて村自治方面にも多大の業績を樹て、今はまた青年學校指導員として活動してゐる。夫人は百枝子さん、長男享一氏は今、田方商業學校在學中。

原町原
醸造業 **高島島雄**

當家先代亀吉氏は大正四年までの二十四年間、肥料並に酒の仲買商を營み、努力よく資産を積んで今日の土台を築いた人である。氏はその男、高島酒造店の經營者で清酒、燒酎を醸造、「白隱正宗」、「白隱燒酎」の名を以て市場に送り出してゐる。現在の主なる販路先は富士、駿東田方、沼津、東京、横濱等で、一ケ年の醸造高は約八百石である。酒造研究會第十一回靜岡縣税務署司税官品評會に出品特選賞を授けられてゐる。從業員は二十名。なほ白隱なる名は、白隱禪師の名に因んで命名したもので、今より二百五、六十年前白隱禪師の地として知られた有名の地である。醸造業としては未だ歴史の新らしいものであるが、それだけに前途に輝きがある。

原里村板妻
板妻副區長、區有財産管理委員 **長田長十**

質實敦厚にして資性英邁といはれる氏は御殿場町中村丑藏氏の二男、明治二十三年三月十三日を以て生をこの世に享け長じて長田直藏氏の養子となつた。家業に精勵して財を成すこと多き一面、よく社會公共のため私利を捨てゝ盡瘁し、農には消防組小頭九ケ年、同部長二ケ年、養蠶實行組合長永年を勤續、その奉公の一念こそ全村民の信望をあつめるに充分であつた。現時區有財産管理委員、村社淺間神社氏子總代、區會議員二期目の任にあるほか、昭和十二年三月からは板妻副區長として貢献してゐる。令閨つなさんは養父直藏氏の二女、二人の令孃を有し、長女辻江さんは北郷村芹澤宇之吉氏の三男東氏を養子に迎ひ、家庭圓滿ますます繁榮の一路を辿つてゐる

賀茂郡

朝日村 大賀茂
村會議員 勳八等 **齋藤菊太郎**

當主は六代目にあたり、百五十年の歴史を有つ、明治二十五年八月六日與吉氏の長男として生まる。農業を營む。村内屈指の資産家として有名である。日獨戰爭に從軍し、戰功に依り旭日章八等を賜はる。區長學務委員等を勤めたることあり、現在は中堅村會議員として力強い歩みを示してゐる。氏は教育費の輕減、木炭販賣の統制等に關し一大足跡を殘してゐる。性温雅剛健なる氣風ありて常に衆の先頭に立つ。夫人ナミさんとの間に十一人の子あり、その子福者としても村内有名にして、曹洞宗に歸依し、家庭は至つて圓滿である。

朝日村 吉佐美
朝日村産業組合理事、勳八等 **土屋金兵衛**

先代安五郎氏は村の顔役として知られざるはなく、明治四十一年家督を繼ぎ七代の當主となる明治十一年八月十日生れ日露役に從軍してその功に依り勳八等を賜ふ。古く村會議員を始めとして郡農會評議員養蠶組合評議員、消防部長、區長、在郷軍人會評議員、氏子總代等その殘した足跡は大きい。現在朝日村信用組合理事を三期の長きに亘つて勤めてゐる嘗つて長年消防に功勞ありしを以つて、縣警察部より表彰狀を下附さる夫人との間に二男あり先代を凌ぐ人格者として既に定評ある所、村民ひとしく敬愛して歇まず。これ氏の人徳の致す所である。

朝日村 大賀茂
朝日村大賀茂信用購賣組合

當組合は久しい村民要望の聲の下に大正八年創立さる。出資總額參千六百貳拾圓一口貳拾圓組合員九拾參名、昨今は内部整備に依り預金增加を見、貸付貳萬五千圓貯金參萬五千圓、購買力の良好さは年四千圓の數字を示すに至つた。組合長佐藤氏は外岡幸助氏の後を受け、役場在職七ケ

年の經歴から、正しく明るくその力腕を揮ひつゝある。明治三十八年三月二十一日生れの壯年血氣の人、共存共榮の理想を眞向正面から振り翳して、終始一貫至誠を以つてし、組合の前途は氏と共に、益々發展性を多分に有つてゐる。夫人やうさんとの間に三人の子息あり、佛教信者として、圓滿、剛健、農村自治開發のため氏に殘された仕事は大きい。

朝日村宇大賀茂
勳八等 前村長 **增田寅松**

數百年前より當地に居所をトして、名族として近郷に知れたる增田族の始祖なり。氏は明治元年五月、虎次郎氏の長男として生を享く。日露戰役當時村長として軍事に關し、その功績大なるものあり勳八等を賜はる、嘗つて村長を振り出しにこれを三期、村會議員三期、農會長二回、國勢調査員二回等、現在は郡木炭組合副組合長靜岡氏方面委員の職を奉じ當郡切つての政治家にして元老の尊稱あり。日獨戰爭當時も軍事公債募集に盡力す。天皇陛下より木盃三組下賜され、昭和十二年四月赤十字社特別社員に推擧さる。夫人ナミさんとの間に五男二女あり、内二女は既に嫁ぎ、長男國光氏は稻取町信用組合在職、次男良雄氏は海軍省水路部に在職、和氣靄々たる家庭なり。

朝日村 吉佐美
村會議員 勳八等 **笹本孝太郎**

往時より素封家として知られ、現當主を以つて四代目となす。明治十三年五月十六日梅次郎氏の長男として出生。農業となす。日露戰役に從軍し、その勳功顯著なるものあり、勳八等に叙せらる。歸村後、在郷軍人分會長、農會評議員、朝日村産業組合評議員等の公職中、大いに努力あり。現村會議員として村治に竭す。政黨色は政友會至極圓滿の人であるために初對面より人をして懐かしめる德があるたゞ默々實行の人。村内の輿望を擔ふ。今後とも多々益々氏に負ふところあるを感ぜしめる。

朝日村 大賀茂
區長 **外岡淺太郎**

祖先は遠く三百年の舊き歴史を有ち、名主等を勤めたる家柄である。先代兼松氏の長男として明治二十六年四月六日に生る。十代目の主である。長じて豐橋第二十一聯隊に入營し、昭和五年滿期除隊となるや、在郷軍人分會長に推され、十

二ケ年の長きに亘つて之を勤め、在郷軍人の父と仰がる。現在は區長として村望を一身に聚め努力家であると同時に村内の世話好きとして有名である。曹洞宗の信者として知られ居り、夫人外三名家庭に在り

長男兼太郎氏は豆陽中學校を卒業。恪勤精勵、區長としてまことに最適の人物たると共に眞面目そのものとして人々より敬愛されてゐる。

朝日村 吉佐美

少林山曹洞院

當山は弘法大師の開刹にかゝるもので永禪庵と稱し、隆昌を極めたが、後ち荒廢に歸した。開基宗賢居士發願して堂宇を再興し、能庵宗爲和尚を請じて天文元年正月七日に開堂、以來曹洞宗となり、天保十一年極月、火災に罹つて堂宇を灰燼に歸してしまつた。釋迦牟尼佛を本尊となし、弘法大師が寫經に用ひられた硯の水今も湧出してこれを使用せば書道上達すと傳へてゐる。境内は七百八十餘坪山門は名匠左甚五郎の作で、國寶的のものである。現住職は三十世伊藤仁重師で昭和四年來當山に在つて青年團並に女子青年團の修養教育に盡力してゐる。夫人はきく子さん、間に七子がある。

朝日村 吉佐美

村會議員 加藤勝信

當家先代は長左衛門長親と稱し、明治維新の志士、水戸家の恩顧を受けた人。氏はその長子、明治二十八年九月十日出生、十一代目の當主となつて青年團長を振り出しに帝國農會囑託として進出、現在は村會議員、農會評議員を兼ね本村五ケ年企劃事業に基く産業組合、農會支出の實行方法に對し、之が村會をしてあらゆる助長に盡力村民の期待に副ふやう努力してゐる。資性親切にして穏健、しかも信念の人、正しき者の前には如何なることにも動じない人だ。氏又俳句に趣味を有し號を紫水と稱して知られてゐる。家には夫人外九名あり、祖母ちよう子さんは、當年九十八歳、世にも稀な高齢を保ちつゝあるが、長壽の故を以て昭和十年十月十八日、秩父宮殿下より拜謁を賜はつた光榮者の一人である。

仁科村

村會議員 平馬參美

氏は本村白川區の舊家、元戸長を勤めた齋藤參藏氏の男、明治十七年四月十七日に生れ、後ち平馬家の先代銀太郎氏に望まれて、同家の人となつたもので、青年會長を振り出しに、村道路改築委員に選ばれて竣工し、後ち區長たること七ケ年、大に民望を得て村會議員に選ばれ、昭和十二年五月の村會議員改選に際して再び當選現に村治に與つてゐる。曾ては增林委員、農會長、報德産業組合監事とし盡力するところがあつた。また産業組合の更生に當つては、その調査委員更生委員として一意同組合更生發展に努力しその功多大なるものがあつた。なほ小學校兒童保護者會副會長、養蠶組合副組長として也功があつた、夫人ため子さんは愛婦會員、長男謹吾氏は消防組第五部長である

仁科村一色

村會議員 須田照雄

須田家は曾祖父時代に松崎町より移轉居住したもので、先代常太郎氏は區長、村會議員として功績の多かつた人。氏はその長子、明治二十三年一月一日の生れ沼津中學校第五回の卒業生、同四十二年單身渡來、大正十四年三月の歸朝までは農業に從事するところがあつた。歸朝後は自動車業を營み現在に至つてゐるが、この間一色區長代理方面委員として盡力し、また昭和十二年五月、村會議員の選擧に際しては、有志に推されて逐鹿の人となり案外隱れたる後援者多く美事に當選圏内に入つて今村治の刷新更生に向つて大々的の活動を敢てなしてゐる。性温順、キリスト教の信仰家。令閨すみ子氏内助の功勞者長男丈治氏がある。

朝日村 吉佐美

郵便事務取扱所長 横山繁太郎

氏は當家五代目、明治二十六年九月九日長次郎氏の長男に生れたもの、大正七年、村役場收入役に推され次で助役、村會議員國勢調査員等に擧げられて村治に努力貢献する多大なるものがあつた。村政の研究家であり、當村切つての財政通であり

しかも一度立ては何物にも屈しない剛腹な人である。今下田郵便事務取扱所長を拜命してゐる。局は昭和十一年十一月十六日に開局したもので、日滿爲替、事務書留、價格表記、配達證明、留置などを取扱つてゐる。なほ家族は夫人たみ子さん、外十名であり、長男氏は沼津農學校卒業後は家にとゞまつて父業を懸命に手傳つてゐるのである。

朝日村
元村會議員 **進士福次郎**

當家先代菊右衛門氏は自治功勞者、また村民の信望が極めて厚かつた、氏はその長男、明治元年二月七日の出生、縣支金庫係りたること十三年、後ち村役場收入役、助役、村會議員三期、學務委員、區長、その他什長、消防部長、衛生委員學區會委員、農會長、國勢調査員、赤十字社收入管理など幾多の公職に在つてをれ〳〵盡力貢献その功最も多きを致してゐる。現在は漁業組合理事として關係してゐるに過ぎない。郡制廢止當時自治功勞者として木杯を賜はり、消防整備の功に依つて縣消防聯合會警察部長等の表彰を受けてゐる。長男福盛氏は名古屋野砲聯隊に入營滿洲守備隊として在滿中に逝去、村葬執行、勳八等に叙せられた。

下河津村湯ヶ野
元村長 **相馬宇吉**

代々名主を勤めた家柄、氏は元治元年二月、綱藏氏の長男に生れ、疾くから政治方向に働きかけ現在では自由黨生え抜きの元老株として納つてゐる。しかもその政治的手腕に至つては、萬人の等しく認むるところで、いかな難問題も、一度氏が食指を動かせば忽ちにして氷解するといふ。村會議員たること六期、郡會議員に當選する二期、また初代消防組頭たるなど、村治のために郡政のためにと幾多の功績を擧げ一般からその名を讃へられてゐる。働き盡して今は靜かに光風の間に身を養ふ君が感慨果してどうか、滿足の二字に盡きはせぬか。夫人との間に二男三女の五子がある。

岩科村山口
村會議員 **佐藤謙三**

當家は佐藤由清氏を始祖となし八家に分れてそれ〳〵獨立してゐる。純然たる農家で、古くから山口組の世話役として熱心盡力して來たもの、氏は明治十二年十二月二十九日の生れ、本郡松崎町組合

立學校に學び、また平田師に就いて勉學するところがあつた。後ち山口組合蠶種委員、山口農會郡會長に擧げられ、献身的の努力を捧げるところあつた。郡農會より表彰されたのはその故であつた。現在は村會議員に消防小頭を兼ねて旺んに活動してゐる。君は立憲民政黨員で、岩科同志會長として、黨勢擴張に努力してゐる。趣味は獵に釣閑あれば即ちこの方面に浸つてゐる。夫人はハナ子さん家族はすべて六人である。

上河津村梨本
助役 **稻葉莊藏**

氏は若冠二十六歳にして村會議員となり從來五期その任に選ばれ、また學務委員、區長等にも推され、今は三期目の村役場助役であり、まさしく一村信望の標的である。明治三十八年、日露戰酣なる時、決然朝鮮に渡り、京城及び平壤の主要都市に在つて鐵道に關係驛長、郵便局長、日本人會々長となつて縱横に活躍するところあつたが、三年前父君の他界に遭ふて歸鄕、以來村政に與つて今日に至つてゐる。家は舊家、相續いで農を營み、舊幕時代には名主を勤めたほどの家柄、氏は長之助氏の長子、明治七年一月二日の出生、現在は雜貨商を兼ねてゐる。二男六女の人も美む子福者、長男美夫氏は早大工科出身、朝鮮總督に職を奉じて勤務中であるが、精勵恪勤、前途を囑望されてゐる。

上河津村大鋼
元村會議員 **稻葉伊平**

氏は文吉氏の長男明治三年五月二十日の出生、若くして村會議員となり、區長となり、村役場收入役等に推され、明治四十二年、助役に選ばれ、村長を輔けて村治に努力すること二ケ年である。しかも村會議員たること四期、二十有餘年間村政に努力した功績は決して輕々しいものではない。その他國勢調査員家屋稅調査委員土木委員などゝしても相當功を擧げてゐる。夫人との間に四男三女あり、長男美司氏は千葉醫大出身の村醫、また學校醫で、喜一氏は南滿鐵道社員、實氏は遞信省にとそれ〳〵勤務中である。なほ當家

は九代目の舊家、代々農に從つて來たが現在は雜貨煙草商を營んでゐる。

上河津村湯ヶ野
元村長 山田高次郎

氏は明治七年十月二十二日、啓吉氏の次男に生れ、代々農を本業とせる家に人となつた。區長として區政に働きかけたを楔機となして、終に村自治へと進出、大正八年村役場助役に擧げられ、同十年には村長として村治の樞機を握り昭和二年、再度村長に選ばれ、この間また村會議員に當選すること三回、學務委員となり、また昭和六年來郡養蠶業組合長となり、同組合のために盡瘁すること十年餘、現在は小學校保護者會々長として與つてゐる君が今村內屈指の偉材として村民から敬慕さるゝもの、また故なしではない。はつ子夫人との間に二男三女あり、長男圭三氏は東京蠶絲學校出身、目下家に在つて蠶種業に從事してゐる。

上河津村小鍋
元村長 立花慶治郎

氏は明治四年六月二十八日、山梨縣東山梨郡內田政右衛門氏の二男に生れ、後ち本村立花家に入籍した人で、淸廉潔白なる字句は、特に君のために造られたものか、稀に見る人格者である。明治四十一年、區長に擧げられたを振り出しに公共方向に乘り出し、大正七年、村役場收入役に推され、超えて同十年助役に選ばれ、村長を輔佐すること三年、同十三年村民の推薦固辭しがたく、村長の要職に就いて村利と民福とのためにと萬全の策を樹て、邁進大に治績を擧げて、勇退同十五年統計調査委員となるなど、その功勞は決して尠少なものではなく、感謝狀を贈らるゝこと再三再四に及んでゐる。

上河津村河津
村會議員 相馬卓三

氏は万次氏の長男、明治十三年十二月十五日の出生。まこと百戰苦鬪の體驗者談一度興至れば綿々として盡きぬ快男子二十五歲の頃に上京海軍工廠に專賣局に職工として働き、二十有餘年間、現實的な辛酸を嘗め、職長となり組長となり、大正

十三年、歸鄕して現在の地に呉服雜貨商を營み、他面村政のことに心を寄せて來た。昭和十二年五月の村會議員の改選期に際し推されて逐鹿界に馬頭を進め、雄々しき君が初陣の武者振ひ効を奏して榮冠を負ひ、いよ〳〵村自治參與の一人者として活躍してゐる。氏が一擧一動必ず村民の期待に副ふところあるに違ひない兩親共に健在。子なく、令弟氏を後嗣者に立てゝある。

上河津村大鍋
前村長 稻葉伊右衛門

今は村內に於ける元老株か、明治二年五月十七日渡邊善五郎、氏の三男に生れ後ち當家に入り、若くして先代伊右衛門氏の名を襲ひ、公共方面に進出した。村會議員たる五回、學務委員一回、明治三十二年村長に推擧され、昭和十年再び一村推薦によつて村長の椅子に座するなど以て君がいかに一村信頼の度の深かつたことかを明かに物語るものではあるまいか。斯くして君はあらゆる要職の實を果して、目下は後進者のための指導の立場に立つてゐる、夫人セキ子さんはまた內助の功勞者で間に二男二女があり、長男茂氏は豆陽中學卒業後日本大學法科に入り目下在學中。因に當家は九代目の舊家、曾ては名主を勤めた家柄でもある。

朝日村
前村長 石井福太郎

當家は村內切つての舊家にして、由緒深き家柄なるも、古記錄等を失ひ遠き祖先のことは詳細分明ならず、ただ十數代前より代々名主の職をつとめて名望高かりしことが傳へられてゐる。當主たる石井福太郎氏は石井重右衛門氏の長男にして明治六年五月十八日の出生、僅か九歲の時父を失ひ、母堂の手によつて育てられた。夙に社會公共の事に盡し村長一期村會議員數期、郡農會長、國勢調査員、等を歷任また創立以來の朝日村產業組合監事にして現に實德院禮徒總代を兼ねる曩に下田稅務署に勤務すること十三年、退職後富士銀行下田支店に入り昭和五年まで前後二十ケ年に亙つて金融業務に恪勤したしゆう子夫人との間には四男一女あり、長男隆氏は役場書記、次男は早稻田大學英文科出身である。

中川村南郷
村會議員 正八位 土屋眞一

氏は明治十七年六月二十一日、山本鶴

衛氏の二男として同村一色に生れ、後ち土屋家先代利三郎氏の懇望を容れて同家を繼いだのである。縣立見付農學校出身一年志願兵として入營、少尉に任官正八位に叙位、合資會社更改園の代表者、養鶏、養狸、山葵栽培等に關係してゐる。殊に山葵の栽培に至つては斯界の權威、縣外各地の指導員であり、また駿河銀行松崎支店長をはじめ三四の支店長を兼ねて當地方財界を牛耳つてゐる。前に在郷軍人會分會創立に際しては東奔西走、創立と共に分會長に推され、在職十餘年、大に努むるところがあつた。今、村會議員に區長を兼ね、村區のために活躍してゐる。かづ江子夫人との間に三女があるとに懐古の情念が湧く。藥師如來の木像

南上村　下小野

蘆岳山東林寺

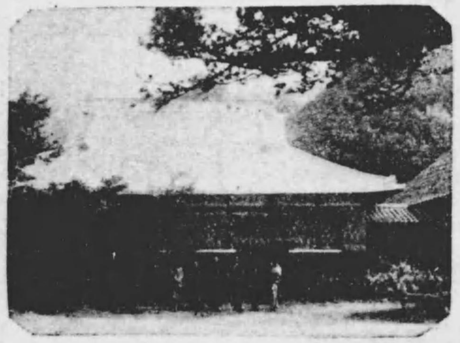
當山は法燈を相繼ぐこと二十世、相當明き歴史を持つてゐるのではあるが、これを一つ〳〵明記する事の出來ないのを憾みとする。當山の開基は巨雄天策大和尚その人で、また開山の祖は龍山宗澤和尚である。本寺は曹洞院で、曹洞宗派に屬し、藥師如來を當山の本尊として祀つてある。境内は三百坪、昔ながらの本堂と庫裡

比釋内天の寶物が今に傳へられてゐる。正月、五月、九月の各八日に十二日は藥師祭を執行する。その日は老若男女の群集が境内を壓しての殺閙を呈する檀家は本村一帯にわたつて七十餘あり、高橋萬壽雄大野今治兩氏寺總代となつてゐる。二十世池谷文雄師が現住職。

南中村　加納

五峰山保春寺

當山は本寺を太梅寺となし、曹洞宗派に屬してゐる。梅空芳春を開基となし法山秀禪を開山の祖となし、曾て眞宗派に屬してゐた頃、山號を護峰山と呼んでゐたといふことである。六百坪に立ち並ぶ總門、本堂、庫裡、鎭守堂位牌堂の一つ〳〵に昔を偲ぶ面影が、何處かに潜んでゐる。



開山以來虚空藏菩薩を本尊として守護して來た。寶物に大般若經六百卷がある。當山鎭守祭は毎年三月二十五日大般若經は七月下旬に執行される。當山の檀家は南中村一圓で、その數約百餘戸、勝安田

火、勝田要作、鈴木伍郎の諸氏を檀徒總代に擧げてゐる。そして現住職は堀井靜光師であるが。法燈第三十三世にわたつてゐるが、師はまた村内青年の思想方面にも努力してゐる。

南中村

田村山最福寺

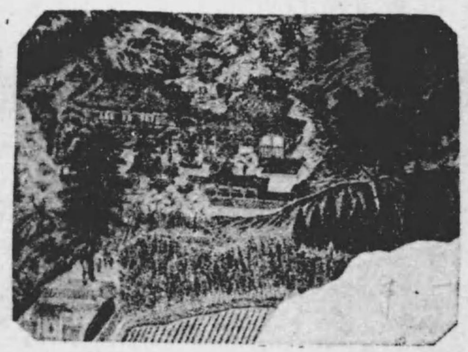
當山は曾ては眞言宗寺であつたが、内時の頃からか今の曹洞派に宗旨を改めてしまつた。山號田村山の田村は、土地の名から取つたものだと傳へられてゐる。開山の祖は尊庵香孫、それ以來法燈相續くこと正に二十二世、濱村良準師現住持として仕へてゐる。本尊は聖觀世音菩薩本寺は大安寺、末寺に良泉寺、法泉寺がある。境内は四百坪、經門、本堂、庫裡鐘樓堂、開山堂、小屋があつて、泰明の鐘の音に村民の眠を覺まし、晩鐘の訪づる。音に一月の泰きを感謝せしめてゐる藥師如來と觀世音菩薩を當山の寶物として秘藏してゐる。毎月十一日は藥師如來祭が行はれる。上賀茂を檀徒となし、渡邊鄕、志羽鄕志、鈴木精一郎氏等を世話役としてある。

中川村

萬法山歸一寺

當山は法燈相傳へる事第二十八世、建長寺を本山となし、末寺に智泉、建久、西法、

群定、圓通寺並にその他の十二ヶ寺を有する古刹である。開山は一寧國師、宗派は臨濟宗、聖觀世音菩薩を本尊となして來た。境内は一千二百坪の廣大なもの、本堂、庫裡、開山堂、總門、大門、鐘樓堂、土藏、經藏と建ち並んださまは、さすがに昔を偲ばせるものがある。そして當山祕藏する寶物は多く、元僧、一寧草書、絹本圓悟禪師、白隱禪師書、紙本一寧肖像中院通勝筆今様などがある。



毎年三月十八日、九月十八日には觀音祭を、また十月二十四日、二十五日を開山祭として執行してゐるが、當日遠近から押し寄せる善男善女は全く境内を壓し堂に溢れる盛況を呈する。現住寺は滯沱殿山師、檀家は二百戸、清水毅、依田四郎氏等を檀徒總代となしてゐる。

稲梓村

稲梓村長 動八等 鈴木喜一郎

圓滿なる人格者として全村民の信望を一身にあつめてゐる氏は、明治十二年を以て生をこの世に享けた。明治三十二三年頃靜岡師範學校を出て、本郡朝日村、稲生澤村の各小學校に教鞭を執り次で稲梓村須原小學校に榮轉首席訓導として手腕を發揮し、大正五年退職した。この間日露戰爭には補充兵にて出征し、武功により勳八等を授與された。教育界を退いてからは專ら意を自治產業に用ひ、收入役、助役、村會議員二期等を歷任して後、十六代目村長の要職に擧げられて今日に至り自治萬般に亘つて功績顯著である。

三浦村妻良

妻良信用販賣購買利用組合

本組合は、大正十二年八月妻良區及び子浦區の一部有志によつて設立され三濱報德信用組合と稱したが、昭和八年字浦區を分離し專ら妻良區一圓を區域として現名稱に改めた。組織は保證責任、組合員百五十名、出資拂込額一萬二千餘圓、準備金及び積立金五千圓、借入金二千九百餘圓を擁し、貯金は年々增額を示して昭和十一年度末に八千三百圓弱に達し、一錢以上一圓五十錢を限度とする日掛貯金は本組合の特色とするもので、毎日事務員を派して集金せしめ成績良好である貸付金は三萬六千七百圓を越えるが、償還及び貸付利息の成績は割合良好である組合長高橋福松氏は剛直にして氣骨に富む敏腕家村會議員區長漁業組合長等を歷任し、昭和七年より當組合長に任じ活躍してゐる。

上河津村

上河津村長 山城清治

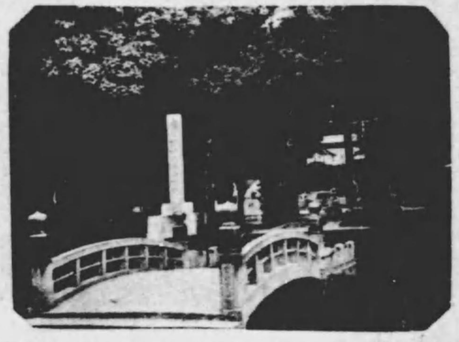
凜然として嚴寒の中に芳香を放つ寒梅の賴母しさに似て、氣品高く、人格勝れたるわが山城清治氏は、明治十九年の生れである。山城家は本村屈指の舊家にして令名四隣に普き名望家である。氏は早くから意を自治公共のことに用ひ、村役場書記を拜命以來、助役を經て引續き村長となり、次で一期間休職の後、昭和十二年再び推されて村長の椅子に就き、前後通じて二十ケ年餘の自治界生活の經驗を經て、智識と技能を緯に、本村の發展に盡力して功あり、農林業を主とする平和鄉の確立に成功した。實に氏を村長とするは上河津村の大なる誇りである。

白濱村長田

伊古奈比咩命神社

當神社は、伊豆三島神の後后伊古奈比咩命を主神とし、三島神社及び見目大神

若宮大神、鄒宮大神を相殿とし、曾ては官幣大社三島神社もこゝに坐しゝを以て古來社地に古宮山の名を冠し、また寛保以前は、天長九年の神異の形式によりて二院相對の制を存したといふ記錄もあり久しく三島神及び陪從の三神を併祀して白濱五社大明神と稱して來た。伊古奈比咩命は伊豆を生成經營し給ひし神にて、武威も廣大にまし〳〵、また航海殖產の業、醫治出產の事をも守護し給ふ有難き大神である。延喜式には名神に列した朝廷國司及び武家の尊崇厚かりし神社で、目下官幣社に昇格運動中である。例祭十月二十九日、現社司原勝治氏は大正二年生れにて、國學院大學出身の英才、縣神職會及び全國神職會の皇典講究所等の役員を兼ねる。



南中村 下賀茂

下賀茂温泉ホテル 伊古奈

電話伊豆南中三〇番

下賀茂溫泉は、伊豆第一の稱ある弓ケ濱海水浴場を抱擁して空氣清澄、氣候溫暖な日本隨一の健康地で、溫泉研究の權威三澤敬義博士より飲用療法上わが國稀有の塩類泉として絶讃を賜つた。當溫泉ホテルは、昭和九年の建築開始後、同十二年落成開業せるもので、敷地一萬五千坪殊更洋風建築を避け、(全館)千餘坪各室いづれも高尙優雅な數寄屋造である。三十餘室各室各樣思ひ〳〵に數寄を凝らし、全部次の間付きで、室內電話も完備し居ながら長距離電話の使用が出來る。また百疊敷の大廣間は、豪華な舞台付で宴會は一時に百五十名まで、引受け出來る大理石の大浴槽には源泉滾々として湧き溢れ、婦人浴室、家族風呂も完備し、溫泉プールには、オリムピック日本選手諸氏の冬期練習プールとして定評がある瀟洒な社交室、娛樂室、寫眞暗室、喫茶酒場、賣店、撞球、ピンポン、その他種々の娛樂設備があり、所謂溫泉旅館の倦怠氣分などに襲はれることは斷じてない宿泊料は朝夕二食付五圓より八圓まで、クーポン券五圓である。東京には新宿安田本店、芝區三田玉子屋の案內所がある經營者安田氏は岐阜縣の產、現時伊勢丹取締役、稲助足袋本縣販賣會社長、日本共立土地建物會社取締役、朝日ニュース劇場取締役、新宿驛前割烹安田本店主である。支配人金子氏は、曾て日本橋にてメリヤス製造業に從事せし人、現時安田本店支配人を兼ねる。因に當ホテル從業員三十名は全部東京人ばかりである。

三坂村一色

一色信用販賣購買利用組合

當組合は大正十年六月の設立に係り、爾來消極的ながら着々として發展の一路を辿り、昭和十一年末に於て貸出金總額三萬五千五百餘圓、貯金總額三萬二千三百餘圓に上り預ケ金九千六百餘圓準備積立金四千八百餘圓を擁し、出資金は一萬二千二百圓である。販賣事業に於ける木炭取扱高は約七千圓に上り、斷然群小組合を壓してゐる。現組合長黒田幾藏氏は、曾て村會議員三期、區長多年をつとめたる功勞者にて、組合には大正十二年二月より同十四年一月まで組合長たりしことあり昭和九年再度擧げられて組合長となり今日に至り、溫厚篤實なる好紳士として好評あり、現時村農會副會長を兼ねる。なほ理事に黒田鶴吉氏ほか二氏、監事に黒田孝三氏ほか二氏がある。

下田町

下田五十集魚株式會社

電話下田一五五番

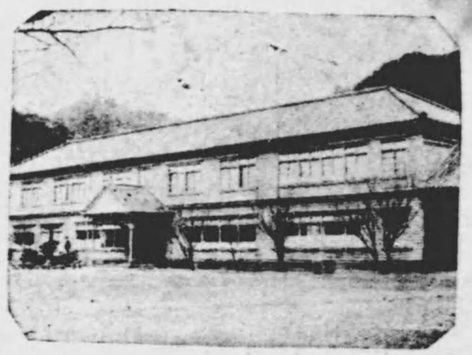
本社は、昭和七年舊五十集漁業組合員二十二名が發起人となつて創立し、資本金五萬圓を擁し、他府縣漁船の出入多き下田港に、その名も高き一大販賣會社となつた。近年の財界好轉の機運に乘じ、年々躍進的數字を示しつゝある當社事業成績は、昭和十一年度に於て遂に資上高八十餘萬圓を突破するに至つた。單に當會社のためのみならず、當地漁業界のため欣幸に堪へざる所である。同年中に於て槍烏賊漁は近年稀なる豊漁をつゞけ、且つまた鰹漁の水揚高に於ては殆んど昭和十年度の倍額に達した。初代社長山下吉五郎氏、二代目石原房吉氏の後を承けて、三代目現社長小木會四郎氏は、專心業界の向上と本社の發展とに意を用ひ、資性溫厚の事業家として人望がある。取締役は山下國松氏ほか四名、常任監査役臼井榮太郎氏、監査役石原龜太郎氏である。

稲生澤村蓮台寺

豆陽中學校

電話下田一六四番

明治十年、蓮台寺舊大區議事堂に於て英漢數の三科を授けたのが本校の濫觴にして、同十二年私立豆陽學校と稱し、その再三組織々變更し、同三十二年郡立中學豆陽學校となつたが、大正二年新校舍新築、同八年靜岡縣立豆陽中學校と變更し、今日に至り、昭和四年には生徒圖書館を建設した。教職員二十五名、學級十生徒五百名を有し、陸上競技に於ては縣下の雄にして、昭和十二年東海陸上競技大會に優勝し目下プール建設中につき今後は水泳に力を入れる方針である。教練



また縣下の模範であり、在學生は將來農工商等の實業に從事する者多きため、實業教育にも重點を置いてゐる。校長辻精司氏は明治二十六年八月十八日の出生岐阜縣の人で大正五年の東京高等師範出身、昭和十二年庵原中學校首席教諭から本校に榮轉した。

三濱村妻良

三濱村助役消防組頭 渡邊照三

今や內外時勢の急潮、澎湃として注ぎ來り、國家政治の一大振擂を加へ、不拔の大方針に向つて着々歩武を進むべき時である。この時、氏を助役とする三濱村は、泰山の安きに居るが如き不動の態勢を以て時代の波を乘越えんとしてゐる。誠に氏は學識の人、力量の人、加へて人格の人なれば、全村民擧つて氏を尊敬信賴するは當然の事である。明治二十年八月二十八日渡邊三郎氏の長男に生れ、豆陽中學校を經て明治四十二年靜岡師範學校を卒業し、富士郡吉永小學校を振出しに、本郡南崎村小瀨小學校長、子浦小學校長等歷任、二十有餘年の後、大正十四年退職爾來自治に參與し、區長一期を經て、現時助役、消防組頭、學務委員を兼ね、氏を組頭としてから本村消防組は成績良好なる誇るに至つた。

稲取町

稲取信用販賣購買利用組合

當組合は昭和二年稲取信用組合として設立され、翌三年販賣購買利用の事業を加へて四種兼營となり、區域は稲取町一圓、組合員四百餘名、出資二萬四千餘圓をかぞへる。初代組合長八代秋輔氏、二代目鳥澤芳太郎氏にて、現組合長は三代目山田五郎氏、また現理事は鳥澤芳太郎氏、山田清藏氏、山內鐵也氏、栗田庄七氏、遠藤定十郎氏、八代常吉氏の六名、監事は田村元三郎氏、清水長太郎氏、鈴

木長太郎氏の三名である。組合長山田五郎氏は先代淺次郎氏の長男にして明治十五年一月三十一日の出生、豆陽中學校を經て明治三十七年縣師範學校を卒業し、爾來賀茂郡稻生澤小學校を振出しに城東山學校を經て下河津小學校長に榮轉し、大正九年退職まで多年敎壇に立ち、その後は自治産業のことに盡し、現時本組合長及び町會議員二期目たるほか學務委員の要職にあり、功多く、また實業方面では伊豆製氷會社取締役、西遠無盡會社重役等に就いて實業界にも雄飛してゐる。令夫人つねさんとの間に一男八女を有し、長男勉君は縣立藤枝農學校卒業後東京高等園藝學校に在學中の秀才である。

竹麻村青市

前村會議員
元消防組頭

飯泉吉助

恭儉己れを持するところの人格者であり、溫雅なる信望家たる氏は、飯泉梅藏氏の長男にして明治七年八月の岳降、家業の傍ら早くより社會公共の事に竭し、區長たること多年、大正十一年より昭和十二年まで村會議員に重選活躍し、昭和三年以來消防組頭たること二期に及び、諸方面に亙つて幾多の功績を遺して來た。また大正十二年縣自動車業組合賀茂郡支部長に任じて斯業の發展に貢献するところ甚大であつた。今は公職を退いて專ら閑地にあり、自動車、雜貨、酒類、煙草等の販賣に從事しつゝあるも、なほ政友會郡幹部として重きをなし、地方政客の往來頻繁である。爲に縣自轉車組合及び警察署長より表彰されてゐる。令孃三人を儲け、長女に養嗣子浩二氏を迎へて家庭圓滿である。

城東村片瀬

城東第一耕地整理組合長、區長

鈴木俊藏

産業組合功勞者たる氏は、醫師鈴木龜太郎氏の長男として明治十一年六月十日に生を享けた。區會議員、區評議員のほか昭和四年より同八年まで村會議員、また城東信販購利組合長の椅子にあること三期九ヶ年、現時片瀬區長及び城東第一耕地整理組合長に推され、益々鄕黨のため盡力してゐる。氏が産業組合に對する功勞は

特筆大書すべきものあり、即ち昭和二年組合員となり順調に組合は發展しつゝありしも、同五年郡組合製糸が破産するや多額の出資をしてゐた同組合の損失は莫大の額に上り、貯金拂戻に殺到する組合員のため取付騷ぎが起り、組合は正に破産に瀕したが、氏は自己の全財産を抵當にして資金を借入れて貯金拂戻しに當てる一方、組合員に對しては理解を深める樣奬勵したる結果、さしも騷然たる取付も漸く平靜に歸するを得た。この十餘日の苦心は筆紙に盡し難く、また氏一人のみならず、夫人及び一人娘の輕代さんまでが丁度暑休にて東京の學校より歸省中なりしため、一家三人が寢食を忘れて奔走したのである。「雨降つて地固る」とかその後組合の發展顯著にして、昭和九年確固たる基礎の成れるを見て勇退したが今や同組合は郡内有數の優良組合と稱されてゐる。因に氏は現在庭園内に溫泉を掘鑿中である。

白濱村長田

消防組頭、養蠶實行組合長

進士寅松

熱誠且つ眞摯なる農事研究家たる氏はまた自治功勞者としても知られてゐる。抑々進士家は半農半漁の舊家にして、氏は明治十二年二月十五日の岳降、先代寅松氏逝去後、襲名して家督を相續した。若くして村會議員、區長、消防小頭、信用組合理事等を歷任せる手腕ある人望家にて、現時消防組頭及び養蠶實行組合長を兼任して公共に盡しつゝある。また明治三十七年頃より莢豌豆の栽培を研究し、溫室物でなくて季節外に收獲し得られるものを栽培することに成功、今や東京方面に移出して多大の好評を博し、當地方が豌豆の特産地と稱されるに至つたのは、氏の研究と努力とに依るものである。大正三年郡農會より功勞狀を贈られたるもなほ表彰し足らぬ觀がある。令閨ゑいさんとの間に三男を儲け、長男吉左衛門氏は家業に從事、次男は本郡稻取小學校に奉職する。

南崎村

南崎村信用販賣購買利用組合

本組合は、昭和三年十一月當村の村會議員一致發起人となり設立せられたるものにして、その後も引續き村會議員を以て理事となし、役場と組合とは完全に一致一丸となり、宛も車の兩輪の如くにして發達せるものにて、成績は年々優良となり、今や縣下模範組合の一に加へられるに至つた。保證責任組織にて、組合員二百四十餘名、出資一口三十圓の一組合員一口宛所有し、半額拂込濟である。借入金二千三百餘圓、餘裕金三萬五千餘圓を算し、逐年組合の信用利用觀念は普及

し、本村の金融は殆んど組合の獨占ともいふべき狀態にあり、從つて事業分量も漸次增大しつゝあり、負債整理組合の設立により大部分不納利息の回收、債權確保、その他整理を見、なほ不利その他不安債權に就いては嚴重なる督促をなし、大部分整理を見たるは誠に喜ぶべき狀況にして、現時貸出金四萬六千五百圓、貯金八萬餘圓をかぞへる。現組合長久保田恭氏は前郡會議員、村長二期をつとめ、現時村會議員(五期目)を兼ね、組合創立當初から組合長として熱心に事業運行に當り今日の成績を築きあげた功勞者である。また現理事はいづれも村會議員の要職にある。

朝日村

佛谷山寶德院

眞觀年中、勅命により智證大師入唐して歸朝の際、天竺摩訶陀國の大臣より昆盧遮那作の不動明王を贈られし、歸途風濤のため本村海岸に着船の已むなきに至り、日和山の岩窟に草堂を結んで該不動明王を安置した。越えて永曆元年源頼朝公配流の節、この草堂に御祈誓あり、茶釜を新鑄して煎茶を佛前に献ぜしことあり、その茶釜は當時の燭台と共に今も寺寶として所藏される。寶德元年山號を佛谷山と稱し、寺號を寶德院と改め、天正五年曹洞宗の僧喜叟梅觀和尚を開基とし、三圍龍大和尚を開山とする。現在の本堂は正德三年建造のものといはれる。名士の參詣するもの頗る多い。現住職は土屋仙英師にして先代松野泰翁師の長男、檀徒總代は石井福太郎氏、土屋金兵衛氏、河井仙松氏、土屋福太郎氏の四氏である。

南中村下賀茂

郡醫師會評議員
東鄕醫院長

東鄕直

電話南中二三番

醫事に熱心にして患者に懇切、隆々たる繁榮を呈する東鄕醫院長たる氏は、鹿兒島縣薩摩郡の人、明治二十三年七月次右衛門氏長男に生れ、日本醫學校卒業後大正三年國家試驗に合格、同六年まで東京で研究し、同年本村加納に開業、次で大正十一年本郡三濱村妻良に移轉開業して昭和四年まで居り、その後外科及び耳鼻咽喉科研究二ケ年に及び、昭和六年三濱村妻良に再度開業、昭和八年現地に堂々たる醫院を新築移轉して今日に至つた。當地は賀茂溫泉地なるを以て患者用溫泉を醫

院内に設け、一人入浴毎に湯を取替へ、手術後二三日にして入浴せしむるを以て快の早きこと他にその例を見ず、評判高い。園藝盆栽に趣味がある。夫人かをるさんとの間に二男三女あり、長男一平君は靜岡中學に、長女正子孃は下田高女に共に勉學中である。

城東村白田

城東村長
勳七等

金指權次郎

清廉の士と稱され、人望極めて厚き金指權次郎氏は、明治十年六月二十四日の誕生である。夙に自治界に身を置き、收入役三年、助役三期を經て、昭和八年八月村長に選任、かくて前後二十ケ年に亙つて村政に盡瘁し、功績一々枚擧に遑がない。

また農には白田漁業組合長として部落の繁榮に寄與し、今城東信販購利組合理事に任じて經濟の圓滿なる發展に貢獻するところが多い。明治三十一年歩兵第十四聯隊に入營、日露戰役には從軍出征して歩兵曹長に昇進、名譽の負傷を受け、功により勳七等に叙された。現に本村軍友會長に推され軍事方面にも功績が多い。

南上村一之瀨

南上村消防組頭

山田善次

氣骨に富み、統御の才に長ずる氏は高橋信吉氏の長男、明治二十二年五月一日に呱聲をあげ、幼少の頃貰はれて山田家の養子となつた。明治四十二年歩兵第三十四聯隊に入營、世界大戰には召集されて留守隊勤務となり歩兵伍長に昇進した在鄕軍人分會副會長二期四年、同會長二年をつとめ、また一之瀨產業組合長二年區長に任じ、公共のため盡すところ多く現在一之瀨信販購利組合理事、村會議員二期目の任にある。若冠十六歳にして消防見習として消防組に關係してより消防手、小頭、部長、副組頭を經て、昭和十一年組頭に推され今日に至り、二百五十名の組員を統制して成績よく、近く表彰されるとの噂專らである。令閨とめさんとの間には四男三女あり、長男久三氏は大正五年生れにて現時青年團役員をつとめてゐる。

城東村白田

前村長

小澤熊次郎

當家は代々本村白田地内の山奥山田と稱するところに居住したるも、天保四年先々代彌曾右衛門氏の時現地に移轉した依つて屋號を山田屋と呼ぶのである。先代もまた彌曾右衛門と稱し、明治二年頃

名主をなしたる人なるも四十二歳にて逝去した。氏はその長男、文久三年二月十一日を以て生れ、父を失ひしは十一歳の時であつた。自治制施行後初代區長をつとめ、その後村會議員に當選四回、明治四十五年及び大正八年の二回村長に選任

蜜柑、夏蜜柑、莢豌豆の栽培を奬勵して本村産業にエポックメーキングをつくつた人、また村農會長、消防組頭も歴任、村治上に殘した功績に筆紙に盡し難い。長男寛氏は大正六年の靜岡師範出身にて、目下本郡仁科小學校長として初等教育界に重きをなす。

南崎村大瀬
村農會長
村會議員
渡邊宗兵衛

民から尊敬される氏は、明治十年四月二十二日宗左衛門氏長男として生をこの世に享け、農及び水産を以て家業とし、早くから社會公共のために献身的努力をなし、曩には區長及び漁業組合長として部落の繁榮に寄與するところ多く、現時村會議員三期目の任にあつて村政に參與貢献するほか、學務委員に擧げられて本村學事の振興に盡し、村農會長、郡農會評議員、信用組合理事をも兼ねて産業の開發、農事經營の改善に全力を注いでゐる夫人みよさんは内助の功あり、長男宗敏氏は明治三十八年の出生にて家業に從事しつゝあり、次男錦作氏は神奈川師範を出て同縣下に教鞭を執り、長女は戸塚高女在學中、なほ母堂かつさんは年齢八十に達してなほ矍鑠としてゐる。

南中村
賀茂温泉組合

東海道線を三島驛で駿豆線に乗替へ、修善寺から自動車によつて天城を越へ下田を經て、約二十分で左右に白煙濛々として見えるのが賀茂温泉である。噴泉が七十二ケ所からあり、普通温度が九十度から百二十度、湧出量は一分間一石三斗位、物凄い音響を立てゝ三十尺以上も噴騰する常には閉止してあるが、希望に應じいつでも噴騰實況は見られる。吉野川流域には川原湯(天然風呂)が到るところにあつて夏の川遊びによく、殊に温度が高いので芋、野菜などがその場で煮ることが出來る。この温泉利用のメロン栽培が附近

一帶に盛んに行はれる。また當地は狩獵の最適地で、磯釣、川釣にも好適の所である。温泉は胃腸病、温疹、リウマチス痼氣泌尿 神經痛などに効用がある。温泉旅館が設けられるやうになつたのは昭和二年頃からで、現在温泉組合員數は七十餘名、旅館數十六、いづれも家族的で温泉プール、川原風呂、湯瀧、撞球場、その他の設備整ひ、今後の發展は大いに期待されてゐる。組合長鈴木快一氏はすでに八ケ年留任の人望家にて、村會議員を兼ね、當温泉發展のため寢食を忘れて盡力してゐる。

下河津村 縄地
縄地漁業組合長、勳八等
杉山忠藏

部落の繁榮と公益の増進に寢食を忘れて奔走せる氏は、日露戰役に從軍出征せる勇士にて功に依り勳八等を下賜の光榮に浴した。生れは明治八年、家業の傍ら夙に自治産業の向上開發に意を用ひ、區長、村會議員、郡水産會總代、同委員等をはじめ、學區會議員、在郷軍人分會長消防部長等を歴任、村治及び地方産業史上に殘した足跡は實に大なるものがある

現時縄地信販購利組合及び縄地漁業組合長數期目の任にあり、本村經濟産業組合に關する功績は大きい。該組合は明治三十六年の創立にて、組合員八十三名を數へ、優良漁業組合の一に加へられてゐる。役員は氏のほか監事に渡邊音吉氏、加藤近年氏がある。

三板村中木
現村會議員、三坂郵便局長、元村長、勳八等
萩原作之助

郡内有數の有力者たる氏は、明治二十四年一月十一日高野吉之助氏次男に生れ後ち萩原春治郎氏の養子となつた。豆陽中學校第一回卒業にて日本海大戰には廣瀬中佐麾下の水兵として武勳を樹て、勳八等に叙されたる勇士である。村役場書記、收入役、助役を經て村長たること二回、縣水産會評議員、郡水産會理事にも任じ、政黨華かなりし頃小泉三申老の三羽烏の一として東西に活躍し威名を轟かしたが

昭和三年三坂郵便局開設、局長就任と共に政界より退いた。今は村會議員九期目三坂信用組合長(創立以來)として貢献してゐるが、これまでの功勞は決して尠少なものではない。氏はまた文章に堪能である。夫人カメさんは内助の功多き賢夫人、長男弘二君があり、家庭圓滿を極める。

城東村片瀬

城東信用販賣購買利用組合

本組合は、大正九年一月、現組合長の實父木田仁右衛門氏をはじめ、森田伊三郎氏、鈴木賢治氏、横山萬次氏、加藤由助氏等の主唱發起により設立され、當初は信用購買組合なりしも、昭和五年頃より現在の如く四種事業を兼營すること、なり、組織は保證責任に改めた。組合員三百餘名、出資六百六十口(一口二十圓)にして、準備金及び積立金一万二千百五十圓、借入金一萬五千圓、餘裕金二萬二千九百餘圓を有し、各種事業共本郡第一の好成績にて、昭和十一年度にかて次の如き數字を示した。

貸出金　八五、七四〇圓
貯金　七〇、五七五圓

而して貯金は漸次累增の傾向にあり、組合の堅實性を立證するものにして洵に喜ぶべき現象である。初代組合長森田伊三郎氏、二代目鈴木賢治氏、三代目鈴木俊藏氏(重任三期)、四代目川口彦市氏、五代目が現組合長木田仁三郎氏にして、木田氏は明治十七年の岳降、日露戰役には從軍武勳を樹てたる勇士で、現在村會議員、養蠶實行組合長、柑橘出荷組合長等の要職にあり、本村の發展繁榮に盡すところが多い。

稲梓村　加增野

前村長
村會議員

小林傳三郎

村内切つての人望家にして令名嘖々たる氏は明治十六年十二月六日の出生、同三十六年靜岡師範學校を優秀な成績で卒業し、駿東郡金岡小學校訓導を拜命、勤續四年にして同郡大平山小學校に榮進、次で賀茂郡田子村、南中村、稲生澤村、上河津村、岩科村の各小學校長を歴任し、大正十二年不幸病魔の襲ふところとなり、已むなく退職、その後靜養の甲斐あつて健康回復するや專ら意を自治公共のことに用ゐ助役及び村長をつとめ、現時村會議員、學務委員、學區會議員、産業組合監事等村内要職を兼務して盡瘁貢献しつゝある。趣味として冬の狩獵、夏の川釣を楽しんでゐる。夫人きよ子さんは愛國婦人會並に國防婦人會員に任じ賢夫人の譽れが高い。

竹麻村手石

元消防組頭
前村會議員

竹内照太郎

議讓の美德を有し陰德多く、村元老として普き尊敬を受けてゐる氏は、先代辰藏氏の長男にて明治十三年十二月十六日の誕生である。家業たる農及び水産の業に從事して家産の大を成し、傍ら各種公名譽職に就いて鄕黨のため一身を捧げて盡力した。區長、區學議員をはじめとし村會議員に當選數回。産業道路の開發、

自治の圓滑なる向上、その他任期中の事績枚擧に遑なく、學務委員としては本村教育の振興に盡し、また消防組頭に推されては一村警防の責を負ふて寢食を忘れて貢献し組員の信望をあつめて統制よく行はれた。漁業組合長に選任活躍せることもあり、本村功勞者中の五指に入るべき人である。今は專ら公職を離れて閑地にあり魚釣を趣味に悠々の日を送つてゐる。

下河津村濱

元衆議院議員

黒田重兵衛

翁は本縣選出民政黨所屬衆議院議員として往年の縣政界に羽振りを利かした人である。若槻禮次郎男、安達謙藏老などとは特に親交あつく縣會議員たること三期、本村初代村長として自治方面にも盡力貢献多く、その德望は遠近に普く、黨派を超え主義を捨てゝ氏を尊敬する者頗る多く、實に當代稀有の人望家である。溫恭謙讓の美德を有し、抱負經倫の深大なるものあるも、輕々にこれを口にせず實行を以て世に示し、自ら範を垂れて衆を導くの人物である。誠に異とすべくまた偉とすべき存在にして、縣下の誇りであり、下河津の至寶である。因に黒田家は代々名主をつとめたる舊家にて、翁は文久三年の岳降、重兵衛氏を襲名して家運の隆昌にも努力すること多かつた。今は悠々野鶴を友として、日々を送つてゐる。

下河津村濱

河津濱郵便局長
伊豆三等郵便局
長會第四部長
從七位勳七等

森田善藏

明朗快活、元氣旺盛なる好紳士森田善藏氏は郡内三等局長中の古顔として廣く知られる。明治九年生を享け、豆陽中學東京郁文館中學、東京郵便電信學校等に學び、明治三十一年中央大學の前身たる法學院法科を卒業した。大正元年十二月先代に代つて河津濱郵便局長を拜命今日に至り、現時伊豆三等郵便局長會第四部長四期目の任にある。當局は開設當初から集配局にして、區域は大字逆川を除く本村全圓にて、爲替事務は明治二十六年四月から、小包は三十二年十二月から、電話は四十三年一月から、特設電話は昭和三年五月から取扱ひ、局員六名、集配手六名を數へる。因に森田家は分家獨立以來第五代目にて、先代留吉氏は明治十四年八月局長拜命、正八位勳六等に叙され、大正八年七十二歳にて永眠した。

城東村大川

大川信用購買販賣利用組合

當組合は大字大川を區域として大正六年に創立され、爾來組合精神の普及徹底により業績は年毎に良好を加へて今日に至り、組合員百七名、出資二千餘圓（全額拂込濟）にて、諸積立金千六百五十餘圓、借入金一萬圓を有し、四種事業とも頗る好成績にて、貸付金は二萬一千餘圓をかぞへるも不良或は不安貸付は一つもなく利子の回收狀態など他組合の羨望の的である。貯金は一萬一千餘圓に上り、販賣額五千三百餘圓、購買額千五百餘圓に達してゐる。數字上から見る時、その量は決して他を壓するものではないが、その基礎に於てその質に於て斷然優秀を誇るに足るものがある。初代組合長は飯田小次郎氏、二代目は木村一郎氏、共に組合の功勞者にして、現組合長は三代目淺井實隆氏である。

三濃村妻良

妻良漁業協同組合

當組合は、昭和十年十二月の設立にて漁業組合から協同組合に組織變更したるは賀茂郡内に於ける嚆矢である。組合區域内の漁業は伊勢海老を主体とし、魚類海苔がこれに次ぎ、その年産額數千圓に達し、組合員一同の協力と團結により漁業經營の改善その他の成績大いに見るべきものあり、優良組合との折紙がついてゐる。

現組合長飯田新吉氏は昭和十年組合創立と共に就任せるものにて、現時村會議員三期目を兼ね、本村自治産業に寄與貢献するところ甚大である。曾ては東京にて汽船取扱人たりし經驗の持主、その手腕に多大の期待がかけられてゐる。因に現任役員は、鈴木左右平、渡邊賢二、清田富作、清田勘三、村田靜、小澤萬三の諸氏である。

下河津村見高

郡醫師會評議員 井手醫院長 井手卯平

常に研究的態度を持して新科學の吸收に熱心なる氏は、佐賀縣武雄町温泉地の出身、明治十六年二月二十一日に生れ、同四十三年日本醫學校を卒業し、大正二年醫術開業試驗に合格、直ちに露國ポリテチナヤに渡つて開業し、在留邦人間に好評を博し、醫院の隆盛を來すと共に同地在留日本人會長としてわが權益の擁護と在留民の發展に盡力し大正八年歸國、警視廳防疫官となり、大正十年退職と同時に現地に開業、内科、小兒科の名醫と謳はれて今日に至つた。園藝を趣味とし、郡醫師會評議員、見高小學校醫を兼任する、長男滿洲郎氏は豆陽中學を經て岩手醫專を昭和十二年卒業し目下母校に於て研究中、二男佐武郎氏は慈恵醫大在學中である。

安良里村

村會議員 藤井源太郎

村内でも知られた舊き家柄、代々農を本業として來たもので、先代萬太郎氏は村役場助役として、また村長に選ばる〻など多大の自治功勞を讃へられた人である。氏は明治七年七月、當家長子として生れ、兵役免除後は父祖の業に從つて自奮自勵早くも村郡内から純農者としてその名を謳はる〻に至つた。前に消防組頭をなしたが、目下は村會議員、農會長、養蠶實行組合長を兼ねて、宿年抱懷する主張の具體化に向つて努力してゐる、氏は青豆類、花木類、柑橘類の栽培に從事、毎年一二月の頃に關東は東京、關西は大阪、特に岐阜縣に多額の出荷を見せてゐる。温良質實、圓滿な人格者である。

城東村奈良本

前村長 村農會長 梅原鼎助

當家の祖は代々名主の職をつとめたる名望家にて、先代定平氏は區長、區會議員等に選ばれて部落のために盡瘁した。氏はその息として明治十一年に出生若くして父を失ひ、二十一歳にはすでに氏子總代に擧げられたる人望家、その後村會議員二期、村長一期半をつとめ、縣道の開設に努力しまた大川及び奈良本川の堤防建設を完成、隣區の統一を斷行するなど事績多く現在は專ら村農會長として活動を續けてゐる。なほ氏は明治三十七年頃より蠶種製造業を營み、現に年産三萬五千グラムに達し主に埼玉縣下に販賣する。漢詩短歌、俳句に堪能なる雅人にして號を清風庵南窓と稱する。母堂は八十有六歳にて健在、長男千秋氏は昭和七年田方農學校を卒業し目下家業に精勵してゐる。

下河津村澤田

元郡會議員 元村長 正木新助

本村自治功勞者中の第一人者を以て稱される翁は萬延元年八月十日生をこの世に享け自治制施行後間もなき明治二十三

年第二代村長に選任、自治的觀念の幼稚なる時代に於てよくこれが鼓吹と徹底につとめ、村勢の發展に寄與するところ多く、任期短き前村長の缺を補つてなほ餘りあるものがあつた。名村長と謳はれしは當然の事である。その後十四代目村長として再び村の第一線に登場、遂に下河津今日の隆昌を築きあげた。また郡會議員に當選活躍三期、今や本村有數の元老として普く尊敬を受け、年齢八十なるも矍鑠たる元氣を有し、現在役場事務が嚴正適確にして能率的なるは氏が村長時代の植え付けたる風習である。

南上村蛇石
前村長　齋藤直次

當地木炭業界の偉大なる功勞者と呼ばれる氏は明治九年の岳降、祖先は古くから當地に居住し代々名主の職をつとめたる由緒深き舊家である。氏は大正七年賀茂郡中川村山本勝敏氏と共に郡木炭組合を設立し、昭和十一年まで山本氏を組合長に、齋藤氏は副組合長として盡力　本郡木炭に品質、優良價額低廉の定評を受けしめた功勞者、また前縣木炭同業組合聯合會役員として活躍した人である。また村會議員數期、村長三期に任じたる本村自治の大立物にて、助役、郡農會役員、郡町村長會幹事等もつとめ、昭和十年には町村長會より推選され有志數名にて滿鮮地方を視察旅行して來た。智あり、才あり勇あり、誠に鄉土の至寶である。

下河津村見高
前村長　土屋幸平

溫厚なる人格者として名聲高き氏は、田方郡田島村石田作藏氏の三男、明治十六年を以て生をこの世に享け、長じて土屋常藏氏の養子となつた。養祖父は名主をつとめ、養父は區長、村會議員四期、その他を歷任の功勞者、氏も亦早くから社會公共のことに盡し、二十八歳の頃から各種公名譽職に就き、村會議員に當選數回、區長多年、また收入役、助役を經て昭和三年三月村長に選任され、村道の建設を完成したり、峰溫泉から今井ケ濱へ溫泉引湯に成功し、現に今井莊をはじめ多數の別莊地に溫泉を送つてゐるなど、功績多くして一々枚擧の繁に堪へない。

宇久須村役場内
宇久須水産組合

本組合の創立歷史は遠く、實に安政四年十二月で、今より八十年前に當つてゐるが、爾來組合員は相繼いで和協一體、本村水産發展のために努力したその功績は、決して尠少なものではなく、現在の持船は大形船六隻、小形船九隻、小形漁船三十隻あつて、近海は勿論遠く出漁する。そのうち最も主なるものは鰹の一千五百圓、その他の魚類十三萬六千六百餘圓、鰕二千圓、その他水産物が二百五十餘圓、石花菜が二萬餘圓、その他の海藻類十四萬六百餘圓であるが、しかもこの收獲高は年々增加を示してゐる。そして現在の組合長は居山八郎氏で、理事には上松對馬、鈴木計吉の兩氏、幹事には淺賀清吉、淺賀益衛門の二氏で、常にこの歷史ある組合に努力してゐる。

三濱村子浦
子浦信用販賣購買利用組合

當組合は三濱村大字子浦一圓を區域とし、昭和八年三濱報德組合より分離獨立したもので、組合員百二十五名、出資二百九十餘口(一口五十圓)を算し、區域內戶數の七割弱が加入してゐる。設立以來日尙淺きに拘らず、信用部に於ては財界不況の今日貸出貯金共相當の增加を見、前者一萬餘圓、後者も同樣一萬六百圓に上り、組合員の產業並に經濟の更生に利用せられ、販賣部では特產たる大豆、莢豆の增產並に共同販賣の統制に努め、薪木の出荷を奬勵してゐる。役員は協力一致、組合員また組合精神をよく理解して組合事業の進展は文字通り躍進又躍進である。組合長阿部直義氏は曾て村長二期をつとめし人望家、現時村會議員四期目のほか、郡養蠶組合評議員、同三濱支部長、村森林土功組合長を兼任する。

下河津村峯
峯溫泉元湯旅館玉峯館

電話川津濱三一番

峰溫泉は今を去ること千百餘年前の發見で、縣の津として文人墨客の間に知られてゐた。大正十一年夏より當館主稻葉が更に掘鑿を續け、同十五年遂然大音響と共に摺氏百度の熱泉噴出、天空に騰ること二百尺に及び、湧出量一分時十石、實に東洋隨一の壯觀であつた。溫泉は年と共に旅館經營者の數を增したが、當玉峯館が最も古く、蒸し風呂、トルコ風呂階上風呂、撞球場など設備整ひ、京濱からも阪神からも交通の便よく年次隆盛を加へてゐる。稻葉時次郎氏は明治二十五年二月生れにて、賀茂郡上河津村の人、現に村會議員、消防組頭の任にあり、また當溫泉を本村見高に送つて溫泉付分讓地約三

萬坪を分譲しつゝあり、なほ見高に送湯して温泉旅館の經營を準備中である。夫人との間に二男五女あり、長男治重君は豆陽中學校在學の秀才である。

稲取町

稲取郵便局長、元村長　**富岡幾太郎**

當町屈指の有力者たる氏は先代幸太郎氏の長男にして、夙に村會議員に當選、本町水道木管を鐵管に代へるために各地を視察研究盡力した功勞者である。本町水道は明治二十三年頃より木管を使用してゐたもので、現時水源地四ヶ所、共同栓、防火栓等も多數設備される。明治三十九年村長に擧げられ、同四十年には先代の後を承けて郵便局長となつた。現在同局は公衆に親切叮嚀に接するを以て成績よく、局員七人、集配手三人、電工夫二人を有し、開局明治七年、電話開通同四十五年、電信同三十五年の開始である因に當家は代々名主戸長等をつとめた家柄で、氏は豆陽中學校を經て明治二十七年東京藥學校を卒業せる遞信界の變り種である。

城東村片瀬

興務委員、城東信販購利組合理事、勳八等　**土屋實**

氏は愛知縣立半田農林學校を明治四十四年に卒業後、若年にして當地方の特産として年産五萬圓を越える蜜柑、夏蜜柑の栽培を創めたが、業半ばにして大正五年朝鮮第十九師團騎兵隊に入營、大正三四年乃至八九年戰役に從軍して勳八等に叙され、除隊後は軍人分會副會長をつとめた。大正十年より十五年まで宮内省御料場監守(天城御料地勤務)、後農林省直屬に變更され、昭和五年まで勤續、次で昭和三年頃より農林省の補助を受けて片瀬耕地整理組合を組織し組合長となり、十年計畫により三十町歩開墾豫定のところ現在までに十六七町歩(内水田三町歩)を開墾し蜜柑を植栽してゐる。また個人で實就園と稱する農場を經營し、主に柑橘、その他柿、梨、桃、栗、葡萄等を植え、更に畜牛、養鶏を營むでゐる。因に氏は土屋宇兵衛氏の三男、明治二十九年四月十九日の出生にて、現興務委員、城東信販購利組合理事、城東柑橘川荷組合評議員、片瀬耕地整理組合長として重きをなしてゐる。

竹麻村青市

村會議員　前村長　**石井榮治郎**

人格高潔の士たる翁は、慶應二年十月十九日の岳降、養父は竹麻村高橋長左衛門氏にして氏はその次男、長じて當家の養子となつた。養父は村會議員、助役等をつとめたる自治功勞者である。氏は夙に教育界に志を有し、明治二十九年靜岡師範學校卒業後、縣下各地に教鞭を執り到る處で慈父の如く懐しまれ校長に榮進縣下初等教育に盡瘁すること前後二十有六年、功績實に多大なるものがある。大正十四年以來今日まで村會議員をつとめまた興務委員、郡教育會役員を歴任、昭和四年には村長に選任、現時信用組合理事を兼任する。

竹麻村手石

竹麻消防組頭　村會議員　**松本貞吉**

温良なる好紳士にして次代村長を以て目される氏は明治二十年十二月十三日佐太郎氏の次男に生を享けた、祖先は世々農を營み、現在は船舶による運送業を兼營する。氏は多年村會議員として活躍せる令兄初太郎氏逝去の後を承けて松本家を相續した。豆陽中學校第七期の出身にて令兄亡き後は献身一家のために盡力し昭和十一年消防組頭に推され、現時手石漁業組合長、手石區長を兼ね、竹麻村の重鎮と稱される。はん子夫人との間に三男二女あり、長男正氏は昭和十二年早稲田大學法科を卒へるや直に三井本社に勤務、次男健氏は豆陽中學校在學中、長女ひろ子さんは東京市戸板女學校に在學中、共に頭腦明晰の譽れ高しと聞く。

竹麻村手石

元村長　村會議員　**土屋敬三**

義によりて立ち、正によりて處する人わが土屋敬三氏は温厚明朗の德望家である松本佐兵衛氏の次男にて、明治二十二年十一月五日當地に呱々の聲を擧げ、豆陽中學校を明治三十五年に卒業するや土屋龜吉氏の養子となり今日に至つた。明治四十三年豊橋十九聯隊に入營、上等兵に進級して歸郷、その後は家業の傍ら在郷軍人分會長として活躍し、また大正四年四月より、同六年三月まで收入役をつとめ、昭和四年六月擧げられて再度收入役となつて村財政を司り、翌九年には全村の輿望を負つて村長に就任、貢献頗る多く、歴代村長中での敏腕家といはれる。また大正十五年には區長に推された。趣味は魚釣である、かつ子夫人との間に二男二女あり、長男は在營中、次男は豆陽中學校に在學する。

南上村　一之瀬

市之瀬信用購買販賣利用**組合**

當組合は、組合員九十四名、出資二百五十餘口(一口五十圓)にて、内五千三百圓弱拂込濟みである準備金及び積立金千四百五十餘圓、借入金九千九百九十圓を有する貸付金は木炭原木賣金貸出のめた一時增

加せるも木炭の好況により漸次減少し今では二萬圓に過ぎ、貯金は一萬二千圓である。購買品の取扱は産業經濟用品を主に三千八百圓を越へ、農家經濟の向上發展を圖るため努めて廉價配給をしてゐる販賣は、本村の特産にして品質良好を以て名ある。木炭を取扱ひその數量二萬四千餘俵外に小麥若干がある組合長高橋長作氏は組合創立の恩人にて、曩に區長をつとめ、現時村會議員を兼ねて鄉土のために盡してゐる。明治十四年の出生、日露戰役に出征勳八等に叙されたる武勳者である。

竹廻村青市

元村長 高橋清治郎

當家は代々名主をつとめし青市部落屈指の舊家にて、寶永二年以前のことは詳細ならざるもそれ以後は連綿當地の名望家として鄉黨の間に重きをなして來た。氏は先代嘉吉氏の長男にて明治七年六月三日に氣塾をあげた夙に鄉黨を出で、家業の恪勤の傍ら自治に參與貢献し、區長助役の要職を歴任後明治四十年オール竹廻村民の信望を荷つて村長の椅子に就き産業に教化に交通改善に献身的精神を以て盡瘁し、平和鄉竹廻の出現に貢献した昭和四年には學務委員にあげられ、この方面には特に功績が多い。

資性溫厚、人に接するに謙讓の德を以てし、佛教に信仰あり聲望四隣に普きものがある。因に養嗣子藤平氏は家業に熱心なる人、令孫五人を有し、家庭頗る圓滿である。

朝日村

朝日信用販賣購買利用組合長 進士恒雄

昭和二年の創立以來朝日信販購利組合長として專心組合の發展充實に貢献し、郡内優良組合の一たらしめたる功勞者たる氏は、壯年時代より村長一期をはじめ各種公名譽職に歴任、二十七歳で收入役、二十八歳で助役となつた手腕家だけに、村會議員數期、村農會長、漁業組合理事、養蠶實行組合理事、郡蠶糸業組合評議員在任中の功績は絶大にして一々枚擧に遑なく、現時産業組合長のほか郡畜産會副會長、同支部代議員曹洞院檀家總代を兼ね、溫厚にして村内の人望頗る高い。因に同家は遠い古から現地に居住する舊家にて、先代久右衛門氏は區長等をつとめた人、氏はその長男として明治十三年九月七日に生れた。夫人しゆうさんとの間に三男あり長男清氏は村役場に勤務する

稻取町

元稻取村長 鈴木常右衛門

本町有數の元老たる翁は、安政二年五月二日の出生である。祖先は德川家に奉仕して御用船係をつとめ、當時使用せる七十五尺の櫓は今なほ家寶として保存される。この櫓は所有者の權威を示すもので、これがない船は、どこの港へ行つても隅の方に小さくなつてゐなければならなかつたといふ、實父榮五郎氏は鮮魚仲買商をして家産を造りし人、翁はその長男である。明治二十二年より大正七年まで三十有餘年間、村會議員または村長（稻取村時代）として活躍貢献頗る多かつた。長男傳六氏は明治二十九年兵として日露戰役に出征、軍曹に昇進、勳七等に叙された武勳者にて、曾て軍人分會長に推され今軍友會長として重きをなす。なほ家庭には令孫、曾孫あり、和風家に滿ちて幸福を極める。

下河津村峰

前村長 學務委員 岸秀太郎

資性溫厚英邁にして人望高き氏は、明治十七年七月二十九日の岳降である。豆陽中學校卒業後靜岡師範學校二部に進み明治三十八年優秀な成績にてこれを卒業し、同年下河津尋常高等小學校訓導を拜命し大正七年本郡三濱村妻良尋常高等小學校長に榮轉、次で同九年下田町尋常高等小學校首席訓導となり、翌十年最初の赴任校たる下河津に戻つて校長の椅子につき、昭和五年まで動續して教育界を引退した、其後は、冬は草花を弄び、夏は川漁（鮎釣）を楽しみとしつゝも、自治公共のことに關心を持ち、昭和七年五月推されて村長に就任、消防組頭を兼務、現在は專ら學務委員として盡力してゐる。夫人はまさんとの間に二男六女を有し、長男儀雄氏は靜岡師範を出て本郡稻生澤小學校訓導勤務をしてゐる。

下田町 武ヶ濱

下田溫泉ホテル

電話下田一七八番 三七三番

幕末開港の昔、お吉の哀しい夢を秘めた南國の港、冬暖かに夏涼しく、史蹟も豊か、山海の幸に惠まれた溫泉の港繪卷物のやうな下田灣の勝景を一眸にする武ヶ濱のほとりの松林、そこに最近新築された下田唯一の溫泉旅館下田溫泉ホテルの近代式建築が靜かにお客を待つてゐる當ホテルは、姉妹館たる今井ノ濱の今井

莊と共に近代的溫泉旅館として明朗を信條とし、最新式設備に簡潔の美を誇り、サービスは懇切を旨とし、讃らずして家庭的雰圍氣に包まれてしまふ。大小の浴室また明朗、滾々たる溫泉をたゝへた湯の面には松影横はつて海を映し島を呼ぶ一浴して都塵洗はれ幽境の感を深める。なほ溫泉は神經系諸症婦人病に効がある宿泊料は一泊二食付四圓、五圓、六圓の三種、長期滯在は特に相談に應じ、茶代は拜辭、サービス料は會計の一割である財界政界學界等の名士來館するもの多く從員二十名。交通は熱海市及び沼津市からバスの便あり、東京よりは週末溫泉列車或はクーポン利用、または東京灣汽船によるのが便利である。經營者は龍瑞寫藏氏である。

南上村長　大野伊三郎

南上村

剛々たる覇氣と、その彈力性を以て村政を掌る氏は、また高潔なる人格の所有者として一般の信望あつく、大正八年南上村役場書記を拜命してより今日まで、

拮据精勵よく公務に盡し、この間大正十三年には收入役となり、昨和二年頃一時辭職し村會議員に選ばれて村長の椅子に就き現在に及んだ。産業の開發、教育の振興、その他各方面に亙つて治績顯著なるものがある。

町長　内山仙太郎

熱海町

威嚴並び行はれる本町の有力者たる氏は、鮮魚仲買商を以て業とする。町會議員二期、消防組頭、助役等を經て、昭和十年二月町長に選任、爾來身命を賭するの覺悟を以て町政に當り、自治の圓滑なること教育の充實せること、他の例少なく、産業の開發、町勢の發展等氏の力によつて着々効を收めつゝあり、陰徳多く學識深く、近來の名町長と謳はれてゐる。

白濱村長　長谷川茂吉

白濱村

勳八等

初代白濱村長鈴木柳平氏より十六代目に當る現村長長谷川茂吉氏は、明治十五年七月十八日の出生にて日露戰爭の際は海軍現役兵として日本海大海戰に參加し功により勳八等に叙された海國日本の模範兵であつた。凱旋後郷里にあつては家業に精勵すると共に公共の事業に竭し、消防組頭たること多年、組員の信望をあつめて、本村消防組をして優良團体の一

たらしめ、また昭和七年村長に選任されて暫時その任に就き、同十一年七月再び擧げられて村長となり、爾來特殊經濟事情下にある白濱の繁榮に鋭意力を致してゐる。

下河津村長　加藤和助

下河津村

當家は始祖以來代々現地に居住し七八代を經る家柄で、氏は明治十三年四月を以て先代重藏氏の長男に生を享けた。稟性英邁にして人格高く、自治の事務的手腕に卓拔なる氏は夙に明治四十三年下河津村書記を拜命してより拮据よくその任務を果し、昭和三年には推されて助役となり、次で村長に選任今日に至れるもので、この間村會議員四期、區長等を兼任し、村治各方面に亙つて功勞あり、令名嘖々として動かすべからざる地位を占めてゐる。尊父は八十四歳を一期に昭和十二年逝去し母堂とめさんは八十四歳にて健在令閨みよさんとの間に一男二女を儲け、長男武夫氏は豆陽中學校を出て昭和八年靜岡師範二部を卒業し、同夫人との間に下河津小學校に教鞭を執つてゐる。

前村長　細井徳造

朝日村　大賀茂

祖先は名主等を勤めたる家柄。當主に至るまで百年、七代目の主となる。村會議員に當選すること三期、村長一期を勤め、曹洞宗の信徒總代、走湯神社總代等をなす。村長時代の氏は村政の改革に東奔西走、爲めに席温まらず、その功大いに顯はれ、村長を辞任後も、なほ村民より慈父の如く仰がれ、親しみを持たれる眞に仁德者と呼ぶも宜なる哉と肯ぜしめらる。明治四年三月七日生、なほ髮纒として壯者を凌ぎ、夫人シカさんとの間には三男ありいづれも國家の干城として滿洲にあり。信仰の念頗る篤く、性溫和、靜にして柔、氏が村内にある限り、村民は亦力强い限りである。

安良里信用購買販賣利用組合

安良里村

電話安良里四番

當組合は大正十三年十月十八日の創立初め有限責任安良里信用組合と稱し、信用事業のみを取扱つてゐたが、昭和四年九月、有限責任安良里信用購買組合とし同八年二月組織を變更して保證責任とし同十年二月、更に販賣、利用の二事業を加へて今日に至つてゐる。抑も當組合創設の動機は、時代の進運に伴つて産業並に經濟更生のため、金融の便を計るべく擧村一致これを設立したもので、出資一口の金額は三十圓、出資總額は二萬五千百七十圓で、現在組合員數は三百三十二人である。事業の概況は貸付總額は八萬四千餘圓、貯金は十一萬六千三百餘圓、購買價額は八千二百七十餘圓、販賣價額は四千八百七十餘圓の成績である。現在組合長理事は原田八郎氏である。

仁科村演

仁科信用組合

當組合は出資一口の金額を三十圓に定め、大正二年十月に創立したもので、信用事業のみを扱つてゐる。現在組合員數は三百三十九名、一千三百四十二口で、總出資額四萬二百六十圓に及んでゐる。最近事業の狀況を見るに、多數組合員を有する濱區の主要物産たる石花菜、漁業の豊凶如何は、當組合内の全般に亙り經濟界の影響を及ぼすことが甚大である。幸ひ該漁業は豊漁、加ふるに市價また大に上騰、經濟界の緩和を來したけれども他の漁業は極めて不漁だつたので、數年來財界不況の傷痍を癒することは出來なかつた故に。貸付金にあつては産業資金よりも寧ろ經濟的方面に供給し、その額十七萬三千三百餘圓、貯金は二十六萬五千八百餘圓を示してゐる。現組合長理事は佐藤常右衛門氏で、專務理事藤井圓吉氏は村會議員元村長である。

三坂村入間

三坂村長 外岡登茂樹

謹厳壯重なる村幹と謳はれ、中堅人物として功績顯著なる氏は、明治二十四年の出生で外岡福藏氏の長男にて、外岡家九代目の當主である明治四十三年豆陽中學校を卒業し、大正四年騎兵第四旅團第二十六聯隊に入營、皇軍の模範兵と稱された。除隊後、大正六年役場書記を拜命、職務に專心にして村民の信頼を深め、大正八年には收入役に昇進次で昭和三年助役に擧げられ在職二期の後、昭和十二年三月村長となり今日に至つた、三坂村が租稅完納三十餘年に及んで名古屋稅務監督局長より表彰されしこと數回なりしは、氏の如き人格的人材を村内に持つてゐたからで村民悉く其の德を讃えてゐる。

濱崎村

村長 森竹次郎

莊重高雅なる人品を有し、奢性衆に勝れて俊敏、加ふるに自治に多年の經驗を有して村民一般から絶大の信頼を寄せらるゝは、わが森竹次郎氏である。家業に勉勵の傍ら早くより意を公共の事業に用ひ、區長に推されて區民の福祉と部落の繁榮に貢献せるを初めとし、村會議員に選ばれて村政上に幾多の事績を遺し、昭和十二年六月遂に全村民の懇望によつて村長に就任今日に至り、その間日尚淺しと雖も諸種の事業を企て着々として村勢の發展を策してゐる。誠に氏を有するはわが濱崎村の大きな誇りである。

宇久須村

宇久須信用販賣購買利用組合

電話宇久須四番

當組合は大正十一年一月三十一日の設立、當時村役場内に事務所を置いて執務中だつたが、同十五年事務所を現在の地に移して、始めは信用事業單營、後ち昭和八年二月、四種事業を兼營して今日に至つてゐる。當組合の出資一口の金額は二十圓、組合員數三百六十三人で、口數二千四百六十四口、總出資額は四萬九千二百八十圓である。創立以來、當組合に對する一般の認識は漸く深まり、組合利用はます〳〵增加してゐる。現在貸付總額は十九萬一千餘圓、貯金十七萬六千二百餘圓、購買價額は二萬三千四百餘圓、販賣價額は二萬八千二百餘圓を示してゐる。當組合初代組合長理事は長島弘毅氏で、現在は四代目として山地周吉氏が就任してゐる。

紹梓村落合

前村長 土屋傳助

わが土屋傳助翁は、多年自治公共の事業に携つて、終始一貫、私心のない誠實さを以て押通して來た。氏は萬延元年土屋武兵衛氏の三男として生を享け、組合議員、村會議員、村長をはじめとし學務委員、農會長、その他村内各種公名譽職を歷任して功勞拔群なるものあり、今や元老として全村の信望を一身にあつめてゐる。因に土屋家は十三代を經る舊家にて、祖先は名主の役をつとめた家柄、氏の長男精一氏は日露戰爭に出征して勳七等を有する勇士、郡制當時郡書記に任じ現時、村養蠶實行組合役員に推されて活動してゐる。

竹麻村青市

青谷山龍雲寺

當山は百種の樹によつて治く人々に膾炙してゐる。即ち十世の祖大枝鐵梅和尚は、毎年上京しては種々なる樹木の研究に心を寄せ、當山に植ゑるに百種の樹木を以てし、そのために青市の地名が生れたとさへいはれてゐる。今日有名なものに日輪梅水仙竹などがある。寺は了洞宗春和尚を開祖とし、また、眞言宗派にあつた頃は、向ノ丘に建てられてあつたが後ち今の地に移り、曹洞宗に改宗、阿彌陀如來を本尊となして今日に至つてゐる曹洞院を本寺とし、三百五十餘坪の境内に本堂、庫裡、開山堂、衆寮、天神堂が立ち並んでゐる。寶物には地藏菩薩、行基作の藥師如來、大般若經がある。毎月十八日は藥師祭、正月二十五日は天神祭六月九日は觀音祭、十七世土屋賢祥師が現住持である。

仁科村

山本藤雄

山本家は土地屈指の永い歷史を有する名家、そして又代々名主などを命ぜられた素封家でもある。秀次郎氏は町村制施行前總代、戸長として盡力し、明治二十

三年十一月には、一村から推されて村役場助役となり、次で同三十一年、村長に選ばれ、村治の樞機に與ること多年、村自治の功勞者として今に稱へられてゐる氏は明治三十七年二月四日の出生。大正七年十月、松崎水電に入社して部落最初の村會議員として當選、村社務に缺掌しつゝあつたが、同十一年。本社は河津川水電と合併するに至つたが氏は合併後も引續き勤務し、現在は仁科川第二發電所に在勤當所發電係としてその職にあたり、夙に精勤者の名を得てゐる。（寫眞は山本秀次郎氏）

仁科村 大澤里
村會議員 **市川伊助**

氏は明治十年五月十三日、山本惣右衛門氏の二男に生れ、後ち市川家の先代故庄太郎氏に望まれて同家に入つた人。當家は舊家で代々名主を勤め來つた家柄である。氏は常に區のために意を注ぎ區會議員、仁科山林組合員、富貴野山の檀徒總代等に推されて熱心活動しつゝあり、從つてその人氣や人望は期せずして集まり、昭和十二年五月、村會議員改選に際して部落最初の村會議員として當選、村民の期待に副はんとして献身的の活躍をなしてゐる。趣味は果樹の栽培、極めて敬神の念の篤い人。長男正氏は三十五歳農業大學卒業後一年志願兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、歩兵少尉に任官正八位に叙位、目下樺太廳に勤務してゐる。

仁科村 大澤里
村會議員 **山本建治**

氏は幸助氏の男、明治二十六年三月一日今の家に生れたもの、家は舊家で農を本業となしてゐる。青年會長を振り出しに公職方面に乘り出したもので、區長として永らく盡瘁し、養蠶實行組合理事から組合長に選ばれ產業の改良發展等に多大の功を致してゐる。昭和十二年五月擧行の村會議員の改選には推されて陣頭に馬首を馳驅して首尾克く當選、今村政に關與、年來の抱負を實行の途へと進めつゝある。今後の活躍振りこそ注目に價する。また氏は富貴野山檀徒總代としても斡旋大に努めてゐる。夫人とめ子さんは愛國婦人會員として活動し、長男喜美氏當年十八歳、目下實業に從事してゐる。外に三男四女がある。

仁科村
村會議員 **鈴木福太郎**

當家先代勇藏氏は仁科村漁業組合長たること八ヶ年、本村漁業界の發展に至大の貢献をなし、その功勞は永遠に傳へらるゝであらう。氏はその長男である。明治八年四月十一日の出生、濱區々長の任に在ること四ヶ年。その間道路改修工事

等に、特に力を注ぐところがあつた。後ち村會議員の要職に就くやまづ何を措いても一村のため、村民のためにと盡瘁し一層信望を擔ふに至り昭和十二年五月、三期目の村會議員として當選、いよ〳〵重きをなすに至つたのである。氏はまた村民の大なる信望に心私かに感激し生ある限りはと、熱誠籠めて活動を續けてゐるのだ。選擧する者とさる者との心が斯く合致してこそ眞の村治を望むことが出來るのである。

仁科村 濱
村會議員 **鈴木幸一**

氏は明治二十四年十一月五日、良吉氏の四男に生れ、分家して別に一家を創設して今日に至つてゐる。父君は本村物產の主動力をなす漁業に關係、しかも組合長等に擧げらるゝなどして最も盡瘁するところが多かつた。氏はよく父君の意を体し評議員を振り出しに漁業組合に關與天產物天草の審査員に推され進んで組合理事に擧げられ、濱區協議員として盡力してゐる。そして氏がそれ等に致せる献身的の努力はひどく一般を感激せしめ、不知不識の間に信頼の度を高め、昭和十二年五月、村會議員立候補を言するや、翕然として人望集まり、美事議員の肩書を得て村政に參劃してゐる。長男安雄氏は二十七歳、今家業を助けてゐる。

上河津村
村會議員 **相馬權藏**

氏の家は累代農を業となして來たもの明治十年六月十七日、惠助氏の三男に生れたが、令兄氏早世のため家督を襲ぎ、若くして即ち三十七歳の時に村會議員となり、現在は五期目の村會議員として村治に與り斯界の古强者であり、また最も圓熟せる議員として活躍を敢てしてゐるその他區長、土木委員となつて努力實献するところ甚大なるものがある。これといふ趣味を有たぬ人。夫人はトワ子さん間に二男一女あり、長男は惠八氏、豆陽中學校卒業後官途に就き、目下は高知營林局に勤務してゐる。次男は本次氏龜に靜岡師範を卒へて、今は深代小學校に奉職中であるが何れ劣らぬ有爲な青年、その前途に多大な望を囑せられてゐる。

上河津村湯ヶ野
郵便局長 **榎本榮藏**

氏は明治五年七月十日の出生。今は郵便局長、默々乎として通信事務に當つてゐる。生來寡默の人か、問へど多くを語らず否な問はるゝことを寧ろ迷惑氣に避けんとするの風さへ見られた。世間には自己宣傳に熱狂するものが多分にあるのに君にはさうした雰圍氣などは微塵もなく、たゞ與へられた職分に忠實にそして

あらゆる努力を傾注することを以て、我が能事了れりとなすの概がある。洵に現代には珍らしい好紳士、世擧げてこの風を追はゞ、そこに人の世の醜い姿も影を沒してしまふであらうか。聞くところによれば、氏は曾て村會議員として、また學務委員として活動、相當功績を擧げた人物なさうな。

岩科村

村會議員
從七位勳六等
渡邊陽

渡邊家は名主、庄屋を勤め、先々代から醬油釀造業を開始した當村の舊家、先代要氏は中川村矢田佐治衛家十九代目の次男、後ち回家に入つたもので郡會議員郡農會長を兼任し、當時單身米國に航し米國產の優良牛種、乳牛を購入、以て郡下畜產界のために盡すところがあつた。氏はその長男、明治十年十月十日の出生同三十七八年の役時陸軍二等主計に任官勳七位勳六等に叙せられた。除隊後は在郷軍人會岩科村分會長、農會長、消防組頭、負債組合長、縣方面委員等に歷任、現在は村會議員、學務委員として活躍、常に負債整理組合を主唱し、自ら發起者となつて、一般村民のために納稅と經濟的觀念とを扶植誘掖に努め、村內の信望が極めて厚い。

中川村南鄕

元村長
勳八等
土屋宜三

氏は作太郎氏の長子、元治元年七月十日の出生、明治十九年、靜岡師範學校を了へて松崎尋常高等小學校訓導として奉職、次で稻取校に轉ずるなど、同四十四年七月まで同村小學校長として育英事業に貢獻絕大な功績を樹てゝゐる。その功に依つて昭和十一年勳八等に叙し、瑞寶章を賜はつた。退職後は區長たる十二年村會議員たる三期、その間昭和五年五月村長に選ばれて任に在ること八ケ年、また負債整理組合、自作農組合などを創設して全村民の更生に、その他國勢調査の實績を擧げ、學校の增築、奉安庫を造るなど大に力を注いだ。また校長在職中俸給の四分を校建築費として寄附し、兒童には年四期に零細な寄附をなさしめ、これを實行すること二十ケ年餘、今日では一萬數千圓の貯金となつてゐる。

中川村
村會議員
新田策朗

氏の家は土地の舊家で、代々名主役を勤め、町村制實施前には戶長を、また先代源吉氏は村會議員等の要職に在つて、村內のために多大の努力貢獻をなしてゐる。氏は明治二十六年四月八日、その長男に生れたが、當家が永年村內に盡力した餘光は、區民の信望となつて君が肩上に照り映え、肅選第一回の村會議員選擧には、美事に榮冠を負つて村會議員となつたのである。また增林委員でもある。曾ては消防組小頭として盡力したばかりか、池代區長として職に當ること二ケ年代々檀徒總代としても世話を燒いて來た

のである。なほ當家には名門を誇る兜に鍬刀が傳へられてゐたが、火災に見舞はれて灰燼に歸したは惜むべきである。夫人との間に三男三女がある。

稻梓村須原
長廣山 櫻澤寺

當山は須原八十餘戶を檀徒となし、法燈を相承くること二十六世の古刹、鐵山和尙を開山の祖となしてゐる。古くは龍澤庵と稱し、眞言宗派であつたが後ち改宗、曹洞宗を奉じてゐる。當山本寺は普巾院であるといふ。境內三百五十坪、本堂あり庫裡あり、十一面觀世音菩薩を本尊として祀り、來拜するもの常に絕えない。觀世音の木像を寶物となしてゐる。當山の年中行事は、曹洞宗一般執行に準じて行つてゐる。現住職は宮川良永師で、村內青年のために思想問題を說き、活ける修養講話に力を注いでゐる。檀家總代に土屋喜作、土屋熊次郎、土屋指次氏等あつて、熱心に世話役を努めてゐる。

稻梓村橋川
神護山 太梅寺

當山は寬德三年の創立、眞言の古刹として知られたもの、至德年間席を虛うしたが、康應元年、江州永源寺四世一源和尙來つて斷を續け、廢を起して寺門を改革、太梅山深居寺と名づけ、この時から臨濟宗派となつたのである。應永二十一年四月、一源和尙は將軍家の台命によつて建長寺東堂に任ぜられ、爾來享祿より天文年間までも席を虛うするの止むなきに至つたのである。弘治三年三月、相州香雲寺の四世實堂宗梅禪師來つて寺門の興隆を計り、曹洞の宗風を揚げられ、山を神護山、寺を太梅寺と改號、曹洞宗派に屬した。以來歷世相繼いで綿々今日に至り、二十九世約四百年間、兩祖の法燈今もなほ照らしてゐる。御本尊は延命地藏、香雲寺を本寺とし、保春寺、隨源院龍門院を末寺となしてゐる境內は一千五百坪、

山門、本堂、庫裡、衆寮、開山堂、鐘樓堂、稻荷堂など建ち並んでそゞろに舊時を追想させる。寶物には實堂宗梅禪師の御眞筆、行基作の延命地藏、北條氏、足利氏、豊臣氏等の書畫等がある。開山忌は九月十一日、藥師祭は十一月八日、初午稻荷祭は二月に執行される。現住持は大宰楳仙師の後を繼いだ勝田穆仙師で實に三十世である。

竹麻村湊

飯盛山 修福寺

當山は本寺に香雲寺を頂き、末寺に玉宗寺正善寺を從へて曹洞宗の弘法に努めて來たものであるが、抑も當山は弘治三年、相州香雲寺四世實堂宗梅禪師の開山にかゝるものである當山が眞言宗に屬してゐた時分は石巾寺と稱し青市に建立されてゐたもので、曹洞宗に改宗してから、今の地に移されたものだといはれてゐる。藥師如來を當山の御本尊となし、これが尊崇者またなか〳〵に多いのである。境内は六百十六坪森閑たる寺内に起る讀誦の聲、日夕響きわたる鐘樓堂の鐘の音、たゞこれを耳朶に觸れたゞけで、襟を正し、そして佛心を起さしめる。寶物としては國寶大般若經六百卷があり、また修福寺開創吹禪師尊影像、三十三体觀世音等があり、何れもまたと世に得難きものゝみである。當山の年中行事としては、曹洞宗執行一般の行事に從つてゐるの外、毎月九日、觀音祭を行つてゐるが、當日は遠近の參詣者踵を接して至り時ならぬ殷賑さを呈する。當山の下に海軍湊病院がある。その爲か海軍關係の參詣者が多い。現住持は第二十三世武田祖孝師、竹麻村全体にわたつて檀家を有し、山田利三郎、内藤三重の兩氏、檀徒總代の任にある。

中川村

村會議員 松本淺治良

當家は松本若狹守の後裔、本村松本家の總本家で、舊幕時代には名主を勤めたほどの名門家である。氏は明治九年六月八日、山崎直次良氏の二男に生れ、後ちこの名門の家を繼ぎ、故あつて現在の地に一戸を起した。氏は夙に當村の木炭業に眼を着け、これが統制を計るために中川村木炭商組合を創設し、これが組合長に推されて現在に及んでゐるが、從來岩科品に壓倒されがちであつたを、現在はそれに優越する製品なりとの定評を受けます〳〵製産高を增上しつゝあるが、これ一に氏が努力の賜物なりと賞揚されてゐる。今氏は三期目の村會議員であるの外、區長、賀茂郡木炭組合評議員、同畜産組合議員等に擧げられて、旺んに活躍してゐる。

田子村

村會議員 森慶太郎

當家先代氏は田子港に面して居を構へ水産漁業加工業を營み、夙に鰹節製造に苦心し、終に一名伊豆節と稱するものを製造發賣するに至つた。氏はその長男、明治二十年の出生、少壯疾くも健實なる位置を築き自治方面は勿論、村内商工業者の間に大なる期待を以て囑望さるゝに至つた。曾て消防青年團並に教育方面に多大の貢献をなし、昭和十二年五月、村會議員に當選して村治の正面に立つて活動してゐる。これまで蔭の人として水産組合等に盡力するところ、眞に多大なるものがあつた。氏は商賣に熱心なばかりでなく常に子女の教育に頭を惱ましてゐる。資性溫厚篤實、しかも人格者、村内に於ける信望家である。

三濱村

子浦漁業組合

當組合は明治三十六年の創立に係り、爾來子浦漁家の福利增進のため種々の施設事業を行つて今日に至り、近く協同組合に組織變更する豫定である。組合員九十六人は一丸となつて共同親睦、共存同榮の實を擧げ、大謀網に於ける漁業權は當組合の最大特權の一で、漁區は比較的狹いが、魚獲物の多きこと他漁業組合の上にあり、特に伊勢海老は年産一萬貫を突破する。昭和二年より販賣方法の研究をなし、共同出荷により利益の增大を圖つてゐる。現組合長内山儀八氏は大正五年の就任、現在四期目にて、曾て村會議員二期、區長三期を勤め、小學校舍建築の際は多大の功勞があつた。なほ現役員は理事石川倉藏氏、同坂倉要氏、監事矢高庄重氏、同坂倉德松氏の諸氏である。

白濱村板戸

興國山 禪福寺

當寺は釋迦如來を本尊とし、契實宗樹師を開山とする曹洞宗の古刹である。由緒深く、古來武家をはじめ庶民の信仰をあつめ、當地方有數の名刹として聞えた本寺は香雲寺にして、末寺に旭洞院がある。境内面積五百八十坪、堂宇は本堂、庫裡方丈堂、長屋、鎭守堂等あり、寺寶に聖觀世音菩薩白濱明神掛佛十六羅漢をはじめ先住民族が使用せる土器の破片などあり古き文化の跡を偲ばせてゐる。檀家は白濱村一圓に亘つて約二百五十戸を算し、鈴木好正氏、飯田福松氏が總代に擧げられ

る。現住職臼田興禪師は當寺第二十三世に當り、曾ては宗會議員、慈光會長等の役に就き、社會教化並に宗門の繁榮に寄與貢献せるところ多く、人格高潔の善知識と敬はれてゐる。

宇久須村
村會議員 上松對馬

氏は村會議員であり、また宇久須漁業組合理事でもあり、そして本縣水産界の功勞者を以て令聞の高い人である。明治二十二年の五月生れ、僅少の資金を以て巨大の利益を占むべく苦心し、曩に靜岡漁業講習會に入つて科學的出漁の方法を修得、直ちにこれを實地に應用したが、設備の不完全なために終に失敗に歸した併しこれがために失望はしなかつた。寧ろこれをよき体驗なりとなし、更に研鑽を重ね、棒受出漁の良好なるを得て現在の好調子を示すに至つたのである。今や伊豆海岸に五十雙からの棒受船船を繫ぎ棒受出漁の統制監督をなすと共に、また同業後輩者のために指導に努めてゐる。靜岡縣水産界に於ける先覺者よと賞讃さるゝも故なしではない。

中川村船田
元村長 勳八等功六級 船津源藏

村内船津姓を名乘る總本家、先代茂吉氏までは代々名主庄屋を勤めた篤農家の名聲高く、始祖以來傳はる謂はゆる傳家の寶槍は、嚴として名門の家柄を語つてゐる。また人民委員、戸長の要職に就いて功のあつた人。氏は明治二年七月十日、その長男に生れ見付農業學校卒業後一年志願兵として名古屋聯隊に入營、明治二十七八年役に出征、陸軍歩兵少尉に任官功に依つて勳八等功六級を下賜された。後ち村政改革によつて推されて村會議員、村長、その他消防組頭、在郷軍人分會長負債整理組合長、區長、農會長等に就任甚大な功績を樹てゐる。目下は農村振興、青年教育、種子研究方面に樞要な人物とされてゐる。

安良里村
水産功勞者 高木德三郎

當家は本村高木家の本家、氏は明治二十七年七月長男として現在の家に生れ、父氏が經漁業に多大の出資をなし一時の中止が終に十年間も休止の狀態にあつた事業に手を染め、主として棒受漁業の研究を重ねつゝ着々成績を擧げること十有四ヶ年父君時代の不成績を回復、一躍漁業界王

座を占め、今日では安良里漁業界の第一人者として自他共に許す大立物となつてゐる。安良里漁業組合の總代であり、本村漁業界になくてはならぬ人として村内の衆望を集めてゐる。温厚篤實の士、一旦口に出した以上、必ずこれをやつてのけるといふ謂ゆる言行一致の人格者。更に前途に多大の嘱望をかけられてゐる。

安良里村
水産功勞者 高木要次郎

先代元五郎氏、今の高木德三郎氏家から分家し、村内水産業の發達に全力を打ち込み、極めて眞面目に業績を高めた人氏はその長男父君の業を繼いで更に熱心斯業の發展促進に盡すところがあつた。當村今日の水産業の隆昌を見るに至つたのは、兩高木家に負ふところ、洵に甚大なるものがあると謂はねばならない。氏は棒浮漁業に十ヶ月間を經漁業にあてつゝあるが、この出漁方針が頗る合理的で大なる好結果を招來してゐるのである。氏また安良里漁業組合の總代の任に在つて、絶えず漁業界の動靜にその慧眼を即してゐる。人情味豊かな典型的の紳士である。

稻生澤村
湯谷山廣台寺

本山は格雄宗逸大和尚を開山の祖としてゐる。もと藤原嶺上に在つて、桂昌庵と稱した一小庵に過ぎなかつたが、慶長十七年の四月二十一日曹洞院七世が現在の地に移したものだと傳へられてゐる法地開闢の時、温泉が湧出したところから、山號を湯谷山と、寺號を廣台寺に改めたとの說が殘つてゐる。本寺は曹洞院で、曹洞宗派に屬し、聖觀世音菩薩を本尊となして尊崇してゐる。本山境内は三百坪、本堂に庫裡があり、御開山の袈裟行基が妙手になる十一面觀世音菩薩の木像を秘藏してゐる。毎月十九日が藥師の緣日、十七日は觀音祭を營んでゐる。現住職は十九世池谷洞靈師。なほ近くに蓮台寺溫泉がある。

朝日村大賀茂
學務委員 增田國三郎

明治十八年三月三日、政吉氏の長男として生まれ增田家十三代を繼ぐ、祖先は舊く三百有餘年の昔にさかのぼり、名主等を勤めた家柄である。現在は農を以つて業とす嘗つて農會委員を振り出しに、氏子總代を勤め、現在は學務委員、區長

代理等の公職に在り、溫良優和、美はしい人格の所有者。宗旨は曹洞宗を信仰しミヨ子夫人との間に子息三人あり、睦まじい家庭である。名利に走らず、私慾のために動かず、たゞ默々として村政、教育に盡すところ、自然と頭の下るのを覺える。

南崎村青野
前村長
勳八等
大野長次郎

資性溫厚にして人望高き氏は元治元年の岳降、佐藤嘉吉氏の長男にて長じて、大野善三郎氏の養子となつた。養父は明治六年まで名主をつとめたる德望家である、氏は明治十三年韮山中學師範科を卒業同十五歳年滿十八に達したるを以て一之瀨小學校訓導を拜命、同二十五年賀茂郡上大見(現田方郡)小學校長となり幾許もなく、同校長を經て本郡岩科村三浦尋高小學校長を最後に大正五年一月教育界を退き、爾來社會事業に力を用ひ、大正十年四月及び昭和四年の二回村長に選任

村會議員二期、學務委員等をつとめ功勞甚大である。令閨との間に一男五女を儲けすべて他に嫁し長男隆一氏は東京商工電氣科を出て現に三河セメント電氣部に勤務する。

南崎村長都呂
村會議員
消防組頭
鈴木義松

玲瓏玉の如き人格の持主にして人望極めて高き氏は、鈴木作松氏の長男として明治二十一年十月十日の出生である。代々農を以て本業となせしも、副業に水産業を營みし舊家である。氏は明治四十一年歩兵第三十四聯隊の氣球隊に入營、在營中模範兵といはれ、除隊後は家業の傍ら區長數期、消防部長を歷任して部落のために貢献するところ多く、普く信望をあつめ、現時消防組頭學務委員、村會議員三期目の任を兼ね、豐富なる識見と多年の經驗を基礎に一意專瘁貢献してゐる家庭には母堂かんさんが古稀を越えて健在し、夫人よね子さんとの間に四男四女あり。長男博氏は横濱市本牧中學校出身にて現在日本フオード會社員、次男は日本大學に在學中、長女菊枝さん及び次女みさ子さんは横濱酒井產院に勤務中である。

南崎村
南崎村長
鈴木幸吉

嘉永年間から今日まで戶數人口に大差ないといはれ伊豆南端の平和鄕南崎村に村長として縱横の手腕を揮はれる氏は、三面六臂の活動家、本村政の向上と村民の利益增大に尽すところ甚大にして、昭和南崎の恩人と稱され、全南崎村民の信望を一身に背負つてゐる。本村海岸は風光絶佳にて、特に石廊崎の如きは實に天

下の絶景年々觀光の客を增して觀光南崎としての新しい發展を豫期されるに至り

氏はこの方面に於ても種々の方策を講じ施設宜しきを得て多數名士の來村するものが多くなり、伊豆に來たら何を措いても先づ石廊崎をといはれるやうになつた。誠に氏を有することは本村の强味であり、村民の誇りである。

白濱村板戸
元村長鈴木寅惠

本村元老中の第一人者たる氏は嘉永五年十月八日の生れ、本村分離以前の大濱崎村時代に村長その他多數の要職を歷任し、橋籠時代の自治界を指導せる先覺者にして、產業に教育に土木に衛生に鄕土の繁榮のため寢食を忘れ私利私慾を捨てゝ盡力せる功勞者である。令閨きく子さんは杖鄕を越えて三年、養嗣子仙三郎氏は黃泉の人となり、養孫益治氏は本郡南

中村の產豆陽中學校を經て大正十二年早稻田大學商科を卒業、先年下田銀行と伊豆銀行が合併されるや望まれて白濱支店長となり爾來地方金融の中堅として重きをなしてゐる。因に益治氏の實父山本吉衛氏は郡會議員數期、その間副議長、議長に推され、また村長たること三十年の長きに及んだ同村の元老である。

南上村
永昭銀行頭取
前縣會議員
永田正吾

高貴なる人格と緻密なる頭腦の持主にして地方金融界の中堅人物と稱される氏は、永昭銀行の創立者にして初代頭取たる永田彌三治氏の長男として明治二十六年生をこの世に享けた。祖先は代々名主をつとめ、先代もまた名主たることある名望高き舊家で氏は大正七年明治大學法科を卒業し政界の惑星小泉策太郎氏の幕下として縣政界に重きをなし、縣會議員二期をはじめ、郡會議員その他村內の總ゆる公名譽職をつとめ、現在は村會議員六期目及び、學務委員を兼ねて自治教育のために貢献しつゝあり、また先代の後を襲ふて永昭銀行頭取に就任、手腕いよ〳〵冴えて金融界に君臨せんとしてゐる齡未だ不惑を越えて七年なほ春秋に富み今後の活躍はます〳〵以て期待するに足るものがあらう。

南上村一ノ瀨
前村長
勳八等功七級
齋藤久藏

威嚴冒すべからざる風格を有し信望遠近に普き氏は明治十四年二月十日の岳降にして、同三十四年歩兵第三十四聯隊に

入營、日露戰爭には第二軍麾下に屬して出征、三十七年十月十七日沙河口の大會戰の時兩足に名譽の負傷を負ひつゝも忠勇比なき皇軍の一員として勇敢に戰ひ功により勳八等功七級を下賜された。除隊後は家業に精勵すると同時に公共のことに盡瘁し、村會議員二期、一之瀬產業組合監事、同理事、村養蠶組合理事、在鄉軍人分會役員等幾多重職を歷任しそれぞれの方面に大きな功績を殘し、また大正十一年には助役に擧げられ、同十五年四月引續き村長に選任されるや、日頃の抱負を實現すべく縱橫の手腕を發揮して名村長の名を恣にした。

三坂村蝶ヶ野

前村長 勳七等 渡邊長平

堅實を旨とし、信義を重んじ一命を賭して公共に奉ずるの覺悟を有し本村自治に幾多の足跡を殘せる翁は、渡邊惣太郎氏の長男にして元治元年の岳降なれば、齡すでに古稀を越えてゐるに拘らず、元氣旺盛にして意氣壯んなるものあり。全三坂村民の信望をあつめてゐる。明治二十五年村役場書記を拜命して以來、同三十三年には助役に推され、三十六年には村長に選任偶々日露戰爭に際會するや、日夜恪勤銃後の護りを固くし功により勳七等に叙された。またこの間村會議員に當選二回及びその後大正二年二度目の村長を

つとめ各方面に亙つて治績顯著なるものがあつた。因に渡邊家は代々名主をつとめし舊家にして先代惣太郎氏も名主、後に戶長に擧げられたる名望家である。

三坂村中木

三坂消防組頭 村會議員 山口柳平

至誠以て公共に奉じ眞摯以て事に當るの人わが山口柳平氏は鶴田幸吉氏の三男にして明治二十一年七月二十六日を以て生をこの世に享け、後、山口茂吉氏の養子となり今日に至つた。明治四十一年靜岡步兵第三十四聯隊に入營、勤務中は成績優秀にして隊內の模範と稱された。鄉に在つては家業に精勵現時ひじき製造販賣業を營んで盛況を呈し、販路年々擴張を見つ

ゝある。傍ら社會公共のことに關與貢獻し、三坂消防組頭たること三十餘年の長きに上る。ほか三坂漁業組合長學務委員村會議員、縣消防協會下田支部評議員等の要職を兼任して、本村自治界に重きをなすのみならず、當地方水產業界に名聲を馳せてゐる。家庭は夫人ルヤさん及び長女百合子さんほか四人の令孃がある。

三坂村入間

前村長 萩原平三

自治の道は幾多人材の努力と堅忍不拔の精神を以て終始一貫するにあらざれば彼岸に到達することは難い、わが萩原平三氏は自責ある一定主義の下に理想の貫徹を目的として奮鬪するを本懷として來た人である。若冠三十歲より村會會員たること五期、信川組合長、消防組小頭、村長、その他村內のあらゆる公名譽職を歷任せる人望家にして、資性溫良、手腕俊敏、加ふるに民政黨評議員として縣政界にも重きをなした。抑々萩原家は祖以來五百年を經る舊家にして、氏は先代政吉氏の長男として明治二十四年一月二日に生を享けた。現在二人の令孃は他に嫁し、家庭には一男二女を有し圓滿且つ幸福の限りを盡してゐる。

演崎村柿揚

前村長 勳八等 會我彥右衛門

翁は文久三年十月十八日の岳降にして高齡なれど矍鑠として壯者を凌ぐの元氣を有し、曩に理事をつとめたる柿崎漁業組合に對しては特にその發展に意を用ゐつゝあり。全組合員より慈父の如くまた嚴父の如く敬慕されてゐる。明治三十八年村長に就任時恰も日露戰爭當時にて銃後の功により勳八等に叙され、その後二回目の村長に擧げられた時は宛も御大典に際遇し大禮記念章を拜受するの光榮を有した。この他村會議員に當選數回、農會役員等をつとめ、本村自治產業の功勞者であり、現在本村が有する元老中の白眉たる存在である。家業は鮮魚加工即ち鰹節製造業にして盛大を究める。趣味として園碁を好む。三男六女の子福者にて長男宰

六氏は世界大戰當時步兵第二十四聯隊に在りて出征し功烈高き人である。

三演村伊演

村會議員 齋藤賢一

豪毅の性、高邁の志、適くとして可ならざるなく順風に棹すが如くして今日の地位を築きあげたる氏は、明治二十一年

四月十七日の誕生である。幼にして頭腦衆にすぐれ長ずるや意を社會公共のことに用ひて早くから献策するところ多く人望全村に普く村會議員に當選二回現にその任にありて村政に貢献するところ多くまた學務委員として社會教育並に社會事業に盡瘁し、本村學事の振興に關しては特に功勞が多い。更に氏は伊濱漁業組合長を兼ね同組合をして、郡下有數の優良組合たらしめた。蝶腕にして、數年前から永昭銀行三濱支店長に任じて當地金融界にも重要位置を占める。家庭には夫人そめさん及び二男あり、長男定右衛門氏は豆陽中學校に籍を置き秀才と謳はれてゐる。

白濱村板戸
前村長 飯田平治

智慮衆に勝れ、信望全村に普き氏は、明治十五年二月飯田龍藏氏二男として當地に生を享け、若冠二十九歳の時高點を以て村會議員に當選、將來恐るべしの感を深からしめた。その後村内名譽職のすべてを歴任し、遂に昭和七年衆望をあつめて村長に就任、歴代村長の爲し得ざりし村税强徴を實施村政上に一大革新を齎らした。昭和十一年七月現村長と代り、今は悠々自適の日を送つてゐる。かの子夫人との間に二男三女あり長男昨太郎氏は豆陽中學を出て家業に從事次男力夫君は同中學在學中長女は下田高女を出て東京市高島屋に勤務する。因に氏の趣味は魚釣敬神崇祖の念篤く、家庭常に平和、春風堂に滿つるの觀がある。

白濱村長田
神官 元小學校長 進士德藏

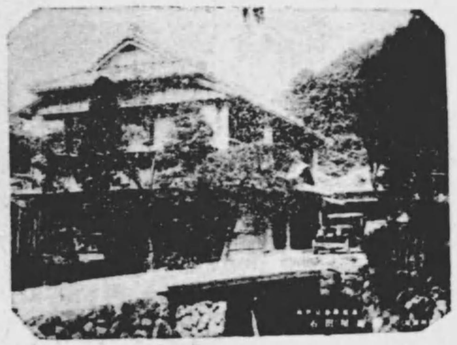
黒船渡來、開港條約締結後日なほ淺き慶應二年五月十日進士伊三郎氏の長男として當地に呱々の聲をあげた氏は、幼にして群童に優れ、長ずるや家業を手傳ふ傍ら勉學にいそしむこと數年遂に尋常師範學校入學の榮冠を勝ち得、同校を卒業するや明治二十三年白濱小學校訓導を拜命して教育界に身を投じ、靜岡市大里校訓導を經て同市辻町校長に榮轉爾來二十有餘年校長として縣下教育界に重きをなし、大正四年後進に途を開いて閑地に入るも、翌五年白濱神社々掌となりて今日に至りその間村會議員に當選至誠を以て公共のことに奉仕し德望あり、また氏は文章を能くし、屢々新聞紙上にその名文を發表する趣味は書畫骨董にしてまた俳句を好む令閨梅子さんは内助の功多き人、養子

經吏氏夫妻に共に小學校教員である。

下河津村谷津
谷津漁業組合長 元村長 飯田章

電話川津濱

當家は代々農を營みし舊家なりしも、先々代の時代に至つて溫泉旅館を經營しはじめた、氏は正木福太郎氏の次男として明治十四年八月二十二日に呱聲をあげ飯田茂三郎氏の養子となつて今日に至つた。豆陽中學校出身のインテリーにして、若くして助役に推され勤續多年、功勞多く黒田氏に次ぐ本村有力者である。大正七年より昭和十一年八月まで五期二十年間村會議員をつとめ、村政史上に印したる足跡は實に大なるものがある。謙讓にして寡言、私利を捨てゝ公共に盡し、些も實名的行爲を好まない。趣味は魚釣、因に氏は子福者にて九人の子女あり長男利平氏は東京高工出身の技師にて瀬戸市役所に勤務する。なほ當家は石田屋と稱し、谷津溫泉第一の設備を有する有名旅館である。



下河津村縄地
元村會議員 元村農會長 石井長八

自治功勞者として名聲高き翁は明治元年七月十五日の岳降。祖先は代々名主をつとめたる家柄にて氏は先代茂八氏の長男である。夙に社會公益のために盡瘁奔走頗る多く、明治三十八年漁業組合の創立に力を致し設立後組合長たること數期本村漁業の發展に貢献尠からず、また郡水産會評議員、村農會長、鷲養組合長、區長數期、村會議員數期、郡會議員一期等に歴任、活躍振りは正に三面六臂の姿であつた。現在は一切の公名譽職を退き、專ら好な將棋に自適の日を送つてゐる。令閨とらさんとの間には四男六女ありしが、昭和十一年六月長男正好氏を喪つた。正好氏は豆陽中學を經て靜岡師範に學べる秀才にて白濱村小學校訓導、南崎村小學校長、三坂村小學校長等をつとめた名教育家であり、將來に多大の興望を擔へつゝあると共に、氏また大に成すところあらんとした。豎の冒すところとなつて起たず洵に痛惜に堪へない。嗣子二男好也氏は早稲田大學政治經濟科出身にて大阪時事新報社に在勤する。

下河津村縄地

付會議員
縄地信販購
利組合長

杉山忠四郎

威徳高くして人望普き氏は、曩に區長牧入役一期等をつとめて自治に寄與するところあり、昭和十一年八月には村會議員に當選、識見と抱負を傾注して村政に參與貢献しつゝあり功績甚大である。生れは明治二十一年八月大正十一年縄地信用販賣購買利用組合の設立に際しては主唱發起人として大いに奔走し現に組合長として組合の擴張發展に努め全組合員の信任と尊敬をあつめてゐる。該組合は大字縄地を區域とし、組合員八十五名を算し、主として夜間のみ事務を執つて農家の實情に即して組合員の利便を圖り、貯金二萬六千六百三十圓、貸付金二萬五千四百五十圓にのぼり、理事は土屋茂平次氏監事は杉山忠藏氏、渡邊普吉氏、加藤彦太郎氏等である。これに與つてゐるが事業の發展は知るべきのみ。

下河津村湯

石井醫院長
正八位

石井啓二

電話川津湯二八番

德望家の譽れ高き氏は明治十七年三月二十四日の生れ同三十五年豆陽中學を出て長崎醫專に學び、三十九年これを卒業するや、長崎縣立病院、東京赤坂區共立病院等に於て實地を研究し、その後第三十四聯隊に入營、陸軍三等軍醫に任じ正八位を授けられた。明治四十三年八月現地に開業、爾來日毎に隆盛を加へて今日に至り、この間在郷軍人分會長その他の公名譽職を歴任、現に郡醫師會理事下河津小學校醫の任にある。因に氏は實父松之助氏の三男なりしも、令兄幸太郎氏に嗣なきため、その養子となり石井家を嗣い。だ幸太郎氏は村長郡會議員等をつとめたる地方自治の功勞者にして名聲頗る高い。

稲取町

前村長

黒田喜兵衛

當家は當地有數の舊家にして氏は先代龜次郎氏の次男明治十八年七月を以て呱々の聲をあげ、豆陽中學校第七回卒業生である明治四十二年には早稲田大學文科を卒へ躍々たる大志を抱いて大正元年渡米、鋭意業務を勵み在留邦人中の模範的人物と稱され雄圖正に完成せんとせし時、昭和六年尊父逝去の報に接して歸國、爾來郷に止まり翌昭和七年には請はれて助役となり引續き村長に就任、新興稲取町の發

展を講じて良績を收めた手腕家現在方面委員をつとめる。本町有數のインテリゲンチャーにして自治界の最高峯である稀有の好紳士、對面の人には好感を與へる人材である、夫人はなさんは女子師範出の才媛且て教壇に立ちしことがある。

稲取町

町會議員
町農會長勳八等

田村元三郎

氣力ある正義一途の人との定評ある氏は日露戰爭の補充兵として出征、忠勇義烈の働きにより勳八等に叙された勇士である。先代幸太郎氏は稲取村時代の村會議員、郡會議員區長等を歴任本町開發の恩人として田村又吉翁と並び稱されたる人材である。氏はその男明治十六年八月に呱聲をあげ、先代の創始に係る蠶種製造業（當町に唯一軒）を繼承經營し、現在年産三萬グラム以上を算する盛況を呈する傍ら町農會長、町會議員三期目、養蠶實行組合、長郡養蠶組合、評議員、稲取町信販購利組合理事、郡畜産會代議員等の要職にあり、當地産業界の重鎮といはれる。長男健男氏は豆陽中學校及び愛知縣立西尾蠶糸學校を卒業後、一年志願兵として歩兵第三十四聯隊に入營、少尉に任じて正八位を賜り、現時町在郷軍人分會副會長に擧げられて活躍貢献してゐる。

稲取町

村會議員
元村長

桑原新太郎

桑原家は由緣深き舊家にして代々郷民の信望をあつめた、新太郎翁嘉永四年の岳降、夙に天草仲介業を營み、大阪方面へ販路を有し隆盛を極めた。若くして村會議員に選ばれ重任五期、また村制時代の稲取村長に擧げられること二回、今日の稲取町建設の基礎を鞏固ならしめた功勞者にして、また漁業組合長、郡水産會副會長を多年歴任、本町自治産業界の大元老として一般から尊敬されてゐる。長男由藏氏は現時村會議員二期目の任にありて町政に參與貢献する一面、陰れたる篤行者として名聲高い父子相揃つて自治公共に奉仕せるは誠に尠く、實に奇篤の家といふべきであらう。（寫眞は新太郎氏）

稲梓村落合

元縣會議員
勳七等

土屋梅之助

正に紳士たるの名に背かず、人格高潔頭腦明晰にして統御の才に長ずる氏は、民政黨靜岡縣支部賀茂郡部會幹事として重きをなし、大正二年以來縣會議員に當

選すること二回、縣政壇上に獅子吼して令名を馳せた偉材である。祖先は當地に住すること十數代、世々名主をつとめて德望高く、先代桂助氏は本村二代目村長に任じて功績多かりし人、氏はその長男にして明治二年生をこの世の代に享けた。夙に三十二歷で村會議員に選ばれ、次で郡會議員に當選日露戰爭當時は村長をつとめ、銃後の功ありて勳七等に叙された。目下二十年來の賀茂郡蠶種販賣購買利用組合長として采配を揮つてゐる。四男三女の子女あり、長男は醫學研究中藥品の中毒を起して科學の犧牲となり、次男崇氏は本郡松崎町に松崎病院を經營隆盛を見てゐる

稻梓村 前村長 勳七等 土屋信太郎

土屋家は本村で一二といはれる資產家加ふるに十二三代を經る舊家にて、代々名主の役をつとめ、聲望遠近に普ねかつた。氏は明治十三年五月十五日に生れ、長じて當家の養嗣子となりしもの、資性溫厚にして世情に通じ、融通無凝の機を有する。明治三十三年名古屋輜重兵第三大隊に入營、日露戰役には武勳多くして勳七等に叙された。村會議員、四期、產業組合理事、養蠶實行組合役員、區長、學區會議員、農業調査委員、國勢調査員等を歷任村治村政の偉大なる功勞者にしてまた十三代目村長に就任壽率せる敏腕家である。現時學務委員に專任し學事の振興と社會敎化の徹底に力を致しつゝある。

稻梓村箕作 前村長 小林長太郎

明朗なる人格者といはれる氏は、地方には珍らしい文化的色彩の濃い人である抑々小林家は古くから當地に居住する由緒ある家柄にて、先々代は名主をつとめ、先代辰藏氏また村のために献身的努力を捧げた。氏はその長男にて明治十一年五月の出生、夙に明治三十二年頃村役場書記を拜命し、次で助役となり同時に村會議員二期をつとめ。後、推されて第十四代村長に就任各方面に亙つて功勞多く、村民の信望も絶大である。また大正元年頃稻

梓村產業組合長となり勳績二等、組合狂と謳はれた程組合の發展と充實に貢献しその他郡蠶業組合理事。村農會長、學務委員、學區會議員等を歷任し、現時加茂郡養蠶業組合支部長及び箕作養蠶實行組合長として多年の經驗を基礎に敏腕を揮つてゐる。

稻梓村須南 稻梓村農會長 土屋喜六

縣下敎育界の偉材たりし氏は、代々名主をつとめて十餘代を經舊家土屋家の當主にして、明治三十二年靜岡縣師範學一類講習を修め本村箕作小學校准訓導を振出しに下河津逆川小學校を經て、同三十四年には同校々長に陞進爾來勤續三十有餘年、大正十三年四月退職し、その後は青年に對する農業指導並に社會敎育に盡し、最近は低腦兒敎育に意を用ひつゝあり、この間村會議員、區長、農會役員、養蠶實行組合役員等を歷任、現村村農會長及び學區會議員の名譽職を兼ねる。昭和二年下河津小學校卒業生は氏の德を永遠に傳へんため頌德碑を建設した。なほ同校三十餘年勤續中無缺勤で通し表彰四回に及んだ。長男圓次氏は農業學校出身にて現に田島村池小學校長である。

竹麻村青市 村會議員 元村長 高橋幸太郎

當家は古くから農業に從事しつゝ、雜貨商を營む舊家にして、氏は八代目の當主明治九年九月二十八日を以て生を享げた資性溫厚にし稜骨なく明治四十一年には區長推されて區民の福利增進に奮鬪、また同四十三年以來村會議員に選出されること三回現にその任にありて貢献多く、議員中の元老である。嚢に大正元年助役に擧げられ、消防組副部長、郡農會副會長の要職をつとめ、後、擧げられて村長に就任本村產業の進展と自治の圓滑なる向上に寄與するところ多く、名村長の名を擅にした。趣味は豐富にしていづれも相當域に達する。佛敎殊に曹洞宗に信仰深く現時二度目の檀徒總代を兼ねる。夫人イトさんとの間に四男二女を儲け、和氣靄々として家庭圓滿である。

竹麻村青市 元村長 高橋恒弘

氣魄に富み、氣骨を有し、强き信念と卓拔の手腕とを以て村自治界に君臨せる氏は、今や本村元老として嘖々たる名聲と厚き尊敬を寄せられ、一切の公名譽職

を退いて閑地にあると雖も、謂はゞ村の顧問ともいふべき位置にあり、その抱負と經倫とは大いに本村自治上に影響するところがある。代々農を以て本業とし、本村有數の舊家たる高橋家に、三郎左衛門氏長男として安政六年四月十日に呱聲をあげ、夙に家業に精勵すると共に村會議員に選ばれて活躍貢献多く、後には衆望を擔つて村長に就任、自治の明朗化と産業の開發に盡瘁した。今は家督を令弟要吉氏に譲り閑雲野鶴を友とし悠々自適の日を送つてゐる。

竹麻村青市

元村長 鈴木寛吉

村の大元老にして資産家たる翁は、安政元年十二月二十六日の岳降である。祖先は代々名主をつとめたる舊家にして地方切つての名望家、世々農を以て生業とした。氏は家業の傍らよく社會公共のことに盡し、明治二十五年には村會議員に當選、その後郡會議員二期、村長二期等をつとめ、本村自治に殘せる功績大なるものあり、産業の振興、教育の充實、交通路の整備その他氏の在任中に本村諸政は一新した。されば先年の御大典に際し自治功勞者として感謝狀を贈られたるは當然である。資性温厚篤實、夫人との間に一女セイさんあり、女婿謙吉氏は濟生學舍出身の刀圭家にして現に朝日村田中に醫院を開き隆昌を見てゐる。

竹麻村手石

村會議員 村農會副會長 鈴木儀右衛門

自力獨行の士、信念に生きる手腕の人これぞわが鈴木儀右衛門氏その人である明治六年一月十三日日本に文明開化の曙光がやうやく見え初めた頃、先代文太郎氏の長男として生を享け、鄙鬢を卒へるや直に父業を繼ぎ精勵よく努めて今日の隆盛を見るに至り、傍ら家屋税調査員土木調査員、消防組小頭同部長たること約三十年奉公の念に強くして貢献尠からず、現時養蠶實行組合支部長のほか、手石漁業組合理事手石區評議員、神社寺院總代等幾多の公名譽職を兼ね寢食を忘れて奔走盡瘁し當村の大先輩として一般の尊敬をあ

てゐる。養子裕哉氏は元村長鈴木武[illegible]の次男にして昭和元年農業大學を卒業し目下中泉農學校に教鞭を執つてゐる。

竹麻村手石

村會議員 學務委員 大年繁太郎

元祿以前から當地に居住する部落有數の舊家たる大年家は代々郷黨の間に聲望を博せる篤行の家である。先代勝右衛門氏は船員たりし人、當主たる大年繁太郎氏はその長男にして明治十九年二月三日に生れ大正元年頃より造船請負を業として家産を造成せる成功者であるしかも家業に熱心なる。一面手石區長手石漁業組合長等をつとめて部落の繁榮につくし、現在は學務委員及び村會議員として貢献する。

竹麻村湊

村會議員 元村長 木下峰吉

剛毅果斷の人わが木下峰吉氏は代々農を以て本業となす木下家六代目の當主、明治十年六月二十四日に呱聲をあげ、幼にして神童の譽れを有し公明正大、義に仗らば千萬人と雖も我往かんの意氣と力を持つほか神社寺院の總代を兼ねてゐる。漁獲狩獵を趣味とし豪毅磊落の大人物である夫人かつ子さんとの間に五男四女を有し長男は師範學校を出て現三坂小學校訓導次男は豆陽中學を經て工學院造船科に在學中。長女次女は共に他に嫁し幸福を極めてゐる。

竹麻村湊

村會議員 元村長 木下峰吉

剛毅果斷の人わが木下峰吉氏は代々農を以て本業となす木下家六代目の當主、明治十年六月二十四日に呱聲をあげ、幼にして神童の譽れを有し公明正大、義に仗らば千萬人と雖も我往かんの意氣と力を持つてゐた大正四年以來村會議員に當選することゝ五回現にその任にあり、政黨政派に捕はれず公共の福利增進と村勢の向上を一意念願して議政壇上に於ける奮闘振りは、世人の等しく感謝するところ、時に反對者あるも正義の論はよく障害を越えて勝利を得る爲に區長たることあり、また昭和六年一月より一期間村長もつとめ自治に功勞多く、現時學務委員を兼ねる先年還暦祝ひに際し、辭世として次の歌を詠じその心境を披瀝した。吾は行く虚僞と欺瞞の世を捨てゝ我家も生めよ眞心の人趣味は將棋はる夫人との間には一男一女がある。

稲取町

町會議員 外岡善六

町會議員中の白眉といはれる氏は先代千代藏氏の長男にして明治二十六年十月十日の誕生である。先代千代藏氏は本郡朝日村より明治三十年當地に移住し、雜貨及び酒類の販賣業を經營し家産の大を成した成功者で、兩親揃つて今なほ健在

する氏は嚢に推されて町會議員となり、現在二期目の任にあり同じ、町會議員田村六三郎氏と共に本町會の異色的存在にして町會に於ける雄辯は熱火と化し、氏の正論に双向ひ出來るものはないとまでいはれ、他議員の怖れて以て服するところである。讀書慾旺盛にして古今東西の書を漁り千牛充棟の多きに上つてゐる。また書道に堪能である、令閨との間に二人の令孃あり、目下家事を見習ひつゝあり才媛の聞え高い。

下河津村田中
村會議員
村長會長
鈴木藤吉

鈴木家は代々農を以て立つ本村の舊家にして、氏は明治十七年二月二十日の出生、夙に祖業を繼承して精勵よく今日の大を成し、篤農家としての聞えが高い人格高く、溫厚篤實、加ふるに恭儉己れを持し、不言實行の人、村會議員中に一異彩を放ち、それだけに氏を信頼し尊敬する人は極めて多い。誠に當代稀有の人材といふべきであらう。因に氏は日露戰爭の時は補充兵にて近衛歩兵聯隊に召集され、勇躍滿洲の曠野に武勳を樹てんとしたが、惜しくも留守隊勤務となり心は愛國の一念に燃えつゝ内地に踏止つた。なほ長男嘉助氏は農事に研究的態度を持して常に改善改良を圖り父にも優る篤農家と稱される。

竹麻村
前村會議員
鈴木長吉

村會議員の自治に於ける役割は頗る重大である。一村の繁榮は掛つて議員の智能と活躍の如何にある。氏は多年村會議員として本村の發展に盡瘁されし功勞者明晰なる頭腦と不斷の活動力とを以て議員中に一異彩を放ち、名聲嘖々たるものあり、自治の圓滑なる運轉に産業の改善發達に教育の振興に村治各方面に亙つて至誠奉公の限りを盡した。また衆望を負ふて區長となるや部落の繁榮に寢食を忘れて盡力し、部落の恩人と敬はれ尊ばれた、因に當家は代々農を營みし舊家なるも氏の代に至つて船舶運送業に轉じたもので氏は松本吉太郎氏の三男明治十年四月十一日を以て生れ、先代鈴木勝藏氏の養子となつた。現在夫人ひささんとの間に二男あり。長男匡氏は家業に從ひ次男勝氏は當地に新聞販賣店を經營する。

前村會議員
小竹村
鈴木長吉

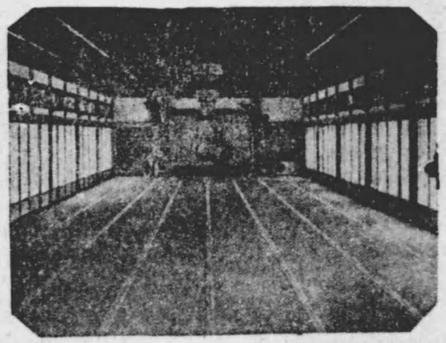
田方郡

伊東町湯川
洞源山松月院

當山は伊東町十二景の一つに數へられ秋の月の名所として特に名高い。台翁曹銀和尚の開山で、以前は眞言宗だつたが和尚の代になつて曹洞宗に改宗、釋迦如來を本尊としてゐる。境内の面積は五百坪、三百餘年前、大水に遭つて本堂その他を流失したと傳へられてゐるが、本堂は八間に七間半、庫裡は百二十坪からある。實物として見るべきものは中興開山、辨財天がある。年中の行事としては一月七日と五月二十一日との辨財天の祭、その他は一般曹洞宗によつて行ひ、伊東町を檀家となしてゐる。現住職は内山禪戒師で實に當山二十世、檀徒の信望が厚いばかりでなく、町民から人格者として稱へられ、眞に宗教家としての面目躍如たるものあり。

伊東町
猪の湯 猪戸館
電話伊東一二七番・四一一番

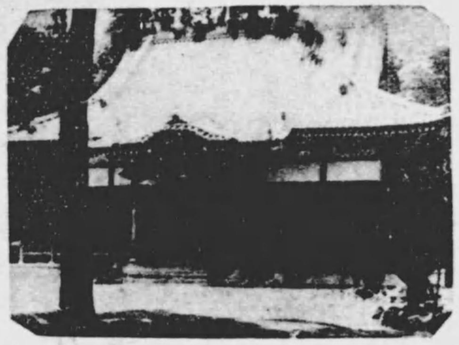
當館は伊東溫泉の開祖、實に天保十三年の創業である。その昔、野猪出で來つて發見せるもの、猪の湯名稱の由來するところである。客室五十間、百八十疊の宴會場、大理石の大浴場外七ケ所あり、收容人員三百人、中食宴會には五百人、家庭的親切第一主義の奉仕接待を旨とし鐵道省、靜岡縣廳、ジャパンツーリストビューローの指定旅館となつてゐる網代驛から三十分で達する今從業員は三十人。現内大臣湯淺倉平閣下、前身延山管長日希上人頭山滿翁氏等の愛顧を受けてゐる。泉質は淡塩類泉でラヂユーム含有、胃腸病、痔疾、神經痛、リウマチス、婦人病等によく、經營者は前田伯卯氏、前町會議員前伊東旅館組合副會長、伊東高等女學校委員である。



伊東町新井

寶洲山弘誓寺

當山はその昔朱印、制札、藏經、綸旨の場所として指定された由緒ある古刹で今より七百五十年前韓嶺良雄を開基、大巖玄隆を開山の祖とし、初めは眞言宗であつたが、後ち曹洞宗に改宗したものである。



當山寶物として秘藏されてゐる七体觀音は、開山當時、海上で網にかゝつて引上げられたものだと傳へられてゐる。釋迦如來を本尊となし、天覺院を當山の本寺なしてゐる。境内は約五百六十坪、本堂に庫裡があり、七體觀音をはじめ釋迦如來木像、文珠菩薩、普賢菩薩等が寶物として秘められてゐる。毎年正月、五月、九月の各十七日に大觀音祭をまた十一月十三日には吉祥講が營まる。檀家は伊東町、現住職は二十世田多部惠亮師。

伊東町 玖須美

寶珠山最誓寺

當山の本寺は最勝院で、その十二世台翁宗銀和尚を開山の祖となしてゐる。初め伊東祐親の一女八重姫一宇を建立し、西方成佛の意味から西成寺と號した。今寺の傍に音無神祠なるものがあるが、當時を語つてゐる。曹洞宗派に屬し阿彌陀如來を當山の本尊となして守護してゐる境内は一反六畝餘歩、そこに本堂、庫裡、位牌堂が建立されてある。釋迦如來、木喰上人彫刻の誕生像を寶物となして秘藏してゐる。年中行事は一般曹洞宗執行に準じてゐるが、その他七月十六日には閻魔大王祭を行つてゐるが、當日の參詣者は境

内を埋めて雜閙いふべからざるものがある。現住持は二十四世本田政參師、井原伊八、稲葉波平、井口角大郎、橘田充祥氏等寺總代となつてゐる。

伊東町新井

新井濱漁業協同組合

電話伊東 四四六番・三六二番

當組合は明治三十六年の創立、二百五十名の組合員を有し、組合長自宅に事務所を置いて事務に當つてゐたが、大正十二年、一萬圓を投じて、事務所を新設、昭和十年八月二十日に組織を改め、現在の名稱を以つて今日に至つてゐる。當組合の事業は、共同販賣、購買、增殖、設備、救難設備、製氷冷藏、資金貸付、物件貸付、共同製造加工等であつて、この精神普及のために講習會、講演會を開催また水産雜誌を實費で頒布してゐる。出資一口の金額は三十圓、組合員數は三百八十名、その口數三百八十口で、出資總額は一萬一千四百圓に達してゐる生産力運用宜しきを得て、經濟力充實の特色を示してゐる。初代組合長は齋藤市三郎氏で、現在は佐藤吉兵衛氏が任にある。

長岡町

松仙閣白石館

電話 二九番・七八番・一五九番

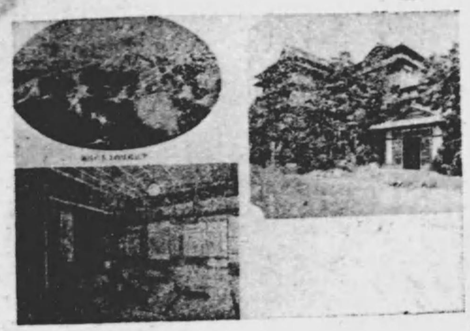
當旅館の創業は大正十二年で、溫泉採掘者は先代の蛭海與市氏で、野天風呂、瀧風呂、巖風呂、貸切風呂を當旅館の特色となしてゐる。またピンポン、玉突、ピアノ、麻雀、碁、將棋、ラヂオ等の娯樂の設備も完全し、百五十疊舞台付大廣間をはじめ四十室あり、現在從業員は六十名、大サービスを以て接對に盡してゐる。鐵道省、陸軍省の指定旅館であり、秩父宮殿下、その他各宮家御假泊の光榮に浴してゐる。なほ當旅館の野天風呂設備は、古奈唯一のもので、背後に山あり、庭園あり、眺望絶佳である。交通は東京より二時間半、新三島驛にて駿豆電車に乘り

かへて伊豆長岡驛下車、自動車で五分で達する。

長岡町

伊豆長岡温泉 かつらぎ旅館

電話長岡 二五番 五七番 一五七番

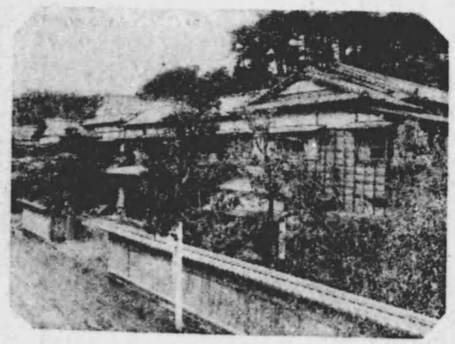


當館の開業は大正八年で、經營者は東京在住十五ヶ年間、料理店業に從事、庖丁の冴えに極めて自信を有つた人最近新館を增築し、百五十疊舞台付、八十疊敷の大廣間をはじめ、客室三十室、收容客は百五十名で、撞球場の設備があり、殊にすべてが家族的方針であることが、一般浴客の氣受けを迎へてゐる。現在從業員は男女共に三十五名、駿豆線伊豆長岡驛下車自動車で五分、また東海道線三島、沼津線經由、バスで二十分で達する。附近の名所は數知れず、散策に、ハイキングに好適の場所。なほ當館は今、長岡溫泉組合長に推され、土地の發展に盡力してゐる。當館直營東京案内所は京橋區銀座一丁目皆川ビル内にあり、電話は銀座二〇九〇である。

長岡町

大和館

電話 四九番・一一〇番



當溫泉地の泉質は無色清澄の弱鹽類泉で溫度七十八度、ラヂユーム含有量に於ては本邦隨一と稱せられ、明治四十年、當館主先代大和宇平氏が創めて掘り當てたもので、伊豆溫泉群中最も新らしい發見であるにも拘はらず、好評は更に好評を生み、長岡の地をして斯くまでに人口に膾炙するに至らしめた宇平氏の功績は長岡史上燦然と輝いてゐるわけである。

當館は最近一千餘坪の大建築の新裝成つて設備に於て間然するところなく伊豆隨一の豪華を誇つてゐる。百五十疊敷大廣間は舞台を配し、悠に二百人の宴會によく、富家御旅行の砌りの御假泊所を承はるの光榮を負ふてゐる。當館直營の東京案内所は京橋區銀座一ノ六皆川ビル内に設けてある。電話銀座二〇九〇番。

長岡町

山田屋旅館

電話 長一五番・三一番 一四四番・二〇五番

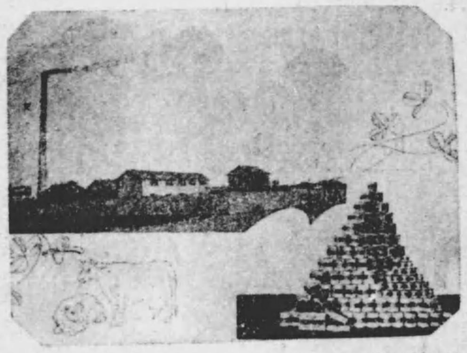
伊豆の入口長岡溫泉の名は古くから世に知られてゐる。當旅館は富士見台の家族的客室落成と、五千餘坪にわたる廣大な庭園と娯樂設備の完備した、そして新たに掘り當てた溫泉は、長岡一の湧出豐富と稱せられ、野天風呂と溫泉プール、それに訓練なつた女中の大サービスに心からなる滿足な旅愁を慰め、長岡の情緒を滿喫してのんびりと過すことが出來る。大宴會場の設備があるから、百五十から二百名くらゐの團体申込みにも應じてゐる。宿泊料は三圓乃至七圓、中食は一圓五十錢乃至四圓まであり、靜岡縣廳、諸官省官衙大社三島神社の指定旅館となつてゐる。東海道線三島驛からバスで二十分、沼津線からは三十分で樂々と達することが出來る。

三島町

日清煉乳株式會社

電話 六七七番

當會社は、横濱市東蒔田町日清製菓株式會社と姉妹關係にあるもので、昭和八年九月の創立である。一株の金額は五十圓で、資本金を二十萬圓となし、乳製品製造を當會社の主なる事業となしてゐる現在三十八名の從業員が互に睦み合つて仕事の上に能率を圖つてゐる。當會社の歴史はまだ生新らしいものではあるが、その事業が時代要求のものであり、そして會社關係の人々は、何れも當代實業界に令名嘖々たるものゝみであるから、當會社の將來はたゞもう期して俟つべきものである。社長は永井万造氏、常務取締役に矢崎五一、德田精孝、山宰周作、池田奏輔氏等が擧げられて居る。



三島町中島

町會議員、辯護士、正六位 根上信

根上家は駿東郡原里村の舊、家舊幕時代には苗字帶刀を許された名門家で、名

主に擧げられて土地開發等に貢献した。先代林平氏は八ケ村聯合戸長、村會議員として功勞のあつた人、氏はその五男、明治三十年二月二十一日の出生、沼津中學出身

關西大學法律科を終つて大正十年判檢事辯護士登用試驗に合格、同十二年判事に補せられて甲府を振り出しに新潟、濱松靜岡等に轉じ、昭和七年退職、同時に沼津市に於て辯護士を開業、今日に至つてゐるが、現在は三島町々會議員として町政に盡瘁してゐる。趣味は大弓、小笠原流武德會三段であり、杖術などである。令閨きく子さんは三島町鈴木江作氏の息女、間に四男子がある。

三島町木町
町會議員　**横田釧萬呂**
電話二二一番

濱名郡小野口村内野に生れた人、大正十二年、今の地に居を移し、藤井式療法を本業となして現在に至つて居る。人格信望極めて厚く、夙に公共事業に關し、十數年來耕地整理に盡し、都市發展のために貢献するまた多大なるものがある。且つ木町區長として手腕を揮ふや、町内等しくこれを認むるところとなり、推されて町會議員に當選、今や町にはなくてならぬ人物として重きを於かれてゐる。驛

前道路に對しては、多田町議等と協力して實現し、なほ驛の鐵道移轉問題に關しては、繁務中を顧みず本省に日參したほどの熱心振りであつた。町民期待の大なるものある、また宜なゝ哉である。夫人との間に第二世理太郎氏があり、その將來が期待されてゐる。

三島町長谷
元村長　故　**奈倉新一郎**
電話二五四番

當家は元本郡錦田村塚原の舊家、二十餘年前、當町に移住したもので、代々庄屋を勤め、佐兵衛氏と忠兵衛氏とを交互に襲名した家柄、祖父佐兵衛氏は庄屋、父君忠兵衛氏は戸長を振り出しに村長、村會議員等に選ばれて甚大な功績を樹てた人。氏は村會議員、村長、郡會議員等に推されて村治郡政に關與、傍ら永年伊豆銀行出納課長として奉職停年退職後當町役場

收入役に就任、六十四歳を以て故人となつた。錦田村長時代、森永工場誘致に盡力した。てつ子未亡人は錦田村谷田の元村長故渡邊喜久壽氏の長女、本年六十八

歳なるも婦人會役員として活動、長男忠智氏は山口高商出身、名古屋銀行員より川崎造船に入り、現に近海課長として在勤、長女氏は伊豆銀行庶務課長宇野氏に嫁して居る。

修善寺町熊坂
白龍山自得院

當寺は、自得院殿島岸遊西大居士を開基とし、開山は逸波榮俊和尚である。曹洞宗に屬し、修善寺末にして、本尊は阿彌陀如來である。由緒極めて深く、以前は加能才源の書室たりしことあり、靈域の幽靜自ら寂びをふくみ、落着きある寺院である。本堂は六間と四間半の典雅な造り、その他の堂宇いづれも襟を正さしむるに

足るものあり、古來善男善女の信仰の道場として著名である。檀家は修善寺町熊坂區に限り總代は下山盛利氏、下山紋作氏、菅沼文平氏の三名、共に部落屈指の有力家にて且つ聲望家である。現住職村松幸松師は二十三世に當り、連綿たる富山の法燈を繼いで更に燦然たらしめて居る。

修善寺町堀切
養伽山益山寺

大同三年、果隣僧正によつて基を開かれたる當寺は眞言宗に屬する古刹にして本尊は千手觀世音菩薩である。由緒深く、高野山高實院の末寺にあたり、衆庶の信望をあつめて名刹の名四隣に普く、七間四面の本堂、七間と八間の庫裡、その他の堂宇いづれも壯重の感を抱かしめる境内面積は二反四畝十七歩である。寶物に金剛盤を藏し、毎年一月十七日、三月十七日、七月十七日には觀音大祭を執行する。寺内にモミヂ、カヘデ、銀杏樹の大木あり、モミヂの大木は弘法大師御手植のものといふ昭和十二年には宇垣大將の來山あり、その他知名人士の參詣も多い現住職は濱田篤忍師、檀徒總代は山本淺平氏、古屋宗藏氏、下山盛利氏の三名である。

網代町
廣榮山長延寺

後花園天皇の御宇、日納和尚當村幸町に地をトして一宇を創設、これ當寺の嚆矢にして日納和尚を以て開基とし、日蓮大菩薩を本尊とする日蓮宗寺院である。嘉永年間不幸祖融の災に襲はれ、堂宇その他悉く灰燼に歸し、安政四年日正上人の手によつて復興された。本覺寺末に當

り、日蓮聖人御親筆を寶物に藏し、境内面積四百坪、堂宇に本堂、庫裡及び七面堂がある。毎年九月十九日には七面祭を催ほして盛大を極め、その他一月十七日の妙見菩薩祭、五月十八日の鬼子母神祭、十二月十二日の星祭の行事はいづれも有名である。檀徒約百戸、平井龍之助氏、蘭間喜之助氏、蘭間一郎氏を總代とし、現住職は二十六世松山靜宣師である。

小室一川奈

川奈ホテル

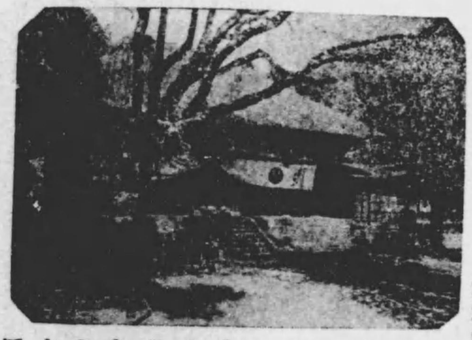
電話伊東 三五八番・三五九番

當ホテルは伊豆東海岸、眺望絶佳な川奈にシーサイドレゾートとして、新たに理想的にデヴューしたもの、客室六十餘室、收容人員百五十名、外にパーラー、ロビー、サロン、大食堂、グリール食堂酒場、讀書室、ゴルフアースロンチ、ビリヤードルーム等、すべて近代的設備を完備し、各室からの爽快な眺め、正面には紺碧の海に噴煙靜かに立ち昇る大島を左に富士の靈峯を一眸に收め得て眞に世界に誇る理想郷である。運動には東洋第一の三十六ホールのゴルフコースあり、テニス水泳プール、舟遊び、魚釣り、ハイキング、ドライブ等があり、從業員百五十人網代驛から自動車で四十分。經營者は大倉組、社長川添清男氏、支配人アール、ダブリユー、パスラー、監査役近田喜六氏である。

小室村川奈

船守山蓮慶寺

當山は日數上人を開祖となしてゐる。その年代は不詳であるが、法燈の續くこと第二十六世と相當古い歴史を有つてゐるもので十開大曼陀羅を本尊となし本門宗派に屬

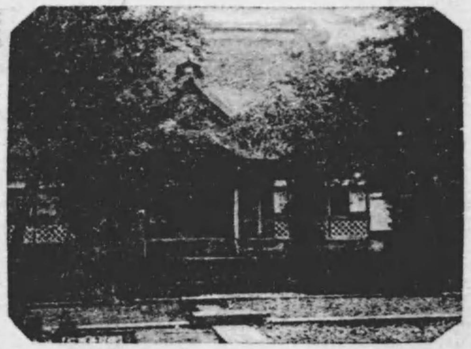


してゐる。實成寺の末寺で、本堂、庫裡小屋、位牌堂などの建物が、四百坪の境内を飾つてゐる。寶物には日蓮大聖人御眞筆、曼荼羅等があり、曾て東久邇宮殿下の御參詣の光榮に浴してゐる。年中行事としては本門宗の行事に從つて行つてゐるがまた特に五月十二日を法難日として、十一月二十三日を御會式として執行してゐる。現住職は小川顯龍師で、檀家は小室村一圓に亙つてゐる。なほ檀家總代には上原信弍、上原久吉、上原政弍氏等がある。

中大見村宮上

最勝院

當山は今、開祖以來第四十七世淺井大仙師が座つてゐるが、當山開基が上杉憲清公、開山は吾寶燦祥師で、その年代は人皇百一代後花園天皇の御宇永享五年頃とか、即ち憲清公の令孫龍若丸、北條勢に追はれて湯ケ島に逃げ落ちたが、遂にこの地で自刄その家臣神尾某も亦自刄してしまつた。龍若丸の遺骸を携へて當山に葬り法名を矢心源生大禪定門と稱したが、このことから湯ケ島へ通ずる峠を「越ヶ峠」と呼ぶのだといふ。當山は曹洞宗、釋迦牟尼佛を本尊とし、最乘寺が本山、末寺は二十ケ寺からある。奥行八間、間口十二間半の本堂をはじめ庫裡、開山堂門、書院などが建ち並んで、昔ながらの風情を見せてゐる。寶物には虎珠印、佛舍利、天狗爪堀印、秀吉禁制などがあり年中行事は曹洞宗一般行事の外、四月二十四日の火防尊大祭、八月十九日の大施餓鬼が行はれてゐる。當山參詣の名士中には德富蘇峯氏もあり、上大見と中大見の二村を檀家區域となしてゐる。そしてその總代としては三田村美雄、山下源五郎、佐藤半三郎、尾村安平、塩矢吉矢、内田大作、三枝市作氏が奔走してゐる。



中大見村城中

泉首山城富院

當山は天文年間中、笑山積眞和尚の開かれたもので、北條五代の祈願所、釋迦如來を本尊とし、曹洞宗派に屬し、最勝院を本山となしてゐる。境内の面積は千三百八十餘坪あり、間口八間半、奥行七間の本堂、間口七間、奥行五間の庫裡とがその昔を語つてゐる。寶物として藥師

如來は木像、日本三体の一つであり、年中行事は一般曹洞宗に倣つて行はれ、また毎年五月十七日に藤供養が執行されてゐる。現住職は第二十九世鈴木大巖師、檀徒は城、總代は佐藤藤三郎、伊野一平

伊野論伊郷平次郎氏等である。當山は梅の名所昔は北條五代の梅見所で、笑山和荷が北條三代目氏康公に上つた詩に『有武無之愛親同、有文無武不英雄、此梅還贈君親見、紅白華開一樹中』とある。また藤の名所でもある。

中大見村 冷川

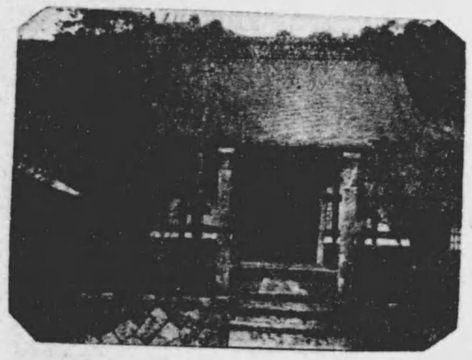
村會議員 海老名善作

常に誠意と熱情とを以て事にあたり、至誠天地に恥るなきを期しつゝある氏は明治十三年十一月十三日、分家以來七代の舊家、農を本業となした故幸吉氏の長男に生れた人だ。父君は區長、村會議員等に推されて永年村治に貢献したもの。氏は弱年疾くも區長に擧げられ、村會議員、村役場助役、村長、消防組頭、在郷軍人分會長、青年團副團長等を兼ねて盡瘁大に

村農會功を稱へられ、現在は村會議員、區長、田方郡木炭組合評議員、縣木炭同業組合代議員、郡椎茸組合長などあらゆる方面に努力してゐる。こく子夫人は同郡上大見村の出身、共同事業のため殆んど寸暇もなき夫君を助けながら、家庭にあつては九人の母として訓育に從ふなど、夫に賢夫人として知られゐる。

中大見村 冷川

清水山東向寺



當寺は藥師如來を本尊とし、曹洞宗に屬する淨刹にして、往古は眞言宗の一派に屬せるものの如く永祿十二年期崇銀昌禪師によつて曹洞宗寺院として新興され、同禪師を改宗第一世とし、寛永九年に至り最

勝院の末寺となつた。本堂は間口十間、奥行六間半、庫裡は間口八間、奥行五間半の建物にて、この他三間に三間半の開山堂がある。境内面積三百十七坪、檀家は八十戸をかぞへる。また福普寺を先年合祭し、正觀世音菩薩會は相當に殷賑を呈する。現住職杉本太機師は學識深く德操厚き人格者にして普く尊敬される。檀徒總代は杉本寛男氏、杉本千萬樹氏、鈴木彌助氏の三名にて共に寺運の興隆に意を用ひて剩すところがない。

中狩野村下船原

船原山寶藏院

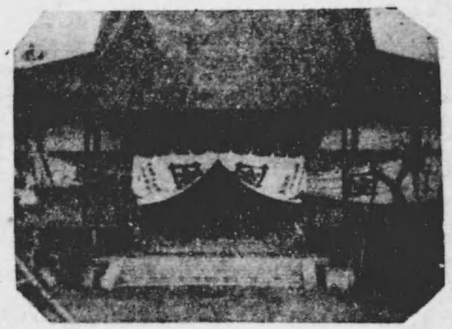
當寺は往古眞言宗に屬せしも、最勝院十一世佛山長壽大和尚禪師がこの地に來り道場を復興してより曹洞宗に轉じたので、船原山寶藏寺の稱號もその時から改められた。本尊は釋迦如來である。附近には船原溫泉がある。境内六百坪、堂宇に本堂、庫裡、鐘樓、開山堂、鎭守堂等立並び、壯麗、氣鑒城を掩ふてゐる。寺

寶として左甚五郎の作に成る船原山といふ牡丹彫刻を藏する檀家は中狩野村上船原及び下船原に亙つて約百五十戸、住職は十九代月出萬宗師にして、檀徒總代は鈴木織衛、立岩正夫、宮口新藏、森島宇之吉、鈴木庄次郎、竹本義策、堀井三義の諸氏である。

中狩野村

雲金山妙本寺

當山の開山は日祐上人で、今より約八百年前は雲金山妙祐寺と號して天台宗に屬して居たが、後ち妙本寺と改め、日蓮宗を奉ずるに至つた。總本山は身延山、本山は玉澤妙法華寺で、末寺には妙光寺本陽寺、法林寺、法榮寺などがある。境内は八百坪、間口七間、奥行六間半の本堂があり、また實物には宗祖御本尊、要文斷片、日昭上人御本尊、開山上人の御本尊、板御本尊その他二十四點を秘藏して居る。行事としては正月一日より八日までを國禱會一月十四日を開山忌八月四日を施餓鬼、十月十三日を御會式となして行つてゐる。



現住職は實に四十五世竹内遼周師で、檀家は中狩野、上狩野の兩村、總代は齋藤太三、鈴木庄吉、大川庄司、鈴木房吉、城處均、梅原林作氏等が與つて居る。

錦田村

經王山 妙法華寺

當山の寺號公稱は弘安七年で、宗祖滅後三年の創立であるが、その創始は既に建長の開宗に次で營まれた宗門最初の道場大教發祥の法城である。

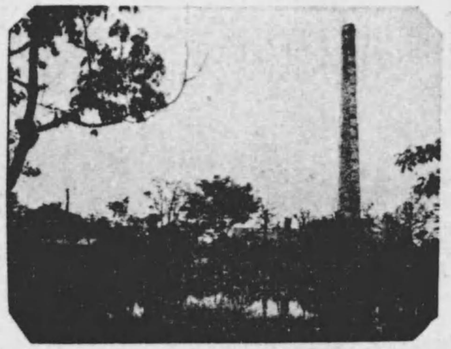
當山はもと相州鎌倉の海濱玉澤の地にあつたもので、開山は宗祖の嫡弟六老僧第一大成辨大和河闍梨日昭上人であるが、三世日祐上人の時、不幸津浪に遭つて今の材木座にうつし、山號を弘延山と改め、寺號を法華寺と稱したのである。後ち文祿三年、豆州加殿に移つて元の山號に改めて經王山と呼び二十世日迅上人に至つて寺號の法華寺に妙の一字を加へて、今の山號寺號となしたのである。明治維新後、塔中の廢合を行つた結果、ありし昔の面影を見ることは出來ないが、併し規模の宏壯なる自から襟を正して古高僧に訓へらるゝの感がする。

錦田村

森永食品工業株式會社三島工場

電話三島三四〇番

當工場は大正十一年五月の創立で、本社を東京市芝村田町一ノ一二に置き、當工場の外愛知縣安城町及び佐織、東京市淀橋區落合、福島市等にも設置、一株五十圓拂込二百萬圓の資本金を以て清涼飲料水、滋養飲料水、人造バター、コーヒー、コンデンス、ソース、果實罐詰、農産物加工、その他の食料品製造に從事してゐるもので、當工場の年産額は百萬圓餘を計上し年々增産の業績を示してゐる。



現社長は松崎半三郎氏で、專務取締役は益田太郎氏、何れも現實業界知名の士であり、また籠兒でもあるだけに、當工場が現在斯界に重きをなしてゐるは贊するまでもないことであるし、また將來の隆昌の如きたゞ知るべきのみである。因に現在當工場に從業しつゝあるものは八十餘名である。

錦田村市ノ山新田

元村會議員 青木國太郎

當家は土地の舊家、祖父茂右衛門氏は名主を勤めて九十四歳の長壽を保ち、先代源之助氏は幕末の頃俠名を江戸に鳴らした人で　明治天皇東海道箱根越の砌り並に北陸道御巡幸の際、供奉人夫の頭領として召されたほどの人、しかも九十三歳の長命を以て、老死されたといふ代々長壽の家柄である。氏はその男、明治五年の出生、先代が俠名に馳せて家運稍々衰微せるの後を繼いで精勵また精勵、遂に挽回して再び家名を擧げた人だ。村會議員たること三回、區長たる等公共事業に盡力昭和三年陪審員に選任、同七年より債務調停員に就くこと五回、現任中である。夫人は貞淑温良、眞に內助の功勞者として稱へられてゐる。

錦田村川原ヶ谷山田

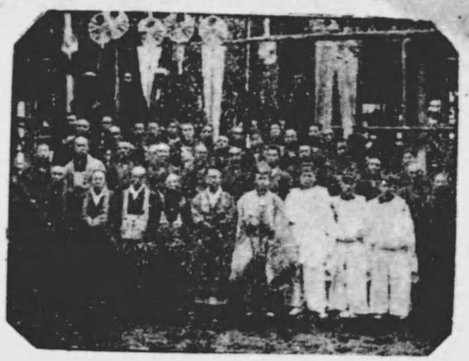
加賀見唯一

同家は先代亡直吉氏の時、山梨縣南都留郡より今の地に移住したもので、既に五十餘年を經てゐる。氏は明治四十四年現在の地に生れ、小學校を了へるや、蠶種業者で交配改良に妙を得た父君の研究に大なるヒントを得獨學、植物の交配改良の研鑽に心血を注ぎ、弱冠にして北は樺太より南は台灣、マニラ、南支と足跡の到らぬ隈なく、植物學の實地研究を極め、遂に所期の目的を果して植物學の交配改良に劃期的發明をなすに至つた。そして昭和七年、始めて改良種加賀見苺を世に送り出して以來、俄然名聲天下に聞え、次から次と作り出される農工植物の交配種は、悉として好評を博し、多數の研究生を指導してゐる。同九年、縣及び大日本青年聯合會より表彰並に助成金を受け時事、國民、報知各新聞等にその業績が發表されてゐる。

中郷村鶴喰

周福寺

當寺は臨濟宗鎌倉圓覺寺末にして藥師觀音、地藏の三菩薩を本尊とする。後鳥羽院の御宇右大將源頼朝公草創の地にして仁翁義賢和尚を以て開山とする。境內二百三十四坪、本堂は七間と五間、庫裡は二間半と二間の建物にて、寺寶には釋迦如來木像、藥師如來木像、十一面觀世音菩薩、大般若經六百卷等を藏する。行事は臨濟宗一般行事のほか、十二月、一月、五月、九月には大々的に藥師地藏祭を催し殷盛を極める。檀家は中郷村及び



東鄕師である。

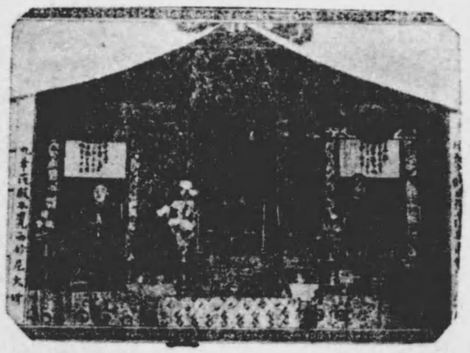
三島町に亙り總代は增島芳平氏、廣瀨彦藏氏、武井喜太郎氏の三名現住職は十五代西村

中郷村御園 村會議員 石川要之

當家は十五代目の舊家、先代亡愛次郎氏は夙に信州に入つて親しく蠶種製造業を視察し、村内に蠶種產業株式會社を設立してこれが奬勵促進に意を注ぎ、郡内蠶種の蠶種製造家の名をなし、大日本蠶種會員、郡奬勵委員として功あり、また戸長、水利委員を勤めて農民を指導するなど、篤農家としても知られてゐる。氏は明治十九年十一月三日、その長子として生れ父君の意を繼いで精進、村内あらゆる公職に就き、現に村會議員である。曾て鐵塔火の見櫓の設置に際しては、自ら先んじて衝に當り、且つ巨費を捧げてゐる。資性溫良の好紳士、常に好んで讀書するを趣味とす。家には九人あり、夫人は内助の功勞者、長男は農業學校出身、目下家業に就いてゐる。

西浦村河内 九華山禪長寺

當山は弘法大師開基、靈巖清和尙を開祖となすもので、もと、源三位頼政夫人菖蒲の方の舊蹟地、卽ち頼政の敗後、夫人はこの地を鄕里とし、剃髮して尼となり、名を西妙と改め、本山を再興したと傳へられてゐる。宗旨は臨濟宗、彌功菩薩を本尊となし、國成寺を本寺となし、七百餘坪の境内に間口七間奥行五間の本堂があり、頼政公の木像と夫人菖蒲の方の木像とを安置してある。一月二十八日と十月二十八日とは不動堂祭を執行、また九月十五日は菖蒲祭を行ふが、四方の參詣者

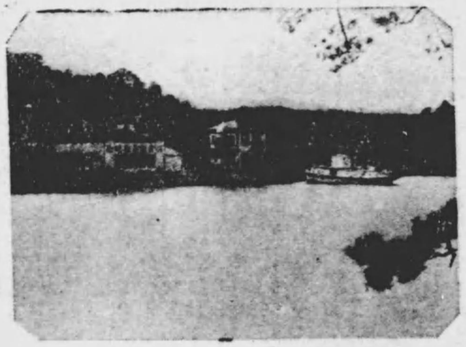


門を接して至り、極めて殷賑を見せる。現住職は第十九世今杉文秀師、檀家は大字河内海瀨權平、海瀨幸衛、海瀨房雄氏等が總代として與つてゐる。

西浦村久連 久連信用購買販賣利用組合

電話 三保三番

當組合は「組合は我等自らが力を協せて作つたもの絶對に組合を信じませう」などの產業組合員心得十ケ條をモットーとして、組合の向上發展に懸命の努力を捧げてゐる。當組合の出資一口の金額は三十圓、組合員數は八十六名で、その口數は六百六十七口、總出資額二萬十圓である。そして最近事業の狀況を見るに、貸付總額に於て三萬五千五百餘圓、貯金に於て七萬五千七百餘圓、購買價額に二萬八千七百餘圓、販賣價額に七萬七千九百餘圓利用料に四千五百餘圓といふ業績をあげてゐる。現組合長理事は關野爲之輔氏で理事に久保田治作、山田繁信、渡邊春太郎氏等就任してゐる。



西浦村古宇 古宇浦漁業組合長、村會議員 田村正平

明快嚴正、眞に男性の典型的タイプたる氏は早くから自治公共及び產業のことに竭し、若冠二十三歲にて區長に就任せるを初めとし、古宇共同出荷組合長として、六ケ年間統一販賣による利益增大に努め、中部產業組合設立に際しては、東奔西走して功あり、昭和八年には村會議に當選次で學務委員、常設委員等に擧げられ、また消防組副組頭を經て組頭に任じ、その他氏子總代、金錢債務調停委員、村農會長等の要職に就き、古宇浦漁業共同組合には設立以來の功勞者として畏敬され誠に本村が有する人材中の尤なるものである。因に嚴父慶治郎氏は收入役、助役郡會議員、村會議員その他に任ぜし自治功勞者として知られる。

田中村

長谷山藏春院

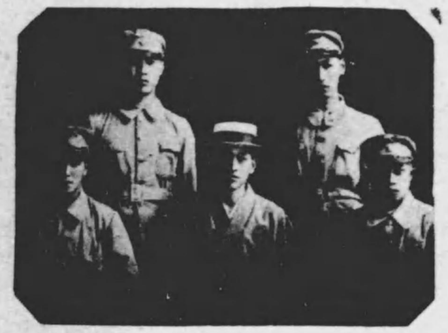
當山の開基は足利持氏公、開山は曹洞宗の開山道元禪師より八代目の法嗣で、小田原大雄山最乘寺第二世の太綱明宗和尚であるが、その緣起を尋ねるに持氏關東管領として漸く驕奢に流れたを執事職上杉憲實忠諫したが容れられず、却つて怒りを買つて共に兵を構へ、持氏は自害して果てた。憲實は臣にして君を討つた罪は輕からずとし、自ら剃髮し、名を長棟と改め諸國行脚の旅に出、當國大川端里の俗に賴朝坊塚に止宿した。その夜夢に持氏が來つて伽藍を造營し、永く吾が冥福を修せよと告げたので、憲實は春屋和尚に請ふて堂宇を竣工し、持氏公の法號の長春を分けて山號を長谷、寺號を藏春と名付けたのである。春屋和尚は我が師遷化して三周、今圖らずも梵刹を得たは幸甚であるとなし、即ち太綱和尚を開山とし、持氏を開基となしたもので、格式は十萬石、住職は年々江戸に伺候したといふ豆州隨一の寺院である。本山は千葉縣の總寧寺、釋迦牟尼如來を本尊とし、寶物には將軍地藏、佛舍利、地藏菩薩がある。また長谷三十三番觀世音の建立があつて、春秋二期の大祭には世の善男善女四方遠近より、相踵いて至り、境内はいふまでもなく、堂宇までも埋めるの盛況を見せる。現住職は第四十二世渡邊眞山師、檀家は當村、北狩野村、修善寺町である。

田中村 大仁

大本山光長寺 大仁教會所

當所の開基は大仁院日昌法師で、以前は眞言宗であつたが、後ち改宗して今の日蓮宗となつた。大本山光長寺が本寺で十界觀世大曼陀羅と日蓮大菩薩とを本尊とし、參詣者絶えることなく、日夕太鼓の音の止む時がない。境内の面積は三百坪、本堂は間口八間半、奥行四間半で、日蓮大聖人御眞筆並に文永十二年筆の柄御本尊が寶物として秘藏され、毎年春四月二日を開山會、秋十月三十日を日蓮聖人御會式となして例祭が行はれ、遠近の人たちで非常な雜沓を呈するのである。また當所は水晶山の名所としても名高い。擔任教師は石田智寛師、檀家の範圍は修善寺

町、北狩野村、下狩野村、田中村に及び平井與一、間宮德二郎、古屋禎造氏等が檀徒總代になつてゐる。



田南村田代

村會議員 鈴木庫雄

當家八代目の祖より今の地に永住、先代清造氏は眞面目な篤農家で、村内に重きをなし、永らく區長、部農會長等を勤めて功があつた。氏はその長男、明治三十四年三月二十二日の出生、早稲田大學に法科と文科とを修め、後ち村内の人となつて共同作業場の設立に奔走し、青年のため夜間作業の特種な仕事を與ふべく研究を重ねてゐる。曾て區長、水利組合議員として活動し、現在は村會議員、青年會部長、郡農會長等を兼ねてゐる。抱負としては果樹、果實、山葵などの栽培を奬勵せんとしてゐる。前に水利組合から表彰を受けてゐる。性溫厚の士、俳句に讀書に趣味がある。夫人ハナ子さんは元駿東郡長泉村の出で、家族十人ありて頗る圓滿調和の家庭である。

田南村畑毛

消防組頭 高橋憲一

動八等

當家は四代前の祖榮助氏の時、大高橋家から分家したもので、代々農を本業となして來た。氏は明治二十三年の出生、本郡下大見村下白石の小境清吉氏の四男で當家先代亡國次郎氏に見込まれて同家を繼いだのである。田方農林學校第三回の卒業生、陸軍歩兵伍長、大正三四年の日獨戰爭の際青島に出征、功に依つて勳八等を賜はつてゐる。曾て區長、帝國在鄕軍人會函南村分會長、青年團副支部長等を勤め、また大正三年來消防に盡瘁、昭和十年に消防組頭に擧げられて現任中である謹嚴溫厚、正に春風駘蕩を感ぜしむるの士、村治の活舞台に踊るは、もう時期の問題か。家庭は母堂かつ子さん、夫人つる子さんと一男四女がある。

下狩野村日向

龍池山日輪寺

本山の境内面積は五百餘坪あつて、間口七間に奥行四間の本堂がゆつたりと建つてゐる。米山藥師如來の靈驗顯著なものがあるとて、參するもの常に絶えない

修禪寺第十一世宗谷雲岱大和尚が開山の祖、曹洞宗派に屬し、觀世音菩薩の當山の本尊となつてゐる。明治八年、不幸にして火を失し、古來由緒ある堂宇を烏有に歸せしめたことは惜みてなほ餘りあるものと謂ふべしである。年中行事としては曹洞宗一般行事に從つてそれ〴〵執行してゐる。檀家は大字日向一帶で、小林清兵衛、菊口廣吉、鈴木仙、右原金作、右原源藏、氏等その總代となつて與つてゐる。現住職橋本兼廣師は當山第十九世目、溫情豊かな模範的な人格者である。

下狩野村 大平

寶珠山 金龍院

今から七百餘年前、斧山宗鎖和尚によつて開かれたる當寺は曹洞宗に屬し、地藏菩薩を以て本尊とする。修禪の末寺に當り、沿革の古きと共に由緒の深い淨刹にして、本尊地藏尊及び脇立佛は共に木像にて相當古い時代の製作に係り寺寶として秘藏されまた高祖大師の木像も珍重な佛像である本堂は間口八間の奥行七間庫裡は間口九間半の奥行四間である。境内面積一反八畝十八町歩。檀徒は下狩野村一圓に亙つて約八十戸、總代には鈴木宗夫氏酒井友吉氏、北條作太郎等が推され、現住職長沼宗一師は當山二十七代に當り識見豊富な沙門である。因に當寺は以前金龍學園童話會なるものを經營せることあり、社會教育方面に貢献せるところが多い。

對島村富戸

能富山 永昌寺

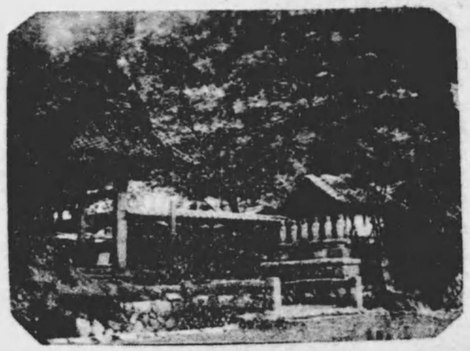
當山はもと眞言宗だつたが、元亀元年最勝院九世角天禪鱗大和尚來つて開創してから改宗、曹洞宗となり現在の地に移つたのである。當山の守り本尊は藥師如來で、最勝院を本寺となしてゐる。本堂に庫裡に、位牌堂に納屋に庚申堂が三百四十餘坪の境内に建つてゐる。寶物としては藥師木像がある。年中行事は宗門一般の行

事に準じて取り行はれてゐるが、その外毎年正月、五月、九月の各十二日藥師大祭が行はれてゐる。年三回の祭日、四方から來集する信者によつて境内は蟻の這ひ出る道もないまでに埋められる。現住職は山田萬夫師で、實に相繼ぐ二十六世檀徒總代に石井行雄、稲葉寅之助、石井清雄、日吉順一郎氏等である。

士肥村土肥

吉祥山 安樂寺

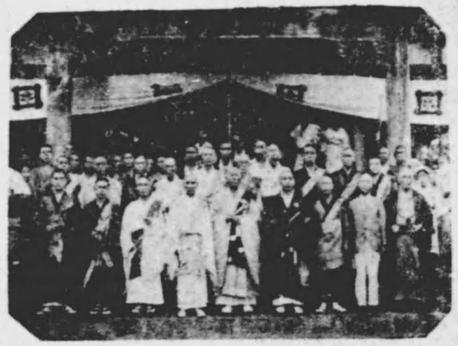
當山は永祿年間、大用精賢大和尚の開山したもの、それ以前は醫王山大泉寺と稱したといふ。大和尚時代に吉祥山安樂寺と山號寺號を改稱したのである。當時代にまた、裏山に鑛湯が湧き出してゐたと傳へられてゐる。釋迦如來を當山の本尊となし、曹洞宗派に屬して中大見の最勝院を本寺となし、最福寺、大寺院、光月院などを末寺としてゐる。本堂は間口十間、奥行六間半、庫裡は四間に十間、その他に開山堂、總門、鐘樓等があり、藥師如來木像、龍天像、虚空像菩薩、十六羅漢二幅を寶物となして祕藏してゐる藥師緣日は毎月十二日、弘法祭は四月二十日開山忌は十一月十一日、現住職は清川邦山師、世話人は淺賀富木口萬平、高島錄次郎氏。



對島村富戸

海岩山 蓮著寺

當山は日蓮宗派に屬してゐる。永正五年、伊豆の國伊東の領主今村若狭守の草創にかかるもので、草創當時は一の小堂に過ぎなかつた。後ち萬治二年、江戸大久寺の日霽がこれを寺堂となし、その名を海岸山蓮著寺と號し、今日に至つてゐる。この地は弘長元年五月、日蓮聖人配流の時着陸したといふ有名な地である。寺域は岬角に位し、八方の風色を一畔の間に收

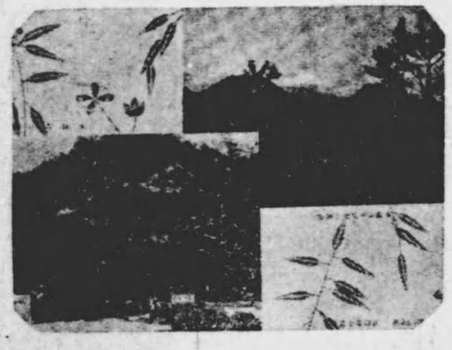


むるの景勝の地で、富戸海岸の絶壁には日蓮聖人題目の書が殘つてゐるがこれは日蓮杖筆の跡であると傳へられてゐる。

蛭山村　四日町

富士見莊

守山の麓を狩野川の清水が流れ、目前に富士の靈峯が迫つて湯に浸りながらこれを縱まゝにするのは、當富士見莊を措いて他にはない。そして狩野川の鮎漁は當館前を絶好の場所とし、東京魚市場の狩野川の鮎は、すべてこゝで獲たものである。近くには佐夜中山の夜泣石と並稱される七ツ石、北條時政の邸跡、北條政子の產湯の井戸、頼朝旗擧げの際にかけたといふ旗かけの松などがあり、浴場には內湯四ヶ所野天風呂一ヶ所、家族風呂二ヶ所大浴場一ヶ所あつて終始お客樣本位で、營業を進めてゐる。なほ鮎料理、鰻料理などは、お好みに從つて特製調理をする。因に鮎漁は漁夫つき一日六圓、漁獲した鮎はすべて提供する事になつてゐる



上大見村　筏場

村會議員　高村惣藏

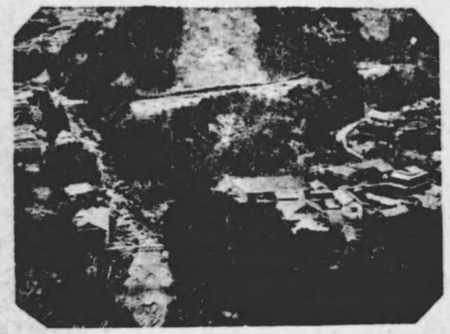
當家は約十代を經た舊家、先代惣作氏は一代にして居村第一の巨富を積んだほどの勤儉努力家で、山葵の產出に於ては日本一の稱ある當村同業者百數十名中の第一人者を以て任じた人で、區長、村會議員に推されて村治方面にもまた、功を樹てゝゐる。惣藏氏はその長男、明治四十年十月廿三日の出生、韮山中學を了へて早稻田大學に學び、卒業後家業に就き、他面また父君の後を襲つて現に村會議員として村治に與つてゐる。村會中の少壯、そしてインデリー議員として早くも名を馳せ、父君に代つて山葵組合委員となり、常に他をリードして發展の域へと進んで

ゐる。蓋し少壯有爲の氏を有つ同組合の前途は、たゞ期して俟つべしである。

（寫眞は先代惣作氏）

上狩野村湯ヶ島

落合樓



當館は片岡鐵兵氏の命名によつて落合樓と稱し、狩野川の上流溪谷中に所在して四邊の風物大に見るべきものがあり、修善寺からバスで五十分で達する。客室の設備從業員のサービスなどすべて滿點、溫泉室內のプールに至つては好評嘖々たるものがある。近くには世古の瀧、頼朝が砂を掘つて湯に入つたといふ傳說の木立の湯があり、金山持越万面には不動の瀧がある。朝日がさすと瀧壺が不動尊に見えるといふところからこの名が起つてゐる。また櫻地藏といふのもある。櫻の大木の根元は上杉龍和歌丸の自刄したところでその遺骨は最勝院に葬られてある。湯に浸つてからのそゞろ歩きにも格好な地である。なほ當館の經營者は足立謙治氏である。

宇佐美村峰

金龍山圓應寺

當寺は柳寶始如示師を開山とする曹洞宗寺院にして本尊は金剛無量壽如來である。ずつと以前は眞言宗に屬してゐたといはれ、相當古き歷史と深き由緒とを持つて居り、藏春院末にして、古來老若男女の信仰多かつた。境內面積四百八十坪を算し、本堂、庫裡、總門の建物は靈域に一層の重味を加へてゐる。檀家區域は宇佐美村一圓、總代は石田正治氏、濱崎一雄氏山本理一氏の三名にて、共に寺運の振興と佛敎の普及に力を致して功績少くない現住職濱崎悟祐師は至誠の陰德者、その一擧一動は衆庶の範として餘りあり、當山第十七世に當る。

西豆村　八木澤

松原山光月院

當山は德巖去撮和尙並に佛星爲戒大和

倚の兩師を開基、開山の祖となしてゐる當山がまだ眞言宗派に屬してゐた頃は、現地裏山の中腹にあつたものだといふ。後ち曹洞宗に改宗、安樂寺を本寺となし聖觀世音菩薩を本尊となして今日に至つてゐる

御本尊は、土肥村小土肥で發見したもので、發見當時片腕が取れたので、片腕の御本尊として現存してゐる。境内は三百坪、本堂に庫裡があり、寶物には觀世音菩薩と、昭化理宗書の「光月院」とある額がある。正月十七日、八月十七日の再度に觀音祭が行はれてゐる。八木澤を檀家とし、三十有餘戸あり、佐藤廣策、佐藤啓太郎、佐藤友義氏等を寺總代となしてゐる。二十四世中島了蘊師が現住職。

北狩野村 年川

龍洞山 瑞林寺

本山は臨濟宗の古刹、永暦年間胡宗銀昌和尚開山して山號を龍洞山、寺號を瑞林寺となし、曹洞宗派に屬して現在に至つてゐるが、釋迦如來を本尊、中大見村の最勝院を本寺とし、繼續すること二十五世、現住職は杉山仁光師である。境内は三百坪、本堂は間口八間の奥行が七間、庫裡は間口が八間三尺、奥行が四間半にわたり、十六羅漢を安置してゐるが、これは寛政の年間、本山第十九世の祖興國和尚が江戸に上り、芝寺町の常林寺に安居、市中を托鉢すると共に施主の助けを得つつ自ら佛体を製作し、これを勸請したものだといふことである。本山の檀家は大字年川で、六十餘戸あり、その總代として渡邊健平、牧野善夫、小柳元市、山田源作氏等が與つてゐる。

西豆村 小下田

指田醫院

電話

當院は内科、産科婦人科、外科、小兒科の診療の需めに應じてゐる。休養室二、從業員三名、出張所一ヶ所同村八木澤にある。院長は指田吾一氏、明治四十二年十月生れ、熊本縣宇土、細川藩士で由緒

正しい名門の出、東京醫學士でまた豫備陸軍々醫少尉でもある。今村醫であり校醫でもあるが、創道三段學生時代に鳴らした猛者、アラブ種の名馬松風號を御して患家廻診の颯爽たる姿！九州男子の面目躍如たるものがある。一度口を開けば醫道の頽廢今日より甚だしきはなしと慷慨淋漓、將に天を衝くものがある。春秋に富む快男子、今後の氏の進出振りが刮目される。夫人は東都大病院主の令妹、夙に賢夫人の譽れ高く、内助の功大なるものがある、間に二男子がある。

對島村 富戸

富戸信用 販賣購買利用 組合

當組合は昭和九年の創立で、組合としてはまだ新らしいものである。購買部にあつては主として肥料、養鶏、養豚の飼料、砂糖、米、農藥品、學用品などで、販賣部にあつては柑橘などの農産物を主として取扱つて來た。組合區域は岡町、郷戸道、東町、西町、拂町、五つ寺等で出資一口の金額を三十圓とし、組合員數二百四十八名、七百四十四口で、公稱資本金は二萬二千三百二十圓である。そして現在の貸付總額は四千三百九十餘圓、貯金は一萬四千三百九十餘圓、購買價額は一萬二千八百圓、販賣價額が二千五圓の事業狀況を示してゐる。現在の組合長理事は稲葉寅之助氏で、氏は曾て村會議員、漁業組合長、消防組頭その他の公職を帶びて職率し、目下は學務委員、氏子總代、檀家總代を兼ねてゐる。

對島村

對島信用 購買販賣利用 組合

電話八幡野二番

當組合は昭和八年に創立、同九年十二月事業を開始し肥料、雜貨、木炭托販を取扱つてゐたが、後ち保證責任對島信用購買販賣利用組合に組織を改め、事業の發展と組合員の利福增進とを計つて現在に及んでゐる。出資一口の金額を三十圓とし、本村八幡野、赤澤、池の三字を組合區域とし、目下の加盟者は、百三十一人で、口數は二百六十口、公稱資本金七千八百圓に對し、出資金は一千八百餘圓である。貸付總額七千七百七十餘圓で、貯金額は三千九百餘圓に達し、購買價額二千七百餘圓、販賣價額は一萬六千圓を示してゐる。そして當組合の精神普及のために月二回懇談會を開催してゐる、堂森實藏氏を組合長理事に擧げてゐる。なほ木炭倉庫の設けがある。

對島村 富戸

富戸郵便局

當郵便局は稲葉喜惠作氏の請願によつて大正十一年二月二十六日、開局したもので、無集配三等局である。開局と同時に内國爲替、内國電信、貯金事務等を開始、内容證明郵便事務は昭和十一年十一月に開始した。そして同年度郵便取扱數は一萬四千百六十通、電信は五百餘通、各種保險年金加入數は三百口に達してゐる。從業員三名で、遞信局から數回表彰

を受けてゐる。初代局長稲葉喜惠作氏は區長、消防組頭、郡會議員、村會議員等に選ばれて村治郡政にも功績を稱へられた人、また漁業組合長に推されたこともある。現局長稲葉明治氏は實にその男、今後の動靜が一般から頗る刮目期待されてゐる。

字佐見村 城宿

宇佐見郵便局

當郵便局は明治三十六年十二月十日、郵便事務、爲替、貯金事務取扱を開始、同三十八年四月一日、三等局となつた。內外電信並に電話は大正七年三月十一日開始、內容證明、集金郵便、書留交付取扱は昭和十年十一月一日に開始され、昭和十一年度扱數は書留一千八十七通、書留小包二百十三通、貯金預入は五千三百六十二口で、四萬三千百五十四圓、各種保險年金等の加入は二百二十七口に上つてゐる。從業員五名。逓信大臣、保險局長から數回にわたつて表彰されてゐる。

小室村 川奈

川奈郵便局

本郵便局は明治三十六年十二月十日に郵便事務取扱所として開始、同三十八年四月、普通三等局となり、まだ集配事務を取扱つてゐない。開局當初から郵便、電信、通話、爲替事務を開始してゐた。和文電信事務は　三十八年七月十六日に電話事務は昭和七年十月一日に、內容證明は昭和十一年の四月に開始した。そして同十一年度取扱數は特殊郵便取扱は一千二百通、電信は　千通、貯金預り高は十萬三千百餘圓で、保險年金等の加入は三百口に及んでゐる。現在從業員は四名で、初代局長山下榮助氏、山田尙太郎氏初代局長齋藤英三氏は永年通信事務に勤續せるの故を以て正七位勳七等に叙せられた。現局長齋藤金平氏はその男、明治二十六年十二月十三日の生れ、局長の外に村會議員、縣方面委員として活動してゐる。

四豆村 小下田

元村長 勳八等 山本寅次郎

氏は明治の初頭、戶長役場當時の戶長を勤めた山田萬造氏の男として明治十三年に出生、後ち土地の舊家で、幕政當時名主を勤めた山本家の先代一作氏に望まれて同家に入り、六代目の當主となつた人だ。明治三十七八年の日露戰役當時出征各地の戰線に立つて功を樹て、平和克復後、その功によつて勳八等に叙せられた勇士である。凱旋除隊後は心を村政方面に向け、一村の推薦によつて村長に就任、村治のために大に努力貢獻し、また郡會議員として郡政に參するなど、功勞多大なるものがあつた。趣味は釣。男養二郎氏は縣師範出身、現在は錦田村小學校長として奉職中であるが、父兄間の信を經て齋藤覺迪氏が現局長である。氏はまた村會議員、消防組頭、學務委員等を現任中である。なほ郵便局は逓信大臣及び保險局長から數回表彰されてゐる。

篤厚く、極めて好評を博してゐる。

網代町二六九ノ一

網代信用販賣購買利用組合

電話網代一二三番

本組合は昭和三年に生れたもので、出資一口の金額を三十圓とし、現在組合員數は四百七十名で口數八百五十口に增加してゐる、これを職業の上から見るならば町が町だけに水產業者がその過半數を占め次で商業、工業の順で、農業は僅かに二人に過ぎない、出資總額は二萬五千五百圓貸付は七萬一千八百餘圓で前年度に比して、一萬四千七百餘圓の增加を示し、貯金は一時十萬三千餘圓に達したが後ち八萬八千餘圓に減じ、前年度に比し一萬六千九百餘圓を增してゐる。組合員が累年本組合利用の增進を見せつゝあるは、組合としては頗る欣幸となすところである。そして組合は資金の充實と組合員の自覺統制とを以て漸次發展の機運を作り、所期の目的達成に邁進してゐる。現組合長理事は平井龍之助氏。

網代町

網代港漁業組合

漁業法の發布せらるゝや、昭和元年、網代漁業組合を組織して組合員の親睦、漁業の發展、相互福利の增進を計り目的で協同販賣事業を開始し着々成績を擧げつゝあつたが、實に同十二年、出資組合として網代漁業協同組合として改組するに至つたのである。しかも監督官廳の許可を得て一人一口とし、出資を限定して組合員の利益擁護に重點を置いて特に異色ある組合組織となした。そして現在組合員は六百五十名出資口數一人一口に限定して六百五十口、出資總額一萬九千五百圓で、これ等の漁業種別を定置漁業、巾着網漁業、遠洋漁業、小釣漁業に分けてある。當組合の主なる事業は共同販賣資金の貸付漁船の新造機關の据付に對して貸付を行つてゐる。歷代組合長は菊間新三郎、平井正之助、石井繁三郎、山本梅吉下田千代吉氏等を經て、納屋信吉氏が現任中である。

網代町

組合長 納屋信吉

氏は網代港漁業協同組合六代目の組合長で從來より組合事業に熱心活躍改善發展に努力し、組合員の指導に銳意精進して來たのである。昭和四年、理事に選ばれ、越えて同十一年に組合長に推されて就任爾來一層斯業の發展組合員の福利增進について、日夜寢食を忘れて盡瘁し、漁業に關しては進んで廣く知識を求めて各地の視察を怠らず、毎年一回づゝ縣主催の定置漁業研究會に必ず參加するなど常に漁業知識を豊富にし、確固たる信念を把握して前進する洵に名組合長と稱すべく、從つて組合員の信頼は實に厚きを加へてゐる。現に氏は網代町會議員、東豆巾着網同業組合長、網代大網組合常務理事、網代消防組合顧問等を兼ねてゐる明治十二年生れの五十九歳壯者を凌ぐの

元氣溌溂溫厚圓滿の人格者である。

伊東町鎌田三八二

朝日山源光院

當山の由來するところは遠く、明應六年最勝院五世の祖天瑞英運大和尙、當山に隱遁して開山した。從來眞言宗であつたがこの時から曹洞宗に改め、引續き今日に及んでゐる。末寺はなく、最勝院を本寺となし。延命地藏菩薩を當山の本尊として守護して來た。五百五十坪の廣大な境內、本堂、庫裡、位牌堂、鐘樓堂が嚴めしく立ち並び毎年東京よりの講中參詣などで賑はされてゐる。寶物には延命地藏尊、聖德太子像、掌善掌惡兩童兒像脇立像などがある。毎年正月、五月、九月の各二十一日に聖德太子祭が行はれてゐる。附近海雲寺では藥師如來を祀り、町はまた伊東溫泉で著名である。現住持は十五世赤堀鱗道師。大川松藏、三枝勝次郎柿戸善治森口信次郎氏等を寺總代となしてゐる。

伊東町

溫泉旅館 東京館

電話伊東三三二〇三番

當館の經營者は豐島睦作氏で、伊東町網代驛から自動車三十分で達する。伊東町最初の突掘溫泉で創業明治三十九年、以來增改築をなすこと三回、別館は二回本館は五回に及んでゐる。客室三十全部次の間付收容人員二百人親切第一お客樣本位をモットーとし、大正二年以來數度東鄕元帥閣下御宿泊の光榮に浴し、溫泉に對しては「健身湯」との御名命を仰いだ。ラヂユム含有淡塩類泉で胃腸病、痔疾、喘息、神經痛、リユマチス、婦人病等に主治効能がある。現在從業員は二十名、なほ經營者は伊東旅館組合長、同溫泉組合副長に數次當選して發展に活動し大に功績を稱へられたが、現在も兩組合の正副組合長を兼任してゐる。

伊東町猪戸五〇七

町會議員 河野仁

番電話二三〇番

當家は舊前橋藩士河野東寧の末裔、先代は前橋廢藩後、寺子屋を營み傍ら農業に從事し、大正五年伊東の住人となつた氏は明治二十五年十一月三日の生れ、前橋中學校卒業後東海興業會社に勤務した前には伊東三業組合長として活動すること二期、現在伊東町藝妓置家組合副組合長町會議員として町治に與り、水道委員を兼ねてゐる。大正十三年來明治生命、明治火災等の代理店となり、松原區會議員、靜岡縣觀光協會評議員として盡力貢獻してゐる。政黨關係は立憲政友會に籍を置いて黨勢擴張に從つてゐる。君はまた書畫盆栽に趣味を有つてゐるが、斯界唾涎の珍品も尠くない。

伊東町岡

元町會議員 山田哲

氏は明治二十五年五月生れ、疾くから

町內に進出大小の事に關與して曾ては町會議員、その他の公職に推されて盡力貢獻するところがあつた。現在は何等の公職に關係してゐないとはいへ、もと〳〵町の有力者であり、中堅活動の士でもあるから、町民一般はいつまでも眺めてはゐまい。氏はまた無爲徒食を以て甘んずるものではあるまい、謂はゆる風樓に滿ちて大事の前の靜けさを見せてゐるのではあるまいか。君の今後こそ大いに刮目するの價ひがあるものといへよう。政界の大立物小泉三申老とは友人關係であり、また現鐵道大臣中島知久平閣下とは知人關係があり、かた〳〵以て君が現在の靜的生活の反面に潛む動的爆發の怖ろしさが豫想される。

伊東町岡岸田四七五

合資會社 伊東青果市場

電話伊東一四五番

當組合は大正八年一月十八日、青果同業者によつて伊東青果同業組合として組織され、同十二年八月、同組合の手によつて市場を設立昭和六年十一月峯內子代松氏外三氏の發起によつて創立總會を開催同十一月二十日に合資會社伊東青果市場に改組し、同七年三月、食品卸賣市場開設許可世に使用認可を得て同五月十日に正式開場、なほ同九年十二月に增設して今日に及んでゐる。出資社員二十二名で資本金は創立當時は五千五十圓であつたが、現在は七千圓に增額してゐる。經濟地區は宇佐美、伊東、小室、對島に跨り大川啓二郎氏が代表社員として一切の采配を振つてゐる。從業員は八名昭和九年優秀市場として警防團會から感謝狀を贈られた。

伊東町岡岸田

伊東町信用販賣購買利用組合

電話伊東九八番

當組合は伊東柑橘出荷組合、伊東町農產加工組合の兩組合が合併して伊東町販賣購買利用組合と稱し、後ち昭和十一年五月二十一日保證責任伊東町信用販賣購買利用組合に改組今日に至つてゐる。組合區域は伊東町と小室村で、資格は農業者に限られてゐる。出資一口の金額は三十圓で、現在組合員數は三百四十四名その口數四百六十八口である。當組合の事業及び、計劃は醬油、味噌、麴の釀造販賣、養豚の販賣、木炭の統制を計り、これが組合精神の敎育普及については、部落座談會を開催して徹底的に實行する。當組合の主唱發起者は鈴木、沼田の兩氏で、鈴木幸次郎氏現組合長理事として活動してゐる。なほ小室村元田、十足、萩に農業倉庫を開設、その他木炭集荷所の設けがある。

西浦村平澤

西浦漁業共同組合長 西嶋恭正

近代的な明朗紳士たる士は明治三十七年三月十日の出生に韮崎中學校卒業後東京に遊學、昭和二年農業大學を卒業し、若冠二十五才にて青年團長に擧げられ、

現在は保證責任西浦漁業協同組合長に任じて活躍してゐる。同組合は出資額八千四百圓組合員二十八名で出資一名各一口（三十圓）昭和十二年五月の設立である因に氏は撞球及び寫眞に深き趣味を有す尙當家は武田源氏の家臣西嶋助左衛門數馬（鐵砲組頭）を祖とし、代々助左衛門を名乘つて平澤村名主をつとめ、寛政の頃より平兵衛と稱し當主にて十七代目家實に備前長光の作に成る小刀がある。氏の祖父は初代西浦村長となり、尊父恭平氏は九代及び十一代の村長に選任貢献し昭和六年故人となられた。

中大見村八幡

中大見村信用 購買販賣利用 組合

電話八幡二九番

當組合は創立以來の精進によつて基礎いよ〳〵鞏固となり、組合員の當組合に對する認識の度もます〳〵深まつて利用するもの漸く多きを加へて來たのである當組合の出資一口の金額は三十圓で、組合員數は四百名、出資總額は一萬七千六百四十圓である。そして現在貸付總額は七萬五千四百九十餘圓、貯金は十二萬七千八百五十餘圓に達してゐる。最近當組合利用によつて得たる購買價額は二萬四千九十餘圓、販賣價額に二萬五千六百九十圓に上り、一段と將來を約束されてゐる。現組合長理事佐藤藤十郎氏は明治二十四年九月十三日の出生、元郡農會技術員として十有餘年盡力し、目下は村會議員區長を兼ねて村治に與つて居る。

下狩野村

下狩野村信用 販賣購買利用 組合

當組合は一村の產業、經濟更生を計るべき動機を以て明治四十三年十月二十九日に創立したものであるが、爾來名稱を變更し、又は組織を改めなどして、現在に至つたもので、出資一口の金額は二十圓組合員數は四百二十六人口數九百口出資總額は一萬八千圓である。そして事業の狀況は貸付金は固定資金に對して間斷なく整理の方法を講じ、努めてこれが回收に意を注ぎ、稍や成績良好ではあるが低利を以て放資したゝめ一層の增加を示し、十八萬四千餘圓に上つてゐる。各種の貯金は大口取引は減少したが、小口取引の口數は月々增加し、結局幾分の增加を示し、二十三萬二千百餘圓の業績を見せてゐる。當組合創立以來組合長理事の交替すること十八代目、鈴木宗夫氏現任中である。

長岡町長岡

川西信用 購買販賣利用 組合

電話長岡五二番

本組合は創立以來十七年を迎へてゐる從つて組合本來の精神は、一般に咀嚼され組合員は組合信頼せんとするの歡ばしい現象を見せてゐる。出資一口の金額は二十圓組合員數は四百三十四人で、口數一千六百十五口出資總額は即ち三萬二千三百圓である。そして信用部に於ては貸付總額十三萬七千四百餘圓で、貯金は二

十萬七千九百餘圓の數字を示してゐる。購買部にあつては、その價額が二萬二千九百餘圓販賣部にわつては、一萬七千二百餘圓で、利用部に在つては七百七十余圓を收めてゐる。しかもこれ等の數字は年々共に上向き、一層の發展を見せてゐる。現組合長理事は石橋弘氏である。

內浦村三津

內浦村信用 販賣購買利用 組合

電話 本部三津五番 支部三津二二番

當組合はまた新らしきもの、即ち昭和七年に保證責任內浦村販賣購買利用組合の名の下に創設、同八年八月これに信用事業を加へて今日の名稱とし、現在に及んだもので、出資一口の金額な三十圓とし、組合員數三百二十一人、口數七百九十九口出資總額二萬三千九百七十圓である。前年度の當組合の成績は、農產物の蜜柑の豐作と漁業の豐漁とによつて組合員の經濟狀態も改善され、貯金の增加が顯著なるものであつて、十七萬七千二百圓ありこの多額の遊資を擁してその運用に苦だしく困難を續けた併し資金の運用に細心の注意を怠らなかつたので大體所期の目的を收め、第一回の配當をなすの好成績を收めてゐるそして現組合長理事は關壽之亮氏で本郡屈指の優良組合である。

中狩野村雲金

組合長 大川敎平

氏の家は政右衛門氏を中興の祖となし約三百五十年傳はる稱家、幕政當時より大川姓を名乘つた名家である。先代喜太郎氏は村長に推さるゝ二期、剛腹の聞え高く。横勢におちず、堂々所信を貫く、人日露戰爭當時の村長としてよく國事に貢献し、また學校の擴張、耕築問題等にも功績を擧げ自治功勞者として稱へられてゐる。氏はその長男、明治十六年、今の家に生れ、疾くより父君を助けるところがあつた。曾て村會議員、村農會副會長、區長產業組合理事產業組合、創立委員產業組合監査役として盡瘁し、現在は養蠶實行合長、森林組合理事山葵組合理事等を兼ねて活躍してゐる。長男重義氏は縣師範出、目下靜岡城內小學校に奉職中である。

中大見村德永

寶谷山 永德寺

當寺は清水山東向寺と同じく藥師如來を本尊として曹洞宗に屬し、永祿十二年期崇銀昌和尙によつて興され、中六見村最勝院の末寺である。古來鄕民の信仰多く、藥師如來木像及び十六童兒（行基菩薩の作）等の寺寶を所藏する。本堂は間口五間奥行六間半あり、庫裡は間口四間半奥行六間にて、共に古い建造物である境內面積百二十坪あり、檀徒は中六見村字德永一圓を區域とする。靈域常に淸掃せられ、檀徒の奉公頗る多きを物語る。行事は曹洞宗一般行事のほか取立てゝ記すべきものはない。現住職は二十七代鈴木健雄師にして陰德多き善知識との定評

あり、檀徒總代たる藤原喜十郎氏、藤原太吉氏、片山宇之吉氏等はいづれも部落の有力者で熱心斡旋の勞をとりつゝある。

伊豆長岡町古奈

梅香園住吉館

電話六八番　一七五番

眞冬を知らず、眞夏を知らざる溫泉郷伊豆長岡に理想的設備を有して湯治の客を呼んでゐる。梅香園は大正十四年の創業に係る遐信省をはじめ、觀光溫泉會や大和旅行會、鎌倉建長寺等の指定旅館にして、大湯、家族風呂など諸施設悉く整ひ、小說家横山美智子女史も當館に投宿して、氣分のよいこと設備の完全なることとサービスの滿點なること等大いに賞讃せられた。都塵を洗ふ一二泊の旅、落着いた家族連れの保養には實に恰好の旅館にして客は客を誘つて日毎夜毎に繁榮に赴きつゝあるは當館のためには勿論土地のためにも誠に慶賀に堪へざるところである。

函南村桑原

箱根山宗源寺

當寺は藥師如來を本尊とし、曹洞宗に屬する古刹にして、開基は江口主水、開山は山嶺文高和尙（本寺深良村興禪寺の第五世である歷代領主も信仰ありし淨刹にて、四民の參詣するもの古來頗る多く現在本堂は五間四面庫裡は五間半と二間あり、境内面積二百四十二坪、墓地は整然として清淨を極め、檀徒全部にいかに崇祖信心の念の强いかゞ窺はれる。檀家區域は函南村のうち桑原及び大竹の二部落にして總代は竹本松一氏、竹下敏行氏河口彌逸氏の三名、現住職は九世淺野道彦師にして至心信樂の境地に生きる善知識、衆生濟度を本旨とする佛道に深く長じ信望著く、且つ衆庶の尊敬絶大なるものがある。

函南村塚本

田方農學校

電話大場三九番

本校は明治三十五年田方郡田方農學校と稱して設立され、大正十一年縣營に移管、同時に靜岡縣立田方農學校と校名を改め、高等小學校二年卒業を入學資格とし、修業年限を三ヶ年とした。その後運動場の擴張や校舍の改造築をなすこと數次最近に至つては農産製造室、葡萄溫室簡易堆肥場軟化窩等を建設して施設愈々全きを得た。生徒百七十余名、教員十二名、その他職員三名をかぞへ、農村を背負ひ立つ中堅人物の養成につとめてゐる創立以來卒業生を出すこと約千七百名、いづれも農村中堅の材幹として活躍してゐる。初代校長仁田大八郎氏以來望月精太郎、津田勉造、鈴江豊一、奈良和夫、米山弘の諸氏を經て、現校長は令名高き高橋覺氏にして昭和十二年三月の就任である。

上狩野村

天城山弘道寺

最勝院末寺にして聖觀世音菩薩を本尊とする當寺は、曹洞宗に屬する淨刹である。開基開山に就いてはその詳細を傳へざるも、相當に古き由緒を有することは古記錄及び古老の言傳へによつて明瞭である。寺寶に觀世音菩薩藥師如來不動明王三尊の木像あり、境内面積五百六十七坪本堂は間口七間奥行六間にて庫裡は間口十一間奥行四間ある。曹洞宗一般行事のほか一月十一日及び九月十一日には藥師如來大祭あり、當地方屈指の緣日にて參詣客で雜閙を極める。幕末史上に異彩を放つ米使ハリスは當寺に參詣せしことあり、今も時折知名人士來山の光榮を有する。當山は湯ヶ島一圓にて約百二十戸總代は增田駿氏、宇田銀作氏、淺田茂平氏の三名、現住職は十六代山居素俊師である。

三島町田町

田方郡 實業團體 事務所

當團體事務所は田方郡一圓を區域とする產業團體自治團體その他各種團體の事務所を綜合せるものにして、團體間の連絡を密にすると共に、團體各自の發展向上策或ひは研究機關の相互使用また協同利用等をなす便あり、現在次の七團體がこゝに事務所を置く。

田方郡水產會
同　農會
同　養蠶實行組合
同　畜產組合
同　家畜保險組合
同　茶業組合
同　町村長會

田中村大仁

大仁神社々掌　狩野皐一

稀に見る高潔なる人格者と謳はれる氏は志太郡伊久身村字伊久美の人、金藏氏三男として明治二十九年二月十五日を以て生をこの世に享け、大正十三年狩野藤右衛門氏の養子となつて狩野家を嗣いだ藤枝中學校出身にて、大正五年步兵第六十七聯隊に入營、在營中は模範兵と云はれた人である。除隊後大正八年靜岡縣巡査を拜命し沼津警察署に勤務、昭和五年一月退職したが、この間縣知事、署長等より精勤その他にて表彰されること約五十回に及び、警察官の模範と稱されたその後は神職として專ら神社に奉仕し現在村社大仁神社々掌ほか五社を兼務する。藤枝夫人との間には長男康義君をはじめ叔江さん、美惠さん、節さんの令孃あり家庭圓滿至福である。

西浦村江梨

江梨信用 購買販賣利用 組合

電話立保七番

當組合は大正四年六月七日、有限責任江梨信用購買販賣利用組合と稱して創立したものであるが、昭和八年三月二十八

日、組織を變更して保證責任となして現在に至つてゐる。出資一口の金額は二十圓組合員數は九十三名、出資總額は七千七百六十圓である。當組合の現在貸付總額は二萬九千五百余圓貯金は十二萬三千七百余圓である。最近一ヶ年間、當組合利用の成績は、購買價額は三萬四千七百余圓、販賣價額は四千三百余圓、利用料は二千六百余圓の統計を示してゐる。なほ昭和十二年一月、西浦村久料へ支所を設けて更に發展に備へてゐる。現組合長理事土屋三五郎氏は二十二年五月二十五日の生れ、村會議員として村政に努めてゐる。

西浦村

消防組頭 在郷軍人分會長 勳六等 渡邊友三郎

當家は武田源氏の末孫渡邊隼人の後裔にして代々農漁を以て家業となし、先代長三郎氏は柑橘栽培、伊豆茸栽培に盡力現在柑橘は日本屈指となり、茸は年產十數萬圓の多額にのぼつてゐる。また漁業組合長となり漁具の改善に盡すなど產業功勞者の一人である。當主渡邊友三郎氏はその長男、日露戰役出征の陸軍歩兵少尉にて功により勳六等旭日章を授けられた。凱旋後小學校に在職二ヶ年西浦在郷軍人分會の創立に參劃して同分會長たること十六ヶ年、軍人會より感謝狀を贈られし功勞者である。他に區長、學務委員漁業組合長（在任三期）農會副會長、柑橘出荷組合長等を歷任、また明治四十四年以來伊豆銀行代理店を經營し、昭和六年には西浦消防組頭に推されて今日に至る。

網代町

法雨山善修院

釋迦如來を本尊とし曹洞宗に屬する當寺は、開間七郎大郎氏を以て開基とし、大祝宗興和尙を開山となす。本寺は最勝院にして、末寺に長谷寺、金光寺、東明寺、福聚庵等がある。本堂、庫裡、開山堂の建物は共に昭和七年に改築せるもの境內面積三百七十餘坪をかぞへ、イルカ地藏尊は由緖深く且つ靈驗あるを以て遠近に聞え、また正月五月九月の各十二日の藥師祭は善男善女の參詣客で境內に人の山を築くほどである。その他曹洞宗の一般行事はいづれも盛大に行はれる。檀家は網代町にて約七十五戸總代には土屋長之助氏、岡田清作氏、開間直太郎氏等があり、現住職鳳義雄氏は二十九代に當り檀家は勿論鄕黨の聲望あつきものがある。

中村大仁

洞泉院

當院は觀世音菩薩を本尊とする曹洞宗の寺院にて、開山玉翁宗珠大和尙は宗祖十六世の法孫に當り、禪學の蘊奧を究めて門風豆國に冠たるものあり、故に當村の邑長杉村一族の者等一字を草創して師を請じ開闢第一祖となした。師は住山十年俗を化して風を移し慶應七壬寅年に入

寂した草創より今日まで、約二百八十年地方屈指の古刹にて、藏春院末に當り檀家百餘軒を算す法堂庫裡開山堂鐘樓堂等の建造物がある。現住職二十三代淺野行英師は學德兼備の人格者と敬慕される。檀徒總代は杉村正衞氏、石井房太郎氏杉村惣吉氏深澤常次郎氏等にていづれも寺運の隆盛に心を用ひてゐる。

土肥村

土肥村信用購買販賣利用組合

電話三九番

當組合は大正五年九月二十日の創立にかゝるもので、以來歷史を累ぬること二十二年產業組合に對する一般の認識も向上、從つて當組合の發展また大に見るべきものがある。當組合の出資一口の金額は三十圓組合員は五百五十一人で、口數一千五百二十二口、總出資額は四萬五千六百六十圓である。そして現在の貸付總額は二十一萬四千七百八十餘貯金は十二萬八千七百七十餘圓の數字を見せてゐる要するに前年度は經濟的には小康を得たが、積年の疲弊は全く癒やすことが出來ず、固定貸金の回收利息の徵集には全力を盡した結果玆に豫期の成績を擧げることが出來たのである。現在組合長理事は勝呂宗平氏ある。

錦田村谷田

錦田村信用販賣購買利用組合

當組合は大正十四年に創立、本村役場內に事務所を設けて事務を扱つてゐたが昭和六年、現在地に新築成るや、事務所を此處に移して今日に至つてゐる。出資一口の金額を三十圓とし、現在組合員は六百五十七名、口數九百五十四口、出資總額二萬八千六百二十圓である。そして貸付總額は二萬二千餘圓、貯金は三萬五千六百餘圓であるが、最近購買部で取扱つたものは合計七萬七千二百餘圓で、前年に比して五萬餘圓の增加で當組合の利用が年々多くなつて來ることは、組合將來のため慶賀すべきことである。昭和七年本村川原ヶ谷區に支所を設けた。現組合長理事は佐野文之助氏である。

中郷村籠名

中郷村信用購買販賣利用組合

當組合の創立は大正十年五月二十五日で、事務開始は同年八月、村役場で行つた。昭和四年九月、現在の事務所新築完成と共に移轉、同六年十月農業倉庫を二ヶ所二棟八十坪を新築、同七年より倉庫事務を開始した。また同九年三月、新谷に出張所を設置して事務取扱を開始したのである。當組合の出資一口の金額は三十圓、組合員數は六百五十九名、一千三十九口、出資總額三萬一千百七十圓である。貸付總額は前年度に比して一萬圓を減じて二十三萬三千六百餘圓で、貯金はそれとは反對に一萬圓を增して四十萬二千三百餘圓を見て、購買價額に於て八千九百餘圓を示してゐる。何れにしても組合の發展は爭ふべからざるものである。

現組合長理事は風間千造氏、專務理事は栗原賢雄氏である。

三島町

北上信用購買販賣利用組合

電話四一八番

當組合は第十八年度の報告書を出してゐるほどの長い歴史を有つてゐるだけに一般からは組合の精神がはつきりと認識され、それだけに事務の進行上に便益を與へてゐるのである。そして當組合の出資一口の金額は五十圓で、保證金總額が三萬九千圓である。即ち組合員數が三百七十五名で、七百八十口になるわけである、現在貸付總額は十五萬七千三百餘圓貯金總額は二十二萬二千六百餘圓に達してゐる。現組合長理事は湯山慶次郎氏であるが、氏は慶應三年十二月の生れ曾ては村長村會議員、その他の公共事業に努力貢献し、大正八年、當組合組織の主唱者として表面に立つて活躍し、創立と同時に專務理事に就任次で現在に至つてゐる。また町農會副會長を兼ねてゐる。

修善寺町瓜生野

徳昌寺

當山は修禪寺の末寺で、相當の古刹ではあるが、不幸火災に遭つてすべてが烏有に歸したので、その由來と沿革とを詳かに知ることが出來ないのである。現住職鈴木正雄師が第十一世であることが、その古い歴史を物語つてゐる。開山は斧山宗鐵大和尚で、曹洞宗派に屬してゐる聖觀世菩薩が當山古くからの守護本尊で常に參詣者が絶えない。境内は五百坪間口七間半、奥行七間の本堂があり、開山堂は目下新築中で竣工を急いでゐる。當山の寶物は火災と共に全部燒失、今は見るべきものなくなつてゐる。年中の行事は曹洞宗一般の行事に從つて行つてゐる。檀家は修善寺町瓜生野一圓に亙つてゐるが、その總代には篁谷正、遠藤德太郎、大城匡四郎氏等が擧げられてゐる。

伊東町松原長田

伊東郵便局

當郵便局は普通三等局。通常郵便は開局當時から開始、集配事務は明治七年十二月十六日に、内外爲替は同二十一年五月一日に、内外電信は同三十一年九月二十一日に、電話は同四十年十一月十一日にそれ事務を開始して今日に至つてゐる現在從業員は四十八名、遞信大臣並に保險局長より表彰されること數回に及んでゐる。初代局長は篠原莊二郎次で小原庫太田惣兵衛、鈴木喜平氏等を經て、五代目の局長として稲葉敬三氏が就任、遞信事務を統制秩掌してゐる。氏は明治二十七年三月二十一日の出生。陸軍歩兵少尉で、元伊東青年團長、郡聯合在郷軍人分會副會長を兼ねて貢献するところあり、現在は二期目の町會議員、水道、税務、學務委員、伊東町戰友會長、伊東郵便局第一部長として活動してゐる。

四浦村木負

木負柑橘信用販賣購買利用組合

電話三津三八番

當組合は金指久平、相磯元平、相磯源吾氏等の提唱奔走によつて大正七年に創立、昭和五年新築落成と共に現在の事務所に移つて今日に至つてゐる。事業は信用、購買、販賣、利用の四種を兼營出資一口の金額は三十圓、組合員は殆んど農業者で八十六名、その口數五百一口、出資總額一萬五千三十圓である。現在貸付金總額は五萬二千百餘圓で、貯金は五萬二百餘圓で、前年よりも約一萬二千圓の激增を見せてゐるが、これは産業組合に對する認識の深まつたこと、また地方金融恐慌を契機として組合利用の强化されたことを物語るものである。現組合長理事は金指久平氏、專務理事は島津安藏氏である（寫眞は天然記念物大蜜柑樹）

中大見　村海木

佐藤貞廣

陸軍三等軍醫
正八位勳六等

當家の始祖は武田家の臣、永祿年間、當地に生れて歸農苗字帶刀を許されて佐藤姓を繼ぎ八幡村の庄屋を勤めた名家である。先代平右衛門氏は、同村の名門三田村家より入り、十九歳にして八幡村外八ケ村の戸長を勤め、明治二十三年。初代村長として更に村政に專念盡瘁し、その恩澤を今に傳へてゐる。當主は明治十五年五月一日、その長男に生れ、千葉醫專の出身、日露戰役に際し軍醫として内地勤務を命ぜられ、功に依つて正八位勳六等に叙せられ、同三十九年豫備に編入せられ、横濱市大西博士に師事して内科小兒科を研究し、後ち沼津市に於て開業次で現在の地に歸つたので、以來約二十年間に及び、四方の信頼絶大なるものがある殊に氏は産科の妙手としてその名が高い區長、學務委員、軍人分會長、消防組頭などを勤め、吉田流の弓、騎馬、百人一首、野球、圍碁等なか〳〵多趣味の人でもある。

上大見　村筏場

塩谷吉成

産業組合幹事
正八位

當家は既に十數代を經た名門の家、曾祖父吉之衛門氏は家業に精進、同家萬代の礎を固めあげた人で、また極めて剛腹な人常に四斗樽の鏡を拔いてその既知と未知とを問はず、訪問者に振舞つたことなどでもその名を知られた。祖父吉衛氏は戸長役場時代の戸長として、また町村制實施の初代村長とし貢献し、常に一村

の羽きをなしてゐたのである。氏は明治四十年八月十六日その男に生れ、沼津中學校出身豫備陸軍歩兵少尉で、正八位勲に村會議員に推さるゝこと二期、在郷軍人分會長をも勤めて功あり、現在は產業組合幹事として專ら組合の進展に活躍してゐる。資性溫順、これからの人物として期待されてゐるが、趣味には養鯉、園藝銃獵などがある。

中大見村八馬

元村長郵便局長 故 **萩野要**
從七位勳七等

氏は慶應二年十一月出生、幼時既に頭角を現はして、早くも前途に多大の嘱目を放たれてゐた。父祖の業を繼ぐや、精進努力、萩原家の大黒柱よと稱へられ、よく父君の遺訓を遵守し、一意家業の進展にと心を配つたのである。明治三十七年駿河銀行中大見代理店に選ばれてこれが店主となり、自ら第一線に立つて活躍郡の金融界に貢献し、その間また縣下有數各銀行支店、代理店等を引受けて一層盡力し、以てます〳〵業績を高めると同時に、基礎を堅實ならしめて地盤を開拓し遂に駿河支店代理店中の古參株となり當行切つての代理店として一家を擧げてそれぞれ經營してゐる。氏はまた疾くから自治方面にも進出關與し區長をはじめ學務委員、消防組頭、村會議員等を歷任し、その間、中大見村の村長に擧げられて一村の刷新開發に努力して功績を高めたのである。現役場並に小學校の新築などはその業績の二つを物語つてゐるものである。なほ駿河銀行代理店經營中中大見郵便局長を拜命したが、大正九年一身多忙の故を以て辭任した斯くして一家を隆盛に赴むかしめ、地方金融界の恩人としてまた村政の功勞者として稱へられた氏も、昭和十年十二月、遂に再起成らずして永眠の地に就かれたのである。

修善寺町熊坂

熊坂信用 販賣購買利用 **組合**

當組合はその當時一村の疲弊を默視するに忍びず原良祐、山中林作、菊池安幸の三氏、村更生を思ひ立つて創立を提唱大正三年二月十四日、主務省の認可を得て實現事業を開始し、昭和十年四月、保證責任に組織を改めて信用、購買、販賣利用の四種事業を兼營して現在に至つてゐる。熊坂一圓を組合の區域となしてゐる。出資一口の金額は三十圓百十四名の組合員で口數二百三口、即ち出資總額は六千九十圓に上つてゐる。そして本組合の經營方針や組合精神の教育並に普及策として家の光の講讀を勸めてゐる。現在組合長理事は原良祐氏專務理事は原治郎作氏、理事に山中文作、原次郎氏等、監事に原太一、小倉之哉、菅尾留吉氏等が奔走してゐる。

三島町市ヶ原

三島市ヶ原郵便局

電話三島四〇八番

當郵便局は三等局、請願によつて昭和十一年四月一日開局、同時に郵便、爲替

貯金、保險年金等の事務を開始し、初代局長直井博衛氏は從業員と共に熱心通信事務に鞅掌努力してゐる。博衛氏は明治二十二年七月二十一日、惣兵衛氏の男に生れた。家は質屋業、父君は町會議員、常設委員、所得調査委員、町農會長に推された町自治の功勞者である。氏は同四十五年七月、東京商科大學の前身東京高等商業學校を卒業、直ちに三菱銀行に入り、昭和五年まで勤務、退社後は家業に就いて今日に至つてゐるが、その間、三島町農會長、三島產業組合長となつて、多大の功績をあげ、今後を刮目されてゐる。趣味は讀書に園碁。夫人まん子さんは三島高女の出身で、三男一女がある。

三島町大中島

大中島郵便局

本郵便局は明治四年三月一日三等局として開局、同時集配事務を開始同十二年三月一日に內外爲替、同二十四年三月に內國電報を、翌年二月に外國電報を、同四十一年八月に電話事務等をそれぞれ開始し、大正十一年十一月二等局に昇格すると同時に無集配とし、大中島郵便局と改稱現在に及んでゐる從業員は三名。遞信省及び遞信大臣より十數回表彰を受けなほ大正四年十一月、一級功績章を賜はつてゐる。現局長は渡邊壽太郎氏、正六位勳五等に叙せられた。通信事務の功勞者。氏は明治二十四年に駿豆郵務研究會を創設、その會長に推されて以來、昭和九年までその任に在つて通信事務に貢献し、また曾て丹那トンネル開鑿のことあるや、本線の三島通過を叫び、時の鐵道大臣後藤新平閣下に建言してこれを貫徹するなどこの方面にも功勞があり、町の恩人である。

田中村

土屋病院 電話九番

本病院は大正二年二月に開業したもので、內科特に呼吸器系統一般の診療に從事してゐる。患者は修善寺、長岡方面から殺倒し、醫は仁術よりをモットーとなして嘖々たる好評を博してゐる。院長は土屋文吾氏で明治十五年十一月十八日代々醫を業とする家に五代目として生れ、熊本醫專出身の醫學士として臨んでゐる病室三十五室、醫員一名、助手一名、看護婦十一名、藥劑士一名を擁してすべてを完備し、病患者に些の不滿足も與へない。氏は本村校醫であるの外、學務委員縣體育協會名譽會員方面委員、日本赤十字社特別社員でもある。なほ自費を以て學校醫分室を新築した功によつて、銀盃を贈られてゐる。

下大見村

下大見信用 販賣購買利用 **組合** 電話八幡四番。

當組合は吉本、小川、渡邊外十八氏等の主唱によつて、大正十三年七月に創立したもので、下大見村一圓を組合區域となし信用、販賣、購買、利用の四種事業

を兼營してゐる。出資一口の金額は三十圓、組合員數二百四十八名口數七百一口で、出資總額二萬一千三十圓に達してゐる。昭和十二年七月現在の貸付總額は四萬六千圓、貯金は七萬六千圓、購買價額一萬六千圓、販賣價額二萬六千圓の成績を示してゐる。外に三十餘坪の農業倉庫一棟を設けてある。現組合長理事は吉本氏、專務理事に小川氏が就任して居る。

下大見村
元村長
勳八等
小川元太郎

氏は慶應二年四月十日の出生。靜岡師範出身で、大正十一年頃、下大見尋常高等小學校を最後として退職。育英界に精進貢献する實に二十ケ年、大に功績を擧げてゐる。大正三年、衆望を負ふて村會議員に當選、同十五年四月村長に推薦されて就任、昭和五年の四月、任期滿了によつて退職してゐるが、現在は村内の長老として重きをなしてゐる。なほ氏は多年の功によつて勳八等に叙せられ、瑞寶章を下賜されてゐる。

上大見村原保
上大見信用購買販賣利用組合

電話八幡三番

當組合は昭和八年八月創立したもので當時は村役場の一部に事務所を設けてあつたが、昭和十年十二月、現在の事務所が完成したので移轉、信用事業をはじめ販賣、購買、利用等の事業を經營、今に至つてゐる。組合區域を上大見全村とし出資一口の金額は三十圓、組合員數は三百七十三人、その口數六百口で、出資總額一萬八千圓に上つてゐる。そして當組合の現在貸付總額は六萬九千圓、貯金は十五萬七千圓、購買價額七千九百圓販賣價額は五千八百圓といふ業績を見せつゝある。現在組合長理事は山下源五郎氏、專務理事は鹽谷幸平氏である。なほ木炭倉庫の設けがある。

上大見村筏場
前村會議員
八木下金作

氏は郡内の名物男常に政友會の選擧にはなくてはならぬ人物、選擧の神樣のニックネームあり、趣味交際に博く、また仁俠を以て聞えてゐる。前村會議員、現家屋税調査委員、として盡瘁しつゝある。當八木下家は既に二十代を經た土地最古の舊家で、先代彌佐氏は永年村役場、助役村長等を勤めて至大の功勞を樹て、今もその德望が慕はれてゐる。そして氏は華鳳の號によつて狩野派流の畫を能くしその彩管を愛賞されてゐたものである。當主夫人可彌子さんは東京フェリス女學出身、初期の英文タイピストであり、また英語に達し、文章に堪能なので夫君に似通ひたる性格は人のために働くことを心から樂しみ、目下同村婦人會副會長として麗腕を振つてゐる。

函南村仁田
銀行重役
前代議士
仁田大八郎

氏はその昔、富士の裾野の曾我兄弟史上で有名な仁田四郎忠常氏が三十七代の末孫として明治四年十月五日、今の地に

生れた、東京駒場農大出身の、縣下産業財界の惑星としてあまりにも著名な人である。現田方農學校は實に氏が私財を投じて設立經營、苦心を嘗めたもの、郡立農學校に昇格すると同時に自らまた第一線に立つて有爲の人材養成にこれ努めるところがあつた。前代議士、その他郡會議員、郡農會長、縣農會副會長、縣信聯合會長郡畜産組合長、村農會長、村會議員學務委員と幾多の公名譽職に就いて活躍貢献したその功績は眞に偉大なるものがある。現在は伊豆銀行取締役、縣畜産組合長伊豆畜産販賣購買利用組合長、函南信用組合長等を兼ねて、それぞれ盡瘁してゐる、

三島町澤地
町會議員
尾崎賢吾

當家は先代幸作氏が分家獨立したもので。氏はその二代目、明治二十一年二月十二日長男に生れ、西城中學校教師時代町内有志の間を奔走して富士瓦斯紡績會社を創設したほどで、早くから町内の興隆發達に心を配つてゐたのである。曾て區長産業組合役員として盡力し、大正八年には現在の組合當時自ら先頭に立つて郡役所に奔走、その頃の郡會議員下里仁三郎、神山清兵衛等と協力して、遂に縣より補助金を得たほどであつた。かくして氏の人望はます〳〵高まり。現在は町會議員として町自治に關與してゐる。なほ氏は重砲三聯隊に入營して兵役に服した人である。

西豆村八木澤
起八山妙藏寺

當山は日蓮宗の流れを汲み、靜岡清雲寺の末寺として相當に知られてゐる。開山の祖は遠く、その由緒沿革等は詳かでないが、蓮生院日興上人を一山の祖としてゐる。現住職は佐治諦靜師で、寺勢の回興に苦慮計畫を立てゝゐると同時に他面村内青年のために修養道を說くなど思想方面に貢献してゐる名僧である。

上大見村地藏堂
村會議員
荻原文清

當家の始祖は遠く元祿年間にあつて、爾來農を本業となし、連綿相繼いで今日に至つたものである。山葵の經營は明治初年頃からで主として江戸を目當てに陸路伊東に出で、伊東より船によつて江戸との取引をなしたもので、先代順作氏はその傍ら村政方面にも與り、明治四十五年四月より大正五年三月まで村長として村治績を高めるところがあつた。また上大見村山葵業組合のためにも相當貢献した。氏はその男夙に父君を助けて家業に精進し、一家をして今日あらしめた人で早くも衆望を博し、昭和十二年五月の村

會議員改選に出馬見事に當選して村政に關與、今後の活動を嘱目されてゐる。

三島町

伊豆銀行

電話七・一〇・一六五・二三三番

本行の歴史は古く、明治六年七月に資本金三萬圓を以て伊豆韮山に生産會社を創立、一金融機關としに乘り出したことに始まつてゐる。同十四年一月、大場銀行と合併、三十二萬圓に增資して行名を伊豆銀行と改め、本店を韮山に置いたが同二十年、これを三島宿に移轉翌二十一年三島銀行と合併大正四年、增資して五十二萬圓となし、次で同九年に一躍二百萬圓に增資し、同十一年一月に三島商業銀行、同十二年一月に東駿銀行、同十三年三月に熱海銀行、同十五年九月に御厨南遠足柄銀行など、合併して更に三百七十萬圓を增資し、八百三十三萬圓となして今日に至つてゐるが。大正十一年より日本銀行預金店として三島、下田の代理店を統轄してゐる。そして現在の營業狀態はといへば、軍備擴充に伴ふ軍需産業並に特殊事業はます〳〵殷賑を呈し、國民所得の增加はその購買力を强め、諸物價追時漸騰を續け、財界は終始順調に金融界も亦依然緩慢に潤澤を極めてゐる。更に當地方の情況は米作豊穣且つ高價であり農産、林産等も順調に從つて多年不況に沈淪した農山漁村も漸く愁眉を開き時流の恵澤に浴するに至つて、本行所期の目的を達することを得たのである。因に現在取締役頭取は大沼吉平氏。

三島町

伊豆相互貯蓄銀行

本行取締役頭取は大沼吉平氏、常務取締役は河邊泰氏、常に一般財界に透視の鑒眼を活かしつゝ、我れ等の銀行の備へに采配を揮つてゐる。本行の創立は大正十一年四月十六日資本金は五十萬圓拂込金は十二萬五千圓で、準備金は約五萬二千圓を數へてゐる。そして本行の貸付金は四十一萬七千餘圓で、預り金及び積立金高は二百八十三萬四千餘圓を突破してゐるこの數字によつて見るも、その基礎の强固なこと、信望の厚いことが窺はれその前途は洋々多望である。

三島町

昭和煉乳株式會社

本社は昭和九年の四月、本郡錦田村森永煉乳株式會社三島工場と同郡三島町の極東煉乳株式會社三島工場とが合併設置兩社の共同經營となしたが、同十一年の八月これを森永煉乳株式會社の經營に移し、引つづき今日に及んでゐる。現在資本金は六十萬圓で全額拂込濟、七十名の從業員によつて、日々火の出るやうな働き振りを見せてゐる。本社の生産品は內地向きのものとしては森永ミルク、輸出向の煉乳としての各種類は森永コーラスコーヒー牛乳、スキート牛乳、バターなどであるが、一ケ年間に於ける生産數量はといへば、煉乳は六萬箇その他が二萬

箇その生産額は一百萬圓に上り、販路は森永煉乳會社を通じて內地一圓印度南洋方面に及んでゐる。社長松崎半三郎氏、專務取締役益田太郎氏。

三島町

駿豆鐵道株式會社

本社は明治三十一年五月、豆相鐵道株式會社を創立して三島より南條間を開始爾來發展に鋭意努力して同四十年七月、伊豆鐵道株式會社に改めた。また明治三十四年一月に駿豆電氣株式會社を起し、同三十六年、軌道に敷設の特權を得て後ち駿豆電氣鐵道會社と改め、同四十五年に前記の伊豆鐵道を買收し、大正五年、富士水電會社と合併したが、翌年水電から分離駿豆鐵道株式會社を新たに起し、資本金を三十萬圓とし、更に百萬圓より百五十萬圓に增資して今日に及んでゐる而して現在の路線は省線三島より修善寺間と三島町、沼津間でなほ乘合自動車を經營してゐるが、殊に熱海箱根線は觀光專用道路であり、本社の最も誇りとなしてゐるところである。現社長は東方友次郎氏。

三島町芝町

三島道友會

道義地に墜ちて忠孝の二字また忘れられやうとしてゐる時、「孝行犬」を世に高らかに謳ひ出し、今の世道人心に自覺を促さうとして生れたものその昔、圓明寺三十七世日定上人在職中番犬多摩にまつはる仔犬の孝養振りは、聞くものをして感涙をそゝがしめ懦夫をして愧死せしむるものがあつた。附近相傳へて孝行の範となして來たもので、今、廣澄山圓明寺第四十九代住職松山日悠師發起となりし當町內藥師院長圓寺、誓願寺、蓮馨寺、林光寺、福聚院、心經寺、祐泉寺、常林寺、法華寺、善敎寺、成眞寺、本覺寺、圓妙寺、本明寺、蓮行寺、西福寺、田福寺、光安寺、大德院、遠成寺、龍澤寺、誓緣寺、觀喜寺、耕月寺等と共に會のために努力してゐる。

三島町役場內

三島商工會

電話四七番

事業の發展促進は、個人としても團体的協力によつた方が捷徑であり、また納稅も一つのグループによつた方が好成績を擧げることが出來るといふ見地から、大正十一年に實業會として生れ、事務所を町役場內に置き區域を町內として事務を取扱つて來たが、昭和三年今の商工會と稱するやうになり、現在會員は八百餘名に上つてゐる營業收入稅の團体であると共に、店員の勤勉に努め勤續者を每年それ〳〵表彰してゐる。本會の主唱者であり、また委員長であつた河邊富助氏の功勞は甚大なるもので、蛭海文平、小西藤兵衛高木勝之丈氏等を經て現會長は原國太郎氏で、福會長は村上傳右衛門氏である。

修善寺町堀切

東嶽山泉龍寺

當山は聖觀世音を本尊となす曹洞宗派に屬するもので、開基は泰心院傳覺和尚開山は修禪寺第十四世心了物和尚である明應九年の開創當時は眞宗であつたが後ち廢寺となり、寛文七年、曹洞宗僧日山白和尚を中興の祖となした、元祿十一年益順和尚の代に故物傳和尚を勸請して開山となし、益順和尚を第二世に相續いで今日に至つてゐる。本寺は修禪寺で末寺なく、五百二十餘坪の境内に木造茅葺の間口八間、奥行五間の本堂と間口九門奥行四間半の木造茅葺の庫裡とがある。現本堂は字下川にあつたものを第十世良傳和尚の代に今の地に移したもの庫裡は四百餘年を經てゐるといふ。現住職丹羽園宗師は第二十五世目、檀家は堀切及び大澤で、木口喜作、水口林平、水口文平、荻島六平氏總代を勤めてゐる。

修善寺町堀切

圓露山雙林寺

當山は壽應吟和尚が開山したもので、曹洞宗に屬してゐる。眞珠院を當山の本寺となし、十一面觀世音菩薩を御本尊に仰ぎ、信者の念願を成就させるところから參詣者群をなして至るの觀を呈してゐる。境内の面積は二百二十餘坪と稱せられ、間口五間に奥行五間半の本堂に、間口五間、奥行二間半の庫裡とが建つてゐて、詣するもの、襟を正さしめる。當山の行事はすべて曹洞宗の一般の行事によつて執行されてゐる。今の住職は第五世目雒井貞信師であるが、這はまた町内一般からも崇敬されてゐる。檀家は大字堀切であるが、その總代として水口長平、遠藤忠作の兩氏が奔走してゐる。

狩野村堀切田代

看富山叢林寺

當山にある觀音像の木像は有名なもので、今では當山の寶物となつて祕藏されてゐるが、抑々當山の由緒を案ずるに、龜雲鶴和尚を開基宗谷雲岱大和尚を開山の祖となし、本寺は修禪寺である。年代を詳かに知ることは出來ないが、寛永年中のことであろうとの說が傳へられてゐる。御本尊は十一面觀世音菩薩で、境内面積は六百餘坪あり、木堂は間口九間、奥行六間半、庫裡は間口五間、奥行三間で、その他觀音堂、納屋、倉庫などが立ち並んでゐる。年中行事としては曹洞宗行事に倣つて行つてゐる。現住職丹羽桂治師は實に第二十七世目、下狩野村田代並に下大見村小川を檀家範圍となし、その總代としては遠藤齋、遠藤平作、秋津富士雄等が與つてゐる。

函南村平井

村會議員 勳八等功七級

室伏重俊

當家は村内室伏家の本家で、代々農を本業として來た舊家、また名望家である先代亡春作氏は戸長として、郡農會長と

して相當功をあげた人。氏はその長男、明治十五年五月十一日今の家に生れ、長じて名古屋輜重兵第三大隊に入營、日露開戰となるや出征、第一線に立つて功を樹て、平和克復後、その功に依つて勳八等に叙し、また功七級金鵄勳章を下賜された。村役場に入つて收入役を振出しに助役として村長を輔くるところがあり、帝國在鄉軍人會函南村分會幹部となつて盡力し、軍隊並に在鄉軍人會から表彰された。現在は村會議員、郡町村長會主事婦人會、男女青年團幹部として活動してゐる。夫人クマ子さんは三島大社前小早川家の人で賢夫人として讃えられて居る

函南村日守

村會議員

山田豊

氏の父君は生前村自治團体等に盡力し且つ村役場助役に推され、村長を輔佐して村政に精進した功績は多大なるものであつた。氏は明治二十四年十一月三十日の出生、韮山中學出身、大正二年靜岡歩兵第三十四聯隊に一年志願兵として入營後ち陸軍歩兵少尉に任官した。曾て區長にあげられ、在任三年、大に盡すところがあつた。現在は村會議員、村内評議員を兼ねて職責に精進してゐる。氏は言語明朗にして、しかも質實な人、常に農業方面に留意、熱心に研究しつゝある篤農家で、村内にかける信望は極めて厚い。また養蠶家としても附近に知られてゐるとても好感を持てる人かゝる士が先んじて村内の事に接衝しつゝあることは、村に爲め、誠に欣喜に堪えない。

函南村丹那

村會議員

片野仲次郎

氏は明治二十九年二月十七日の生れ、先代に望まれて當主となつたもので、田方農學校出身、近衛歩兵第三聯隊に入隊滿期除隊後家業の人として精勵した。後ち選ばれて消防部長となり、納税組合長區長等にも推されて貢献し、現在は村會議員、村農會總代、評議員を兼ねて活躍してゐる。氏はまた畜産事業等に重心を置いて縣下の統制、品質、多産の研究に努めつゝあることは、畜産界から大に感謝さるべきものである。立憲政友會員溫情豊かな人。村内から衆望を負ふ當然なことであらう。家族としては七人。何れも健康朗かな日を迎へてある。なほ當家は丹那に於ける舊農家で、先代亡竹吉氏は村内篤農家として稱へられてゐた。

函南村輕井澤

村會議員

渡邊春次郎

氏は先代亡元治郎氏の次男、明治二十五年四月五日の出生で、村内でも知られた舊家函南村小學校卒業後上京して電機學校に學んだが、家事上の都合で中途退學歸鄉して家業に勵むところがあつた。他方また村内公共方面に意を注ぎ、消防部長となり、區評議員となつて活動、その手腕は早くも村民の知るところとなり現在は村會議員に選ばれて村自治に與りまた函南村信用組合評議員をも兼ねてゐ

る。森永煉乳株式會社の株主でもある。政黨關係は立憲民政黨員、造植園に趣味を持つてゐる。溫厚の人士であり、熱血兒でもある。カツ子さんとも、家族はすべて八人である。

函南村柏谷
村會議員 米山政五郎

氏は亡祐吉氏の次男明治二十六年十一月一日の出生、函南村高等小學校卒業後父祖の業を助け、常に養蠶、甘藷苗の栽培に重きを於いて研究し、遠祖以來の傳統的篤農家の本能を發揮しつゝある。曾て消防部長に推されて貢獻すること二十三ヶ年、また區長としても多大の成績を擧げてゐる。今は村會議員、村會に於ける闘士として村政刷新のために邁進しつゝあると共に、郡農會副會長として農會のためにも活躍してゐる。資性溫厚篤實村内青年達からは模範的人物であると仰慕されてゐる。郡青年團並に縣知事から表彰されること各一回、夫人ヒサさんは内助の譽高く家族は八人の家庭である。因に當家は村の舊家であり、土地に於ける篤農家でもあり、始祖以來農を以て家業となして來た家柄である。

函南村桑原
村會議員 飯塚竹次郎

當家は古くから豪農の家柄として鳴らして來たもので、先代彌次郎氏は夙に村内公共方面に關與し、永年村會議員に座して村治に多大なる功勞の足跡を殘した人。氏は明治十九年十一月二十四日、その長男に生れ、函南桑原高等小學校を了へるや、直ちに家業に就いて父君を助けた。公共方面に於ける氏は郡農會總代を振り出しに震災耕地整理第一組長として活動してゐる。現在は村會議員で先代の志を繼いで、その抱懷せる主張の具體化に努力してゐる。立憲政友會員で、淨土宗の樞徒資性は溫良情味たつぷりの士、事に當るや眞にわき目も觸らずに猛進する今家族は六人、圓かなる家庭はいつも明朗化へと走つてゐる。

函南村平井
村會議員 小柳津伴次郎

氏は明治十七年四月二十四日の出生、當家先代倉吉氏の懇望に迎へられて同家に入つた人で、縣立農學校出身、明治三十七八年日露戰役に出征各地に轉戰した勇士である。凱旋歸鄉以來は專心家業に從事しまた一面村内公共の事にも關與、現に村會議員に推されて當選、村自治に鋭意し、また郡農會總代等をも兼ねて努力してゐる。曾て村内青年會自治會館の建設を思ひ立ち、有志間に呼びかけつゝ奔走遂に初志を貫徹して實現することが出來、村内の聲望を高めるに至つた。立憲政友會員溫厚篤實の人格者、日蓮信仰家で人に接するにとても好感を與へる士である。家族は八人で人も羨む圓滿ぶりである。

函南村塚本
村會議員 市川千代作

當家は分家以來三代目で、農を家業となして現在に至つてゐる。先代字之助氏は夙に篤農家として知られた人。氏はその長男明治二十五年十一月二十日の出生小學校卒業後農學校に入り、大に將來に望みを囑するところあつたが、健康上許さず、恨みを呑んで中途退學、父業を助けるに至つた。曾ては部落會長であつたが、現在は村會議員消防組長として、公共方面に當つてゐる。そして常に產業組合の發展と組合員の向上に就いて甚大な成績を收むべく、一貫の活躍をなしてゐる。政黨關係は立憲政友會員、溫厚の人で、大正三年の渡邊郡長當時、青年團の功勞者として表彰された。スイ子さんは賢母の聞え高く家族は十人の大家庭で人も羨む圓滿振りである。

田中村三嶋
東洋釀造株式會社
電話

本社は大正九年の三月、資本金五百萬圓で創立したのであるが、同十二年九月これを一百二十五萬圓全額拂込濟となし爾來鋭意して社業の刷新を圖つた。その結果漸く好成績を收め、昭和八年の第十四期よりは八朱の配當をなし、始めて株主連の愁眉を開き同十一年には一躍一割の增配をなすに至つて、資本金を四百二十五萬圓拂込二百萬圓に增資し、引續き精進今日に至つてる。當社の釀造種類は清酒新日本酒味淋直し、燒酎葡萄ウキスキーなどで、その商標の主なるものは源氏、力、その他百餘種あり、品質の優良なる何れも好評嘖々現在の主なる販路は當縣下は勿論愛知、神奈川、關東、北陸、大阪、神戸方面、東北、北海道、九州の北部、滿洲、北支關東州などで、しかも逐年擴張の一方で從つて年賣上石數も四萬九千三百五十餘石で、その納稅額は百十一萬五千七百九十餘圓を算へてゐる。そして連年開催される。酒造組合品評會に於て優等賞を受領、昭和五年六月今上陛下靜岡縣行幸の砌、献上御嘉納を賜ひ、また御買上げの光榮に浴してゐる取締役社長は脇田信吾氏、從業員は當時三百人、冬期釀造期には四百五十人に上つてゐる。

錦田村笹原新田
區長 今井忠治郎

當家は四代前の祖彌助氏夫妻が本村三ツ谷より夫婦養子として入家、故に氏を當家中興の祖となしてゐる。當家は苗字を許された名門の家柄、部落長者として名高く、彌助氏、彌四郎氏共に名主を勤め先代彌吉氏また戸長を勤め、代々居村のために貢献してゐる。氏は明治二十九年の出生、前農會理事、三島町錦田村聯合評議員、箱根連山組合總代、村會議員などを勤め、現在は區長、信用組合理事

として盡力してゐる。昭和二年、自ら主唱者となつて消防組合を組織し、爾來組頭となり、好成績を擧げてゐる。なほ二十五歳の時縣から選ばれて明治神宮御造營に奉仕し、また郡青年團から模範青年として表彰された。母堂は健在夫人ます子さんとの間に二男一女がある。

錦田村小山
村會議員 **中川清作**

氏は松次郎氏の長男、明治二十一年の出生。三島高等小學校卒業後は祖父の業を就いて鋭意精勵し、同時に村内公共方面にも心を碎くところがあつた。曾て區長に推さるゝや、常に區内の弊を矯め、一意刷新大に面目を新たにし功を稱へられた現在は村會議員として村自治に與り村會に於ける中堅闘爭の士となつて活躍してゐる。その他養蠶實行組合長、農會議員、產業組合議員等を兼ねて亦夫々奔走貢献してゐる極めて穩健な士で家には[illegible]高齢を迎へて健在し、夫人との間に四男四女あり、長男茂春氏は農林學校出身、青年會の中心として活動しつゝあるなほ同家は村内に於ける草分けの舊家として鳴した來た來た名家で、また代々精農家を以て仰慕されてゐる。

錦田村川原ヶ谷小澤
組合長 **勝又仙太郎**

氏は先代德藏氏の長男、明治三十二年の出生田方農林學校出身、昭和四年、村會議員に選ばれ、三島町錦田村連合組合議員、農事調査委員、國勢調査委員などゝして、それ〴〵功を擧げてゐる。現在は部農會長園藝出荷組合長を大正十二年來勤續、信用組合評議員は創立當時より引續き今日に至つてゐる。氏は兵役義務を果さゞることを遺憾とし、この心を農事に向け以て國家に報ぜんとするに至つたもの縣内有數の精農家として稱へられてゐる。農事精勵組合功勞者などによつて約十回も表彰されてゐる。兩親健在夫人はりつ子さん兄弟十人からある同家は今川氏の家臣で主家亡後この地に隱棲遂に土着して今日に至つた四百年來の舊家代々部落のために盡力してゐる。

錦田村三ッ谷
村會議員 **田部治朗**

氏は亡又四郎氏の男、明治十三年の生れ、農會總代を振り出しに箱根連山組合評議員、國勢調査委員等を勤め、現在は二回目の村會議員、信用組合理事、產業組合理事等を兼ねて盡瘁してゐる。性穩健寛潤の士、長者の風格を備へた日蓮宗の信仰家母堂まつ子さんは七十六歳で健在、夫人やをさんは函南村馬宮土屋光次郎氏の息女、長男眞佐男氏は田方農林學校を卒業目下送乳組合の組合長として鋭意活躍しつゝある。因に同家は十數代の舊家で始祖は元武田家の臣、主家滅亡後當地に隱れ、大小を捨てゝ農に歸したものだと言ひ傳へられてゐる。代々名主を勤め、韮山代官江川氏より田邊姓を許されたもの、村内有數の名ある家柄である

錦田村川原ヶ谷
女丈夫 **栗原キン**

當家は村内有數の舊家、既に代を累ぬる十五代、始祖嘉左衛門氏を襲名幕政當時は庄屋として一村を束ね、しかも苗字帶刀鎗などを許された名門家である。先代亡嘉左衛門氏は幼名を清作氏と稱し、庄屋を勤めて功勞を讃へられた人女史はその息女、長じて他家より慶次郎氏を迎へて鶯鶯の契り濃かに、夫君は村長等村政に與り、その功績多大なるものあつたが恨むらくは破婚時に女史二十八歳、孤閨を守つて。一女を育て三島町大中島元局長渡邊家より遞信省勤務の於蒐氏を迎へて養子となしたが、不幸早世し、爾來令孫一男四女を訓育七十一歳の今日なほ曼蝶として昔ながらの名門を固守し、眞に女丈夫なる哉と讃へられてゐる。令孫曠一郎氏は韮山中學在學中の秀才である

錦田村笹原
村會議員 **本間金之亮**

氏は明生二十九年の出生、田方農林學校第九回の卒業生で常に新らしき、智識を求め、これを實地に應用して新らしき西洋野菜類の栽培に努め、豫想外の成績を擧げ、村内からは精農家の名を冠らされてゐる。しかも君はこれからの人、今村會議員として村政の舞台に躍進を試みまた消防部長、區評議員をも兼任、生來の明朗振りを發揮しつゝ努力してゐる。夫人との間に子女七人あり、長男一義氏は農林學校の出身で目下家業に從事してゐる。なほ當家は始祖善兵衛氏より十代土地の舊家であり名望家でもある。舊幕時代には代々名主を勤めた家柄で、先代峯次郎氏は村會議員、區長戸數割調査委員等に擧げられて功績を稱へられてゐる

錦田村川原ヶ谷
村會議員 **露木直兵衛**

同家は舊家で代々農業を營み、先代助三郎氏は精農家として名を馳せてゐる。氏は本村の有力家山口熊太郎氏の令弟、明治二十年四月十日の生れ、當家先代のよき後繼者として入籍したもので、明治四十一年兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營、滿期除隊となつてからは、村内公共の事に盡力して來た。曾て村分會川原ヶ谷支部長をはじめ大正十四年、公設消防組頭並に副組頭、區協議員、村農會代議員等を勤め、二期目の村會議員等を兼ねそれ〴〵活躍してゐる。性溫良の好紳士、夫人との間に九男五女あり何れも健在縣下に知られた大の子福者である。

中郷村北澤
村會議員 **古屋彌吉**

氏は明治十六年二月三日、當家長男として生れ、早くから家業を助け、後ち名古屋師團に入營、日露の戰火の起るや、從軍出征、各地に轉戰して功を賞された勇士、凱旋除隊後、功に依つて勳八等に叙せられ、男子の面目を躍如たらしめた人で前に區長に擧げられて區政の刷新區内の福利增進を計り現在は村會議員として村自治に關與、着々自己抱負の主張の

實現に努めてゐる。生來溫厚篤實好人物として村内に迎へられてゐる。夫人との間に六子あり何れも健在である。因に同家は土地の舊家相續いで農を營み、現在に至つてゐるもので、先代亡正次郎氏は舊幕時代には組頭として名主原氏を助けて功勞のあつた人だ。

修善寺町瓜生野
大仁溫泉
帝産閣
電話大仁一一一番

當溫泉の所在地は、その昔傷ついた鹿の群れが傷所を浸してゐたといふ鹿の原で、帝國産金興業會社が、主力を注ぐ大仁金山々麓で、低部地質を豫ねて昭和十年十二月試掘を開始し、同十一年十月深度八百三十一度に於て溫度攝氏七十三度を示し一晝夜約四千石の湧出を見るに及んで、こゝに帝産閣を設け、大衆的溫泉の殿堂として開放してゐる。場所は鮎で名高い狩野川の清流を隔てゝ金山城趾の奇峯と富士の偉容を、浴槽にゐながらにして眺められるといふ。極めて景勝の地である。また屋上の大展望台からは遠くに元城箱根達摩山の連岳、近くに金鑛の大露天掘で知られた黄金台、黄金塚、大仁町の甍を彩る日本最古の水晶産地の水晶山の翠巒を眼下に、弘法大師、日蓮聖人の事蹟をはじめ源家興亡の史蹟などを一眸の下に收められる。浴室は七十疊、國技式といふ我が國最初の試みになる珍らしい建築で外は專用風呂も二ケ所設けてある。階上の大廣間は百疊敷で、しかもステージがあるから演藝會並に大小宴會場に適してゐる。一日二十錢で清遊が出來、賣店並に食堂の設けもある。

國南村仁田
國南信用販賣購買利用組合

當組合は村一圓を組合區域となし、大正九年六月三日に生れたもので信用、販賣、購買、利用の四種事業を兼營今日に及んでゐる。現在組合員は九百餘名で、出資總額は約二萬圓を算してゐる。

伊東町新井
伊東魚市場
電話伊東一一〇番・一九九番

當市場は、昭和七年二月の設立にて、資本金二百五十萬圓の株式會社である。創立以來佐藤吉兵衛氏が社長として辣腕を揮ひ、日尚淺きに拘らず業績大いに擧り、當地方水産物販賣會社の雄といはれるに至つた。共同販賣所は一萬五千六百圓の工費を投じ五年越しの昭和十二年八月に落成せるもので、設備萬端整はざるなく、魚市場としてのすべての條件を具備し、關係者の絶讃を受けてゐる。主なる株主は新井漁船組合、佐藤吉兵衛氏、齋藤氏、飯島氏等である。支配人飯島氏は水産業界の手腕家と謳はれる人、今後の活躍こそ期待して俟つべきものがある因に當市場從業員は男十七名、女二名、計十九名に上る。

富士郡

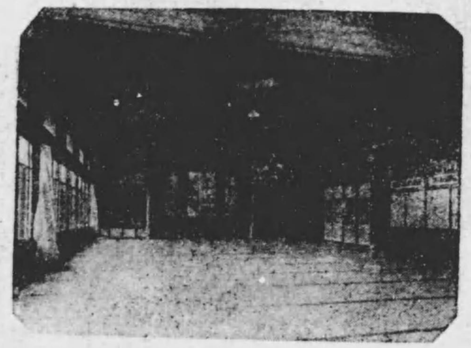
大宮町連雀町
寺田醬油店
電話三三番

當店は個人經營、明治七年の頃、寺田彦太郎氏が開店經營現在に及んでゐる事業は醬油、味噌の釀造で、仙台、芳壽などの名

によつて廣く販路を擴張しつゝあるが、現在は郡下及び山梨一圓、神奈川縣下等にわたつて移出販賣されてゐる。一年間の釀造高は七百石であるが、この産額は年々增加してゐる。縣下名古屋稅務署管内に於ける釀造組合主催の品評會に出品して優等賞を授與されてゐるが、これによつて當店製品の眞價を知ることが出來るわけである。昭和五年今上陛下御巡幸の砌畏くも御買上げの光榮に浴してゐるなほ當店製品その特徴はキツコーマン型である、支店出張店の設置については目下考慮中である。

大宮町板山
梅月旅館
電話六・七・二五二番

當館は淺間神社湧玉地の東側にあつて驛より徒歩十分である。階上は五室、階下六室、舞台付の中廣間、三階洋室、別館等に分れ、收容人員百五十名、中食二百名で、各室共卓上電話付、各室廊下にラヂオ架設のモダン式設備である。また溫泉式浴室は階上に一つ、階下に三つすべてモダン型、殊に硝子張りの水槽には富士鱒が踊つてゐる。從業員二十五名。鐵道省ツーリストビューロー、東京地方遞信局、富士山本院、陸軍省、靜岡縣廳王子製紙、富士身延鐵道等の指定旅館で李王殿下を初め閑院宮北白川宮朝香宮殿下台臨の光榮に浴してゐる當館經營者瀧川啓作氏は米國から歸朝後、靜岡米穀取引所仲買人、町會議員三期、前町會議長、大宮料理飲食業組合長、縣料理飲食業同盟會



富士根村大岩
村會議員 勳八等 **井出文作**

氏は明治二十四年年十一月十八日、土地數代の舊家農を本業となして來た儀作氏の長男に生れ、篤農家としてまた村會議員として功勞のあつた父君の薫陶の下に長じ軍役に應じ、日獨戰爭に參加、其功に依つて勳八等に叙せられ、瑞寶章を下賜された勇士である。曾て養蠶實行組合支部長、區長代理、消防第三部小頭、部長等に歴任、盡瘁して功を稱へられてゐる。現在は村會議員であり、さうしてまた農會部長本門寺檀徒總代でもあり、懸命の努力を以て精進してゐる。氏の抱負は農事の改良を主眼としてゐる、夫人はきく子さんとの、間に一男二女があり英夫氏は十二歳、長女は博子さん、十八歳で富士見高女の出身、次女は喜子さん今年十六歳である。

柚野村上柚野
村會議員 **佐野德次**

佐野家は今より三百五十年前、本家紺屋家から分家、今の地に獨立し、代々農業に從事して來たが、苗字帶刀を許された名主、戸長を勤めた家柄である。先代佐十氏は製糸業に精進當郡一の製糸家と稱され、横濱の原丸文と取引關係を結んでゐた。後ち工場を丸福製絲に合併、多年製糸組合の役員として甚大な貢献をなしてゐる

氏は明治二十七年十二月十三日の生れ、沼津中學を經て農業大學に入りしも、家事の都合で中退、沼津銀行に勤務したが後ち辭して家業に專念昭和三年來養蠶業を始め、率先これが改良に着手、毎年百貫目の收繭をなしてゐる。現在は二期目の村會議員、産業組合監事を兼ねてゐるが、前には青年團、區長として努力してゐる。趣味は水彩畫撞球碁將棋があるが碁は地方に於ける初段格である。

柚野村新田
村會議員 **深澤泰次郎**

深澤久右衛門氏今の地に一家を起して以來、當主を以て五代目、代々農を本業となして今日に至つてゐる。先代新作氏は昭和三年、衆望を負ふて區長に就任曾てまだ三十歳の頃、柚野村消防組第一部長に推され名部長の名を殘し、貢献するところ大なるものがあつた。氏はその長男、明治二十一年、二月十二日の出生。溫厚篤實の努力家、疾くから父を助けて家業に精勵するところあり、一面また村政にも關與し、前に消防第一部長、區長等に擧げられて盡力し、ます〳〵人望をあつめてゐる。昭和十二年五月、村會議員改選に際し、推されて出馬優秀の得票

で當選して現に村自治に與つてゐる。今後の活動振りが特に刮目されてゐる。

今泉村今泉
丸和製紙株式會社
電話吉原一六七番

當株式會社特製品たる高級京花紙は、殊に東京、名古屋、大阪方面に購買力をあつめ、現在では當社主要の販路として力を注いでゐる 當社の創立は昭和七年六月で、その資本金は三万圓である。同十一年十二月十八日不幸にして火を失して類燒、同十二年四月、新築成つて開場したのである。地坪は四百七十三坪、建坪三百六十坪である、現從業員は三十名一ヶ年の製産〆數は千〆で、その額三十萬圓に上つてゐる。現在社長は藥科利貞氏で、工場を大きな一つの家庭となせば工場員また各自兄弟姉妹として和合、共に俱に相携へて我れ等の會社のための業績向上へと熱心してゐる。年に一二回は家族の慰安會等を催して、心からなる親しみを頒ちつゝある

上野村
實業家 **西川龜藏**

當西川家は速綿相繼ぐ三百三十年の舊家、始祖は慶長年間の人で平兵衛寛弱氏と稱した。後ち百年を經たる延享年間の人、善兵衛和親氏を中興、祖となし、爾來富士郡今泉村にあつて製油〆を營み、一方名主を命ぜられて土地發展に努めるなど、衆望をあつめた土地名門の家柄であつたが、屢々祝融氏の見舞ふところとなつて、古記錄、寶物等を燒失、詳細知り得られないことを甚だ遺憾とする。曾祖父平兵衛氏は俳人、雅號を閑逝と稱し和田川改修工事に鋭意努力するところあり、その功によつて幕府より御朱印地十五石を賜はつた。故龜藏氏は平四郎和利氏の長男文久三年七月二日、本縣富士郡今泉村鍛治瀬に生れ、幼名を亥子吉と呼び溫厚質朴極めて眞面目で、世辭はなかつたが信望があり、明治十六年、同郡上野村の今の地に居を移して鹽、煙草、肥料

農農具、並に糸繭商を開業し、平素健康甚だ勝れざる身を以てよく家運の隆盛を圖り、刻苦また精勵、大に努むるところがあり、その經營逐年繁榮を加へて今日の大をなすの基礎を固め、業界に威福並び行はれるに至つたもので、洵に中興の祖とも稱すべく、人格識見に於ても斷然群を壓してゐる。大正十五年、受孫の祝に際し、その祝宴を廢して、金一百圓也を上野小學校基本財産へ寄附せるが如き今もその篤行を讃へてゐる。昭和三年二月上旬病を得て床に就くや、家人の手厚い看護も、心を千々に碎く藥石も何等の効なく、同年三月十二日、享年六十六歳を一期として、

西川泰藏氏

溢焉幽明境を異にしてしまつた法號は福應院禪岳慧空居士と稱し、同家菩提寺なる今泉村福應寺の奥津城に靜かに眠つてゐる令閨との間に四男五女を有し、長男泰藏氏、その後を繼いでゐる。氏は明治二十一年九月九日の誕生、父君の遺業を襲ふて更に隆盛を招き、上野商工會長、富士煙草小賣人組合役員、富士塩小賣人組合役員として、當地商工業界の繁榮に盡力するの外、自治方面に於ては村會議員、金錢出納檢査委員の任にあつて功勞多く、家業たる塩　煙草、肥料、農具、並に明治生命、東京火災兩保險會社代理店を兼營してますます盛況へと進んでゐる。氏の令弟鑑治氏は大正二年、大宮町に分家して肥料商を營めば、次弟信吾氏また同十三年、同じく大宮町に分家獨立して金物商を經營し、三弟正己氏は昭和六年に分家、吉原町に西川商店號によつて金物商に從事してゐるが、各店何れも常に顧客相踵ぐの殷盛を呈してゐる。かく一家揃つて繁昌の限りへと前進し、名聲嘖々たるは啻に西川家一門のためのみならず、鄉土のためにも大に誇りとなすべきである。

芝富村長　貢

長見寺

當山は梅の名所として夙に知られる。既に代を累ねること第四十四世目、以てその古刹なるを知るべきであらう。永昌院日

長山人を開山の祖となし、第十世までは八幡澤にありしが第十一世以來今の地に轉じた。白正院日正山人の世に火災に遭つて燒失したが、明暦年間に漸く古器古記物一切を復舊した。日蓮宗派で、日蓮大菩薩の十開大曼陀羅を本尊となしてゐる。本山は身延山で、寶物には宗祖の御眞骨並に御眞筆木尊、狩野元信八方睨の大軸、釋尊涅槃像などがある。年中行事としては日蓮宗の行事に準じ、特に四月二十八日には立教開宗會を執行する。現住職は辻編祥師、檀徒は本村一圓、檀徒總代は佐野喜代吉、佐野良吉、佐野富太郎、佐野重一、佐野常太郎の諸氏である

傳法村傳法

藁科利貞

先代喜作氏は教育家、今泉小學校に奉職すること約四十年間、育英界に捧げたその功勞は洵に甚大なるものがあつた。大正十五年十二月卒去した。年を享くること六十三。氏はその男、明治十九年一月二日の出生。曾て鐵道省に職を奉じ、後ち丸和製紙會社に入つて精勵恪動の名を馳せた。日蓮宗の信仰家で、すべて自力主義を念となして前進してゐる。夫人はきん子さん不幸にして長逝、次男の兩氏を失ひ三男卓三氏(十九歳)濱松高等工業學校に在學中である。長女美枝子嬢は(十七歳)二女愛子嬢(十四歳)はいづれも常に成績優秀である。目下富士高等女學校に通學してゐる。なほ三女澄子嬢、四男公司氏、四女君子嬢等は何れも小學校に通學中である。

富士町

町會議員　五十嵐清次

氏の家は明治四十五年七月現住地に分家し、乾物問屋を開業して今日に至つてゐる。氏は亡安兵衛氏の男、明治十八年三月十日の出生。大正五年鹿島撚糸製布株式會社を創設常務取締役としてこれが經營の任に當つた。昭和九年町會議員に當選、同十二年五月再び町會議員として町政に與つてゐる外、東駿落花生同業組合長、靜岡縣天産物同業組合代議員を兼ねて鋭意盡力してゐる。また明治生命保險會社代理店をも營んでゐる。極めて實直な人、圍碁に趣味を有ち。しかも初段級とある。夫人はゆう子さん、五女あり長女及び三女等は他家に嫁し、二女の君治嬢、家督を相續し、四女益壽子嬢、五女時子嬢は今、靜岡高等女學校在學中の才媛である。

富士町元市場新田

町會議員　時田宗

氏は明治十五年六月二十日、宗平氏の男として生れ、明治三十六年、遠く北米加洲に渡つて葡萄園を獨力經營、大に見るところがあつた。後ち三回歸朝し、この間長男忠夫氏を携へて渡米し、氏をオレゴン大學、コロンビヤ大學に學ばしめて卒業させ、大正八年に歸朝して梨園田甫を作り、これが經營に當つて今日に至つてゐる。その在米中、佛教會並に体育